

# 西朋 32

70 周年記念号

— 目次 —

巻頭言 会長	.....	2
70 周年記念特集	.....	3
2012～2022 年度山行一覧	.....	13
2012～2022 年度山行記録	.....	35
西高 WV 部記録	.....	217
西朋登高会会則	.....	222



鷲羽岳から槍穂高連峰

# 巻頭言

青谷知己

西朋登高会は 2023 年に創立 70 周年を迎えた。その長い歴史、70 年という年月、連綿とつながる山仲間を思うと、この組織のすごさに深い感慨を覚える。一方で、会員の高齢化と若い世代の減少は、様々な団体の抱える共通の課題である。特に、都立西高ワンダーフォーゲル部を母体とする西朋登高会は現役高校生との長い断絶という課題を抱えてきた。最近ようやくその状況が氷解する兆しも見えてきたのは朗報だが、山に登る山岳会としての場が維持されていくよう、工夫を重ねていきたいと思う。

西朋 32 を発行する。西朋 31 の発行が 2012 年 6 月であるので、なんと 12 年ぶりの発行である。長い停滞期間が経過した。最初の数年間は記録もちらほら集めていたが、最近は掲示板での報告やアルバムへの写真掲載、Line での簡便な報告で済ませることも多くなった。しかし、記録的価値のある山行や素晴らしい感動を伴った山行を、記憶の中だけにとどめておくのはもったいない。思い立ったら吉日、70 周年記念の年でもあり、23 年度の総会で今年度中の発行を決意し、こうして発行の日を迎えることができた。

現代山行は、デジタル時代を迎え、山の形態や記録方法も急激な変革が進んでいる。山岳会を中心とする組織登山は明らかに衰退し、団体山行よりも個人山行が主流となった。ショップによるツアーや講習会が盛況である。コロナ禍を経てソロキャンプブームもそれに拍車をかけている。山では携帯やGPSの持参が当たり前になり、現在位置の確認や記録は全て携帯画面上で可能となった(我々世代は地図なしには山に入れないが・・・)。山の記録や発信についても、ヤマレコやヤママップなどのサイトが請け負うようになった。冊子媒体の衰退は必然という状況だが、西朋 32 はあえてこの現状に対する挑戦でもある。西朋 33 では、その存在価値がまた問われることになるだろう。

近年、ジオパークやブラタモリブームもあり、中高年には「ジオ」に関心を寄せる人も多くなった。私自身は、昔は「より高みへ」「より困難を」という登山を志向していたので、今足元や手をかけている岩について深く考えることはなかった(今思えば残念なことをした)。しかし今は、もっぱらジオ登山をやって楽しんでいる。その山の成り立ちに思いを馳せ、目の前の石の種類に目を向ける。すると目の前の景色は俄然語りだし、どうしてここに滝や壁があるのか、どうしてここにピークを作るのかが見えてくる。はるかな地球の歴史が見えてくる。そうすると登山中にあきることがない、何より楽しい。

70 周年記念山行で三宅島を案内した。火山のすごさや面白さを満喫する山旅だった。そんな山の楽しみ方もあることを知ってもらえるとうれしい。いつもの山行きに「ジオ」の視点を付け加えてみることをおすすめしたい。

## 【70周年記念特集】

### 西朋 70周年記念行事について

青谷知己 28期

会長就任に当たり、そろそろ 70 周年かなとぼんやり考えていたが、新年会で確認すると今年が 70 周年であるという。それではということで 2 月 22 日に第 1 回の準備会を行い、3 月の例会でたたき台を提示し、慌ただしく準備を始めることになった。日程を 6 月 10 日(土)として会場の確保、発起人の選定、案内状の作成にまずとりかかった。

70 周年に当たりどんなことを目標にするかと論議を重ねたところ、単なる同窓会にとどまるのではなく、西高 WV 部卒業生の相互関係の再構築、特に若手層の掘り起こしと山へのお誘いをおこなう機会とし、西高との関係修復もあわせて進めようということになった。

4 月 8 日の西朋総会での内容確認、案内状送付 4 月中旬、出欠確認 5 月 20 日という流れの中で、名簿の整理や次第の決定、係分担、記念山行の企画、配布物の作成などの準備が進められた。出席者をギリギリまで待ち、40 期代の意見交換の中で思いついた記念品の作成も間に合い、最終的には 81 名の参加者を得て、盛大な記念集会となった。

集会は、懐かしい面々との旧交を深める機会になっただけでなく、失われた世代や西高 WV 部の部員、顧問との関係に少し明るい兆しが見られるものになった。この集会をきっかけに、プラットフォームとしての西朋の存在が再確認され、山の会としての価値が継続されていくことを期待したい。当日までの準備や進行には、21 期の滝口さんをはじめ、西朋の各役員、特に 40 期代の皆さんには多大なご協力をいただいた。あらためて感謝したい。







2023年4月吉日  
西朋登高会

同窓生・会員各位

**西朋登高会 創立70周年記念集会**

**西高山岳部・WV部同窓会のご案内**

春頃の候、皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。  
この度、都立西高(府立十中、都立十高)山岳部およびワンダーフォーゲル部のOB会である西朋登高会は創立70周年を迎えました。2014年に60周年行事で多くの会員が集いましたが、以来10年の節目の年に当たり、今回も同窓生や会員に広く呼びかけて、集会を開催いたします。  
皆様には、ご多忙のことと存じますが、万障お繰り合わせの上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。  
今回は、会員はもとより、山岳部・ワンダーフォーゲル部に在籍されていた方々にも広く声をかけさせていただきます。ぜひ同期周辺の方々にもお声掛けいただき、旧交を深めていただければ幸いです。

★日時 2023年6月10日(土) 14:00~17:00

★場所 西高会館・食堂 (西高内にある同窓会の厚生施設です)  
東京都杉並区宮前4-21-32 TEL 03-3332-1688

★会費 5000円 (大学生、大学院生、65期以降の社会人は無料)

★交通 (1) 京王井の頭線久我山駅より徒歩15分  
(2) JR中央線荻窪駅より 関東バス「宮前3丁目行」乗車  
「宮前4丁目」下車徒歩5分  
(3) JR西荻窪駅より 杉並区コミュニティバス「かえて路線」乗車  
「西高西門前」下車すぐ

★問い合わせ・連絡先 西朋登高会 会長 青谷知己(28期)  
E-mail yrg00204@nifty.com  
携帯電話 090-2222-2185

出欠につきましては、同封のハガキにて5月20日までにご返送ください。

西朋登高会創立70周年記念集会 発起人

林 武志(6期)、田中康弘(11期)、小川建吾(12期)、平木桂太(15期)、山野 裕(19期)  
山田優子(21期)、遠藤 彰(26期)、青谷知己(28期)、中野敏彦(29期) 東山 晃(33期)  
山田裕久(34期)、上野午朗(37期)、高橋寛和(40期)、博多 誠(43期)、佐々木新(46期)  
尾崎宏和(47期)、作間淑子(47期)、瀧吉 聡(48期)、伊豆澤太郎(63期)、  
吉野もこ(69期)、白須桜花(74期)、関口彰(75期)、小野久(元顧問)

**西朋登高会創立70周年記念集会**

**西高山岳部・WV部同窓会 プログラム**

2023.6.10 14:00~17:00  
於 西高会館・食堂

14時~ 《敬称略(期)》

1. 開会の辞 (司会)

2. 開会あいさつ 会長 青谷知己(28)

3. 西朋創立の頃 林 武(6)

4. 山岳部からワンゲルへ 平木桂太(15)

5. 乾杯 田中康弘(11) ※ここまでzoom中継あり

14時20分~ (歓談)

14時50分~15時30分

6. 全員交流会(自己紹介とコメント)  
※期の後から順番に、期ごとにマイクの前にお進みください。コメントは各期の代表者の方  
にお願いします。  
(歓談)

16時~16時20分

7. 西高WV・西朋史;資料より 山野 裕(19)

8. 最近の西朋の山行から L. 尾崎宏和(47)

9. 70周年記念山行の紹介 青谷知己(28)  
(歓談)

16時50分~

10. 学友歌斉唱 東山 晃(33)

11. 閉会挨拶 SL. 佐々木新(46)

12. 閉会の辞(司会)

13. 集合写真

17時

お聞き・後片付け(ご協力ください)

司会 高橋寛和(40)・佐々木新(46)

**70周年集会 左;案内状 右;当日プログラム**

西朋登高会 創立70周年おめでとうございます。

本会は、都立西高等学校の山岳部およびワンダーフォーゲル部のOB会で、10年前の2014年に創立60周年行事を開催し、その後の集まりと伺っております。  
さて、ここ3年間は新型コロナウイルス感染症により、学校教育も大きな影響を受け、ワンダーフォーゲル部の活動もままならない状況でしたが、2021年7月から日帰りですが徐々に再開してきました。  
2021年7月: 奥多摩・高水三山 34名  
2021年11月: 丹沢大山 19名  
2022年3月: 奥多摩・鋸山 25名  
2022年6月: 三室山・日の出山・麻生山 30名  
2022年7月: 奥武蔵・伊豆ヶ岳 17名  
2022年8月: 三つ峠山・河口湖 11名  
2022年11月: 奥多摩・川苔山 16名  
2023年3月: 山梨県・扇山 23名  
(人数は参加生徒数)

まだ、宿営を伴った山行には至っていませんが、皆様の後輩たちも頑張っておりますので、今後とも、温かく見守っていただくとともに、ご支援いただきますようお願いいたします。  
2023年6月10日  
東京都立西高等学校長 萩原 聡

**西朋 70周年 記念山行・ツアーのお知らせ**

【1】特別ツアー 三宅島 火山見学と山頂火口ツアー  
最近解禁された三宅島山頂ツアーと三宅島の火山見学をあわせた充実ツアー。青谷が案内します。  
解禁された山頂(巨大なカルデラ火口縁)へは徒歩1時間弱で登れます(現地ガイド同行必須)。

○日時 2023年10月10日(火)~13日(金) [予備: 10月30日(月)~11月2日(木)]  
○行程 10日(火) 東京竹芝渡船場集合 21:30 22:30発一(船中泊)  
11日(水) 5:00 三宅島着 島内一周火山見学ツアー  
12日(木) AM 山頂ツアー PM 自由行動(釣り・海遊び・温泉)  
13日(金) AM 自由行動 13:30発一竹芝渡船 19:30(解散)  
※船が苦手な人は、11日の飛行機(調布から)での合流可能です。(帰りも)  
11日の船で出て12日朝合流の現地1泊での参加も可能です。  
○費用 約5万円(船往復15000円、宿2泊22000円、ガイド料1人10000円他)  
○申し込み 締切 9月10日(日) 青谷知己 YRG00204@nifty.com 090-2222-2185

【2】秋の紅葉ハイキング 雁ヶ腹摺山(山頂12時集中山行)  
山頂からの富士山展望は圧巻。最も近い駐車場からは、1時間で山頂に到達します。山麓から登るルートや絶子山往復など組み合わせていろいろなルートが取れます。

○日時 2023年10月28日(土)  
○行程 ①大峠駐車場集合10時30分 大峠~雁ヶ腹摺山~絶子山往復  
②自由なルートで登下り 12:00 山頂集合  
○申し込み 締切 10月22日(日) 青谷知己 YRG00204@nifty.com 090-2222-2185

【3】8~9月の1泊テント山行  
山域未定 (例)夜叉神峠~鳳凰三山  
たまにはクラシックルートで展望と秋の紅葉を眺めながらのテント山行はいかが?  
日程・山域は集まったメンバーで調整します。

○日時 2023年8月初旬~9月中旬  
○行程 1泊2日(テント泊)  
○申し込み 締切 7月8日(土) までに参加希望を伝えてください。  
佐々木新 nun.opinion@gmail.com 090-2073-4375

**70周年集会 左;校長からのメッセージ 右;70周年記念山行のご案内**

## 70 周年記念山行

70 周年ということで何か目玉になる企画を、そして山へのお誘いを、ということで、記念山行を計画した。結果、参加者が少なく所期の目的からは残念な面もあったが、山行は期を超えた交流になり、楽しい山登りになった。

まずは、小川さんからかねてより希望されていた三宅島の雄山登山を企画した。2000 年噴火より 23 年が経過し、雄山山頂に登る「雄山体験入山 775」ツアーがようやく立ち上がろうとしていたので、うまくすれば一般登山解禁の先駆けになると思っていた。呼びかけには西朋会員の反応はもう一息だったが、小川さんが 12 期のザックの会の仲間に声をかけていただいたおかげで、10 名のノルマをクリアすることができた。実施できるかどうかは直前まで気をもんだが、タイミングと天候に恵まれて実施できたのは幸運だった。前後には三宅島の火山観光も加えて、充実した楽しいツアーになった。

もう一つは、雁ヶ腹摺山における集中山行。条件は日帰り、登って楽しい、1, 2 時間で登ることができる、いろいろなアプローチがとれるということで選んだ。直前まで参加者が確定せず、2~30 名の参加を期待したが、結果は残念ながら 6 名であった。アプローチに難があったかもしれないが、縦走やピストンなどそれぞれがコースを組み合わせ、紅葉の山を楽しんだ。橋本さんの山行記録を掲載する。

最後に可能性があればということで、1 泊のテント山行を企画したが、実施には至らなかった。今後も「たまには楽しい山に行こうよ」という趣旨で、周年行事にかかわらず、集中山行のような機会が作っていければと考えている。(青谷記)

### 三宅島雄山 2023.10.12

**参加者 松田(9 期)、小川(12 期)、山野(19 期)、秋山(21 期)、青谷(28 期)、中野(29 期)  
他 5 名**

5 年間の全島避難を余儀なくさせて三宅島雄山の 2000 年の噴火はすさまじいものであった。その痕跡は新たに生じた雄山の噴火口から見て取れるという。深さ 500m の火口を是非この目で見降ろしたいという思いを長年禁じ得なかった。しかし有毒ガスの危険性から噴火から 20 年以上も登山禁止措置がとられていた。とはいえ最近是有毒ガスもかなり下火になり、島民向けの登山ツアーも始まった。そこで、三宅島の登山ツアーガイドを指導している青谷会長が、一般登山者の可能性を三宅島観光協会と協議し、この登山を西朋登高会創立 70 周年の記念事業の一つとして実施することができるよう働きかけてきた。そして 2023 年 9 月になって正式に観光協会より「ガイドトレーニングを兼ねて、10 月 12 日にガイド付き特別登山を許可する」旨の連絡を得るに至った。ただし登山実施の条件として「10 名以上のパーティーであること」



が付け加えられた。実施日が平日ということもあり、会員のみでの充足は難しく、最終的には会員と深い関わりのある人たちも参加メンバーに加え総勢 14 名のグループになった(直前に 3 人がリタイア)。



10月12日朝9時、島の北部にある伊豆避難施設に集合。三宅島観光協会のガイド平野さんから雄山の現状に関しての詳しい説明をうける。火口周辺は立ち入り禁止区域からは除外されたが、規制地域になっており、依然として入山には村の許可が必要なことなどが分かった。登山に際してはヘルメットの使用とガスマスクの携行が義務づけられており、これらは貸与された。マイクロバスで標高530mの登山口に向かい、曇り空のもと歩き始める。あたりは一面のすすき野原になっている。噴火前は木々が生い茂った林だったと聞き驚く。噴火で木々は焼け落ち、焼野原だった山肌に20年経ってまずはススキが復活したようだ。新たに整備された登山道は丸太の階段状になっており、歩きやすく高度をグングン稼ぐ。所々に旧道の痕跡が見出せた。急登が終わり、下避難小屋に到達した。小屋には噴火時に一時避難が出来るよう飲料水などが用意されていた。緩やかな稜線を進むと、やがて右手にかつての噴火口が見えてきた。大きなスオウ穴は数年前まで水をたたえていたらしいが、一部が陥没したため水はすべて流出していた。そして標高680mの上避難小屋に到達すると眼下には目を見張る光景が広がった。深さ500mの山頂カルデラである。火口はまさにお鉢状にえぐれており、鋭く落ちる内壁には過去の噴火の歴史を伝える縞模様がいくつも走っていた。富士山頂のカルデラの深さが高々200mあるのと比べても、その凄さは圧巻である。2000年の噴火以前はこの山頂部分は八丁平とよばれ、緑の草原に覆われベンチもある憩いの広場で、遠足の子供たちがお弁当を広げていたことを想像すると、余りの変わりようだ。まさに天国から地獄への感がある。大いなる自然の力をいやが上にも見せつけられた。またいつの日か、お鉢めぐりが可能となり、カルデラの全貌をこの目で見定めた気持も沸いてきた。山頂での滞在時間は20分と決められていたので後ろ髪をひかれる思いで下山を開始する。登山口に戻る直前には雨が降り始め、雄山の天候の複雑さを痛感させられた。念願の雄山山頂からのカルデラ見学ができ、参加者一同大満足であった。なお当日、テレビ朝日のカメラマンが同行し、山行の様子を撮影、後日放映された。雑誌「島へ」vol.33にもレポートが掲載された。

なお、西朋登高会での三宅島訪問は、2023年の70周年企画の他、いずれも青谷氏に率いられ、2014年5月にも行った。毎回、三宅火山の規模に驚き、約9年半を経た再訪で、自然の営みをあらためて実感している。(小川記)

## 雁ヶ腹摺山 2023. 10. 28

**参加者 橋本(12期)、中村(21期)、秋山(21期)、青谷(28期)、佐々木(46期)、尾崎(47期)**

山岳部70周年記念集中登山参加。予定より早く大峠に到着したので、黒岳に向かうことにする。大峠の朝9℃、晴れ、微風。8:47 出発。赤岩ノ丸はまき道、美しいカエデなどの広葉樹林帯をぬけ、小規模な倒木帯とアセビ帯を抜け、急坂を登ると大菩薩からの縦走路に出る、左手すぐに黒岳9:44。小休後下山開始、大峠10:31。大峠に28期青谷さんが待っていて

くれた。21 期の中村さんと秋山さんとも合流。4人で 10:40 出発、11:55 雁ヶ腹摺山、ここで木屋平から小金沢山など縦走してきた 46 期佐々木さんと 47 期尾崎さんも合流、皆で記念撮影。この2人は姥子山から大月へ向かう、おなじ4名で下山開始、見事な紅葉を楽しみながら 14:40 大峠帰着。(橋本記)



# 西朋女子部について

秋山(入戸野)まゆみ 21期

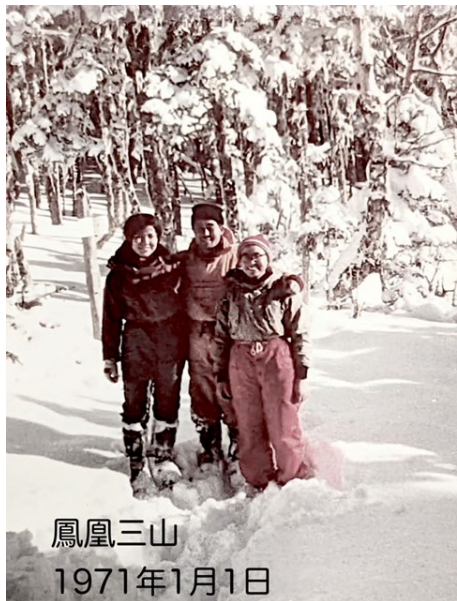
私は、高校時代の3年間、西高ワンダーダーフォーゲル部(西高WV部)で活動した後、大学入学(1970年)と同時に西朋登高会に入会し現在に至ります。その間、大学時代と社会人になってしばらくの間は、かなり積極的に山行に励んだと思います。以下は、そのような時代を中心とした、私の個人的な経験に基づく西朋女子部に対する思いをまとめてみました。

それ以前のことは明確には分かりませんが私の高校入学当時(1966年)、西朋の実働の女子会員はゼロだったはずで、その後1967年以降、西高WV部の19期2人、20期1人、21期2人、22期～29期と毎年入会が続き、実働部隊としての女子部が形成されることとなります。このように西朋に女子部が登場したのは、一つには1966年から西高と西朋との話し合いで西高OB会としての西朋の会員が西高WV部の高校生の山行に毎回同行するようになったことがあると思われそうですが、何よりも大きかったのは、言わば育ての親とも言うべき梶内さん(12期)を始めとするOB方々に加え、高校からOB会への橋渡しをされた西高WV部の先輩である18期、19期の部員の方々ご努力によるところが大きかったと思います。

ところで「西朋女子部」と言っても、女子の会員が特に組織上独立して活動している訳ではなく、女子も男子と一緒に雪上訓練、岩登り等を行いました。しかし、やはり男子とはレベルや目的が違う点もあり、夏の長期合宿を中心に女子独自の山行(1971年の南アルプスの縦走、1973年の北海道日高山系の縦走と利尻岳登山)を行いました。

山行以外の西朋女子部としての重要な活動は、高校生の山行への付き添いです。この付き添いは非公式には前述の1966年以前から行われており、私の高校時代も、岩崎さん(6期)、平沢さん(4期)の奥様、上遠野さん(17期)のお姉様が付き添いで山行に同行され大変お世話になりました。私自身、西朋の会員となった後、女子高校生の付き添いで、幾つかの山行に同行しました。

西朋女子部のあゆみを示す個々の山行については、その多くが「西朋」のバックナンバーに収録されています。自分の個人的な山行として思い出深いのは1970年1月の鳳凰三山と1973年8月の日高山系の縦走です。鳳凰三山は初めての積雪期の雪山で、荷物の重さと快晴で迎えた1月1日の晴天が、日高山系の縦走は熊に怯えつつ北海道の山の雄大さに感激した山行でした。



鳳凰三山  
1971年1月1日



西校夏合宿  
朝日連峰  
1975年8月



蝶ヶ岳  
1977年6月

その後、仕事が忙しくなり、結婚、育児と西朋女子部としての登山からは遠ざかることになりました。この時期、西高の卒業生ではありませんが私の大学の友人ある宮崎さんが準会員の立場で西朋の山行に積極的に参加され、西朋女子の面倒を見てくれた点を付け加えたいと思います。

今年の後半は、9月の吉田(18期)山荘での西朋祭、10月の噴火後の三宅島の体験ツアー、秋の紅葉を楽しむ雁ヶ腹摺山登山と、青谷(28期)新会長のもと、西朋で主催された行事が目白押しでした。このような行事に参加するにつけ、一時期、西朋の活動から遠ざかっていた時期もありますが、諸先輩、同期、後輩と幅広い年代で培われた西朋登高会の皆様との得難い交友関係の大切さを今更ながら痛感しております。

## 2012年度（平成24年度）西朋登高会 山行総覧（その1）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
1201	4/8-9	上越：土合～白毛門～朝日岳	尾崎	上野
1202	4/12	高尾：高尾山～小仏峠	林, 小川, 都築	
1203	4/16	道志：山伏トンネル～菰釣山	橋本	
1204	4/24	丹沢：西丹沢～大界木山	橋本	
1205	4/28	北アルプス/ST：白馬大雪渓	尾崎	松本
1206	5/2	上越：高倉山	上野	
1207	5/4-6	堂津・頸城/VR【春山合宿】：奉納温泉～堂津山～乙妻山～高妻山	松本, 青谷, 尾崎	上野
1208	5/5	丹沢：西丹沢～檜洞丸	橋本	
1209	5/14	奥秩父：富士見平～金峰山	橋本	
1210	5/20	北アルプス/ST：扇沢～針ノ木岳～針ノ木大雪渓	山田, 尾崎	上野
1211	5/23	丹沢：西丹沢～畦ヶ丸	橋本, 他	
	5/	八ヶ岳：権現岳	中村, 渡辺	
1212	6/1	丹沢：西丹沢～檜洞丸	橋本, 他	
1213	6/5	丹沢：西丹沢～檜洞丸	橋本, 他	
1214	6/14	富士山：吉田口～6合目	橋本	
1215	6/24	高尾・相模/WC：鶴川大群沢～笹尾根	杉坂, 尾崎	松本
1216	6/27	奥秩父：大弛峠～金峰山, 北奥千丈岳	橋本	
1217	6/30	高尾・相模/WC：鶴川大窪沢～権現山～菜久保沢	青谷, 尾崎	松本
1218	7/2-7	イラン：ダマバンド山	小川, 他6	松本
1219	7/11-20	北海道各山系：十勝岳, トムラウシ, 雌阿寒岳, 阿寒富士, 斜里岳, 羅臼岳	松本, 他12	
1220	7/15	奥秩父：梓山～十文字峠～白泰山～栃本	尾崎	
1221	7/16	南アルプス：老平～笹ヶ岳	橋本	
1222	7/17-18	八ヶ岳：美濃戸口～赤岳	小川, 他3	山野
1223	7/27	南アルプス：青木鉱泉～鳳凰三山	橋本	
1224	7/30-8/1	北ア/VR：タンボ沢～立山～長次郎谷～剣岳～大日岳	尾崎	上野
1225	8/1-8	コーカサス：エルブルース	小川	
1226	8/7	中央アルプス：福島Bコース～木曾駒ヶ岳	橋本	
1227	8/8	中央アルプス：今朝沢橋～越百山	橋本	
1228	8/9	北アルプス：田の原～木曾御嶽山	橋本	
1229	8/10-20	USAヨセミテ：ハーフトーム他	岡田	
1230	8/12-15	朝日連峰/WC【夏山合宿】：石滝川ムキ沢～祝瓶山～天狗角力取山	松本, 上野, 尾崎	山田
1231	8/25-26	奥武蔵/西朋祭：浦山郷ツキノワ荘	松田, 黒澤, 山野, 渡辺, 宇佐美, 青谷, 松本, 上野	
1232	8/26	秩父/WC：浦山川冠岩沢	松本, 青谷, 宇佐美	
1233	8/28	中央アルプス：池山尾根～空木岳	橋本	
1234	9/15-16	奥秩父/WC：笛吹川釜ノ沢東俣～甲武信岳	岡田, 他1	

VR:パリエーションルート, WC:沢登り, ST:山スキー, IC:アイスクライミング, TR:トレイルランニング

FC(T):フリークライミング(トレーニング), RC(T):ロッククライミング(トレーニング)

- ・実動メンバーの固定化と減少、学生層の参加が少ない点は前年までと変わらない。
- ・それに伴い、会としての山行実施が減少しており、引き続き活動の活性化が望まれる。

## 2012年度（平成24年度） 西朋登高会 山行総覧（その2）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
1235	9/16	大菩薩/WC：日川曲沢	中村, 他1	
1236	9/22-24	北アルプス：読売新道～水晶岳～双六岳～新穂高	尾崎	松本
1237	9/24	南アルプス：黒戸尾根～甲斐駒ヶ岳	橋本	
1238	10/5	富士山：吉田口～8合目	橋本	
1239	10/8	南高尾：草戸山	林, 松田, 黒澤, 橋本	
1240	10/13-14	越後：阿寺山～オカメノゾキ～中ノ岳	尾崎	松本
1241	10/24	渋谷宮下公園岩トレ	山野, 松本, 宇佐美	
1242	10/25	丹沢：西丹沢～檜洞丸	橋本	
1243	11/2	奥秩父：西沢溪谷～甲武信ヶ岳	橋本	
1244	11/18	御坂：黒岳～黒駒釈迦ヶ岳	尾崎	松本
1245	11/18	丹沢：寄～檜岳	橋本, 他	
1246	11/19	箱根：道了尊～明神ヶ岳～宮城野	橋本, 他	
1247	11/25	丹沢：西丹沢～大室山	橋本	
1248	11/29	南高尾：草戸山	川口, 松田, 黒澤, 田中, 渡辺	
1249	12/11	奥多摩：鴨沢～雲取山	橋本	
1250	12/24	道志：山伏トンネル～御正体山	橋本	
1251	12/27-30	中央アルプス【冬山合宿】：今朝沢橋～南駒ヶ岳西尾根	松本, 青谷, 尾崎	上野
1252	1/5	下越：坂町～高坪山周回	杉坂, 尾崎	
1253	1/13	御坂/VR：毛無山～十二ヶ岳～節刀ヶ岳～北尾根下降	尾崎	松本
1254	1/23	丹沢：戸沢～丹沢山	橋本	
1255	1/26	南大菩薩/VR：大谷ヶ丸東尾根～西尾根下降	尾崎	松本
1256	1/30	丹沢：西丹沢～檜洞丸	橋本	
1257	2/5	安倍奥：羽衣～七面山	橋本	
1258	2/9-10	男鹿山塊/VR：日留賀岳北西尾根～南尾根下降	松本, 尾崎	上野
1259	2/12	富士山：吉田口～5合目半	橋本	
1260	2/22	丹沢：西丹沢～檜洞丸	橋本	
1261	3/2	中ア前衛：糠沢～坊主岳～イノコ沢	尾崎	松本
1262	3/2	頸城/ST：関温泉～風巻尾根	岡田, 他3	
1263	3/4	頸城/ST：青田難波山	岡田	
1264	3/4	丹沢：大室山	橋本	
1265	3/9	中ア前衛：北西尾根～坊主岳～糠沢	尾崎	松本
1266	3/16-17	鳴子：鬼首スキー場～大柴山～花淵山, 小柴山, 軍沢山	岡田	
1267	3/19	丹沢：菰釣山	橋本	
1268	3/22	丹沢：檜洞丸	橋本	
1269	3/23-24	堂津山塊/VR：日道沢左岸尾根～黒鼻山・東山	松本, 杉坂, 尾崎	上野
1270	3/30	北アルプス/ST：楯池～白馬乗鞍～山ノ神尾根	尾崎	松本
	3/	信越：四阿山	中村, 渡辺	

VR:バリエーションルート, WC:沢登り, ST:山スキー, IC:アイスクライミング, TR:トレイルランニング  
 FC(T):フリークライミング(トレーニング), RC(T):ロッククライミング(トレーニング)

## 2013年度（平成25年度）西朋登高会 山行総覧（その1）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
1301	4/4	奥秩父：所畑～雲取山	橋本	
1302	4/17	富士山：吉田口～6合目	橋本	
1303	4/26	奥秩父：広瀬～雁坂嶺	橋本	
1304	5/1	弁慶山地：差首鍋～弁慶山東尾根偵察	上野	
1305	5/3-5	飯豊/VR【春山合宿】：水晶尾根～大日岳～飯豊本山	松本, 青谷, 尾崎, 保延	上野
1306	5/4	天子山地：朝霧高原～毛無山	橋本	
1307	5/4-5	北アルプス：中房温泉～燕岳	小川, 山野	上野
1308	5/4-5	上越：観音山ルート～金城山	中村	渡辺
1309	5/13	奥秩父：瑞牆山荘～金峰山		
1310	5/22	丹沢：寄～雨山	橋本, 黒沢, 他2	
1311	5/28	奥秩父：西沢溪谷～甲武信岳	橋本	
1312	5/31-6/2	神室：黒森～水晶森～神室山～八森山	尾崎	松本
1313	6/4	丹沢：ヤビツ峠～大山～広沢寺 都築, 川口, 松田, 黒沢, 田中, 橋本, 山本, 渡辺		
1314	6/7	丹沢：西丹沢～檜洞丸	橋本, 他5	
1315	6/16	富士山	小川	松本
1316	6/17	奥秩父：大弛峠～北奥千丈岳・金峰山	橋本	
1317	6/23	富士山	小川	松本
1318	7/1	奥秩父：毛木平～甲武信ヶ岳	橋本	
1319	7/6	日和田		
1320	7/14-15	奥秩父/WC：梓山～岩屋林道～国師岳～黒金山	尾崎	松本
1321	7/14	奥多摩/WC：軍刀利沢	中村, 他1	渡辺
1322	7/21	南アルプス：青木鉱泉～鳳凰三山	橋本	
1323	8/2	中央アルプス：池山尾根～空木岳	橋本	
1324	8/12	中央アルプス：木曾福島Bコース～木曾駒ヶ岳	橋本	
1325	8/13	北アルプス：田の原～御嶽山	橋本	
1326	8/14-16	丁山地/WC：明神沢～丁岳～小又川右又～大沢	青谷, 上野, 尾崎	山野
1327	8/16-18	奥只見/WC：恋ノ俣川～平ヶ岳	松本, 中村, 他	山野
1328	8/27-28	北八ヶ岳：麦草峠～天狗岳～唐沢鉱泉	橋本	
1329	8/27-29	飯豊：梶川尾根～北俣岳～杵差岳～権内尾根	尾崎	松本
1330	8/30-31	西朋祭：秩父浦山郷ツキノワ荘		
1331	8/31	秩父/WC：武甲山橋立川	小川, 青谷, 岡田, 山田, 尾崎	
1332	8/31	秩父：長者屋敷尾根～武甲山～生川	松本, 高橋, 男澤	
1333	9/10	南アルプス：竹宇～黒戸尾根～甲斐駒ヶ岳	橋本	

VR:バリエーションルート, WC:沢登り, ST:山スキー, IC:アイスクライミング, TR:トレイルランニング  
 FC(T):フリークライミング(トレーニング), RC(T):ロッククライミング(トレーニング)

- ・春、夏、冬の合宿山行など、メジャールートに偏らず独自性のあるルート・山域で実施されている。
- ・ただし実動メンバーの固定化、学生世代がいない点は課題である。
- ・それに伴い、会の複数人数での山行実施が減少しており、引き続き活動の活性化が望まれる。

2013年度（平成25年度）西朋登高会 山行総覧（その2）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
1334	9/18	丹沢：寄～雨山	橋本	
1335	9/22	丹沢/WC：小川谷	松本, 他	
1336	9/22-23	奥利根/WC：檜俣川狩小屋沢～至仏山～笠ヶ岳	中村, 尾崎, 保延	青谷
1337	9/28	笹子：曲沢峠越え	尾崎	
1338	9/29	南アルプス：羽衣～七面山	橋本	
1339	10/8	富士山：吉田口～蓬莱館	橋本	
1340	10/12-14	北アルプス：烏帽子岳～七倉岳～針ノ木峠	尾崎	松本
1341	10/14	南アルプス：大樺沢～北岳	橋本	
1342	10/31	丹沢：山伏峠～御正体山	橋本	
1343	11/2-3	北アルプス：三股～常念岳～横通岳～一ノ沢下山	尾崎, 保延	松本
1344	11/18	丹沢：西丹沢～檜洞丸	橋本	
1345	11/25	奥多摩：鴨沢～雲取山	橋本	
1346	11/30	上越：天神尾根～谷川岳	杉坂, 尾崎	松本
1347	12/11	丹沢：用木沢出合～大室山	橋本	
1348	12/28-31	北アルプス/VR：常念岳東尾根～常念岳～三股	松本, 尾崎	上野午
1349	1/2	丹沢：戸沢～蛭ヶ山	橋本	
1350	1/2-3	八ヶ岳：御小屋尾根～阿弥陀岳～赤岳	中村	渡辺
1351	1/14	丹沢：西丹沢～檜洞丸	橋本	
1352	1/21	御坂：天下茶屋～黒岳	橋本	
1353	1/28	富士山：吉田口～5合目	橋本	
1354	2/23	丹沢：西丹沢～檜洞丸	橋本	
1355	2/29	湘南：三浦アルプス 林, 川口, 桑田, 松田, 黒澤, 田中, 小川, 梶内, 山本		
1356	3/15-17	中央アルプス/VR：坊主岳～仏谷～経ヶ岳	尾崎	松本
1357	3/29	頸城/ST：蓮草連～大渚山～姫川温泉	尾崎	松本

VR: パリエーションルート, WC: 沢登り, ST: 山スキー, IC: アイスクライミング, TR: トレイルランニング  
 FC(T): フリークライミング (トレーニング), RC(T): ロッククライミング (トレーニング)



## 2014年度（平成26年度）西朋登高会 山行総覧（その1）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
1401	4/8	奥多摩：雲取山	橋本	
1402	4/16	奥秩父：雁坂嶺	橋本	
1403	4/19	上越/ST：天神尾根～西黒沢	山田, 尾崎	上野
1404	4/25	丹沢：檜洞丸	橋本	
1405	4/26	北アルプス/ST：白馬岳金山沢	尾崎	上野
1406	5/2	富士山：吉田口5合目	橋本	
1407	5/4-6	朝日連峰/VR【春山合宿】：岩見堂山～赤見堂岳～障子ヶ岳	青谷, 上野, 尾崎	山田
1408	5/18	道志：道坂隧道～菜畑山～赤鞆ヶ岳～無生野～立野峠～梁川	尾崎, 他1	
1409	5/22	奥秩父：金峰山	橋本	
1410	5/23-25	三宅島ツアー	黒澤, 松田, 小川, 山野, 松本, 青谷	
1411	5/28	丹沢：檜洞丸	橋本	
1412	6/16	奥秩父：北奥千丈岳・金峰山	橋本	
1413	6/21	上越/VR：芝倉沢～茂倉岳～谷川岳	尾崎	
1414	6/26	富士山：吉田口8合目	橋本	
1415	7/8	奥秩父：甲武信ヶ岳	橋本	
1416	7/19-21	南アルプス：聖岳	橋本	
1417	7/20-21	北アルプス/VR：金松寺山～天狗岩・黒沢山～大明神山	尾崎	
1418	7/26-27	北アルプス/WC：水殿川大東沢～小嵩沢山	尾崎	松本
1419	7/26-27	南アルプス：茶臼岳～上河内岳	橋本	
1420	8/2-3	奥秩父/WC：丹波川大常木沢	渡辺, 中村	山野
1421	8/5	南アルプス：鳳凰三山	橋本	
1422	8/7	大菩薩/WC：大峠～赤岩沢～黒岳～黄蓮谷下降	青谷	松本
1423	8/13	中央アルプス：木曾駒ヶ岳	橋本	
1424	8/14	北アルプス：木曾御嶽山	橋本	
1425	8/13-15	船形連峰/WC【夏山合宿】：笹木沢下降～大倉沢本流～船形山	松本, 青谷, 上野, 尾崎	山野
1426	8/25	中央アルプス：空木岳	橋本	
1427	8/26	中央アルプス：経ヶ岳（5合目）	橋本	
1428	8/30-31	奥多摩：西朋祭 佐藤先生, 小川, 松本, 男澤, 上野, 尾崎, 林, 田中, 渡辺, 博多, 奥村		
1429	8/31	奥多摩/TR：奥多摩駅～大岳山～馬頭刈尾根～五日市	尾崎	
1430	9/4	南アルプス：甲斐駒ヶ岳	橋本	
1431	9/6-7	中央アルプス：本高森山～念丈岳～烏帽子岳	尾崎	

VR：バリエーションルート, WC：沢登り, ST：山スキー, IC：アイスクライミング, TR：トレイルランニング  
 FC(T)：フリークライミング（トレーニング）, RC(T)：ロッククライミング（トレーニング）

- ・例年通り、メジャールートと独自性のあるルート・山域の各方面で山行が実施されている。
- ・実働メンバーの固定化状態が長く続いている。
- ・今後の活動のあり方や方向性の検討も必要であると思われる。

## 2014年度（平成25年度）西朋登高会 山行総覧（その2）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
1432	9/19	丹沢：檜洞丸	橋本	
1433	9/20-22	北アルプス/VR：真砂沢～小窓～剣岳～早月尾根	岡田，尾崎	松本
1434	9/28	南アルプス：北岳	橋本	
1435	10/4-5	奥鬼怒/WC：片品川大薙沢、尾瀬沼	山野，中村，松本，青谷	尾崎
1436	10/10	高尾：陣馬山（シニアハイク）	川口、林、田中、橋本、黒澤	
1437	10/11-12	北アルプス：五竜岳～唐松岳～不帰ノ嶮	尾崎	
1438	10/24	奥秩父：北奥千丈岳、金峰山	橋本	
1439	11/16	上越：西黒尾根～谷川岳～田尻尾根	尾崎	松本
1440	11/16	富士山：吉田口7合目	橋本	
1441	12/3	丹沢：大室山	橋本	
1442	12/6	武蔵/RCT：日和田山	松本，博多，尾崎，奥村，他1	
1443	12/10	御坂：十二ヶ岳	橋本	
1444	12/18	丹沢：檜洞丸	橋本	
1445	12/23	丹沢：鍋割山	橋本	
1446	12/27-30	南アルプス【冬山合宿】：仙丈岳～地蔵尾根	松本，青谷，尾崎	山野
1447	1/2	丹沢：蛭ヶ岳	橋本	
1448	1/7	丹沢：菰釣山	橋本	
1449	1/10-11	上越：長森山	尾崎，他1	松本
1450	1/20	御坂：御坂黒岳（1793m）	橋本	
1451	1/27	丹沢：檜洞丸（1601m）	橋本	
1452	2/11	富士山：吉田口5合目	橋本	
1453	2/14-15	上越：六万騎山～長森山～堂平山	尾崎，他1	松本
1454	3/7-8	弁慶山地/VR：西川～弁慶山	松本，岡田，上野，尾崎	山野
1455	3/11	奥秩父：鴨沢～雲取山	橋本	
1456	3/24	安倍奥：羽衣～七面山	橋本	
1457	3/27	天子山塊：毛無山	橋本	
1458	3/28	高尾山（シニアハイク）	都築、川口、松田、田中康弘、川田、山本、山野、黒澤	
1459	3/28-30	北アルプス/VR：爺ヶ岳東尾根～鹿島槍ヶ岳	松本，尾崎	上野

VR:バリエーションルート，WC:沢登り，ST:山スキー，IC:アイスクライミング，TR:トレイルランニング  
 FC(T):フリークライミング（トレーニング），RC(T):ロッククライミング（トレーニング）

## 2015年度（平成27年度）西朋登高会 山行総覧（その1）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
1501	4/9	越後：大湯温泉裏622mピーク	尾崎	
1502	4/16	丹沢：檜洞丸	橋本	
1503	4/22	道志：御正体山	橋本	
1504	4/27	奥秩父：雁坂嶺	橋本	
1505	5/2～4	頸城：火打山～妙高山	中村	
1506	5/2～4	北アルプス/VR：笠ヶ岳南西尾根	松本、尾崎	上野
1507	5/20	富士山7合目	橋本	
1508	5/29	奥秩父：甲武信ヶ岳	橋本	
1509	6/2	丹沢：大室山	橋本他	
1510	6/4～6	北アルプス：八方尾根～白馬岳～白馬大池	尾崎	松本
1511	6/10	道志：大洞山	橋本他8名	
1512	6/16	奥秩父：北奥千丈岳	橋本	
1513	6/25	富士山	小川	
1514	6/27～28	樺戸山地：クマネシリ山	尾崎	
1515	7/17～29	オーストリア：グロースグロックナー他	岡田	
1516	7/19～20	南アルプス/WC：雨乞山～口の鬼の窓～鬼の窓～大岩岳	尾崎	青谷
1517	7/21	奥秩父：金峰山	橋本	
1518	8/4	南アルプス：観音岳、薬師岳	橋本	
1519	8/7	奥多摩/WC：三頭沢	青谷	
1520	8/7～10	南アルプス：荒川岳～聖岳	小川	
1521	8/13～16	南会津/WC：安越又川～黒谷川下梯子沢～上梯子沢～杉曾根沢～東実沢左俣	松本、岡田、尾崎	山野
1522	8/14～16	中央アルプス：木曾駒ヶ岳～空木岳	中村	
1523	8/21～22	西朋祭 秩父 ツキノワ荘	佐藤先生他	
1524	8/22～24	南アルプス/VR：戸台～鋸岳～日向八丁尾根～雨乞山	尾崎	松本
1525	9/4～7	南アルプス：聖岳	橋本他	
1526	9/19～22	南アルプス/VR&WC：岳沢越～三峰川源流～仙丈岳～大仙丈沢～小太郎山西尾根～北岳～ポーコン沢の頭～広河原	尾崎	松本
1527	9/19～20	南アルプス：塩見岳	橋本他	
1528	9/20～21	奥秩父/WC：笛吹川 東沢釜の沢	松本他4名	
1529	9/22	奥多摩/WC：盆堀川 石仁田沢～刈寄山～金堀沢下降	青谷	
1530	10/1	小仏峠～小原本陣～与瀬（シニアハイク）	林、松田、田中、川田、小川、吉田、山本、黒澤	
1531	10/16～18	和賀真昼山地：高下岳～和賀岳～鹿ノ子山	尾崎	松本

VR：バリエーションルート，WC：沢登り，ST：山スキー，IC：アイスクライミング，TR：トレイルランニング  
 FC(T)：フリークライミング（トレーニング），RC(T)：ロッククライミング（トレーニング）

- ・ 例年通り、メジャールートと独自性のあるルート・山域の各方面で山行が実施されている。
- ・ 実働会員の高齢化が進行している。
- ・ パーティ形式での山行回数が減少している。

2015年度（平成27年度）西朋登高会 山行総覧（その2）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
1532	10/25	富士山：吉田口6合目	橋本	
1533	10/30	丹沢：檜洞丸	橋本	
1534	11/21～23	北アルプス/VR：霞沢岳西尾根～徳本峠～島々	尾崎	松本
1535	11/27	丹沢：菰釣山	橋本	
1536	12/7	御坂山地：鬼ヶ岳	橋本	
1537	12/16	奥秩父：飛龍山	橋本	
1538	12/27	富士山宝永山	松本他3名	
1539	12/31～1/3	中央アルプス：本高森山～奥念丈岳～越百山	尾崎	松本
1540	12/31	越後：守門岳	中村	
1541	1/2	丹沢：蛭ヶ岳	橋本	
1542	1/8	丹沢：檜洞丸	橋本	
1543	1/24	奥秩父：乾徳山	山田他2名	
1544	1/24	丹沢：大山	山野	
1545	1/28	丹沢：畦ヶ丸	橋本	
1546	2/8	丹沢：檜洞丸	橋本	
1547	2/11	北アルプス支稜：大鷲山	尾崎	
1548	2/24	丹沢：大室山	橋本	
1549	2/25	北アルプス：上高地周辺	小川他3名	
1550	2/27～29	奥日光：男体山～大真名子山～女峰山	尾崎	松本
1551	3/8	御坂山地：御坂黒岳	橋本	
1552	3/20～21	南八ヶ岳：権現岳～赤岳	松本、尾崎	山野
1553	3/25	奥多摩：高水三山（シニアハイク）	南波、林、川口、松田、黒澤、田中、橋本、小川、吉田、山本	
1554	3/30	奥多摩：雲取岳	橋本	
1555	3/31	長野県上田：太郎山	玉田	
1556	3/31～4/2	船形山周辺/VR：甑岳～白森～黒伏山	尾崎	松本

VR:バリエーションルート, WC:沢登り, ST:山スキー, IC:アイスクライミング, TR:トレイルランニング  
 FC(T):フリークライミング(トレーニング), RC(T):ロッククライミング(トレーニング)

2016年度（平成28年度）西朋登高会 山行総覧（その1）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
1601	4/6	天子山地:毛無山	橋本	
1602	4/20	身延:七面山	橋本	
1603	4/30-5/1	南アルプス:夜叉神峠～鳳凰三山	中村	渡辺
1604	4/30-5/3	北アルプス:金松寺山～鍋冠山～大滝山～常念岳	尾崎	松本
1605	4/30-5/4	南会津:宮沢～尾白山～丸山～小手沢山～城郭朝日山(往復)	岡田、他2	
1606	5/7	屋久島:宮之浦岳	小川	
1607	5/7-8	福島山形県境:小屋～柵峰～飯森山～鉢伏山～日中ダム	岡田	
1608	5/11-14	大台ヶ原:大峰山	松本、他	
1609	5/15	佐久:栗生～御座山	渡辺、他5	松本
1610	5/19	北アルプス:三股～蝶ヶ岳	渡辺	
1611	5/25-26	丹沢/WC:キューハ沢、寄沢イイハシの大棚(登山ガイド同行)	岡田、他3	
1612	6/2	富士山:吉田口～7合目	橋本	
1613	6/4	北八ヶ岳:夏沢鉱泉～根石岳	玉田	
1614	6/7	丹沢:檜洞丸	橋本	
1615	6/11	越後/WC:桂ノ沢～群界尾根中退	尾崎	松本
1616	6/18-19	北アルプス:常念岳	渡辺	
1617	6/23	奥秩父:甲武信ヶ岳	橋本	
1618	7/2	丹沢/WC:モチコシの大滝(登山ガイド同行)	岡田、他3	
1619	7/7-8	北アルプス:有明山	渡辺、松本	山野
1620	7/10	丹沢:檜岳	橋本	
1621	7/16-17	八ヶ岳/WC:地獄谷～ツルネ東稜～川俣尾根～権現岳	尾崎	松本
1622	7/16-18	南アルプス:聖岳	橋本	
1623	7/23	頸城:雨飾温泉周辺・雨飾山北麓偵察	尾崎	松本
1624	7/24	奥秩父 カンマンボロン～瑞牆山, 廻り目平パノラマ・カモシカ登山道	岡田	
1625	7/30	頸城:海谷駒ヶ岳・雨飾山北麓偵察	尾崎	松本
1626	7/30	北八ヶ岳:蓼科山	渡辺、他	
1627	8/3	中信:鉢伏山	渡辺	
1628	8/8	奥多摩/WC:三頭沢	青谷	
1629	8/10-21	インドネシア:リンジャニ山, バトゥール山・アゲン山, プロモ山	岡田、他	
1630	8/11-14	白神/WC:追良瀬川・三ノ沢～白神岳	松本、尾崎	山野
1631	8/12-14	北アルプス:爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～赤岩尾根	中村	渡辺
1632	8/20-21	南アルプス:鳥倉林道～塩見岳	渡辺、他1	中村
1633	8/27-28	奥多摩/西朋祭:氷川キャンプ場 佐藤先生、林、田中、小川、吉田、山野、森下、渡辺、遠藤、青谷、男沢、東山、上野		
1634	9/1	富士山:吉田口～7合目	橋本	
1635	9/3-4	北信:高妻山	渡辺	
1636	9/9	加賀:越前 勝原～荒島岳	松本	
1637	9/10	頸城:小谷温泉～雨飾山～北西尾根～平岩	尾崎	松本

VR:バリエーションルート、WC:沢登り、ST:山スキー、IC:アイスクライミング、TR:トレイルランニング

FG(T):フリークライミング(トレーニング)、RC(T):ロッククライミング(トレーニング)

2016年度（平成28年度）西朋登高会 山行総覧（その2）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
1638	9/10	車山～八島が原湿原	玉田、他1	
1639	9/15	菅平：目沢山荘 黒沢、松田、林、吉田、山本夫妻、渡辺、目沢夫妻		
1640	9/24-25	北アルプス：下ノ廊下 黒部ダム～樺平	岡田、他1	
1641	9/27	丹沢：檜洞丸	橋本	
1642	9/28-10/1	南アルプス/VR：岳沢越～大仙丈岳西尾根～両俣～広河原	尾崎	松本
1643	10/7	北信：鳥甲山	小川、松本、渡辺	中村
1644	10/9	堂津：東山周辺偵察	尾崎	松本
1645	10/9	佐久：長者の森～御座山	青谷、他1	
1646	10/11	奥秩父：金峰山	橋本	
1647	10/15-16	南アルプス：鶏冠山～池口岳偵察	尾崎	松本
1648	10/20	大垂水峠～大洞山～南高尾尾根	黒澤、松田、南波、等7名	
1649	10/27	信越：黒斑山	玉田	
1650	11/3-5	南ア深南部：不動岳～六呂場山～黒沢山～中ノ尾根山	岡田	
1651	11/4-6	日光周辺/VR：鎌田～笠ヶ岳～錫ヶ岳～黒檜山～足尾	尾崎	松本
1652	11/5	信越：湯の丸～烏帽子	玉田	
1653	11/5	上州：武尊山	渡辺、他	
1654	11/8	丹沢：御正体山	橋本	
1655	11/16	大菩薩：牛奥ノ雁ヶ腹摺山	橋本	
1656	11/18	信越：野反湖～白砂山	渡辺、松本、他1	
1657	12/12	丹沢：檜洞丸	橋本	
1658	12/21	富士山：吉田口～5合目	橋本	
1659	12/3-4	越後：権現堂山～唐松山	尾崎	松本
1660	12/31-1/3	南アルプス：鶏冠山～池口岳～光岳	尾崎	渡辺
1661	1/2	丹沢：蛭ヶ岳	橋本	
1662	1/8	丹沢：大倉～塔ノ岳	山野	
1663	1/24	丹沢：檜洞丸	橋本	
1664	1/31	百蔵山～扇山	松本	
1665	2/3-4	上越/VR：猿倉山～堂平山～六万騎山	尾崎	渡辺
1666	2/14	御坂：黒岳	橋本	
1667	2/24-25	鹿島槍スキー場場～菅平スキー場	渡辺	
1668	2/27	天子山地：毛無山	橋本	
1669	3/5	丹沢：道志温泉～加入道山～大室山	青谷、他1	
1670	3/11-12	頸城/VR：雨飾山北西尾根1350m地点	尾崎	渡辺
1671	3/11-12	矢代山地/ST：粟立山、重倉山	岡田	
1672	3/15	奥多摩：雲取山	橋本	
1673	3/15	北信：南登山口～飯綱山	渡辺、中村、松本	山野
1674	3/18-20	頸城/VR：北西尾根～雨飾山	尾崎	渡辺
1675	3/29	身延：七面山	橋本	

VR：バリエーションルート、WC：沢登り、ST：山スキー、IC：アイスクライミング、TR：トレイルランニング  
 FC(T)：フリークライミング（トレーニング）、RC(T)：ロッククライミング（トレーニング）

2017年度（平成29年度）西朋登高会 山行総覧

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
1701	4/10-11	太平山地東部/VR:比立内～白子森	尾崎	山野
1702	4/20	檜洞丸	橋本	
1703	4/24	信州 独鈷山	玉田、他1名	
1704	4/25	富士山吉田口5合目	橋本	
1705	4/30	信州 湯の丸山	玉田	
1706	5/2	三つ峠山	橋本	
1707	5/3-6	飯豊連峰/VR:蒜場山～烏帽子岳～大日岳～北股岳	尾崎	山野
1708	5/8	雁が腹摺山、黒岳	橋本	
1709	5/13-14	北アルプス 蝶が岳	小川、渡辺、他4名	中村
1710	5/23-24	守門岳	小川、渡辺、松本、他1名	山野
1711	5/23	檜洞丸	橋本	
1712	5/30	甲武信岳	橋本	
1713	6/18-20	北アルプス 爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	尾崎	山野
1714	6/5	奥秩父 北奥千丈岳、金峰山	橋本	
1715	6/22	富士山吉田口7合目	橋本	
1716	6/25	北アルプス 有明山	渡辺、他	
1717	7/8	武尊岳	渡辺、他5名	
1718	7/11-12	白石山(和名倉山)	松本、他1名	渡辺
1719	7/14-17	南アルプス聖平	橋本 他	
1720	7/19	八ヶ岳 硫黄岳	玉田、他1名	
1721	7/25	瑞牆山、茅が岳	松本	渡辺
1722	7/29-30	北アルプス:小滝～黒岩山 偵察	尾崎、他1名	
1723	7/31	金峰山	橋本	
1724	8/10	檜洞丸	橋本	
1725	8/13-16	葛根田周辺/WC:小和瀬川大沢～曲崎山～秋田駒ヶ岳	尾崎、他1名	山野
1726	9/3	御前山 シダクラ沢	青谷、松本	
1727	9/9-11	北アルプス/VR:越道峠～初雪山 偵察	尾崎、他1名	
1728	9/11	富士山	小川	
1729	9/12	三頭山 三頭沢	青谷	
1730	9/26-27	帝釈山	小川、渡辺、松本、他1名	中村
1731	10/8-10	北アルプス:小滝～黒岩山～犬ヶ岳～親不知 偵察	尾崎	上野
1732	10/11-12	日光 女峰山	松本、他1名	
1733	10/27	富士吉田口6合目	橋本	
1734	10/31	御正体山	橋本	
1735	11/4-5	中央アルプス/VR:安平路山南尾根 偵察	尾崎	
1736	11/29	毛無山	小川、渡辺、松本	山野
1737	12/2-3	南アルプス:甲斐駒ヶ岳黒戸尾根	尾崎	松本
1738	12/5	御坂黒岳	橋本	
1739	12/12	檜洞丸	橋本	
1740	12/19	天城山	渡辺、松本、他4名	山野
1741	12/26	今倉山	橋本	
1742	12/30-1/2	中央アルプス:越百山～奥念丈岳～安平路山	尾崎	山野
1743	1/17-18	八ヶ岳 蓼科山	小川、渡辺、松本	山野
1744	3/10-12	北アルプス:大地山～初雪山 積雪期偵察	尾崎	
1745	3/24-25	北アルプス:小滝～明星山北面台地～横倉前山 偵察	尾崎	山野
1746	3/31	北高尾尾根-八王子城跡(シニアハイク)	松田、黒澤、小川、川田、山野、南波	

VR:バリエーションルート、WC:沢登り、ST:山スキー、IC:アイスクライミング、TR:トレイルランニング

FC(T):フリークライミング(トレーニング)、RC(T):ロッククライミング(トレーニング)

2018年度（平成30年度）西朋登高会 山行総覧（その1）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
1801	4/3	天子山塊:毛無山	橋本	
1802	4/10	御坂:黒岳	橋本	
1803	4/13	安曇野:光城山	渡辺	
1804	4/14	中信:茂来山	玉田	
1805	4/16-18	太平山地/VR:比立内~白子森~大平山	尾崎	山野
1806	4/20	甲州:岩殿山	渡辺	
1807	4/22	天子山塊:長者ヶ岳	渡辺	
1808	4/26	丹沢:檜洞丸	渡辺	
1809	4/27	身延:七面山	橋本	
1810	4/28-5/1	北アルプス/VR:初雪山~犬ヶ岳~明星山	尾崎	山野
1811	4/29	八ヶ岳周辺:飯森山	玉田	
1812	5/11	丹沢:檜洞丸	橋本	
1813	5/26	北信:飯綱山	玉田	
1814	6/2	北八ヶ岳:天狗岳	玉田	
1815	6/10	日光:女峰山	渡辺	
1816	6/13	富士山:吉田口~7合目	橋本	
1817	6/13	頸城:雨飾山	渡辺	
1818	6/17	北アルプス:楯池高原	玉田	
1819	6/22	奥秩父:大弛峠~北奥千丈岳、金峰山	橋本	
1820	6/26	頸城:妙高山	松本	渡辺
1821	6/27	御坂:黒岳	橋本	
1822	7/8	頸城:高妻山	渡辺	
1823	7/8	磐梯:川桁山	尾崎	
1824	7/14-16	北アルプス:中崎尾根~槍ヶ岳~燕岳	尾崎、他1名	上野
1825	7/21	上越:平標山	玉田	
1826	7/29	安達太良山/WC:中ノ沢	上野、尾崎	山野
1827	7/31	南アルプス:北岳	橋本	
1828	8/2	足尾:皇海山	松本	渡辺
1829	8/3	日光:男体山	松本	渡辺
1830	8/4-5	南アルプス:北岳	渡辺	
1831	8/17-20	八幡平周辺/WC:小和瀬川スズノカタ沢~葛根田川~大深岳~ミツ石山~網張温泉	尾崎	上野
1832	8/14	飯豊山	中村	
1833	8/15	四国:石鎚山	松本	
1834	8/22	南アルプス:甲斐駒ヶ岳	橋本	
1835	9/1	西朋祭:氷川キャンプ場	12名	
1836	9/10	丹沢:檜洞丸	橋本	

VR:バリエーションルート、WC:沢登り、ST:山スキー、IC:アイスクライミング、TR:トレイルランニング

FC(T):フリークライミング(トレーニング)、RC(T):ロッククライミング(トレーニング)



## 2018年度（平成30年度） 西朋登高会 山行総覧（その2）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
1837	9/19-20	八幡平周辺: 秋田駒ヶ岳・乳頭山	松本	
1838	9/21	阿仁: 森吉山	松本	
1839	9/22	月山	松本	
1840	9/22-24	北アルプス: 小滝～朝日岳～雪倉岳～柵池高原	尾崎	
1841	9/23	鳥海山	松本	
1842	10/6-9	南アルプス/VR: 鷄冠山西尾根～池口岳南峰～ダルマの頭～寸又川～百俣沢の頭～光岳～池口岳北峰	尾崎	
1843	10/11-12	加賀: 白山	松本	渡辺
1844	10/26	御坂: 鬼ヶ岳	橋本	
1845	10/30	奥秩父: 雲取山	橋本	
1846	11/4-5	二口山塊: 北面白山～南面白山～小東岳	尾崎	
1847	11/8	箱根: 金時山	橋本	
1848	11/14	富士山: 吉田口～5合目	橋本	
1849	11/23-25	二口山塊: 権現様峠～大東岳～南面白山～山形神室	尾崎	山野
1850	12/5	大菩薩: 小金沢山	橋本	
1851	12/19	丹沢: 檜洞丸	橋本	
1852	12/30-1/2	南アルプス: 仙丈岳丹溪新道～地蔵尾根～伊那里	尾崎	山野
1853	1/2	丹沢: 蛭ヶ岳	橋本	
1854	1/14	中信: 上田太郎山	玉田	
1855	1/14	磐梯: 額取山～御霊櫃峠	尾崎	
1856	1/16	御坂: 王岳	橋本	
1857	1/2	丹沢: 檜洞丸	橋本	
1858	2/23	上州: 尼が禿山	小川	
1859	2/23-24	飯豊: 豊実～大石山～高井峠 筆塚山望遠偵察	尾崎	山野
1860	2/27	御坂: 黒岳	橋本	
1861	3/9	奥秩父: 乾徳山	渡辺	
1862	3/9	飯豊/VR: 筆塚山南東尾根末端偵察	尾崎	
1863	3/20	身延: 七面山	橋本	
1864	3/23-25	裏那須/VR: 斎藤山～赤柴山～流石山～三倉山	尾崎	上野

VR: バリエーションルート、WC: 沢登り、ST: 山スキー、IC: アイスクライミング、TR: トレイルランニング

FG(T): フリークライミング（トレーニング）、RC(T): ロッククライミング（トレーニング）

## 2019年度 西朋登高会 山行総覧（その1）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
1901	4/6	会越:笠谷山	上野、尾崎	山野
1902	4/9	丹沢:大室山	橋本	
1903	4/18	御坂:十二ヶ岳	橋本	
1904	4/21	中信:霧訪山	玉田	
1905	5/2-5	朝日連峰:葉山~大朝日岳~以東岳	尾崎	上野
1906	5/3	中信:子檀嶺岳	玉田	
1907	5/4	中信:横尾山	玉田	
1908	5/6	中信:太郎山	玉田	
1909	5/11-14	屋久島:宮之浦岳	松本 他4	
1910	5/12	上信:鼻曲山	渡辺	
1911	5/12	上信:湯ノ丸山	玉田	
1912	5/23	上越:蓬峠・武能山	渡辺、児玉	
1913	5/25	中信:御座山	玉田	
1914	5/25-26	飯豊連峰:西俣ノ峰~地神山~門内岳~丸森尾根	尾崎	渡辺
1915	5/30	中信:京ヶ岳	渡辺	
1916	6/4	富士山:吉田口6合目	橋本	
1917	6/15	朝日連峰:大鳥雨量計尾根偵察	尾崎	
1918	6/18	奥多摩:三頭山	松本、他1	
1919	6/20	丹沢:檜洞丸	橋本	
1920	6/22-23	中越:守門岳 本高地沢慰霊碑訪問	山野、森下、渡辺、中村、松本	
1921	6/26	奥秩父:北奥千丈岳	橋本	
1922	7/6-7	北信:弥勒尾根~高妻山	渡辺	
1923	7/13-14	会津/VR:大戸山敗退	尾崎	
1924	7/22-23	安曇野:乳川、マムシ平	早瀬、中村、伊東、渡辺	
1925	7/26	奥秩父:甲武信ヶ岳	橋本	
1926	8/6	南アルプス:仙丈ヶ岳	橋本	
1927	8/11-13	南アルプス:塩見岳	中村	
1928	8/12-15	飯豊連峰/WC:滝川赤石沢	上野、尾崎	山野
1929	8/20-21	北アルプス:奥大日岳	松本、他1	
1930	8/21	南アルプス:夜叉神峠~薬師岳	橋本	
1931	8/26	会津:磐梯山	松本、他1	
1932	8/26-27	安曇野:乳川、マムシ平	渡辺、早瀬	
1933	8/31	板谷峠付近偵察	尾崎	
1934	8/31-9/1	奥多摩:氷川キャンプ場 西朋祭 小川、山野、森下、渡辺、遠藤、松本、高橋、男澤、林、青谷、中村、上野		
1935	9/12-15	南アルプス/VR・WC:大仙丈岳西尾根~大仙丈沢~仙丈岳東尾根~地藏尾根	尾崎	山野
1936	9/14	御坂:黒岳	橋本	
1937	9/14-15	安達太良山	渡辺	

VR:バリエーションルート、WC:沢登り、ST:山スキー、IC:アイスクライミング、TR:トレイルランニング

FC(T):フリークライミング(トレーニング)、RC(T):ロッククライミング(トレーニング)

## 2019年度 西朋登高会 山行総覧（その2）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
1938	9/21	栗駒山	松本、他	
1939	9/22	早池峰山	松本、他	
1940	9/23	八幡平	松本、他	
1941	9/24	岩手山	松本、他	
1942	9/26	中信:鉢盛山	渡辺	
1943	9/26	南アルプス:広河原～北岳	橋本	
1944	10/10	丹沢:檜洞丸	橋本	
1945	10/10	中信:四阿山	松本、他1	
1946	10/19-22	朝日連峰:障子ヶ岳～狐穴～大朝日岳～祝瓶山	尾崎	山野
1947	10/27	御坂:黒岳	橋本	
1948	10/30	北信:妙高山	松本、他2	
1949	10/31	北信:火打山	松本、他2	
1950	11/2	南信:恵那山	渡辺	
1951	11/2-4	船形連峰:関山峠～白髪山～白森～黒伏山	尾崎	
1952	11/9	御坂:本栖湖～竜ヶ岳	玉田	
1953	11/12	奥秩父:雲取山	橋本	
1954	11/13-14	奥多摩:飛龍山	松本、他1	
1955	11/16-17	川桁山塊:川桁山偵察	尾崎	
1956	11/25	御坂:本社ヶ丸	橋本	
1957	12/11	丹沢:御正体山	橋本	
1958	12/14-15	安達太良山:和尚山～安達太良山～船明神～中ノ沢	尾崎	
1959	12/24	丹沢:檜洞丸	橋本	
1960	12/31-1/3	南アルプス:池口岳～光岳～上河内岳	尾崎	山野
1961	1/2	丹沢:蛭ヶ岳	橋本	
1962	1/11	丹沢:菰釣山	橋本	
1963	1/31	丹沢:檜洞丸	橋本	
1964	2/1-2	安達太良山/ST:塩沢温泉～安達太良山～箕輪山	尾崎	
1965	3/3	奥多摩:上野原～権現山	松本、他1	
1966	3/6	御坂:鬼ヶ岳	橋本	
1967	3/6-7	安達太良山:くろがね小屋～安達太良山	渡辺、中村	
1968	3/7-8	川桁山塊:天狗角力取山～大滝山	尾崎	
1969	3/18	丹沢:檜洞丸	橋本	
1970	3/19-22	栗子山塊:栗子山～豪士山～龍ヶ岳	尾崎	山野
1971	3/25	身延:七面山	橋本	

VR:バリエーションルート、WC:沢登り、ST:山スキー、IC:アイスクライミング、TR:トレイルランニング  
 FC(T):フリークライミング(トレーニング)、RC(T):ロッククライミング(トレーニング)

## 2020年度 西朋登高会 山行総覧（その1）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
2001	4/3-4	群馬県:石尊山・高田山、不納山・水晶山、王城山～高間山、天狗山	岡田	
2002	4/11-12	神室山地:禿岳	尾崎	山野
2003	4/15	山梨県:笹子峠～京戸山～達沢山～旭山	岡田	
2004	5/20	富士山塊:愛鷹山	渡辺、他	
2005	5/23	北九州:足立山～門司駅	山田	
2006	5/28-30	飯豊:弥平四郎～飯豊山	尾崎	山野
2007	5/28-29	中越:大力山～笠倉山～湊沢山、下権現堂山～上権現堂山～唐松山	岡田	
2008	5/30	北九州:吹上峠～貫山～吹上峠	山田	
2009	6/2	丹沢:西丹沢～檜洞丸	橋本	
2010	6/7	北九州:上野郷～福智山～鷹取山～上野郷	山田	
2011	6/9	大菩薩:大峠～牛奥ノ雁ヶ腹摺山	橋本	
2012	6/16	天子山塊:朝霧高原～毛無山	橋本	
2013	6/20	北九州:大蔵登山口～皿倉山～尺岳～福智山～牛斬山～採銅所	山田	
2014	6/20	中信:黒斑山	玉田	
2015	6/20-21	安達太良山/WC:高森川仏沢～塩沢温泉	尾崎	山野
2016	6/24	奥秩父:大弛峠～北奥千丈岳・金峰山	橋本	
2017	6/25	道志:杓子山	松本、他1	
2018	7/19	中信:根子岳	玉田	
2019	7/30	中央アルプス:広河原口～恵那山	松本、他2	
2020	8/2	北アルプス:有明山	渡辺、他	
2021	8/2	八ヶ岳:桜平～硫黄岳	橋本	
2022	8/4	南アルプス:夜叉神峠登山口～辻山	橋本	
2023	8/9	北九州:英彦山、北岳・中岳、南岳	山田	
2024	8/9-12	二口山塊/VR・WC:三方倉山～仙台神室～山形神室～大行沢～北面白山	尾崎	上野
2025	8/14	中央アルプス:千畳敷～宝剣岳	玉田	
2026	8/14	WC丹沢:マスキ嵐沢	松本、他2	
2027	8/20	奥秩父:西沢溪谷～甲武信ヶ岳	橋本	
2028	8/23	WC丹沢:押出沢	松本、他4	
2029	8/24-27	北アルプス:清水尾根・大黒鉱山道周回 樺平～白馬岳～唐松岳～祖母谷温泉	岡田	
2030	8/29-30	秩父:西朋祭 ツキノワ荘	渡辺、中村、青谷、松本、佐々木	
2031	9/2	南アルプス:新倉～転付峠	橋本	
2032	9/3	WC奥多摩:シンナソー	岡田、他1	
2033	9/20	北九州:大蔵登山口～皿倉山～福智山～牛斬山～採銅所駅	山田	
2034	9/28	北アルプス:白樺峠	渡辺	

VR:パリエーションルート、WC:沢登り、ST:山スキー、IC:アイスクライミング、TR:トレイルランニング  
 FC(T):フリークライミング(トレーニング)、RC(T):ロッククライミング(トレーニング)

## 2020年度 西朋登高会 山行総覧（その2）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
2035	10/2	丹沢: 西丹沢～檜洞丸	橋本	
2036	10/2,3	九重: 牧ノ戸峠～久住山・中岳周遊、長者原～三俣山	山田	
2037	10/7-8	頸城: 雨飾山	小川、渡辺、松本、他3	山野
2038	10/11	小遠見山	玉田	
2039	10/11	WC中越: 米子沢(登山ガイド同行)	岡田、他2	
2040	10/13	丹沢: 用木沢～大室山	橋本	
2041	10/14-15	吾妻連峰: 滑川温泉～東大巔～西吾妻山～西大巔～早稲沢	尾崎	
2042	10/24	大分: 由布岳	山田、他1	
2043	10/25	中信: 京ヶ倉	渡辺、他	
2044	10/25	茅ヶ岳	玉田	
2045	10/25	群馬県: 玉原高原～迦葉山	岡田、他4	
2046	10/26-28	下越: 新保岳、虚空蔵山(葡萄山脈)、鷲ヶ巣山、光禿山	岡田	
2047	10/30	御坂: 黒岳	橋本	
2048	10/30-11/2	南アルプス: 転付峠～蝙蝠岳～塩見岳～大鹿村	尾崎	山野
2049	10/31,11/1	九重: 長者原～大船山、尾平～祖母山	山田	
2050	11/5	丹沢: 秦野～弘法山～鶴巻温泉	山野	
2051	11/9	奥秩父: 大弛峠～北奥千丈岳・金峰山	橋本	
2052	11/12	奥秩父: 日向大谷～両神山	松本、他1	
2053	11/12-18	高島トレイル(乗鞍岳～三重嶽～百里ヶ岳～三国岳)、野坂岳、賤ヶ岳	岡田	
2054	11/14	英彦山: 鷹ノ巣山	山田	
2055	11/18	丹沢: 西丹沢～檜洞丸	橋本	
2056	11/21-23	南アルプス: 大門沢～農鳥岳・広河内岳 冬道偵察	尾崎	山野
2057	11/24	奥秩父: 雁坂嶺	橋本	
2058	12/3	丹沢: 東丸・西丸	松本、他3	
2059	12/8	富士山: 吉田口5合目	橋本	
2060	12/12	道志: 四尾連湖～蛾ヶ岳	渡辺、他	
2061	12/20	中信: 平尾山	玉田	
2062	12/22	御坂: 田野倉～高川山～初狩	山野、渡辺	
2063	12/23	丹沢: 山伏峠～御正体山	橋本	
2064	12/23	山梨県: 要害山～岩堂峠～棚山(往復)～大蔵経寺山	岡田	
2065	12/24	道志: 禾生～九鬼山～馬立山～神楽山～猿橋	松本、他1	
2066	12/29	丹沢: 姫次～袖平山	橋本	
2067	1/5	丹沢: 西丹沢～檜洞丸	橋本	
2068	1/9-10	猪苗代湖周辺: 高旗山～三森峠	尾崎	山野
2069	1/10	北九州: 足立山	山田	

VR: バリエーションルート、WC: 沢登り、ST: 山スキー、IC: アイスクライミング、TR: トレイルランニング  
 FC(T): フリークライミング(トレーニング)、RC(T): ロッククライミング(トレーニング)

### 2020年度 西朋登高会 山行総覧（その3）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
2070	1/11	中信:太郎山 表参道ルート	玉田	
2071	1/16	丹沢:山伏峠～菰釣山	橋本	
2072	1/23	猪苗代湖周辺:上戸～五万堂山、826mピーク、周辺偵察	尾崎	山野
2073	1/26	丹沢:阿夫利神社下社～大山	山野	
2074	1/30	丹沢:西丹沢～畦ヶ丸	橋本	
2075	2/6	道志:道坂トンネル～今倉山	橋本	
2076	2/6	中信:太郎山 緑が丘ルート	玉田	
2077	2/6-7	野辺山:信濃川上～女山～飯盛山	尾崎	
2078	2/9	奥多摩:戸倉三山 臼杵山～刈寄山～今熊山	岡田	
2079	2/11	奥秩父前衛:斑山	尾崎	
2080	2/16	丹沢:西丹沢～檜洞丸	橋本	
2081	2/20	南アルプス前衛:入笠山	玉田	
2082	2/22	丹沢:八丁坂ノ頭登山口～蛭ヶ岳	橋本	
2083	2/23	中信:太郎山 裏参道ルート	玉田	
2084	2/27-28	猪苗代湖周辺/VR:上戸～五万堂山～額取山～磐梯熱海	尾崎	山野
2085	3/10	御坂:西湖～鬼ヶ岳	橋本	
2086	3/16	御坂:天下茶屋～黒岳	橋本	
2087	3/18-20	猪苗代湖周辺/VR:北尾根～川桁山～天狗角力取山～観音寺	尾崎	山野
2088	3/18	栃木県:日向倉山(南尾根)～滝向山(南西尾根)	岡田	
2089	3/23	中信/ST:根子岳	渡辺、児玉	
2090	3/24	天子山塊:麓～毛無山	橋本	
2091	3/27	八ヶ岳:北横岳	玉田	

VR:バリエーションルート、WC:沢登り、ST:山スキー、IC:アイスクライミング、TR:トレイルランニング  
 FC(T):フリークライミング(トレーニング)、RC(T):ロッククライミング(トレーニング)

## 2021年度 西朋登高会 山行総覧（その1）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
2101	4/1	身延山地:羽衣～七面山	橋本	
2102	4/10	伊豆半島:大平山～葛城山手前	松本, 他6	
2103	4/10	奥秩父:瑞牆山	玉田	
2104	4/12	富士山:吉田口～5合目	橋本	
2105	4/12-13	尾瀬:鳩待峠～平ヶ岳手前方面偵察	渡辺, 児玉	
2106	4/18	中信:浅間隠山	玉田	
2107	4/21	奥多摩:八ツ田登山口～坪山～西尾根	松本, 他	
2108	4/22	中信:当郷～子檀嶺岳	渡辺	
2109	4/22	中信:美ヶ原	松本, 他	
2110	4/24	企救半島:足立山～風師山	山田	
2111	4/26	大菩薩:小金沢山	橋本	
2112	5/1-5	南アルプス:笹山東尾根～農鳥岳	尾崎	上野
2113	5/8	伊豆半島:狩野川放水路～発端丈山～大仁	松本, 他	
2114	5/9	中信:牛伏～太郎山～四十八曲がりコース	玉田	
2115	5/10	奥秩父:雁坂嶺	橋本	
2116	5/15	中信:不動滝～虫倉山～さるすべりコース	玉田	
2117	5/23	豊前:犬ヶ岳～求菩提山	山田	
2118	5/29	大菩薩:小菅～大菩薩峠	橋本	
2119	5/29	中信:湯の丸山	玉田	
2120	5/30	北アルプス:鍬ノ峰	玉田	
2121	5/31-6/1	越後:野中～丹後山～中ノ岳～十字峽	尾崎	上野
2122	6/5	福智山系:皿倉山～福智山～香春岳	山田	
2123	6/8	丹沢:ゴウラ沢出会～檜洞丸	橋本	
2124	6/12	伊豆半島:発端丈山～益山寺～だるま山高原	松本, 他8	
2125	6/12	北信:黒姫山	玉田	
2126	6/12	身延山地:八紘嶺	橋本	
2127	6/20	海谷:雨飾山	渡辺, 玉田	
2128	6/20	豊前:英彦山	山田	
2129	6/21	奥秩父:北奥千丈岳	橋本	
2130	7/5	富士山:吉田口～6合目	橋本	
2131	7/19	富士山:富士宮5合目～山頂浅間大社	小川	
2132	7/20	南アルプス:夜叉神峠～観音岳	橋本	
2133	7/22-24	奥秩父/VR:徳和～大烏山～北奥千丈岳～甲武信ヶ岳～十字峠～川端下	尾崎	上野
2134	8/4	南アルプス:広河原～北岳	橋本	
2135	8/17-20	奥多摩:刈寄山～生藤山～三頭山～奈良倉山～権現山～扇山	尾崎	上野
2136	8/26	南アルプス:北沢峠～甲斐駒ヶ岳	橋本	

VR:バリエーションルート、WC:沢登り、ST:山スキー、IC:アイスクライミング、TR:トレイルランニング

FC(T):フリークライミング(トレーニング)、RC(T):ロッククライミング(トレーニング)

## 2021年度 西朋登高会 山行総覧（その2）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
2137	8/29	奥日光:日光白根山	渡辺	
2138	8/29-9/1	飯豊:大崑尾根～飯豊山～杵差山～大石	尾崎	山野
2139	9/5	西朋祭(Zoom): 林, 小川, 吉田, 平木, 山野, 森下, 渡辺, 中村, 遠藤, 青谷, 山田, 西入, 佐々木, 尾崎		
2140	9/13	奥多摩:鴨沢～雲取山	橋本	
2141	9/19	北アルプス:乗鞍岳	渡辺	
2142	9/22-25	南アルプス:大門沢～雪投沢～北岳～広河原	尾崎	青谷
2143	9/28	富士山:吉田口～6合目	橋本	
2144	10/2-3	豊後:由布岳、傾山	山田	
2145	10/8	丹沢:ゴウラ沢出会～檜洞丸	橋本	
2146	10/9	奥多摩/WC:養沢～深ん沢～大岳山	青谷, 尾崎	
2147	10/15	大菩薩:松姫峠～榎ノ尾山	橋本	
2148	11/3-6	尾瀬日光周辺:大清水～黒岩山～鬼怒沼湿原～日光沢温泉～根名草山～日光白根山～湯元温泉	尾崎	山野
2149	11/6	道志:山伏峠～御正体山	橋本	
2150	11/14-15	北アルプス周辺:塩の道 北小谷～平岩～小滝	渡辺	
2151	11/17	大菩薩:大峠～小金沢山	橋本	
2152	11/21	上越:天神尾根～谷川岳～西黒尾根	佐々木, 尾崎	山野
2153	11/27	伊豆半島:戸田峠～仁科峠～天城峠	松本, 他12	
2154	12/6	大菩薩:牛奥ノ雁ヶ腹摺山	橋本	
2155	12/11	御坂:根場～王岳	橋本	
2156	12/11-12	上越:西黒尾根～谷川岳～茂倉岳～土樽	佐々木, 尾崎	山野
2157	12/15	御坂:桑留尾～十二ヶ岳	橋本	
2158	12/28	南アルプス:本谷口～聖岳敗退	佐々木, 尾崎	山野
2159	12/29-31	道志:寺下峠～二十六夜山～菜畑山～御正体山	尾崎	佐々木
2160	1/4	丹沢:釜立林道～蛭ヶ岳	橋本	
2161	1/8-10	奥秩父:天科(青笹)～黒金山～国師ヶ岳～金峰山	尾崎	山野
2162	2/7	丹沢:西丹沢～檜洞丸	橋本	
2163	2/8	北アルプス/ST:乗鞍高原	渡辺	
2164	2/11-13	男鹿山塊:向山周辺	尾崎	佐々木
2165	2/25-27	男鹿山塊:白倉山周辺	尾崎	山野
2166	3/4	道志:道坂トンネル～今倉山	橋本	
2167	3/12	吾妻:グランデコ～西大巔～西吾妻山～天元台	佐々木	尾崎
2168	3/19-22	男鹿山塊/VR:横川～日留賀岳～大佐飛山～穴沢	佐々木, 尾崎	山野
2169	3/25	丹沢:道志の湯～加入道山	橋本	

VR:バリエーションルート、WC:沢登り、ST:山スキー、IC:アイスクライミング、TR:トレイルランニング

FC(T):フリークライミング(トレーニング)、RC(T):ロッククライミング(トレーニング)

- ・事後報告を含み集計。リアルタイム的な山行管理・遭難対策手法については検討することが望ましい。
- ・山行メンバーの固定化、バリエーションルート主体から山歩きタイプ増加の傾向は数年来と同様である。
- ・会員の現状に応じ、活動は各自の主体性をもとに続いているが、長期的な会の存続や活性化には課題がある。



## 2022年度 西朋登高会 山行総覧（その1）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
2201	4/2	御坂:根場～雪頭ヶ岳～鬼ヶ岳	橋本	
2202	4/2-4	飯豊/VR:鳥坂峰偵察	尾崎	佐々木
2203	4/8	御坂:天下茶屋～御坂山	橋本	
2204	4/20	御坂:桑留尾～十二ヶ岳	橋本	
2205	4/23-24	奥日光:日光白根山～湯元	佐々木	尾崎
2206	5/3-6	飯豊/VR:鳥坂峰～鉾立峰西尾根～杵差岳～西俣峰	佐々木, 尾崎	山野
2207	5/6	大菩薩:大峠～黒岳	橋本	
2208	5/11	天子山塊:朝霧高原～毛無山	橋本	
2209	5/20	身延山地:羽衣～七面山	橋本	
2210	5/26	大菩薩:上日川ダム～小金沢山	橋本	
2211	5/26	奥多摩:七跳山～大平山	青谷, 他1	
2212	5/28-30	北アルプス:爺ヶ岳南尾根～針ノ木岳～蓮華岳	尾崎	青谷
2213	6/3	富士山:吉田口6合目	橋本	
2214	6/10	奥秩父:奥千丈岳・金峰山	橋本	
2215	6/25-26	中央線エリア/VR:滝子山東尾根～浜立尾根	尾崎	
2216	6/29	奥多摩:鴨沢口～雲取山	橋本	
2217	7/3	頸城:小谷温泉～雨飾山	渡辺, 松本, 他4	
2218	7/3	富士山	小川	
2219	7/17	奥多摩/WC:南秋川クラカケの滝・熊倉沢左俣	青谷, 他1	
2220	7/17	奥多摩/WC:南秋川クラカケの滝・熊倉沢左俣～陣馬山	佐々木, 尾崎	
2221	7/18	大菩薩:上日川峠～大菩薩嶺～牛奥ノ雁ヶ腹摺山	佐々木, 他1	
2222	7/31	足尾山塊:不動沢～皇海山	佐々木	
2223	8/2	奥秩父:甲武信ヶ岳	橋本	
2224	8/9	中信:高ボッチ	渡辺	
2225	8/11-14	奥鬼怒/WC:片品川北岐沢～黒岩山～檜枝岐川実川硫黄沢～赤倉沢～花沼湿原～鬼怒川トウガン沢	佐々木, 尾崎	青谷
2226	8/12	奥多摩/WC:北秋川湯久保沢, 周辺	青谷, 他3	
2227	8/14-15	帝釈山脈周辺:北尾根～明神ヶ岳	尾崎	青谷
2228	8/20	南アルプス:夜叉神峠～辻山	橋本	
2229	8/20-21	小金沢連嶺:牛奥の雁ヶ腹摺山	渡辺, 他	
2230	8/27-28	奥多摩/西朋祭:氷川キャンプ場 小川, 吉田, 山野, 渡辺, 中村, 遠藤, 青谷, 上野, 佐々木, 尾崎, 他1		
2231	8/28	六甲山系:六甲山	山田	
2232	8/30	丹沢:ゴウラ沢出合～檜洞丸	橋本	
2233	9/6	富士山:吉田口～6合目	橋本	
2234	9/20-23	八幡平:乳頭温泉～葛根田源流縦走路～黒倉山～松川温泉	尾崎	上野
2235	9/27	大菩薩:湯ノ沢峠～黒岳	橋本	
2236	10/1-2	北アルプス前衛:鉢盛山	渡辺	
2237	10/1-3	越後:八海山阿寺山～中ノ岳～荒沢岳～銀山平	尾崎	佐々木

VR:バリエーションルート、WC:沢登り、ST:山スキー、IC:アイスクライミング、TR:トレイルランニング

FG(T):フリークライミング(トレーニング)、RC(T):ロッククライミング(トレーニング)

## 2022年度 西朋登高会 山行総覧（その2）

No.	日程	山行名	参加者	緊急連絡先
2238	10/18	頸城:燕温泉～妙高山	小川, 渡辺, 中村	
2239	10/24	道志:道坂トンネル～今倉山	橋本	
2240	10/26-27	塩の道:平岩～大網峠～根知～糸魚川	渡辺	
2241	10/29	中信:美ヶ原高原～王ヶ鼻	渡辺	
2242	10/31	道志:山伏峠～御正体山	橋本	
2243	11/3-6	足尾山塊:小法師岳～袈裟丸山～社山	尾崎	佐々木
2244	11/6	多摩:横山道	小川	
2245	11/20	鳥海山:湯ノ台～荒神ヶ岳	佐々木	
2246	11/25	大菩薩:日向沢登山口～大菩薩嶺	橋本	
2247	11/25	奥多摩:日向和田～日の出山	渡辺	
2248	12/7	御坂:根場～雪頭ヶ岳～鬼ヶ岳	橋本	
2249	12/9	中信:不動滝ルート～虫倉山～ごんぐり岩ルート	渡辺, 中村	
2250	12/18	上越/VR:土樽～荒沢山	佐々木, 尾崎	山野
2251	12/18	中央線エリア:高川山	渡辺	
2252	12/27-1/1	南アルプス:西沢渡～聖ヶ岳～上河内岳～畑薙ダム	佐々木, 尾崎	山野
2253	12/28	丹沢:ゴウラ沢出合～檜洞丸	橋本	
2254	1/6	丹沢:青根～蛭ヶ岳	橋本	
2255	1/8-9	八ヶ岳:リエックス～ニュー～夏沢峠～松原湖	尾崎	高橋
2256	1/20	道志・丹沢:山伏峠～菰釣山	橋本	
2257	1/21	中信:上田おがみ山	渡辺, 他6	
2258	1/28	奥秩父前衛/VR:比志ノ崎～斑山	尾崎	佐々木
2259	2/1	丹沢:ゴウラ沢出合～檜洞丸	橋本	
2260	2/4	中信:菅平～四阿山	佐々木, 他	
2261	2/4-6	野岩鉄道エリア:白倉山～塩沢山	尾崎	佐々木
2262	2/17	丹沢:戸沢～塔ノ岳	橋本	
2263	2/20	裏磐梯:五色沼周辺	渡辺, 児玉	
2264	2/25	南会津:羽塩～家老岳	佐々木, 尾崎	
2265	3/1	御坂:天下茶屋～黒岳	橋本	
2266	3/5	上越/VR:土樽～荒沢尾根～荒沢山	佐々木	尾崎
2267	3/11-12	帝釈山脈/VR:湯西川～枯木山	佐々木, 尾崎	山野
2268	3/14	上州:赤城山黒檜山	小川, 渡辺, 中村, 松本	
2269	3/15	御坂:桑留尾～十二ヶ岳	橋本	
2270	3/19-20	帝釈山脈/VR:番屋～西稜線～荒海山～北尾根	尾崎	佐々木
2271	3/21	上越/VR:土樽～荒沢尾根～荒沢山	佐々木	尾崎
2272	3/31-4/1	帝釈山脈/VR:番屋～土倉山～東山稜～番屋	尾崎	佐々木

VR:バリエーションルート、WC:沢登り、ST:山スキー、IC:アイスクライミング、TR:トレイルランニング

FG(T):フリークライミング(トレーニング)、RC(T):ロッククライミング(トレーニング)

・事後報告を含み集計。会員の現状に応じ、活動は各自の主体性をもとに山歩きタイプが増加しながら続いている。一方、長期的な会の活性化のためには次世代の成長が望まれる。

・本会へ事後報告する個人山行でも、入山口とルートを事前に家族等に示すことは大切である。本会会員による緊急連絡先を設定することが望ましいが、そのレベルでない場合でも、会員用Web掲示板やLineトーク等を通じ計画の事前告知および下山報告をすることで緊急時対応の可能性は拡大する。

# 2012 年度

会長	松本 哲郎
チーフリーダー	上野 午良
サブリーダー	尾崎 宏和
会計	上野 利之
都岳連関係	上野 午良
記録・会報	渡辺 喜仁
	尾崎 宏和
	灘吉 聡
装備	灘吉 聡
西高係	山野 裕
	小澤 晃平
	保延 陽太
ホームページ係	灘吉 聡
超 OB 係	林 武志

## 丹沢：西部山城最深部

【参加者】橋本（12期）

大震災と原発の事故があつてから早1年、事態はいつそう深刻さが増していることが確認されただけで、一向に被災者救援や地域再生が進まないことに強いもどかしさを感じるが、個人的には義捐金以外にほとんど援助できないのは残念だ。

### 4月16日（月） 菰釣山

登山口の山伏トンネルの朝は気温5℃、くもり（霧）、無風。菰釣山のブナを見るため、山伏峠から入り、甲相国境尾根を歩く。山伏峠出発 8:05、大瀬ノ頭分岐 8:17、付近にはブナやミズナラの巨木があるが多くはない。水ノ木分岐の小ピークを越えて山頂が広い石保土山（1297m）8:40着。菰釣山まで3.8kmの表示あり。小ピークをいくつかアップダウンして西沢の頭 8:57着、右にカーブして降る。付近のブナ、ミズナラが美しい。枯損木はあまりない。縦ノ木沢頭（1306m）9:14着、ガスが切れて薄日がさす。引き続きアップダウンしながら油沢ノ頭（1310m）に至るが、この付近より菰釣山の小さな双子峰が見えてくる。林床にはアズマイチゲの根生葉とカンسゲが開花している。ブナノ丸 9:45着、左手に白井部落への下降路、菰釣山への登りにかかる。ほどなく前峰に着き、前方に菰釣山となる 10:01着。御正体は終始ガスの中。山頂からは標高差約200mの下降で菰釣山避難小屋 10:18である。トイレ・水はないが十分使用できる。ブナ、ミズナラは多いが、巨樹はない。ブナ沢乗越を過ぎ、登りとなりブナ沢ノ頭（1229m）10:37着、避難小屋まで1kmの表示。ここから中ノ丸の登りとなるが中ノ丸手前の小ピークの登りがきつい。中ノ丸（1280m）10:51着。城ヶ尾山（1199m）11:13、城ヶ尾峠 11:19着。軽食を取り下山開始。城ヶ尾山 11:31、中ノ丸 11:55、ブナ沢ノ頭 12:04、避難小屋 12:21、ブナ沢乗越から始まる菰釣山への200mの登りが長くてきつい。菰釣山 12:39、急に暗くなり気温が急降下。ブナノ丸 12:54、油沢ノ頭 13:10、縦ノ木沢の頭 13:21、西沢ノ頭 13:36、アップダウンは連続しており、スタミナが切れる。石保土山 13:54、水ノ木分岐 14:11、大瀬ノ頭 14:19、山伏峠 14:27着。コースは終始1200～1300mのピークが並んでおり、アップダウンが厳しい。所要6時間22分。

### 4月24日（火） 大界木山

前回の菰釣山に引き続き、丹沢西部山城の最深部を目指す。西丹沢自然教室前の朝、気温12℃、快晴、無風。昨日は終日雨、多量に降った。7:40出発。用木沢出会 7:59、白石の滝 8:49、キブシ、ヨゴレネコノメ、タチツボスミレなどが一斉に出始める。標高差約760mを一気に登り白石峠 9:24。ここからは先週の甲相国境尾根と同様、1200m内外のピークのアップダウンである。1つのピークをこえ、水晶沢ノ頭 9:39、広い山頂である。道標のあるピーク2つと無名のピーク2つをこえるとシャガクチ丸（1191m）10:04である。さらに3つのピークを過ぎるとバン木ノ頭 10:16、屋外活動センターへの下降路ははっきりしている。ここから大小6つのピークを過ぎるとモロクボ沢の頭 10:36である。付近はブナ、ミズナラの美林だが、アセビの巨木も多い。さらに2つのピークを越えると忘路峠（犬峠 10:57）の小さな標示があり活動センターへの下降路である。

ここからややきつい登りとなり、1ピークを過ぎると前方に大界木山が立ちはだかる。突然西方に雷雲発生、急速に気温下降。大界木山(1246m) 11:16、雷雲は去った。大界木山から城ヶ尾峠まではブナ、ミズナラに覆われた広い馬の背状の尾根で心地よい。城ヶ尾峠11:33、小休。大界木山 11:58、犬峠 12:12、結構きつい登りを経てモロクボ沢の頭 12:28、畦ヶ丸避難小屋 12:50、畦ヶ丸(1293m) 12:54、善六ノタワ 13:21、急下降の途中では、ヨゴレネコノメの大群落、あでやかなピンク色のエイザンスミレ、アカフタチツボスミレと思われる葉脈が赤いタチツボスミレ、また、ブナの実生が多数散見された。西沢 14:29 着。今回のルートは先週のコースより高度差があり、尾根ではアップダウンも多くかなりタフなコース。所要6時間49分。

---

### 北アルプス/ST：白馬大雪渓

【期日】2012.4.28【参加者】尾崎(47期)

---

人は多くいましたが、非常に多いという雰囲気ではありませんでした。7時前から歩き始めて頂上は13時を過ぎてしまい、以前より時間がかかりました。肝心の滑りは、上部は白馬山荘から滑って快適でした。一方中部(急傾斜帯)～下部(白馬尻くらい)まではデブリが著しく、滑りにくかったです。転ばないという目標どころではありませんでした。最下部は猿倉まで滑れました。

連休後半の天気予報が今一步ということもあり、まずは前半に行ってきました。今年は白馬雪渓の滑り適期はもう少し後という印象でした。年にもよるでしょう。

---

### 頸城/VR：堂津岳～乙妻山～高妻山

【期日】2012.5.4～6【参加者】青谷(28期)、松本(28期)、尾崎(47期)

---

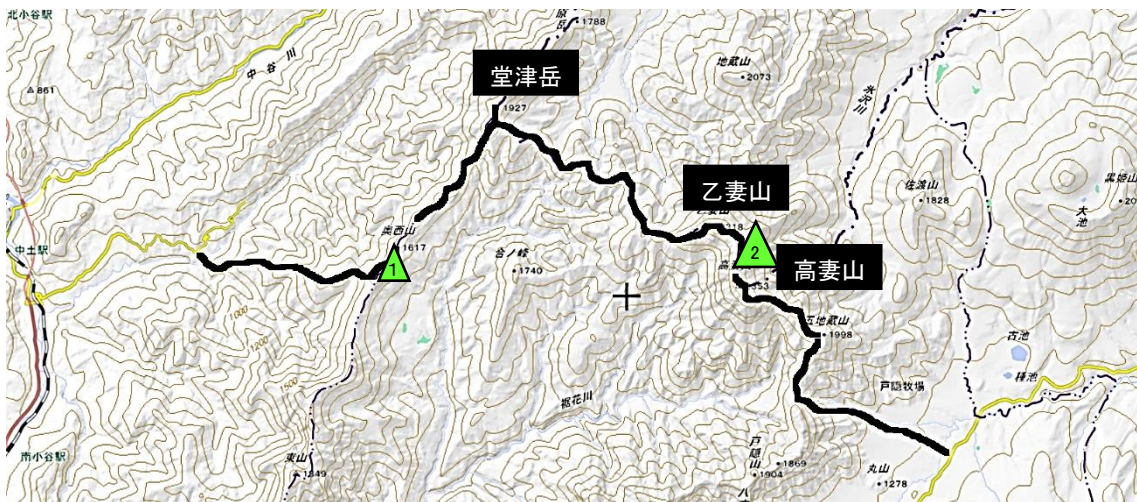
5月4日：奉納温泉下-910 R(850m) -R(1000m) -1101R(1300m) -1200 1491m ピーク-1315 稜線 1611m-1430 幕営

4月半ばの西朋総会でメンバーも固まり、当初は飯豊の水晶尾根を検討する。ところが1週間前ぐらいの予報から、どうにも5月3日の天気が怪しい。日程が迫るにつれますます絶望的になってきて、しかも4日以降も東北方面の荒天が確実となってきた。今年は残雪も多そうで、転進先として西方面を考える。以前から課題としていた堂津山から高妻山がおもしろそうだ。実は私は、堂津山付近には地域研究的に何度も来ていた。しかしここも乙妻山直前の急斜面に懸念が残る。この部分は昔ルートがあったらしく、その後も下降の記録は1つだけ見つけていたので、何とかなると考える。

5/3の夜、いつものように新宿発の夜行ムーンライト信州で南小谷に至り、奉納温泉下までタクシー。山菜盗難見張りの人と相乗りする。これまで2回通った中西山の西尾根が、今回またルートになる。今回は取り付きとして仕事道らしきを発見し、相当楽に尾根に乗る。さすがに5月

で初めのうちはヤブがあったが、全体として快適な尾根である。

稜線手前の 1491m ピークに昼に着く。ここから見る稜線は意外とでかく、その直下は地図で示される以上に急な登りが待っている。しかし急登手前には行者ニンニクの大群落が待っていた。堂津岳より南につながる稜線は、西面の 1500m 付近に断崖状の急斜面が延々と連なっている。稜線までの急登をこなすと、だだっ広い台地が二重山稜になっている。上空は不安定な黒雲が広がるが、右前方に乙妻、高妻、戸隠を見ながら北上する。高標高の北アルプスは雲に覆われている。堂津岳への傾斜が始まる手前の場所で、早めに幕営していると、時雨が去来し始めた。そんな中、白馬岳、小蓮華岳付近では、またして大量遭難が起きていた。



5月5日： 発 630-735R-820 堂津岳-845 1725m コル -1005 1732m ピーク 1025-1133 1870m-1258 2000m-1430 岩壁下 1450-1520R-1552 乙妻山 1600-1615 凹地幕営

出発時刻になっても天気はさえない。堂津岳から東への下降ルートは大丈夫か心配がある。天気回復が期待できるので行くだけ行ってみることとする。やはり頂上手前で急激に好転し、堂津の頂上では 360 度の大展望に恵まれた。この尾根は北は頸城・金山や昼間山につながっている。核心部はこれからなのに、この季節この山域にだいぶ来たなと感慨を思ってしまう。転じて堂津山脈の南の方は、東山や黒鼻山などがどっしりと構えている。北アルプスの存在が、これらの山々をますます渋くしているのは間違いない。

下降はかなり急である。アイゼンが無いと少しこわいが、雪は程よく緩んでいるので慎重に下る。その後しばらく、小さなピークをいくつも越え、そのたびにルートはうねる。ルートファインディングが難しいので、展望が利いて本当によかった。さらには、歩いた割に地図で（直線）距離ははかどらない。昼過ぎになっても堂津岳はそう遠ざからず、標高もやっと上になったぐらいだ。だが問題の乙妻手前の岩壁も、確実に近づいており、特に左側の切れ込みが激しいのが見える。右手側ラインがルートになるのか。14 時を回り、いよいよ岩壁がひときわ高く迫ってくる。案外と斜面の登高は長く続き、14 時半、その直下に至る。この時点でだいぶ登っており、さらにここから見上げる限り問題はなさそうで安心する。岩場の直登もできそうだが、より安全で確実な右側を回り込む。よく見ると腐りかけた残置ロープもあった。続いて左上に転じ、1箇所、木の枝に支点を取って登るが、それだけだった。技術的核心部に関しては、ある意味杞憂に終わった

といえる。少しヤブをこぐと、午後の青空と頂上の稜線がなだらかに続いて見えた。安堵感と幸せ感に満たされながら、頂上へ一歩一歩進んでいった。

今日の幕営地もただ広い凹地である。初夏には池でもできるのだろうか。テントを建てながら、松本さん持参のジンを生で飲んでしまう。

#### 5月6日：発 530—620 高妻山 630—705 1915m—840 一不動 855—955 登山道—1047 戸隠牧場バス停

やはり雷 3 日。テントも片付けいざ出発の段となったとき、頭上で急激な雷鳴がとどろく。しばらく背をかがめ、危険な状態をどうしようかと案じていたが、20 分ぐらいで晴れてきた。

ここからは夏道もある尾根なので、高妻山までは順調に進む。左斜面へシュプールがいくつか見られる。確かにここは快適そうで、有名なスキールートであるのがうなずける。高妻の頂上では風が強く、ガス気味。五地蔵山へ向けて急斜面を下るうちによく晴れてくる。五地蔵山から直接戸隠牧場に下れる尾根にもトレースが見られたが、ここから見下ろす限りだと、末端付近はヤブとなりそうなので、素直に一不動経由とする。一不動手前付近から再び空の具合が怪しくなってきた、雷鳴が遠くに聞こえるようになってきた。今日はかなり不安定なのかもしれない。残りの距離はもう短いし、天気のこともあるのでさっさと降りてしまおうと、ゆっくりしたい気持ちを抑えて立ち上がる。

しかし実際は甘かった。ここからあったトレースは消えてしまうし、沢状地形は急な落ち込みを見せている。滝があって巻いて行けらしいのだが、どの程度の巻きなのか不明である。右岸側を大きく途中まで偵察し、不明瞭ながら小尾根を乗り越すところに、夏の一般道とは違いそうな、小さく目立たないマーキングを見出す。その小尾根の向こうの斜面は傾斜が緩く、地図を見ても行けそうなので、後は大丈夫と判断する。確かにその後大きな問題はなかったが、さらに右から支流が合わさり、その渡渉などで意外に手間取る。夏道はこの辺り左岸に行ってしまったのだろう。その支流を渡り、意外にも遠かった道のりもようやく開けてきた。本流に下りてみると、そのすぐ向こうに夏道があった。戸隠牧場の上端に出て振り返ると、一不動の峠は確かに近い。不思議なぐらい、すぐそこといえる所に見えた。実距離以上に、最後の最後まで楽しませてくれたのだった。小雨の中、観光牧場をつつきらなくてはいけないので、バス停までもまた距離を感じてしまう。バスで戸隠中社まで出ると、大量の観光客でごったがえしていた。温泉に寄り、そばを食っている頃、またしても嵐となる。関東では大竜巻でかなりの被害が出たらしい。ちょうど小降りになる頃バスの時刻となり、長野駅に出て、浅間山を眺めながら帰京した。(尾崎)

### 北アルプス/ST：針ノ木大雪渓

【期日】2012.5.20【参加者】山田(34期)、尾崎(47期)

針ノ木雪渓はシーズン最後の楽しいスキー山行だったけれども、スキー下手を再認識した。雪質は確かにいまいちだったと言いつける。登りは調子が上がらなかったが、小屋経由でなく右俣からマヤクボコルに上がる。頂上直前の北面では凍った斜面も出てくる。スキーを背負ったザ

ックをおろし、安定しない所でアイゼンピッケル装着を強いられる。でも登山の感覚が楽しかった。まだ稜線は雪が多く、剣立山は真っ白で、まだまだ滑れそう。山麓の新緑も美しい。帰るのが、もったいない！（尾崎）

---

### 高尾・相模/WC：鶴川大群沢～笹尾根

【期日】2012. 6. 24【参加者】尾崎（47期）、他1（杉坂）

---

入溪 10:14～二俣の滝（ザイル使用 10:45～11:08）～13:12 小尾根～13:55 稜線～17:00 浅間尾根バス停  
上野原より飯尾行きのバスに乗り込む。権現山などへのハイキング客が多い。終点間近の郷原で降りる。東京から数十キロの場所とは思えない素朴な山村だ。

沢に下りる地点がわからず、左岸の林道をかなり上まで行ってしまう。どうもその間に下部をだいぶ巻いてしまった模様であり、遡行図の中ほどに現れる取水口に早くも達してしまう。しかし、その後遡行図に無い分岐にルーファイを楽しみ、左に入ってすぐの中ぐらいの滝ではザイルを出し、意外と続く小滝群を登るなど、シーズンはじめとしてなかなか楽しい沢登りとなる。尾根に乗って笹尾根に突き上げるまでは意外に長い。笹尾根 1482mピークに出たからは、上野原側か五日市側かのバス時刻をみながら時間の許す限り縦走することとした。笛吹峠（うずしきとうげ）辺りから南秋川の人里（へんぼり）方面へ降りることを考えたが、造林地の伐採があるようで、登山道の通行止めがあった。手前の大羽根山山経由で数馬下に、17:00 に下りつく。バスは17時半であり、沢靴を洗ったりしてちょうど良かった。

---

### 高尾・相模/WC：鶴川大久保沢～権現山～菜久保沢

【期日】2012. 6. 30【参加者】青谷（28期）、尾崎（47期）

---

連続で鶴川流域の沢に入る。今週は五日市から青谷さんの車に乗せてもらい甲武トンネルを経由する。権現山北面には地味だがなかなか手ごわい沢がいくつかあるようで、それらが気にかかるころではある。しかし2人ともあまり余裕が無かったので、大久保沢という比較的簡単に、直接権現山頂上に突き上げる沢を登り、その支流である菜久保沢を下ることとする。

先週に引き続いての山行だが、このエリアの沢は新鮮味がある。今回の沢は、大滝を左のから巻き登ってしまったのでどこも難しい所はなかった。この滝を登るとなるとシャワーという事もあるって少々覚悟が必要だろう。権現山北尾根に登り詰め、そのまま行くと頂上となる。権現山頂上直下にある立派な社に拝殿し、しばらくしてから何も目標のない北斜面へ入る。植林帯のボサ藪で、水が出てきてからはワサビ田跡もあつたりする。大久保沢に戻ってさらに下り、鶴川本流の水でさっぱりしてから車に戻る。



## イラン：ダマバンド

【期日】2012.7.2~5【参加者】小川（12期）、他7名

イランの最高峰ダマバンド(5,671m)は火山で、火山としては西アジアの最高峰でもある。首都テヘランの北70kmにあり、その様相は富士山そっくりで我々日本人は思わず「イラン富士」と呼びたくなる山である。



### 第1日目(7月2日)

山麓の村レイネから車で2,900m地点のゴスファンド・サーラに移動し登山を開始する。7月初旬はあたり一面真っ赤なケシの花が咲き乱れる花園になっており、その中をアタックキャンプ目指して登る。約5時間の歩きで4,020mのアタックキャンプ地に到着する。周囲には雪はほとんどなく砂地に張られたテントに入る。食事は近くの食棟で同行のコックが用意してくれた。

### 第2日目(7月3日) 高度順応日

すでに4000mを超えた地点なので酸素濃度は地表の60%くらいと思われる。この薄い酸素になれるためキャンプ周辺を歩行し体をならした。

### 第3日目(7月4日) 登頂

5,671mの山頂を目指して高度差1,600mの登りになる。日本でいえば横尾から槍や奥穂の日帰り往復に相当する。若かった頃の馬力もなく、まして高度4000mの薄い空気のなかでの登山となるので、不安がよぎる。6時キャンプを出発。雪の斜面と岩の斜面がまだらにひろがっているので最初は岩の斜面を登る。5000mあたりから一面の雪の斜面となる。気温はさほど低くなく雪もやわらか。日本では軽アイゼンを履いての登りになりそうな斜面だったがイラン式にアイゼンはずせず、一步一步踏み込みながらの登りを続けた。13時ころ雪の山頂に到着。地上の半分くらいの酸素濃度の中、何とか登りきりほっとする。山頂には他のイランの若者パーティーもいて賑やかだった。驚いたことに女性が目立つ。スカーフさえしていれば何でもOKの雰囲気だった。下山は思ったよ

り楽で夕方 5 時ころキャンプに到着した。不安だった高地での高度差 1600m の日帰りを無事にこなせ、安堵する。キャンプ場では日本に数年滞在経験があるという若者がやってきた。「日本の方だと聞いては、お話ししないわけにはいきません」と流ちょうな日本語に驚く。

#### 第 4 日目(7 月 5 日) 下山

再び赤いケシの咲く花園を通り、一気に下山した。下山後はテヘランやペリセポリス遺跡などイラン国内を巡った。多くのイラン人と接し、今までのイラン観を大きく変えることになった。

---

### 南アルプス：老平～策ヶ岳

【期日】2012. 7. 16 【参加者】橋本(12 期)

---

白峰南嶺の主峰策ヶ岳に登る。この山には 2 年前に偵察し、檜横手山まで登った。登山口の老平の標高は約 490m、策ヶ岳との標高差は約 2140m である。老平の朝、気温 23℃、晴れ、無風。5:28 出発。広河原で奥沢の徒渉にかかる。水量が多く急流のため水につかることを考え、ハダシかビーチサンダルが良い。広河原 6:45、朝食。ここから高度差 700m の急登が始まる。山の神 7:27、造林小屋跡(8:10) 付近でも急登が続くが、付近にはオオイワカガミ、カニコウモリ、マイヅルソウが多い。広い尾根になり、山の神から約高度差 440m 登って檜横手山着 9:32。ここから 560m 登って布引山になるが、途中ガレ場(11:10) で左手の展望が開ける。しかし、高い雲があり、周囲の山はよく見えない。このガレ場は日当たりが良いためか、高山植物が多い。キバナノコマノツメ、ヨツバシオガマ、ミネウスユキソウ、クロユリ、ゴゼンタチバナが咲き、日陰ではオオイワカガミ、マイヅルソウ、ギンリョウソウが見られる。傾斜がやや緩くなり布引山着 11:29。山頂直下に所ノ沢越方面の分岐点がある。山頂のすぐ先にテント 1 張はれる場所あり。北に向かい、緩い下降となるがガスがかかり始め、策ヶ岳の全貌は見えない。コルから再度登りかえして策ヶ岳山頂である 12:31。山頂からの眺望はよいはずだが、周囲の高山はすべてガスの中。山頂にはハイマツのほか、ハクサンシャクナゲ、ナナカマド(蕾あり)、ゴゼンタチバナ、オオイワカガミ、マイヅルソウが咲いていた。山頂手前にテント場あり。すぐに下山開始。布引山 13:23、布引山から檜横手山、山の神の急下降の連続でバテ気味。檜横手山 14:32、山の神 15:53、広河原 16:20、徒渉に問題なし。一軒家 17:08、老平 17:44 帰着。登り 7 時間 03 分、降り 5 時間 13 分、所要計 12 時間 16 分。布引山周辺の高山植物が印象的。

---

### 北海道の山旅報告

【期日】2012. 7. 11～20 【参加者】松本(28 期)、他

---

旭硝子のメンバー(半数以上は、定年退職者です) 12 名と北海道の山を登ってきました。レンタカーを借りて、ホテル、国民宿舎などの登山口の宿拍でしたが、5 峰に登ることができました。天候はあまりよくなかったのですが、いろいろな山を楽しめました。最後の羅臼岳では、ヒグマの親子にも遭遇し、ナキウサギ、エゾシカ、シマリス、キタキツネなどの動物にも会えましたし、

花もたくさん種類が見れました。

7/11 新千歳空港から北海道入り

7/12～14 幌尻岳へ登る予定だったが、登山口まで入るマイクロバスが雨のため、運行中止、急遽、十勝岳登山に変更。

7/13 十勝岳登頂

7/15 トムラウン岳登頂

7/17 雌阿寒岳、阿寒富士登頂

7/18 斜里岳登頂

7/19 羅臼岳登頂

7/20 女満別空港より帰京

## 北アルプス/VR：タンボ沢～立山～長次郎谷～剣岳～大日岳

【期日】2012. 7. 30～8. 1【参加者】尾崎(47期)

7/30 黒部湖 810＝黒部平 820～1025 東一ノ越 1045～1145 一ノ越～1230 立山雄山～1320 大走り分岐～1415 別山～1500 剣沢（幕）

ベトナム出張の代休と休暇を利用して山に行く。JR 夜行で着いた信濃大町からはバスで扇沢に行くつもりだったが、誘われたタクシーの相乗りに乗ってしまう。少し罪悪感あり。しかしそこで得た情報は大きかった。黒部ダムから内蔵助平ハシゴ谷乗越、真砂沢に至るルートは崩落で閉鎖中だという。早く着いて情報を得られた。トロリーバスの発車時刻が迫ってきて、代替ルートは悩ましいが、室堂まで交通機関で行くという選択肢は自分にはない。黒部平までケーブルカーに乗り、タンボ沢から歩いて一ノ越から雷鳥平か立山稜線沿いに剣沢に行くことにする。明日は剣沢からのアタックになるのがちょっと悔しい、立山は混んでいそう、午後の 3000m 稜線通過が躊躇するとか、しかし雷鳥沢の登りも大変だ、などと考えてしまう。

タンボ沢の登りは意外と順調で一ノ越に昼過ぎに到着する。雲が多くためらわれたが、やはり稜線経由とする。天気は回復してきて、予定外の立山縦走はそれなりに快適だった。別山から直接剣沢に下りる近道を経由して、15 時、剣沢に幕営。夕方、明日の剣の姿が雄大に見えてきた。

7/31 発 420～500 アイゼン装着～545 長次郎沢出合 555～825 熊ノ岩 845～945 長次郎左俣のコル（稜線偵察）～1045 剣岳 1115～1215 前剣 1235～1340 剣山荘 1400～1425 帰幕

快晴の星々に気合をもらい、5 時前出発。剣沢の下りは早朝とあって、想定通りすぐにアイゼンを必要とする。真夏のこの時期にアイゼン、ピッケルとはすばらしい。氷河と認定された三ノ窓などにも遠からず行きたい。長次郎雪渓出合では懸念したガスも皆無で、行く手がよく見渡せる。落石やシュルンドに気を付けながら登高を開始する。6 峰のフェース群や源治郎尾根がすばらしい。左俣は雪が切れているので右俣側から熊ノ岩に上がる。2 張りほどテントがあった。右俣も上部は切れていそう。左俣側の雪渓に乗り、アイゼンを確認して、最上部の急傾斜に取り付く。下方

はるかに後続の数名が小さく見えた。急なので滑落したらおしまいである。稜線に着いたときはほっとした。以前来たことはある場所だが、時間があるので、頂上と反対側の偵察に行く。すぐに一人だと躊躇する岩場があって、左右をいろいろ行ってみるが突っ込むのはやめておいた。過去に八ッ峰から縦走した時は懸垂したのか、よく覚えていない。気を取り直して頂上へは問題なく登り着く。

頂上ではどこかの高校ワングル部と思しき 10 名ほどの生徒と先生に出会う。もしや西高なら…しかし違っていたようで残念。カニのタテバイなど一般道とはいえ下降も一筋縄でないが、高校1年の時によくこんなところに来たものだと改めて思う。前剣からはペースがガタ落ち、感覚はなかったが緊張の糸が切れかけていたようだ。剣山荘前までくればもうテン場は目と鼻の先なのに、なかなか歩き始められない。もっといえば室堂まで行けば今日中に帰る事さえできてしまうが。テントまでの最後の登りをがんばって、着いてからは剣向きに張ったテントで至福の時を過ごす。



長次郎谷の風景

8/1 発 440～535 剣御前 545～753 奥大日岳～940 大日小屋（大日岳往復）1040～1220 大日平 1245～1329 牛首 1345～1425 称名の滝下林道（称名の滝見物）～1507 バス停

大日岳の稜線は終始立山連峰が見渡せた。大日小屋までは意外にアップダウンが大きく時間を要した。ここまで来ると喧噪とは無縁であり、風に揺れる植物が本来の夏山の風情を呼び覚ましてくれる。大日岳往復後、2段の大下りに気が重い。1つめの大下りで大日平に降りる。このころからペースダウン。休憩も長くなる。次の大下りは、直前の牛首は右下に浅い谷、左は称名の滝の深い谷と、面白い地形だ。標高も下がって暑い下りだったが、思ったより早く称名の滝の少し下流に降り立つ。富山地鉄乗り換えの立山駅前前で風呂に入り、富山、長岡経由で帰ってきた。

## ロシア：エルブルース

【期日】2012. 8. 2～6 【参加者】小川(12期)、他8名

エルブルース(5,642m)はヨーロッパ大陸の最高峰。是が非でも登頂したいと7月にイラン最高峰ダマバンド(5,671m)に登頂し高度に体をならし、万全の体調でのぞんだ。

モスクワ経由で国内線と車を使い継ぎ山麓の村テレスコルに8月1日に到着。

8月2日 高度順応日

エルブルース山麓の村テレスコルからロープウエーで 3000m付近に上がる。雪の上を歩き高度に順応する。その後ふたたび山麓のホテルに戻る。

### 8月3日 パレル小屋へ

ホテルから荷物を持ってロープウエー駅に。ロープウエーの終点から雪の上を歩きパレル小屋(3,750m)へ。かまぼこ型の宿舎に分宿する。小屋の周り是一片の雪で、天気は良くエルブルースの西峰・東峰が間近に見える。

### 8月4日 再び高度順応

パレル小屋から 4,700m地点にあるバスツーフ岩まで往復する。7月に 5,000m峰を経験した効果が出ているのか快調に歩けた。エルブルースの西峰・東峰の上には大きな傘雲がでていたが、空はどこまでも青かった。

### 8月5日アタック

早朝 4時に雪上車に乗って出発する。前日登った付近で雪上車を降りる。雪は固くアイゼンを着用する。他のパーティーと混ざり合っって一列縦隊になってしまい、歩きづらかった。

空は青空だが風が次第に強くなる。9時、サドル(5,400m)と呼ばれる西峰と東峰の鞍部に到着する。ものすごい強風である。ここからは青空をバックに左手に西峰(5,642m)、右手に東峰(5,6210m)がもうすぐその距離に見える。しかし上空には雪煙が舞い、時折体を揺るような風も吹く。この風では前進は難しく、しばし様子見のため留まる。しばらくすると、我慢しきれなかったのか一緒に登ってきた韓国隊が強風のなか山頂を目指して出発した。しかも信じられない軽装である。案の定 10分ほどして逃げ帰ってきた。我々は 40分位待つも山本隊長の「天気回復の見込みなし」との判断に従い泣く泣く下山した。

### 8月6日 停滞日

天気回復が見込まれれば再度山頂アタックを試みる可能性はあったが、昨日以上の悪条件と判断。山頂を踏まぬまま今回の山行を終了することになった。体調が良かっただけに残念至極の山行であった。

ただ隊長役の山本氏は明大山岳部の 0B でエベレストはもっとより 8,000m峰を数多く登頂しているクライマーで、貴重な経験談を聴けたのは収穫だった。

---

## 中央アルプス：越百山

【期日】2012.8.8【参加者】橋本(12期)

---

6年前に同じコースを登ったが、今回は道標がはっきりせず幾分戸惑い気味。登山口の今朝沢橋は朝 13℃、快晴、無風。7:17 出発。福柘橋(3合目)7:48、左に南駒ヶ岳 5時間 50分、右に越百山 4時間と表示されている。ここからすぐに約 340mの急登になる。途中小さな水場があり(下の水場)、4合目(下のコル)8:33、ここまでは急登だが木の根など少なく歩きやすい。遠見尾根に取りつく。上のコル(標識不鮮明、7合目へ 35分の標識)9:20、付近で若いカモシカに遭

遇。展望台（7合目）9:39、水場（上の水場）10:08、越百小屋 10:58、軽食をとる。小屋から約300m 登って越百山である。山頂には新しい標識が設置された。仙崖嶺、南越百山、御嶽山、南ア連峰など素晴らしい眺望だ。付近はハエマツ、ダケカンバ、ナナカマド、ハクサンシャクナゲ、イワカガミなどが多い。昼食休憩。越百小屋 12:46、上の水場 13:18、軽食、7合目展望台 13:38、上のコル 13:47、下のコル 14:14、福柵橋 14:44、今朝沢橋 15:14。コースはセリバシオガマ、コバノイチャクソウ、カニコウモリなどあり。所要時間7時間57分。

## 朝日連峰/WC【夏山合宿】：石滝川ムキ沢～祝瓶山～天狗角力取山

【期日】2012.8.12～15【参加者】松本(28期)、上野(37期)、尾崎(47期)

### 8/12 小国 800＝林道末端入渓点 915～1000 木戸口沢～1030R～1300 難しい小滝～1545 幕営

心配した沢中の天候は、12日は予報に反して晴れる。焚き火もできて岩魚も食べれて最高だった。松本さん釣り有り難うございます。沢のレベルは、ロープ登攀、ショルダー、空身でザック荷揚げ、ゴルジュとちょっとした泳ぎなど、いずれもちょっとしたポイントというレベルで楽しめた。悪い巻きはなく、中流部は平瀬で岩魚たくさん、この先どうなるんだろうと思うシーンは無く、岩魚をはじめ自然を満喫した。

### 8/13 発 610～710 665m ～835 740m 905～950 820m 水汲み～1200 R 1215～1225 枝尾根上～1520 祝瓶山肩(頂上往復)1600～1705 桑住平分岐(幕営)

沢を詰める時から雨が降りだし、ヤブが長くちょっとパツとしない。しかし祝瓶山にはしっかり登ってきた。13日夕方は、稜線を長井方面の分岐点まで下って行って幕営し、雷と雨をやり過ごす。沢登りはちょっとキレに欠けた印象が残ったが、今回の天気予報、メンバーの日程調整、懸念された残雪状況などから、上々の出来というところかもしれない。

### 8/14 発 625～R815～825 大玉山～910 針生平分岐 930～1052 平岩山 1116～1208 R ～1302 大朝日岳 1305～1412 R 1425～1500 西朝日岳～1550 竜門小屋 1600～1656 寒江山手前ピーク R～1800 狐穴小屋分岐～1815 ツエルト泊

14日以降の縦走は、朝のうちはどんよりと黒雲に覆われて気が重い。しかし予報の通り、昼前ぐらいから晴れてきた。大朝日ぐらいで快晴。その後たいへん気持ちよい縦走をズンズン進む。東面の沢筋の雪渓はとても多かい。竜門小屋は混んでおり、水を汲んで狐穴まで行くことにする。まあ狐穴も同じく混雑だろうが… 寒江山の登りなどへとへとになって進む。狐穴は着いたら18時。やはりこちらも小屋は混んでおり、天狗方面にしばらく進んだ道の上で、灌木状の間の場所を選びタープだけ張って寝た。

### 8/15 発 453～749 R 802～840 R ～1002 天狗角力取山土俵 1100～1210 R ～1406 林道 1430～1530 大井沢

翌朝も疲れが残っていたがどうしようもない。天狗角力取まで行き、障子ヶ岳はパスして下山にかかる。天狗角力取で会った沢の格好の人は八久和に入ったが増水していてエスケープしてき

たとのこと。大井沢からバス停の月山口まで歩く気力なく、大井沢下山口すぐ近くの温泉から躊躇しつつもタクシー呼んだら 7000 円以上かかってしまう。

山行前に下界から抜け出すことこそ最大の障壁かと最近感じる。会心の山行をまたやりたい。

## 秩父/WC : 荒川冠岩沢

【期日】2012. 8. 27【参加者】青谷(28期), 松本(28期), 宇佐美(28期)

9:24 登山口(駐車場)到着~9:57 旧上林家(現在は廃屋/手拭いが屋内に干してあった)~10:40 最初の滝(4m)~12:10 大滝(25m)~13:16 12-13m の滝(地図上は 8m)~13:50 最後の水場 14:15~14:25 稜線 14:45~15:35 登山口(駐車場)

西朋祭 2 日目の有志による山行。 宿泊したツキノワ荘から朝帰った渡辺さん、山野さん、松田稔さん、黒沢さんを見送り、美味しい食事を作ってくれた上野さんに連絡先をお願いして、車で出発。山荘から 5 分程度で登山口に到着。付近に駐車した乗用車が 2 台あり。

ガイドブックに記述があった通り、旧上林家の廃屋の裏の踏みあとから堰堤の先で沢に降り、靴を履き替える。沢沿いに上る途中は終始原生林(下りの後半は杉林)に覆われ、木漏れ日程度の日差しが差すのみで、晴天にも拘わらず、直射日光と呼べるような強い日差しは受けなかった。

最初の滝は数十分で現れ、4 m 程に過ぎなかったが、これが結構厳しく、ザイルを出して乗り切る。次ぎの 15m の滝でもザイルを出したが、あまり水を被ることも無く、順調に通過。

これに続く 4~5m の滝は、ただ 1 箇所ホルドが見つからないために、トップの松本が立ち往生し、進路を邪魔している草をどけようとして大きなガマガエルを掴み絶叫。その後ルートを探したが断念。ザイルを出して青谷が交代してトップに。その後 2.5m の大滝は右にトラバース。巻き道の割には足場が緩く、エネルギーの消耗度は大きかった。

やや苦勞したのが 3 つ目の 1.3m 程の滝。地図上では 8m となっていたが、どう見てもそんなことは無かった。ハーケンが 3 箇所残っていた。トップの青谷も最上部は懸垂だけでよじ登る程。

水流が細くなり始めてから、宇佐美の疲労度が著しく、集中力を欠く中、足を滑らせ左ひざ下を打撲。暫く立てず、その後トップの松本との距離が開く。広葉樹の気持ちいい斜面をつめると、あっけなく大持山の稜線に出た。登山道を外れて近道の尾根を冠岩集落にむかってまっすぐ下山する。最後まで、パーティの足を引っ張ることに。青谷は「午前中に下山するかも」と思っていたが、巻くのを避け、ザイルを出し、「初心者」同伴により、上記の通りとなる。(宇佐美)

## 中央アルプス：池山～空木岳

【期日】 2012. 8. 28 【参加者】 橋本(12 期)

朝の菅の台登山口の天気晴れ、20℃。林道終点 P への道は途中落石危険で、500m 下の登山口から出発 7:14。林道終点 P までの急坂を高度差約 140m 登り 7:31 着。池山・空木岳分岐点までは担々とした道で、分岐点 8:21 着、水場は健在である。やや傾斜がきつくなり、尻無 8:51、マセナギ 8:58、大地獄、小地獄付近は以前にくらべやや崩壊箇所が増えているが通行には問題ない。カニコウモリ、イワカガミ、ヤマトリカブト、セリバシオガマが多い。時にヤマブキショウマ。避難小屋分岐点 10:50、リンドウが咲いている。ハエマツ帯に入り、カンカン照りで暑い。北方の宝剣方面はガスで見えず。南駒が岳方面は晴れている。巨大な駒石を過ぎ、空木岳 11:51 着。写真を取り、すぐに下山開始。駒石付近で昼食。分岐点 12:46、マセナギ 13:59、尻無 14:05、池山分岐 14:21、林道終点 P 14:55、登山口 15:06。所要時間 7 時間 52 分。 避難小屋分岐点より上で、ハエマツの実の食べ残しが多数見られた。ハエマツの実はライチョウが食するといわれているが、この山域ではライチョウに出会ったことはない。下山後、林道を疲弊して歩いていた兵庫の女性をピックアップして菅の台まで送った。

## 北アルプス：読売新道～水晶岳～双六岳～新穂高

【期日】 2012. 9. 22～24 【参加者】 尾崎(47 期)

9/22 扇沢 730=748 黒部ダム 800～830 くらよんヒュッテ 840～1000 R 1020～1122 平ノ小屋 1200=渡し船=1220 対岸～1418 奥黒部ヒュッテ 1445～1546 1882m(幕営)

大変だった海外出張の無事終了祝いの山行。温暖なベトナム南部から一転して山には寒気が流入した。入山朝の信濃大町、ラジオは当初の天気予報の逆転を報じている。明日は一番晴れてほしいのに、それはもう期待できない。

黒部ダムの堰堤を渡ると、室堂方面への登山者と観光客はいなくなって静寂になる。ダム湖岸道は半島や入り江に沿って行く。眠けも相まってなかなか進捗しないのがつらい。当初は黒部ダムから平の小屋まで 2 時間で行ければ 10 時の渡し船に間に合う、、などともくろんだのはとんでもなかった。まあ、12 時でも奥黒部までなら十分間に合うが。初めて渡し船に乗った。料金は無いが乗船者名簿に記名する。水位が低いので、乗船前後で階段の降り、登りがだいぶあった。右岸に渡ってからの道も整備されているものの、梯子のアップダウンや栈道トラバースが多くあり、なかなか大変な道である。そこらへんで釣りをするという別パーティは、バックウォーター末端あたりで黒部の本流に下って行った。

奥黒部ヒュッテの裏で、福田さんの遭難碑を確認する。まだ時間があるのと明日の天気が気になるので少しでも進んでおこう。地形的に絶対に道上に幕営できる場所に 1 ピッチで着くという



自信があったので進んでしまう。夜半、ついに雨が降り出した。

### 9/23 発 1157～R～1530 赤牛岳 1745 水晶岳手前頂上直下(幕営)

翌日朝は本降りである。ふて寝するしかない。それでも、これでいいのかなと感じて 10 時半ごろ起きる。小止みになって 11 時半ごろ出発する。すぐに下山してくる中高年パーティと出会う。撤収しておいてよかった。朝の稜線はだいぶ荒れていたとのことだ。このパーティは水晶小屋からだろうか、それとも私と同じようにどこかでテントだったのか。私はよく寝たせいかなほとんど休憩せず順調に登れた。今後の行程にちょっと焦っていただけかもしれない。16 時に赤牛岳通過。赤牛岳を越えると、幕営跡と思える箇所が複数あるが、憧れの水晶岳北の幕営地を目指す。水晶岳北の窪地脇の幕営は、将来、絶対人がいないような季節と日付で、天気の良い時に泊まりたい。大きな黒雲が去来するが、雲が切れ青空が現れたり夕日が見えたりする。天候は回復するのだろうか。稜線は意外と険しく、暗くなる直前、わずかに西日が残る中、目的地に到着する。しかしやはり夜にまた天気は悪化した。

### 9/24 発 502～515 水晶岳～715 鷲羽岳～810 三俣山荘 820～三俣蓮華岳～双六岳～1117 双六小屋～新穂高温泉＝平湯＝松本

ガスと雨と風の中、今日中に新穂高に下山するぞと 5 時に歩き始める。まだ暗い。15 分ほどで水晶岳を越え、雨の中南下を続ける。鷲羽岳は初の登頂だが視界は無い。三俣蓮華の小屋で雨が弱くなってきた。双六岳あたりでようやく曇りになる。双六小屋からはほとんど走るように下山して、新穂高に 15 時に到着。天候はさほど良くなかったが長距離歩き切った充実感があった。



奥黒部ヒュッテ裏の石碑 (1)

「福田善明 岡田浩子 昭和 44 年 8 月 11 日、奥黒部ヒュッテを発ち平の小屋に向かう途中鉄砲水山崩れにより消息を絶つ。昭和 45 年・・・三菱商事山岳部」と読める。

~~~~~

### 福田さんについて(吉田慎次郎:18 期)

1968 年、福田(14)、秋山(17)、吉田(18)の 3 人で北鎌尾根を登り、槍の肩で、就職先の三菱商事の用事で先に帰る福田さんと別れました。その後、私と秋山は、岩苔小谷を下降して、上ノ廊



奥黒部ヒュッテ裏の石碑 (2)

西朋で建てた福田さん(14 期)の慰霊碑を拝む。父上の詩が刻まれている。

「秋雲一片 遺されし父何を為さん」

下に降り赤木沢出会迄遡って有峰から帰りました。翌年 1969 年、福田さんは三菱商事の山岳部の同僚と此の辺りに来て、高天ヶ原から読売新道経由で東沢出会の奥黒部ヒュッテに宿泊したのは、解っています。翌 8 月 11 日、おそらくヒュッテから程近い、東小沢辺りで消息を絶ちました。この年の北陸大豪雨は歴史に残る大豪雨で黒部の地形は大きく変化し、黒四ダムは、80 年分埋まってしまったそうです。

---

## 南アルプス：黒戸尾根～甲斐駒ヶ岳

【期日】2012. 9. 24【参加者】橋本(12 期)

---

家を早朝出発。登山口の竹宇駒ヶ岳神社 P、朝の気温 12℃、薄曇り、微風。昨日は大雨。5:27 出発。尾白川の吊り橋を渡るとすぐに急登が始まる。やや勾配が緩やかになり、一面のクマガザサの疎林帯を過ぎ、高度差約 700m を登りきると笹の平分岐点である 6:53。ここからさらに八丁登りの長い急坂が続く。刃渡り 8:17 は展望が開け、八ヶ岳、地藏岳、富士山、釜無川一帯が望める。再度 700m 登りきって刃利天狗 8:31 に着く。付近はアズマシャクナゲとその実生。ここから黒戸山の北麓を担々とトラバース、約 100m の下降で 5 合目小屋跡に着く 9:14。いくつかのハシゴ、クサリがあり七丈小屋 10:07 着、ミヤマアキノキリンソウが目立つ。再度急登が始まり、ダケカンバとハエマツ帯となって倒壊した石の鳥居がある 8 合目御来迎場を過ぎて、甲斐駒ヶ岳 11:51 着。晴れているが近隣の山は見えない。少休後すぐに下山開始。ナナカマドの赤い実とダケカンバの黄葉のコントラストが美しい。8 合目付近で昼食。七丈小屋 13:17、水を補給。いつもながら 5 合目付近の登りがきつい。5 合目小屋跡 13:55。刃利天狗 14:21、再度、刃渡り (14:38) 付近からの東方に開けた展望は素晴らしい。15:22 笹ノ平分岐、16:24 竹宇神社 P 帰着。登り 6 時間 24 分、降り 4 時間 33 分、所要 10 時間 57 分。

---

## 渋谷：宮下公園岩トレ

【期日】2012. 10. 24【参加者】山野 (19 期)、松本 (28 期)、宇佐美(28 期)

---

宮下公園の岩トレを実施しました。結構混んでいて、1 時間待ちでした。下にひいているマットが破損したため、半分は使用禁止になっており、それも混んでいた原因のひとつです。簡単な 8 級から初めて、5 級で行き詰る展開になりました。しばらくやっていたいなかったので、すぐに腕の力もなくなり、ちょうどいい展開でした。後ろのクライミングウォール (10m) でも数人がトレーニングしており、特殊なビレーの方法が大変参考になりました。次回は、11/14 (水) を予定しています。興味のある方は、連絡ください。(松本)



今回は豪雨のために中止になり、実際に登ったのは初めてです。2 時間たっぷり練習できると思っていましたが、来場者多く見ている時間も長かったにも拘わらず、1 時間も経ったら腕が疲れて、力がなくなっていました。何度かトライしましたが、最後まで 5 級はクリアできませんでした。力も出ないので、仕方なく 30 分程の残り時間を無駄にして出てきました。今朝もまだ、腕に疲れが残っています。尚、利用料金は 2 時間 350 円、貸靴代 200 円は別です。(宇佐美)



---

## 奥秩父：西沢溪谷入口～甲武信ヶ岳

【期日】2012. 11. 2【参加者】橋本(12 期)

---

10 月頃から急速に気温が低下し始め、山は一気に冬の様相である。西沢溪谷の朝は昨晚より急速に寒くなり、朝の気温 0℃、快晴、無風。ゲート前 7:00 出発。徳ちゃん新道入口 7:17、西沢溪谷への紅葉が素晴らしい。近丸新道分岐まで一気に高度差 860m 登る。8:35 着。イロハモミジ、イタヤカエデ、ドウダンツツジなどの紅葉が鮮やか。2111m ピークを過ぎ、樹林帯が切れる露岩帯からは南西方の展望がよく、富士山と小さな双耳峰の笹ヶ岳、南ア連山が望める。稜線 9:58、ルートには薄く新雪がある。木賊山 10:06、木賊山の急下降では雪はあるがアイゼン不要。甲武信小屋 10:18、甲武信ヶ岳 10:34。南アの鋸岳、甲斐駒ヶ岳、北岳と赤石方面、富士山、金峰山方面が見える。八ヶ岳はガスの中。三宝山方面の紅葉が素晴らしい。写真と軽食をとり下山開始。木賊山 11:06、稜線・破風山方面分岐 11:12、近丸新道分岐 12:03、徳ちゃん新道入口 13:05、西沢ゲート前 13:20。稜線より上では樹林帯では新雪がつもり、初冬の様相である。登り 3 時間 34 分、降り 2 時間 46 分、所要 6 時間 20 分。

---

## 丹沢：御正体山

【期日】2012. 12. 24【参加者】橋本(12 期)

---

中央高速笹子トンネルで大事故が起きた。頻繁にこのトンネルを経由して奥秩父やアルプス方面に出かけるが、今回の事故は天井板落下による車両事故で痛ましい。そして今年は例年になく寒さが厳しい。富士山の冠雪は 1 1 月末頃、南アルプスは 1 2 月初旬頃までには全山真っ白となった。

山伏トンネルの西側に車を置き、トンネル内を戻って東側に出て 10 分位で山伏峠にでる。この峠 (1145m) を源に道志川は東流し津久井湖から相模川となるが、付近一帯は神奈川県の水源地である。峠の南方は西丹沢最奥の菰釣山方面に至る。今回は峠から北方に向かう。気温は -5℃、快晴・微風。7:37 峠出発。ルート上にイノシシとみられるフンが大量に散乱している。朝日が昇り

明るくなった。石割山分岐 8:05、ここからは稜線であり、北西からの風がきつい。送電鉄塔 8:16、富士山はガスに隠れる寸前であり、北に杓子山と三つ峠方面、西に山中湖越しに毛無山、南に相模湾が光っている。前ノ岳 9:02、付近はブナ・ミズナラ林だが、近くの木で盛んに木の幹をつつく音がする。ムクドリより少し大きく腹が赤いので、アカゲラかもしれない（昨年冬にも同様な鳥を目撃）。御正体山 9:32 着。山頂は積雪数 cm。南面の木の枝は霧氷。小休、軽食をとり下山開始。山頂より少し下ったところでブナの巨樹が多い。見える所だけでも胸高直径 1 m を超えるものが数本ある。前ノ岳 10:01、相模湾が美しい。アップダウンを繰り返し中ノ岳 10:18。急に丹沢方面から相模湾～富士山東面にかけて雪雲発生。送電鉄塔 10:38。この付近から奥ノ岳～山伏峠にかけてはブナの実が多数落ちている。リスやネズミ、その他の動物に食されずに残っている。特に奥ノ岳周辺に多量に残っている。このコースは野鳥も多い。山伏峠 11:11 着。登り 1 時間 55 分、降り 1 時間 39 分、所要計 3 時間 34 分。

## 中央アルプス：南駒ヶ岳

【期日】 2012. 12. 27～30 【参加者】 青谷（28 期）、松本（28 期）、尾崎（47 期）

### 12月27日 晴れ

朝の中央線に乗り、塩尻で3人合流する。車窓から見えていた甲斐駒の雪の量が、今年の雪の少なさを予想させる。のんびりした雰囲気の中、中央西線に乗り、須原駅で下車する。年末に低気圧の発達を予想されるため、無理できないスタートだ。予約したタクシーに乗り、伊奈川ダム登山口まで入る。昨年の林道ラッセルの話に比べれば積雪は少なく、せいぜいくるぶし程度だ。越百山登山口まで1P、そこからさらに林道を進み、橋を渡る先で登山道入り口を見る。川で水を補給して鉄橋を登っていくとしばらく平らな道を行くが、まもなく急登になる。凍った斜面に難渋したが、まもなく傾斜が緩むころ、右上にロボット雨量計を見る道端にテントを張る。

### 12月28日 曇りのち風雪

だらだらとした急斜面を、ひたすら登っていくと尾根筋になる。木々の隙間から、背後に御嶽山が見えている。明瞭な尾根筋を小ラッセルで進んでいく、ほどなく開けた尾根筋に合流する。ここで右に屈曲するので赤布をつけ、増えてきた積雪に備えわかんを装着する。見通しのきかない尾根をラッセルしていくと、北沢展望三角点。あいにく展望はない。

少し緩んだ尾根道を忠実にたどるが、森林帯の斜面に難渋する。いくつか上下を繰り返し、右にガレを見て、さらに急登をラッセルして進む。風雪模様の中、最後の登りにあえいだあと、2591mとおぼしきピークのと真ん中にテントを設置する。周囲の視界なし。翌朝の好天は期待されるものの、夕方からは大きく崩れる予報に、縦走路に出る計画はあつげなく放棄し、南駒をアタックしてできるだけ下の方針として眠りについた。夜は強風が続いた。

### 12月29日

静かな朝が明ける。テントから顔を出すと、中アの主稜線が目の前にド迫力で迫っている。御嶽や乗鞍も雲の上に見える。ここは360度遮るもののない大展望台であることがわかった。ほとんど無風快晴の中、

たどる南駒までのルートが明瞭に見通せる。

いよいよアタックに出発。我々だけが独り占めする、すばらしい稜線に我々のトレースが伸びて行く。一旦下った後、細い稜線を忠実にたどり、2700mピークで1P。一旦鞍部に下った後、最後の岩交じりの尾根になる。一枚岩も出てくるが弱点をぬっていけば、ザイルを出すほどでもなく切りぬけて行ける。右側の急斜面への滑落に気をつけていけばまもなく、頂稜に飛び出す。伊奈谷や南アの山並みが目に飛び込んできた。空木岳が大きく木曾駒に続く稜線、左に穂高、乗鞍、御嶽。西に越百山の穏やかな稜線、その先にどっしりとした恵那山。南ア全山の山並み、ちらっと顔を出す富士山。遠く八ヶ岳から浅間山。これ以上望めないほどの大絶景がひろがる山頂であった。稜線縦走も魅力があるが潔く山頂を後にする。岩場部分を慎重に下れば、あとは山上プロムナード。テントに帰りついて少しゆっくりする。今晚からの悪天が予想されるので、できるだけ下ることにして再出発。途中で初めて後続のパーティーに出会った。縦走して駒まで行くという。3pほど下って、細い尾根に入る分岐点にテントを張る。



## 12月30日

昨夜からの降雪は、みぞれになった。積雪はそれほどでもない。来た道を忠実に下っていく。初日のテント場付近は、雨で雪も消えていた。林道に着くころには大雨になり、雨具やヤッケでしのぐものの、もうどうにでもなれという気分。伊奈川ダムに到着するも、人も車もいるわけなし。仕方なく携帯電話のつながる所まで、さらに1pくだり、ようやくタクシーに乗りこむことができた。

青谷にとっては久しぶりの冬山。周回ルートの計画は放棄されたが、予想通りの低気圧通過。賢明な選択と1日の好天に恵まれ、大満足な南駒だった。(青谷)

---

## 南アルプス前衛：身延・七面山

【期日】2013.2.5【参加者】橋本(12期)

---

今年の冬は例年になく寒い日が多く、降雪量も多かった。恒例の新年登山ができなかったが、70歳台に入ったとはいえ、足が動く間は尾根歩きを継続するつもりだ。1月下旬から活動開始した。これは今年2回目の山行である。

登山口の羽衣の朝、気温1℃、快晴、微風。羽衣P8:04 出発。昨日は雨であったが、暖かい。七面山は信仰の山であり、コースは約100m毎に～町目の表示がある。登山口から敬慎院まで5.0町である。コースは急坂の連続で標高差は約1250m、敬慎院から七面山までさらに約250mである。

2町目神力坊 8:08、13町目肝心坊 8:36、肝心坊付近はいつも野鳥が多く、近寄ってもあまり逃げない。エガラと少し大きい褐色の鳥。23町目中適坊 8:59、29町目付近から北方の眺めがすばらしく、北岳と間ノ岳が見える。36町目晴雲坊 9:42、立派な山門をくぐり、敬慎院見晴台 10:23着。富士山がまぢかに見え、奥秩父連山の雲取山から金峰山まで素晴らしい。緩やかな斜面の樹林帯に入り、急登が始まるとやがて七面山である 11:14 着。途中、コースは夏道と異なり左寄りの大崩れ近くにある。大崩の下から吹き上げてくる強風とともに耳を澄ませば、今日も不気味な落石の音。七面山山頂は積雪 80cm 位か。コースを外すと雪は腰までくる。山頂からは眺望はないが、樹林越しに聖岳方面が望めるが定かでない。軽食をとり下山開始。敬慎院 11:50、晴雲坊 12:13、肝心坊 12:48、羽衣 13:10。所要 5 時間 06 分。

## 男鹿山塊/VR：横川牧場～日留賀岳～塩原温泉

【期日】2013.2.9～10【参加者】松本(28期)、尾崎(47期)

**2/9 浅草 7:10=10:16 男鹿高原駅～11:20 WildField おじか 11:35～ワカンつけ 11:47～12:55 横川放牧場  
上末端～14:07 1230m 14:38～15:25 1410m ～16:35 1500m 16:40～16:57 幕営**

この時期、適度な積雪、適度な難しさ、可能な限り敗退せずに登れること、望むらくはあまりメジャーすぎないところ。目標山域の設定は難しい。当初参加の方向だった青谷さんが、南会津方面はどう？とのことで、その辺りで探していた。日留賀岳とは今までほとんど認識なく、しかも夏道のない北西尾根が面白そうとは少々チャレンジングかと思った。だが天候に恵まれて、1泊2日で余裕を持って帰ってこれた。

スノーシーズン 3 連休の初日とあって、浅草からの東武快速は結構混んだ。この列車が鬼怒川温泉あたりに来て、雪景色が広がるようになると、みんな歓声を上げたりして観光列車そのものだった。我々は寝ていた。

男鹿高原駅は、行き止まりの道が始まるだけの無人駅で本当に何にもない。実はタクシー予約も試みていたのだが、タクシー会社のテリトリー的な事情もあるらしく、それすら断られていた。国道まで出て、さらにそこから山へ向けて歩く。地図で見る距離感よりは早く、1時間ほどでゲートまで来る。そこからは除雪のない道に入る。つぼ足で歩いてみるとかなり雪は締まっており、期待が持てる。それでもワカンは履くほうはるかに安定した。雪の林道をたどり横川牧場を突っ切り、その上端に達し、そこから狙う尾根に取り付く。本当に馴染みのない山域なので、遠くの山が何山だかすぐには判断がつかないが、地図とコンパスで合わせる限り、牧場上部から真西に見える尖った山は、荒海山であるようだ。

尾根にはところどころ赤布があり、こちらかの登山者もそれなりにいるのかもしれない。さらに意外なことに、時折、見晴らしのききそうな大木に梯子が打ちつけられており、それが 2-3 箇所ある。それなりに人が入っていることを感じさせる。雪の状態は良いので快適に高度を稼ぐ。なので到達目標高度も 1550m 付近の尾根が左に屈曲する辺りを考える。ちょっと遠いな、そこまで行けるかなとも思ったが。俄然増えてきた積雪にかなりバテ気味になりながら、日の入りぎり

ぎりの 17 時前、予定の場所にて幕営する。

**2/10 出発 6:17~7:16 1700m 付近~8:20 稜線 8:24~8:55 日留賀岳頂上 9:17~10:45 1514m~12:10 比津羅山手前鞍部~13:15 1030m との鞍部林道末端~13:41 鉄塔下~14:52 海洋センター前バス停 15:24 =15:38 上三依塩原温泉口 15:48=浅草**

翌朝、上空に薄雲もあるが全般に天気は良い。登るにつれて南と西方面の展望が大きくなってくる。西方遠くは雪雲に覆われている。昨日と同じで何山かほとんどわからないが、南方のでかい山は女峰山から男体山だろう。西に連なる屏風状の山は、帰ってから地図を見たら七ヶ岳だった。かなり広がりのある山だ。会津駒付付近までなると雪雲なのだろう。

日留賀岳までの標高差はだいぶ縮んでいるはずだが、見える稜線はまだ高い。昨日まで左上に目障りだった林道が、ようやく見下ろせるようになってくる。あんな林道作ってどうするんだ。。急なラッセルをして、日留賀岳の北端に飛び出るが、最高点は南端であり、祠の立つその位置までは、まだ時間がかかりそうに見える。携帯が通じたので、軽く休憩がてら緊急連絡先の上野先輩に一報メールを入れる。そこから 30 分で頂上だった。



下山は、すっかり快晴となって景色を楽しみながらもがながん行く。1514mを軽く登り返し、さらに比津羅山とのコルまで問題ない。だっ広いコルにはマーキングが多かったが、比津羅山北東面に入ると最初見出していた夏道の形状を失う。1036mまですぐと思ったが、案外深い切れ込みがあり、日陰とあって雪のトラバースに時間を要する。尾根を登り返すほうが良いかもなどと考える。これが長く続くのだろうか。ようやく 1036mまで達する直前に再び夏道を見出して、それに沿っていくと突如林道のちょん切れに出る。そこからは雪を踏む程度で白戸集落の上に出て、ほどなく最奥の民家横に達する。この家の方には会わなかったが、ネット情報では登山客への世話をよくしてくれる農家であるらしい。地図上では塚原という所に温泉マークがありそこまで歩くが、単なる源泉施設だった。すぐ横にバス停があり、20 分後に中三依温泉口へ行くバスが来るので、そのまま野岩鉄道に乗り継ぎ帰宅した。

## 富士山：吉田口~5.5 合目

【期日】 2013. 2. 12 【参加者】 橋本(12 期)

吉田口の登山口馬返しの朝は -6℃、快晴、無風。馬返し 8:46 出発。すぐにアイゼン着用。1 合目 8:56、2 合目 9:19。2 合目直前で雪面をリスが横切る。3 合目 9:35、4 合目大黒天 9:57、コムツガが多い。井上小屋 10:08、5 合目佐藤小屋 10:33、展望が開け奥秩父連山、金峰山、八ヶ岳が望める。さらに甲斐駒ヶ岳、奥に北アルプスが白く輝いている。六角堂と経ヶ岳を通り、5.5

合目指導センター11:06着。風が強くなり、気温が急激に下がってきた。ボールペンが凍結して書けない。すぐに下山開始。11:21 佐藤小屋、軽食をとる。井上小屋 11:37、3合目 11:50、1合目 12:09、コースの雪は適当に固くアイゼンがよく効き、夏場より歩きやすい。馬返し 12:41 着。佐藤小屋付近ではバッコヤナギの芽が早くも膨らんでいた。所要3時間28分。

---

**頸城/ST：関温泉風巻尾根、青田難波山、他**  
**【期日】2013.3.2~4【参加者】岡田（30期）、他3名**

---

2日は山岳ガイド同行で栗立山・紫雲谷日帰りツアーの予定でしたが、悪天候のため関温泉スキー場ゲレンデ周辺、風巻尾根を1400m付近まで往復だけになってしまいました。残念！3日、悪天候のため関温泉ゲレンデで滑る。4日月曜日は天候回復、私はメンバーと別れ残って、単独で青田難波山を往復しました。半日程度のコースですが、雪の量はすごくて林道は全く除雪無し、青田集落からスタートでした。刈羽三山と日本海の海岸線を見ながらの滑降です。

---

**鳴子周辺/ST：鬼首スキー場～大柴山～花淵山・小柴山～花立峠**  
**【期日】2013.3.16~17【参加者】岡田（30期）**

---

鬼首スキー場から小柴山～花立峠～スキー場と一周、および大柴山～花淵山～鳴子スキー場跡。鬼首ゴンドラは冬運行無しで、小柴山へのリフトを利用。そして鬼首道路から軍沢山へピストン。全体に天気は良かったのですが、気温が低くガリガリでシールが効かず、旧ゲレンデ跡や軍沢山への急な登りはほとんどスキーを担いで登りました。真っ白な神室連峰を望むことができました。

---

**丹沢：菰釣山**

**【期日】2013.3.19【参加者】橋本（12期）**

---

山伏峠朝10℃、快晴・無風。山中湖側のトンネル出口7:39出発。昨夜の降雨と快適な気温で気分がよい。木々の芽が膨らんでいる。大棚の頭分岐8:02、水ノ木分岐のピーク8:10着。ここに東丸、西丸へのルート標識あり。この甲相国境尾根はブナが多く、おびただしい量のブナの実が落ちている。現在ブナは一部は昨年枯葉と実をつけたままのものとあり、新芽が膨らんでいる。ブナ樹の多くは胸高直径20~30cm位のものも多く、最大でも60cm位で、巨木はない。巨木になれない何かの理由があるのか。石保土山(1297m)は眺望がよく、富士山、御正体山、南ア連山が美しい。ここから小ピークのアップダウンが続く。西沢ノ頭8:49、縦ノ木沢の頭(1306m)



9:04、油沢ノ頭 (1310m) 9:15、ブナノ丸 9:36 着。ここから菰釣山北面に回り込むルートには残雪あり。菰釣山 9:51 着。軽食と写真の後下山開始。南風がやや強くなる。気温は高い。油沢ノ頭 10:33 ではチョウが羽を休めていた。樫ノ木沢の頭 10:44、西沢ノ頭 10:58、美しいブナ林が続く。石保土山 11:15、水ノ木分岐 11:30、大榎ノ頭分岐 11:37、山伏峠トンネル西側 11:52 着。道志川を挟んで御正体山側とともにこの山域はブナが多く残る貴重な場所だ。所要 4 時間 13 分。

## 堂津山塊/VR : 日道沢左岸尾根～黒鼻山・東山

【期日】2013. 3. 23～24【参加者】松本 (28 期)、杉坂 (他)、尾崎 (47 期)

**3/23:南小谷＝大久保集落 810～858 R ～928 眺望の郷～1005 970m～1110 1150m～1200 1271m～1245 1180m コル～1330 1320m～1345 急登手前幕営**

懸案の山である。まずこの山域について。白馬の北、小谷村の東部である。北アルプスとは姫川を隔てた対岸であり、雨飾山など頸城や海谷の山とも一線を画している。2011 年 3 月に、震災から 2 週間ほどしかたっていなかったが、「眺望の郷」のすぐ下(標高約 900m)まで偵察にも来た。その時天気は悪く、眺望の郷の存在すら知らなかったし、夏なら舗装道だったことすら知らず半ラッセルになって寒い思いをただけだった。その後も夏冬通じて感覚をつかんできた。

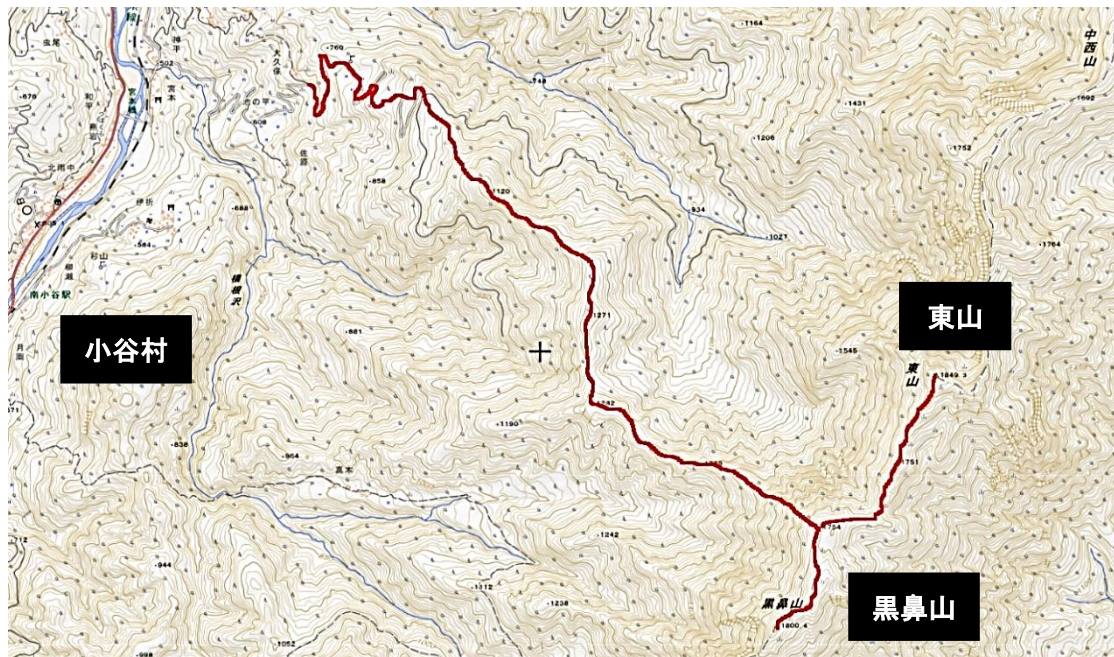
小谷や白馬の姫川右岸には、十数戸規模の山上集落が多く点在し、すでに廃村となっている所もあるが現役の集落もまだ多い。今回はその一つである大久保集落から登り始める。初めはだるい林道のザク雪ラッセルだが、山に入っては難所もなく、予想以上に早く進捗した。北西～南東方向の尾根から南向きの尾根に乗ると、1271m ピークを越えて緩く下る。1282m で、黒鼻山を目標に以前偵察した真木集落北側からの尾根に合さる。真木集落に来たのは 2010 年 10 月で、この尾根に続く切り開きを確認したが、積雪期の真木へのアプローチは峠越え 2 個に急斜面も多いため躊躇を感じていた。この理由から、今回は大久保からのルートになった次第である。今日進める所まではもう近いので少々長く休んだりする。結局、1369m を過ぎたあたりでまだ 14 時前だが幕営とする。その先を見てくると、すぐに尾根が狭くなって傾斜も増しており、先ほどの場所での幕営がよさそうだ。夕方は 3 人でお酒を飲み歓談、山の歌やフォークソングを歌って楽しく過ごす。夜になって快晴となり、星空を背景に黒鼻山の壁が間近に黒い。

**3/24 : 発 555～656 1610m～747 稜線～804 黒鼻山～820 R～920 東山 947～1027 下降点～1058 1610m～1157 幕営地 1300～1340 R～1453 眺望の郷～1555 大久保集落**

翌朝は無風快晴。雪もよく締まって非常に良いコンディションだ。アイゼンなしのキックステップで、階段を上ると同じである。ダガーポジションをまじえてぐいぐいと高度を上げていく。

飛び出した 1754m 地点は、さきほどまでの急登とはうって変わって平坦である。少し右に進むと船窪地形も現れて、適度なところにテントを張ってのんびりしたい場所ともいえる。でも実際やったら翌朝ガスって迷うなんてこともありそうだ。まず南へ 15 分ほどで黒鼻山最高点に達する。次いで北へ向かう。先ほどの突き上げ点から稜線は右へ曲がり、コル手前で北向きに戻る。この

あたりの風景が、右に高妻戸隠、前に海谷、左後方に白馬連峰と素晴らしい。登り返して東山の尖ったピークに立つ。そこから北へ続く稜線西側の絶壁はすさまじい。堂津山から黒鼻山あたりまでは、尾根直下西面に急斜面が続く特徴的な地形がみられる。数年前に登った尾根はその絶壁の北側のピークに上がっている。どちらが難しいかに関しては、雪の状態が違ったので判断できないが、当時の尾根ではギャップ越えがあり苦勞した。



下山は急傾斜を慎重に下ったが、雪の状態と好天に助けられ、困難なく往路を戻る。このあたりの山は、2万5000円「雨中」を何度も見て、どのように登れるかと偵察・試行してきた山だった。幾度も足を運んで来たエリアである。今回はあっさりと登ってしまった印象だが、それはこれまでの成果だろうか。とにかく春山バリエーションを満喫する山行だった。

## 頸城/VR：大毛無山～不動山～容雅山～北桑沢

【期日】2013.3.23～25【参加者】岡田（30期）

ガイド登山で叶わなかった旧アライスキー場周辺は、山スキーに適していますが入山者が少ない地域です。今回は不動山～容雅山の稜線沿いに行こうと、スキー無しでテント縦走、余裕をもって3日行程としました。山スキーでは不動山をカットして沢をつないで1日で一周した報告もあります。初日はグレンデ跡をひたすら登り。今は無きアライスキー場の当時の評判を耳にしますが、上部は木立がまばらの大雪原で海外のスキー場みたいな凄いの所でした。

2日目は好天に恵まれ妙高・頸城の大展望を堪能しました。稜線は上下が多く少しやせた部分もあり疲れしました。北桑沢の途中で体力的に厳しくなり2泊目。容雅山～北桑沢～澄川第3発電所～林道は日曜日にスキーでピストンの跡あり。ワカンで歩いて下るのはスキーの何倍かかったのか見当つきません。

# 2013 年度

|         |       |
|---------|-------|
| 会長      | 松本 哲郎 |
| チーフリーダー | 上野 午良 |
| サブリーダー  | 尾崎 宏和 |
| 会計      | 上野 利之 |
| 都岳連関係   | 上野 午良 |
| 記録・会報   | 渡辺 喜仁 |
|         | 尾崎 宏和 |
|         | 灘吉 聡  |
| 装備      | 灘吉 聡  |
| 西高係     | 山野 裕  |
|         | 小澤 晃平 |
|         | 保延 陽太 |
| ホームページ係 | 灘吉 聡  |
| 超 OB 係  | 松田 稔  |
|         | 黒澤 隆  |

## 富士山：吉田口6合目

【期日】2013.4.17【参加者】橋本(12期)

富士山山麓の新緑を見に行く。吉田口馬返し朝気温 14℃、晴れ、時折強風。富士吉田から馬返しまでにはマメザクラ、ダンコウバイが満開。馬返し7:48 出発、1合目7:57、2合目8:18、3合目8:33、木々はまだ冬芽が少し膨らんだ程度だが、コメツガとシラビソが緑をまし、雪が解けた地面からは多数のコメツガ実生が出ている。4合目大黒天8:54、徐々にコースは積雪が多くなって来る。井上小屋9:06、佐藤小屋9:39、経ヶ岳付近で3人が雪上滑落訓練中。風が強い。コースはしばらく残雪が途切れるがすぐに雪に覆われ、トレールが薄くなる。指導センターから上に約10分登り、ここで巨大な雪塊が頭上に見え、危険を感じてすぐに下山開始。佐藤小屋10:42、井上小屋11:01、軽食をとる。4合目大黒天11:12、3合目小屋跡付近で偶然にバイケイソウの新芽が出ているのを多数発見。2合目11:35、1合目11:48、馬返し11:55。所要4時間07分。馬返しP付近ではよく見ると、シハイスミレやミヤマスミレ？が咲き、ミツバツチグリやキジムシロが葉を広げていた。また、中の茶屋付近の間伐されたアカマツ林の中に、多数のマメザクラが霞のごとく一面咲き誇り素晴らしい光景であった。林床にはナガバノスミレサイシンとイワボタンが咲いていた。

## 山形・弁慶山地/VR：弁慶山偵察

【期日】2013.5.1【参加者】上野(37期)

5/1に山形の弁慶山地に下見に行きました。山形の差首鍋の西川集落から尾根づたいに弁慶山に行くルートです。西川集落手前の広域林道に入り、しばらくして西小俣川左岸の林道に入っていきますが、すぐに残雪が林道を埋めており、そこから徒歩になりました。その先も、土砂崩れで林道を塞いでいる箇所が数か所あり、雪が溶けても車は入れない状態。しばらくして、右側の緩傾斜を368mとの鞍部にいく明瞭な道があり、簡単に尾根に出ることができた。尾根上は明瞭な道があり、ところどころ雪が残っている状態だが、締まっており歩きやすい。372mの左下のピークまではスムーズに行ける。そこから西方面にいくが、残雪と比較的明瞭な道があり問題ない。ちょうど、2.5万図の「西小俣川」という表記の上部あたりの尾根上で引き返した。この季節時期でも十分に歩ける状態。3月末では、雪も柔らかく多いと思うので、むしろ4月に入ってからの方がいいかもしれない。添付写真は林道からあがった稜線上の様子で、道が明瞭であることがわかったと思います。



稜線からの弁慶山方面  
弁慶の耳？



稜線上の道の様子

## 飯豊連峰/VR：水晶尾根～大日岳～飯豊本山

【期日】2013.5.3～5【参加者】松本(28期)青谷(28期)尾崎(47期)保延(60期)

5/3 五十嵐邸・実川神社 825～904 水晶尾根末端～1004 660m～1055 790m(巡視路より別れる)～1255 945m～1400 R～ダイコンオロシ上 1640～1750 水晶峰 2つ前の小ピーク手前直下

3日間とも18時前までの目いっぱい行動だった。天候は全体としてまずまずとはいえ、1日目は曇も降ったり、2日目は高曇りと晴れ間、夕方は地形の影響もあると思うが強風・冬山状態。3日目早朝強風ホワイトアウトだが6時前より快晴。積雪は、2009年などの飯豊より断然多く、まだ山は真っ白な状況。

1日目はダイコンオロシの登攀でロープ使用で時間を要し、その前後のヤブが濃く、水晶峰に届かず。手前のピーク下で幕営。登り始めから790mピークまでは道路と言わんばかりの幅広の切り開きがあったが、突如としてちょん切れ。左へヤブに突っ込むが、薄い踏み跡があり一安心して進む。それも再び登りになるころには判然としなくなり、あとは残雪を拾えるところに行く。みぞれに打たれたりしながら大根オロシの壁を見ながら進んでいく。大根オロシは垂直壁に見えたが、ヤブ壁と最上部がスラブ状になっているようで、ロープ無でも登れる。とりあえず尾崎が登るが、後続の安全を期して途中からロープ使用に変更する。大根オロシを越えて1640。一段落と言いたかったがまだヤブが続き傾斜もあり、幕営できそうにない。そもそも今日の目標は水晶峰だ。時折先行する単独行者が見え、その踏み跡はあるのだが、こちらはなかなか進展しない。笹ヤブ直上は、笹の茎に乗るとつるつる滑る。途中からアイゼンを装着した。本当に頑張つて、1750、1108mピーク手前直下で雪の斜面を見つけて幕営する。水晶峰頂上まではこのピークともう一つ小さいピークがあって、その向こうが水晶峰のようだ。

5/4 発 532～610 水晶峰～729 R 745～855 1235m～1023 笠掛山～1145 1680m12:05～1305 1820 m～1420R～R～1710 大日岳

2日目は根性？で大日岳まで到達した(17:10)。単独後者の2名の先行トレースあり、1名は約1時間の先行でした。笠掛山手前の1235m付近では、だいぶ歩いた気がするのに、谷との高度差はまだ大きくなく、実川本流沿いと思しき林道もよく見える。しかし笠掛山を過ぎる雪の量は各段と増え、西風も強まり、春山どころか完全に冬山の様相と化す。櫛ヶ峰では東面から大日岳



屈強な藪漕ぎからようやく解放



大櫛ヶ峰の手前。強風で冬山の様相

への夏道が上がってくるが、当然雪下でトレース痕跡さえも無い。浦川源頭から吹き上げる西風は非常に強い。牛首山付近で我慢ならず、意を決してザック底にしまってあったセーターを取り出してヤッケ下に着こむ。念願の大日岳到着時、なんとさっきまでのガスが晴れ、東は雲海、西はオレンジ色の日本海がきらめく。幕営場所を確保できたのは頂上西で、強風が吹きつける。ブロック建設に最後の力を振り絞り、テントに入れば天国のようだ。

**5/5 発 548~709 御西小屋 745~817 R~900 飯豊本山 905~923 飯豊山頂小屋~R~1125 切合小屋 1140~1330 三国小屋~15:00 長坂 1520~1613 中十五里~1715 キャンプ場**

3日目朝、吹き溜まってテントが少々埋没した。大日岳からの下りは、強風、視界、雪質が心配だったが、幸運にもいずれも大きな問題なし。慎重に歩を進めてコルまで着くと、天気は穏やかになってきた。御西小屋で一安心。飯豊本山までの登りは山の大きさを感じる。本山頂上からはトレースがしっかりしましたが、下山は長かった。

存在感のある山に行くことができた。いずれにしても、この連休も北ア方面などで遭難が相次いでおり、気をつけて登らなくてはと改めて思う。(尾崎)

## 神室山地：水晶森～神室山～八森山

【期日】2013.5.31~6.2【参加者】尾崎(47期)

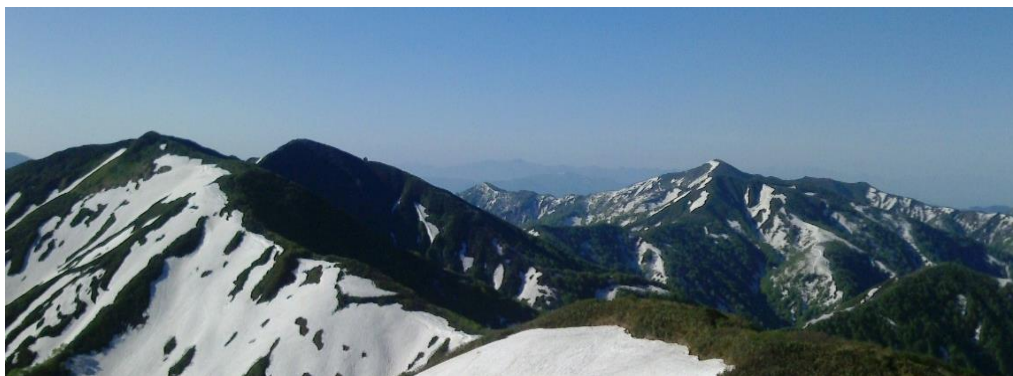
**5月31日：横堀 1018=1100 薄久内-1155 490m 1215-1305 730m 1315-1405 反射板 1415-1450 水晶森(通過)-1515 R -1610 幕営**

今までの複数回の試みにかかわらず達成できなかった神室山の縦走がようやく出来そうになってきた。横堀駅から湯沢市の乗り合いタクシー300円で薄久内集落に至る。1時間ほど舗装路を行くと、山菜畑や養蜂場を見て、左に林道を分ける。すぐに右方面に有屋峠への道があり、まっすぐ進むと堰提下で車道が終わる。右から越えて消え消えの踏み跡を沢沿いに辿る。マーキングだけは頻繁にあるものの、先ほどまでの整備された道標と踏み跡とは落差がある。二俣手前で踏み跡を見失うが、すぐ先で二俣の間の尾根を登る。この尾根はやぶっぽいが一応踏み跡がしっかりあった。反射板の巡視路のようである。沢筋にはまだ雪が多い。稜線手前で雪を踏み、踏み跡を失い藪をこぐ。稜線に出てすぐ反対側に有屋峠からの道を見つける。左に登り反射板まで来ると、汗にたかるブヨ大群の視野の中に、いきなりどでかく真っ白な山がある。鳥海山だ。虫よけを忘れてしまった今回は、超ブヨには耐えるしかない。メンソレータムは効かなかった。それでも水晶森を越え、上り下りを繰り返して、1060mピークの雪田を過ぎたあたりで向こうに神室山が見えるところまで来た。平日のこんなところに誰も来るはずはあるまいと、道の真ん中に強引にテントを張った。

**6月1日：発 451-545 R 558-641 稜線・前神室山往復 655-805 神室山・小屋観察・水場探しと水汲み 852-1020 天狗森 1042-1145 小又山 1155-1228 R 1235-1343 砂利口合流点の少し火打側**

## 1405—1455 火打岳 幕営

2日目も気持ちよく晴れるが、早朝からブヨが多い。前神室山手前の急登が一段落したところで雪渓があり、少しはブヨも減ってきたようだ。真っ白な鳥海山が再び見える。カムチャツカとか千島列島のコニーデ火山のような魅惑感を出している。そして、その左（南）が、いまだ懸案の弁慶山地である。山容は一筋縄でなさそうな起伏に見える。前神室山頂上から神室山を見ると、稜線の東側はまだ雪が多い。しかし道の雪はほとんど消えている。頂上右に避難小屋が見える。前神室山から東側を見ると、正面奥が栗駒山と思われた。右の虎毛山には、2年ほど前大風で倒壊（か大規模破損）した頂上の避難小屋が再建されたのも見えている。そしてその左には高松山とその避難小屋も見えた。南西に目を転じれば、神室本峰右遠方の月山もまだ真っ白である。月山左の小さく見えるが尖った山が、神室の火打岳。今日は火打岳までは行かなくてはならない。



前神室山付近からの南望。中央左が神室本峰、右奥が天狗森、小又山方面。

神室避難小屋は新築されとてもきれいだった。小屋の内部はまだ木が新しく、2階構造になっている。清掃用具や新品の銀マット、毛布もある。トイレはバイオトイレでまったく臭わなかった。用を足したら、ハンドスクリーを回してオガクズとよく混ぜ、発酵を促す。管理もそれなりに大変だろう。小屋から下って水を探すが、雪渓に埋まっているようである。雪田の溶けている部分からしたたち降りる水も試したが、埒が明かない。あきらめて、頂上に至る直前にみた北東面に登りかえす。こちらは、雪渓割れ目よりかなりの流れ出しが見下ろされ、そこまで下って水を得た。以降、稜線上で水を得られそうだったのは、藪をこぎ下って得られるかもしれない1ヶ所ほど。頂上直下のその場所が一番簡単に取れて水量もあったようだ。こんなことで頂上付近で小一時間過ごしてしまい、出発は9時前になった。神室山頂上では、単独の人2名、打ち一人は犬連れに会ったほか、小又山に歩き始めてすぐの所で根ノ先沢方面より登ってきたとみられる若めの二人に会う。この2人は小又山まで後ろを縦走し、再び東側に下ったようである。

小又山に12時。天狗森から神室山を振り返ると、神室山がたった3時間と少し前までいたところと思えないほど遠くに見えた。神室山頂上下方の雪渓がめだつ。

小又山から結構長い下りで砂利口下降点に14時。ここは森林内かと想像していたが、展望もよく、東面はぶなの新緑と残雪も見えて気持ちいい。西に10分ほど下って水は得られるらしい。下るのより背負う方が良かったので水は神室山頂より持ってきている。疲れてきたが、あと1時間。がんばって火打まで行く。

火打岳への登りはかなり急に見え、両側切れ落ちて見える。地図を見る限り距離も高低差もさ

ほどではないようだが...行ってみれば、確かに夏道を歩ける限り問題はなかった。頂上が 14:55 分。もう迷うことなくここで幕営だが、やはりブヨが多い。少しでも風があつてブヨが少ない所とか、細部の選定には迷ってしまう。結局少々戻った頂上直下で道の真ん中に幕営した。左に鳥海山が良く見えた。のんびりしているうちに、東方の栗駒に雲がかかり始め、程なく神室山もガスってきた。天気予報では福島浜通り方面は夕方から夜半小雨もあるかもとのこと。17 時ぐらい、ついにここまでガスがきて、視界が無くなる。こんなとき一人だと急に心細く不安になってくる。まあさほど崩れるわけでもなさそうなので、そんなに心配は無いと思い、テントの中に潜り込んだ。

**6 月 2 日: 発 500—648 槍ヶ先 655—750 杓蔵山分岐—840 八森山—907 五合目 912—1025 鶺鴒杉駅**

3 日目、朝からガスに巻かれているが、それだけといえばそれだけである。あとは淡々と南下するが、鶺鴒杉駅の列車時刻を考えるとのんびりはしてられない。この先はほとんどが歩いたことのあるルートであり、神室連峰の北から南をつなぐことを目的として、八森山までを急ぐ。そこから東への下りは雪のトラバースもあったが下るにつれて気温が上がる。アスファルト道を早足 45 分ぐらいで新庄行に間に合った。

## 上越：金城山

**【期日】 2013. 5. 4~5 【参加者】 中村 (21 期)**

5 月 4 日極早朝スタート、観音山ルートで金城山行くことにしました。当日 8 合目～頂上避難小屋辺りで幕営、翌日戻ります。5 日昼過ぎに無事下山しました。連絡先喜仁さんには夕刻報告しておきました。一人まっぴりの雪上テント生活エンジョイしました。

## 超 OB 山行・丹沢：大山報告

**【期日】 2013. 6. 4 【参加者】 都築、川口、松田、黒沢、田中、橋本、山本、渡辺**

6 月 4 日、快晴に恵まれ、8 名の皆様のご参加を得て、初夏の丹沢と温泉を満喫することができました。とくに、21 期の渡辺さん、14 期の山本さんのご参加の御かげで平均年齢が一挙に若返りました。また、下山後の温泉では、田中さんの発議で、西高 WV、西朋の現状と将来について熱い討議がなされました。(黒澤隆・写真は渡辺喜仁、黒沢)





## 奥秩父/WC: 梓山～岩屋林道～国師ヶ岳～黒金山

【期日】2013. 7. 14～15【参加者】尾崎 (47 期)

**7月14日: 梓山 735～830 町田市民山荘～845 R 915～940 梓第二橋右岸へ～950 入溪～1030 15m ナメ滝上 R～1220 第三造林小屋～1340 2090m 右曲点 1355～1435 岩屋 1450～1515 幕営**

奥秩父梓川は一人でも行けそうな沢で、古道探索の意味も含めて、黒金山へのルートとともに前から少し気になっていた。奥秩父主脈の北側は、原生林が美しいことも期待した。

梓山集落から高原野菜収穫作業の道を行く。町田市の施設を過ぎてようやく林道になり、それを耐えながら進む。梓山からの車道歩きは長い、まあこの山に行ってもそれは同じ。林道が右岸に渡ったあたりで沢に降りるらしいが、どこでも行けそうに故に降りるポイントを逃して進んでしまう。右岸に入る枝沢を渡ると、どうも林道が離れていきそうなので、枝沢のところまで戻って沢に降りる。単純な沢歩きが開始となる。堰堤が厄介だが、それ以外は溪相はわりにきれいだ。沢歩きは、3～4箇所落ちると痛い目にあいそうなナメ滝はあり。それが終わるとずっと川歩きという状況だが、時折昔の造林小屋廃墟、その周りに茶碗のかけら一升瓶などを見る。ときおり踏み跡を見つけて左右岸の一段上を行ったりする。

本流の向きが左右に90度2度ほど曲がり、その後正面と右に分かれる。下調べによるとこの右俣に入ったところに大きな岩小屋があるらしい。それが岩屋林道の名の由来である。しばらく行くと大きな岩屋が右にあった。完全に雨露をしのげる大きさである。しかし、ちょっと湿っぽく、昔のガラス破片などゴミもちらほら見られる。いまいちだったのでここはパスし、もう少し上流でツエルトを張る。

**7月15日: 発 616～R～810 国師ヶ岳～824 北奥千丈岳 838～奥千丈岳 954～1044 シラベ平～1055～御止木～1236 大ダオ 1258～黒金山往復～1400 大ダオ～1425 1710m 水場 1435～1540R～1615 徳和バス停**

岩屋から上は、左下に流れを聞く明瞭な踏み跡が続いている。右へ急登して尾根に出ると、ややハイマツの枝に阻まれがちになるものの、大きな問題なく国師ヶ岳に突き上げる。縦走路の踏み尽くされた道には違和感すら覚えた。北奥千丈から乾徳山方面へ南下する道もはっきりしている。初めのうちは森の中を行くが、大ダオが近づくと、笹原も出てきて気持ち良い。時折笹がかぶさっているが、踏み跡ははっきりしていた。

大ダオからは空身で走って黒金山を往復する。大ダオから沢沿いの下りでは、一箇所左岸沿いに行き過ぎて道を失うが、右手に河原に降りて道に合流した。ちょうど右岸に渡る所の少し上流だった。人に会ったのは国師ヶ岳頂上、北奥千丈岳、大ダオのすぐ下だけで、黒金山から乾徳山頂上に人が見えた程度。意外と静かな山行だった。西高1年生の初の幕営山行で行った徳和のバス停は懐かしい。山稜の涼しさに比べたら、甲府盆地は本当に暑かった。

## 南アルプス：青木鉱泉～鳳凰三山

【期日】2013.7.21【参加者】橋本（12期）

朝の青木鉱泉気温19℃、快晴、無風。朝食をとり、6:40 出発、ドンドコ沢コースを登る。昨日はかなり雨が降ったようで、湿度が高い。昨年と同様ドンドコ沢は工事中で迂回路を進む。急坂が始まり、登りきると南精進滝である7:52着。急坂は続き、鳳凰の滝（下）8:16、同（上）8:21、白糸の滝9:12着。五色の滝はスケールが大きい。滝（下）9:21、同（上）9:28着。滝を見に少し降る。再度コースに戻り、急坂がしばらく続くが、コースがドンドコ沢に合流する付近から高山植物が豊富になる。イチヨウラン、イチヤクソウ、タカネグンナイフウロ、コオニユリ、コバノコゴメグサ、シロバナノヘビイチゴ、ゴゼンタチバナなどが咲いている。ガスがなくなり、地蔵岳が見えだした。鳳凰小屋10:11、水を補給、軽食をとる。小屋周辺も高山植物が多い。テガタチドリ、トリアシショウマ、コオニユリ、タカネビランジなどあり。小屋から賽の河原までは細砂の急斜面できつい。11:01 賽の河原着。仙丈岳はガスの中。15人位の中高年Gの声がうるさい、先を急ぐことにする。鳳凰小屋分岐点11:38、付近はタカネビランジ、キバナノコマノツメ、ハクサンシャクナゲ、ミヤマハンショウヅル、タイツリオウギなど素晴らしい。観音岳11:59着、ここも人が多く、すぐに退散、薬師岳12:18。ガスがかかり始め雲ゆきが怪しい、先を急ぐ。中道を下山開始。このコースは深い樹林帯が連続する急下降のコースで体力は消耗する。下降してすぐ100位降ったところで昼食休憩。御座石13:06、途中標高2000～1500m位のシラビソ・カラマツの樹林地帯は明るくなるが、延々とササ原が続き、日照りも加わり、消耗激しい。廃屋手前の水場で小休。廃屋14:25、青木鉱泉14:55着。所要計8時間15分。

## 中央アルプス：木曾福島Bコース～木曾駒ヶ岳

【期日】2013.8.12【参加者】橋本（12期）

木曾福島Bコース。登山口のヒルトップP7:28 出発。快晴、微風、気温16℃。林道終点7:58。幸ノ川の水量多い。4合目8:10、4合目半力水8:31、水は今年はごく少ない。カニコウモリ満開、葉が大きくなったイワカガミ、マイヅルソウ、またセリバシオガマが多い。5合目8:55、6合目9:19、急登が続く。急登が終わり、樹林帯の西側が開けた場所が見晴台で、御嶽山の全貌が見える。7合目避難小屋9:52、ミヤマアキノキリンソウ、カラマツソウなどあり。ここからは御嶽山、乗鞍、穂高まで見える。コースを進むとすぐに東側が開け、木曾駒ヶ岳がそびえて見える。コオニユリ、キタザワブシ、カラマツソウなど高山植物が多い。山姥岩の露岩帯には上部に残雪。8合目水場10:35、水を補給。8合目から上は山は駒ヶ岳からのカール状地形で、付近には特に高山植物が多い。ヨツバシオガマ、ツマトリソウ、ゴゼンタチバナ、チングルマ、ウサギギク、ムカゴトラノオ、キバナノコマノツメ、イワツメクサなど咲き競っている。9合目玉の

窪山荘 11:43、空木岳、山ノ沢岳、西に御嶽山、北に乗鞍、穂高、笠ガ岳など素晴らしい眺め。  
木曾駒ヶ岳 12:13 着。山頂は人が多い。

すぐに下山開始。今年も山頂直下西面にコマクサ小群落。木曾小屋付近にイワギキョウ。昼食休憩。9合目 12:50、8合目 13:25、軽食をとり水補給。7合目 14:03、少しへばり。6合目 14:32、5合目 14:47、へばりは今回、水を多めに消費したためか。4合半 15:01、4合目 15:17、林道終点 15:23、カンカン照りで暑い。ヒルトップP15:47。7合目避難小屋は水洗トイレ、夜間電気があり、宿泊可(数人)。登り4時間45分、降り3時間34分、所要計8時間19分。今夜の宿は須原。

### 丁山地/WC：明神沢～丁岳

【期日】2013.8.14～16【参加者】青谷(28期)、上野(37期)、尾崎(47期)

8/14 新庄 910＝高坂ダム上流明神沢出合 1050～1147 R1 右岸からの支沢 1210～釜のある滝 2つ  
右巻き～1325 R2 1340～巨岩帯、右岸から支沢～1427 R3 ～1530 幕営

今まで全くイメージのない丁山地。鳥海山の雄姿を後ろに見て、未知の山塊に入り込む。穏やかな溪相の谷を進んでいくと、時々大きな釜を持つ滝に出会う。これを楽しみながら、時折、グリーンタフのナメ滝が出てくる。巨岩帯を進み、適当なところで幕とする。途中採ったヒラタケや釣りあげたイワナが夕食をにぎわす。



8/15 釜 600～8m 滝左壁凹角～12m 滝右壁～730 R4 滝上～855 黒滝 915～1010R 30m 滝水くみ～  
1130 ウルイ畑 1148～1210 丁岳 1235～1335 R ～1410 下降点～二俣～1550 ごろ幕営

昨夜は起床時刻も決めずに寝てしまうが、4時半に起き、うどんを食って6時に出発。すぐ、標高460mで右に枝沢を分ける。1P目から釜を持つ8m滝が迎える。左の窪を探るが、そうしなくても直登できそう。念のためザイルを使う。釜を倒木で渡り、左壁の階段状をシャワーをあびつつ容易に登る。500m地点で左右から枝沢があり十字峡っぽくなっている。その奥にまた滝が見える。これも釜がある。先ほどより大きく12～15m。中段にテラスがありその上が立っているように見える。ザイルをまた使い、右壁から取り付くが、思ったよりやさしくそのまま右を直登。大きな倒木が良いビレイ点になる。この場所でレスト。

美しいナメ滝をめでながら遡行する。沢が右に曲がる辺りは、左からのスタレ状の滝が美しい。15mほどの滝を右のルンゼからトラバースして越える。小ゴルジュの中の8m滝は階段状だがホールドスタンスがやや細かいが水流内を登れる。740m地点で左に丁岳直登ルンゼと思われる枝沢を分ける。840mでは右奥にスラブの広がる沢を分け、本流は左に傾斜がさらに強くなる。940mで右に水流の多目のルンゼ上の枝沢を分けると、すぐその上は水量の少ない30m大滝でふさがっている状況。上段は登れそうにないが、中ほどまで右側の熊笹とのコンタクトラインなどを登り、最上段は右を回り込んで落ち口に簡単に降りる。その後は完全に源頭の様相であり、幅の狭いナメスラブに行く。一箇所、滝を巻く。左右どちらも可能であるようだ。見晴らしの良いウレイの群生地です。沢型は消えるので、その場所で休憩。風が心地よいが日射は強い。雁唐山の平頂が大きく見える。15分ほどのヤブ漕ぎで登山道に出て、さらに左に1分ほどで丁岳に登頂した。特別に困難があったわけではないものの、なぜか、3人とも結構疲れていた。

登山道を東へ下る。崖上の見晴らしの良い所で前方の萱森などが立派に見える。さらに下ると右に真室川方面への登山道を分ける。これは我々が昨日入溪した林道のどこかから通じているはずだが、そのスタート地点を確認できなかった道である。1時間ほどの道だがピッチが上がらない。下降点手前の丁岳を見上げる地点で休憩する。そこから最後のピークを越し、14時過ぎに小又川左俣右沢の突き上げ点となる。

とくに何の目標というほどでなく、基本的に地形に従い笹を掻き分けて下ると、すぐに水が出てくる。傾斜は緩いので非常に楽である。大雨の後のせいか、地質的なものなのか、アスファルトのような、または鉾山カラミのような泥が露出、流出している。下流でこの水を飲むのかとちょっと思ってしまう。右から沢を入れ、1回の懸垂下降、小広い谷間や小ゴルジュを過ぎると小又川左俣左沢との二俣となる。まもなく幕営目標の673m地点である。ここは小又川左俣左岸に比高10mほどの低い尾根があり、それを東に乗り越すと小又川右股まで約200mの高度差があるという面白い地形だ。おおらかなブナ林で広がっていて、広々とした所だろうなどと期待していたら、とんでもない。何の特徴もない平瀬であり、左岸はヤブで見たい目はそれなりに高い。幕営&明日の乗り越し地点の決め手に欠き、ちょっと行き過ぎてしまう。結果、左岸771mピークの登り斜面が現れるあたりで引き返し、673m標高点まで戻ってきた。適地はなく、降らないだろうが降ったら浸水しそうな場所に泊まる。薪は周囲にはあまりなかったが、辺りの林内まで行って集めた。先日の雨のせいか、乾いていそうで芯は湿っているようだ。今日も点火には苦労して、最後の新聞紙でようやく点いた。



## 8/16 発 607～650R710～815R830～910 登山道分岐 928～1014 林道 1040～1140 上小又

美しいブナ林を横に見つつ、沢筋を下っていく。兩岸に高く壁が続くが、谷筋は小滝やナメ滝が出てくるくらいで困難はない。魚釣りの誘惑にかられながらも淡々と谷を下り、林道に出た。上小又集落でタクシーを呼ぶ。今後もなかなか経験しないだろう山域への足跡で、また来ることはあるだろうか。隣の弁慶山地とともに、探れば探るほど奥が有ることに気づくエリアだろう。

### 北八ヶ岳： 麦草峠・天狗岳周辺

【期日】 2013. 8. 27～29 【参加者】 橋本（12期）他 4

友人と5人で。8月27日：麦草峠～白駒の池～中山～黒百合平～唐沢鉱泉（所要7時間42分）。8月29日：唐沢鉱泉～西尾根～西天狗岳～東天狗岳～中山峠～白駒の池～麦草峠（所要10時間36分）。一日目に靴底ハガレの隊員発生、応急措置、2日目も同じ隊員で反対の靴底ハガレ、応急措置も不十分。コース所要時間を大幅に超える。悪天候であれば危険であった。靴底ハガレはいかに危険か、大いに反省。

### 飯豊： 梶川尾根～北俣岳～杵差岳～権内尾根

【期日】 2013. 8. 27～29 【参加者】 尾崎（47期）

## 8/27 小国駅 800＝飯豊山荘 929～1026 650m 1038～1151 湯沢峰を下ったところ 1220～1310 滝見場 1328～1410 五郎清水 1420～1455 三本樺

当初、8月23～26日ごろに人の減った北アルプスを考えていた。ところが直前になって仕事が入り、天気予報と再びにらめっこする。前夜発で小国朝8時発の小国町営バスに乗るのは、過去にも数回あり。今回梶川尾根に決めた理由の一つが、緑化資材の荷揚げに参画することだ。また、石転び沢は夏前半まで土石流でかなり荒れていたらしいこと、ダイクラ尾根取付のつり橋が流され数年来復旧していないとの情報を入山前に得て、このルートを選定するに至った。ダイクラ尾根への渡渉は水量によってかなり状況が違ふとのこと、飯豊山荘で確かめた。

しかし、梶川尾根に取り付く前から調子が上がらない。資材をもってあの信じられない急登を登れるだろうか？登山届を出すコンクリート小屋の中に資材はあった。名前と運搬個数を書くようになっていて、菰ネットは1個で5～6kgある。リストによれば、それを一人2-3個持って上がっている人も少なくない。しかし私は1個も持てば十分すぎる重さになった…情けな。超鈍足で湯沢峰まで2時間半、梅皮花滝展望台までさらに1時間。最上部に3本ほどのカンバの生える、梶川尾根の狂ったような急登が見えてくる。その後歩調は少しだけ復活して、五郎清水へ。このあたりから強いにわか雨が来て、だんだん降る時間が長くを占めてきた。五郎清水の広場でテントを張ってしまいたかったが、ちょっと早い。誰か来るかも。尾根上に生えるカンバは、尾

根の傾斜が緩くなった所に生えるので、そこで泊まるとみて登っていく。1時間強でその場に達した。スペースは五郎清水の方が良かったが傾斜はやはり緩い。前方は黒雲だし、15時なのでこれから人は来ないだろうと張ってしまう。よかったよかった・・・と思っていたら、上の方から人の声が。気まずいなあ。10分ほどで4人ほどのパーティが下りてきた。大丈夫ですか！などと声をかけられてしまう。緑化資材（巻き麻ネット）を枕にして寝てみたが、高すぎた。天気予報が変わって東北方面の山は明日昼過ぎぐらいまでぐずつくラジオで言っていた。夜中は断続的に強く降って、ベンチレーターからテント内に吹き込んだ。

**8/28 発 607～640 梶川峰～650R～750 稜線 804～830 門内岳 840～950 北股岳 1004～1053 門内岳 1107～1200 地神山～1252 頼母木小屋 1318～1425 鉾立峰 1438～1505 杵差小屋**

翌朝の天気は予報通りガスだった。降っていないのは幸いか。梶川峰を越え、ようやくデポ地で資材から解放された。楽になったと思いザックを背負えば、重さの違いわからなかった。さらに1時間ほどで主稜線分岐に着くが、まだまだガスガス。門内岳から北股岳へ往復に出てようやく天気が回復し気持ち良くなってきた。引き返して頼母木小屋で十分に水を汲み、鉾立峰を頑張っ

**8/29 杵差小屋 658～杵差岳 716～755 前杵差岳 824～910 千本峰 9401046 カモスの頭～1252 林道 末端 1312～1405R1415～1412 大石ダム～大石集落**

権内尾根から大石までは地図で長い。下るにつれて気温が上がり、東俣川では晩夏のセミの音がすごかった。東俣川の橋を渡り登り返すと、三吉ノ沢手前はブナ林は良い幕場となっている。林道を歩き、大石ダムを左に見て、大石集落へと下山した。

**南アルプス：黒戸尾根～甲斐駒ヶ岳**

**【期日】2013.9.10【参加者】橋本（12期）**

朝の駒ヶ岳竹宇神社P気温17℃、晴れ、微風。例年同様、黒戸尾根を登る。朝食をとり、明るくなるのを待って5:14出発。昨日雨が降ったようだ。担々とはあるが、急坂が続く。笹ノ平分岐点6:34、刃渡り7:43、八ヶ岳全山と地蔵岳が見える。刃利天狗8:00。黒戸山の北斜面をトラバースし、下降がはじまると5合目小屋跡である8:33。しばらくハシゴ・クサリ場が続くが、付近にはセリバシオガマ、ミヤマアキノキリンソウなどが咲いている。七丈小屋9:22で水を補給。再びハシゴが続く。クロトウヒレン、オトギリソウが咲き、ナナカマドの赤い実が美しい。樹林帯を抜け、ハイマツ帯に入るとライチョウウゝが前1m位のところをチョコチョコ歩いている。写真におさめる。甲斐駒ヶ岳10:57。山頂は多人数、にぎやかである。濃いガスとともに雨が降り始めたので、写真をとってすぐに下山開始。8合目御来迎場11:48、付近でイワヒバリを撮影、七丈小屋近くのテント場付近で昼食。七丈小屋12:21、5合目小屋跡12:51。15人くらいの中高年のにぎやかなパーティーが登ってくる。刃利天狗13:18、小休。軽食。刃渡り13:37、

雨後の南東方向甲州街道方面がくっきり見える。笹ノ平 14:18。大分消耗してきた。駒ヶ岳神社 P15:17 帰着。登り 5 時間 4 3 分、下り 4 時間 2 0 分、所要計 1 0 時間 0 3 分。

## 南アルプス： 広河原～北岳

【期日】 2013. 10. 14 【参加者】 橋本（12 期）

バス待ちでまだ暗い奈良田は満天の星空。快晴、9℃、無風。白峰三山縦走予定で、2 日分の装備でザックは重い。広河原 6:21 出発、黄葉が始まった大樺沢と北岳がよく見える。白根御池分岐 6:40、大樺沢をつめる。左右から流れ込む沢の水が多く、大樺沢の水量が多い。二股 7:52、右股コースに入る。ハエマツとナナカマドの赤い実がすばらしいコントラスト。甲斐駒ヶ岳と鳳凰 3 山がまじか。白根御池方面分岐 9:10、急坂を登り切って小太郎尾根稜線 9:24、仙丈ヶ岳が雄大、北岳肩の小屋 9:52、北岳 10:26、微風だが台風 2 6 号の接近が予測され、明日は曇り～雨である。台風は平地よりも山では早く影響が出ることもあるので、予定の縦走を取りやめ下山することにする。山頂で軽食をとり、付近で多数の写真を撮り、下山開始。肩の小屋 10:59、下りは白根御池コースをとる。ここは急下降が続く。草スベリは現在は茶褐色で夏のにぎやかさはない。しばらくすると下方に白根の御池が見えてくるが、なかなか近づかない。白根御池小屋 11:55、改築されたばかりらしくこぎれいな山小屋である。急下降でへばっているところ、ここから幾分の登りがある。いりこんでいる沢の高巻きである。再度急下降が始まる。大樺沢との分岐 12:59、広河原 13:17。 14:00 発のバスに乗り、奈良田で日帰り入浴し、帰途に就く。登り 4 時間 5 分、下り 2 時間 5 1 分、所要計 6 時間 5 6 分。

## 上越： 天神尾根～谷川岳

【期日】 2013. 11. 30 【参加者】 杉坂（他）、尾崎（47 期）

天神尾根はトレースばかりだったが、雪を踏み、トマの耳からオキの耳までの間はアイゼンを使い、季節初めとして慣らしになった。ポピュラーな分安心感があり、そして上越の落ち着き感もあり、初冬の景色に心が洗われた。北アの方は雪雲の中だったが、上越の天気はとてもよく越後や会津の山が良く見えた。

天神平に戻ってから、小一時間（15 時半～16 時半）ほど雪崩ビーコン（アバランチトランシーバ）のトレーニングをする。やはり久々やると、ピンポイントが難しいことを思い出す。雪崩の規模によるだろうが、第一搜索はザックを背負ったままビーコンに従って該当エリアまで行く、そうでないと自分のザックを失ったり、必要なものを置き忘れてきたりする可能性もあること。そのエリアでプローブ（ゾンデ棒）とスコップを出して搜索すること。人間の体の大きさと埋まり方の向きによって強い電波の向きが変わるので、ピンポイント時はビーコンは水平が良

いと限らないことなど、短時間でも実践的な練習ができ充実感のある1日だった。

## 中央アルプス北端/VR：坊主岳～仏谷～経ヶ岳

【期日】2014. 3. 15～17【参加者】尾崎（47期）

**3/15 奈良井駅～天照沢 920～1110 ワカンつけ 1340m～1158 1530m 小平地～1230 1649m 標石～1430 ごろ坊主岳北峰～1535 坊主岳南峰幕営**

これまで坊主岳西面の奈良井ダムに落ちる複数の尾根を夏冬4回偵察してきた。今回の天気予報には問題ない。休暇も確保し時間もある。行ける自信をもって入山できた。奈良井宿を通り抜け、天照沢集落から南東へ延びる尾根を登る。これは初めて登る尾根だが大丈夫だと見込んでいる。1649mではいったん平坦になった。坊主岳北峰に着くと南東にめざす経ヶ岳が大きく見えた。南峰まで案外遠くてつらい。幕営地は雪の展望台で春山を満喫する。



**3/16 発 635～724 1770m 鞍部～844 1870m キレット手前 903～1005 2020m 仏谷手前平坦地 1020～1149 仏谷～1153 R～1300 左折地点過ぎた鞍部 2098m 1316～1355 2190mピーク南東**

朝は快晴だが午後は気圧の谷通過の予報である。ルートの雪はワカンを履けば4-5cm 潜る程度の軽いラッセルで問題はない。順調に進み、キレットと言われる1870m付近も岩が少しあった程度で問題無かった。2020mから尾根が広がるころ、上空に薄雲がかかってきた。2184mの仏谷というピーク付近からガスに巻かれて小雪となった。ここから稜線は小ピークが連なり左右に屈曲するためルートファインディングには不利な条件となったが、良い雪質に助けられ、地図上で進捗を把握しながら進むことができた。2180m手前の小ピークに登ると、針葉樹林の平坦地にしんと雪が降るようになった。概ね、南西からの尾根が合流するとみた地点にて風の少ない地点で少々早い幕営とした。

**3/17 発 715～809 ワカンつけ 818～841 経ヶ岳 902～1005 八合目ワカンはずし 1020～1055 七合目～1145 四合目上 1204～1249 1260m 小屋 1310～1340 仲山寺 1350～1416 西箕輪バス停**

快晴。一投足で経ヶ岳頂上に到達した。下りはややルートファインディングを要した。仲山寺からバスで伊那へ出て、ついに中ア最北端エリアの山行が完結した。



# 2014 年度

|         |       |
|---------|-------|
| 会長      | 松本 哲郎 |
| チーフリーダー | 上野 午良 |
| サブリーダー  | 尾崎 宏和 |
| 会計      | 上野 利之 |
| 都岳連関係   | 上野 午良 |
| 記録・会報   | 渡辺 喜仁 |
|         | 尾崎 宏和 |
|         | 灘吉 聡  |
| 装備      | 灘吉 聡  |
| 西高係     | 山野 裕  |
|         | 博多 誠  |
|         | 中谷 航  |
| ホームページ係 | 灘吉 聡  |
| 超OB係    | 松田 稔  |
|         | 黒澤 隆  |

## 伊豆諸島：三宅島ツアー

【期日】2014. 5. 23～25 【参加者】黒澤、松田、小川、山野、松本夫妻、青谷

昨年の西朋祭で、黒澤さんより今度三宅島を案内してくれというリクエストを受けたので、最もお勧めの5月に企画してみました。〇〇(;ナイショ)の目標は、予想外の強風にたたられてしまいましたが、楽しい島旅になりました。参加者とのメールのやり取りと写真で内容を想像してみてください。

(青谷)参加者の確認です。現在のところ、黒澤、松田、小川、山野、松本(2)、青谷の7名です。みなさん、よろしくお祈りします。これからの参加申し込み、もしくはキャンセルがありましたら、至急お知らせください。30日で予約等確定したいと思います。

23日(金)集合 竹芝桟橋待合室 21:30 22:20 発三宅島着 5:00、25日(日)14:20 三宅島発東京 20:50 着です。往路 特2等、帰路2等座席 往復で17980円

およその内容は、24日大路池周遊(早朝バードウォッチング?)、アカコッコ館、一周ガイドツアー、三池～サタドー岬～ひょうたん山～椎取神社～火の山峠～島役所～大久保浜～伊豆岬～阿古溶岩遊歩道～新鼻新山・新瀨池跡～温泉(車で回り、随時降りて歩きます)25日(早朝ハイキング)、雄山林道～七島展望台周辺～コシキの穴。コースは、天候や皆さんの希望に合わせ、柔軟に組み合わせたいと思います。5月の三宅島は野鳥のさえずりもにぎやかで、スタジイの新緑が輝き、1年でも最も美しい季節です。宿は、新鼻荘 坪田 4214 04994-6-1547 1泊+朝食休憩 9600円、費用は、その他に昼食代・レンタカー代などで一人3000円程度かと思えます。持ち物等は、ハイキングできる足回り、雨具など

(黒澤) 偶然ですが先ほど友人から「灘の蔵本・太田酒蔵(友人に依ると太田道灌3代目とゆかりの)の大吟醸・技匠」の一升瓶を貰いました。私はまだ飲んだ事はありませんが、友人に依ると酒米・山田錦を使って昔ながらの手造の酒で大変美味しいそうです。今度の三宅島に持って行きますので24日の夜にでも皆で飲みましょう。

(青谷)皆さん いよいよ明後日に迫ってきました。天気予報もバッチリで、雨の心配もなく楽しめそうです。24日の星空や25日の早朝登山も大丈夫でしょう。双眼鏡があれば、いろいろ楽しめるでしょう。予定通り、21:30に竹芝桟橋の待合室、正面右手の切符売り場周辺にお集まりください。この日の船は、けっこう混んでいるので人が多いかもしれませんが、見つけてください。私はこの日、鎌倉への遠足で、横浜で打ち上げしてから直接行きます。切符その他は手配済みですので、何らご心配なく。

(小川)青谷様 三宅島行き、すっかりお世話になっています。すべてお任せ状態ですが、よろしく。明日からの3日間、楽しみにしています。

(松本)青谷さん準備ありがとうございます。移動高がばっちり覆ってくれており、最高の島旅が楽しめそうです。カミサンが足手まといにならないようにならないかが心配です。皆さま、よろしくお祈りいたします。



(黒澤) 青谷様、皆様；ありがとうございました。感動と「目からうろこ」の2日でした。地球の中が少し見えたような錯覚を楽しんでいます。また、旺盛な植物たちの姿に感激です。写真は阿古溶岩流にあった1pだけのユノミネシダです。すごいですね。帰宅後、湯峰温泉のユノミネシダの自生地は、国の天然記念物指定と知りました。とりあえず写真2枚添付して、御礼状とします。またよろしくお願ひします。

(松田) 皆様、本当に楽しい三宅島でした。特に青谷様のサービス精神には深く感謝致します。50何年かぶりに学生に戻った気分になれたのも良い思い出でした。これも青谷さんの周到な準備に感謝です。私も黒澤さんに習ってサタドー岬と伊豆岬の写真を貼付しお礼状にしたいと思ひます。有り難う御座いました。

(小川) 谷様、皆様 三宅島では大変お世話になりました。以前から長い間青谷君には「三宅島を案内して」と気楽に言い続けていましたが、三宅島の第一人者に案内を頼んでいたことに、現地に行つて初めて気がつきました。お陰で本当に充実した素晴らしい旅でした。行く前は何度読んでも頭に入らなかった「サタドー岬」、「三七山」、「ひょうたん山」、「椎取神社」などなどいまではすっかり馴染みの地になりました。島ごと火山博物館になっている三宅島に想像以上に興奮し、大満足でした。とりあえず写真1枚を添付しました。皆様、本当にありがとうございました。

(松本) 三宅島、とても充実した旅行でした。カミサン共に、感謝しております。自然のすばらしさと共に、火山と共に暮らす事の大変さを思い知らされました。皆様からおくっていただいた写真については、西朋のアルバムにいれさせていただきます。

(山野) 青谷様、皆様、三宅島とても感動した旅でした。青谷さんのガイド本当にありがとうございました。火山と共に暮らす事の大変さを思い知りました。写真を送ります。

(黒澤) 皆様；「青谷知己著 三宅島ジオスポット」の「抜粋海賊版」を暇に任せて作りましたのでお送りします。ご笑納ください。青谷先生の名講義の復習の一助となれば幸いです。なお、本件、原著者の承認は全く得ておりませんので、取扱い慎重をお願いします。

(小川) 黒澤様 昨日「青谷知己著 三宅島ジオスポット」の「抜粋海賊版」届きました。

我々の三宅島訪問のエッセンスが凝縮された貴重な資料ですね。これで青谷教室の一員になれた気がしてきました。本当にありがとうございました。

(松本) 黒澤さま、こちらにも届きました。改めて読み返してみ、火山の勉強をやり直しています。現地では読み飛ばしていたことも沢山あり、大変勉強になりました。ありがとうございました。

---

**道志：道坂トンネル～今倉山～菜畑山～赤鞍ヶ岳～二十六夜山～  
立野峠～梁川駅 【期日】2014.5.28【参加者】尾崎（47期）杉坂（他）**

---

本山行は近郊の日帰り域であるものの、道志中心部の少々不便なエリアを含んでいて、課題のまま残っていた所に行くものだ。行くならを日の長い時期に一気にロングウォークだと考えていた。今回、これを実行に移してみた。

富士急行の都留市駅から道坂トンネル手前までバス。おばちゃんハイカーたちに埋もれながら登りだす。こちらは梁川駅まで先は長い。トレーニング山行なのでどんどん抜かせてもらう。今倉山から右折すると、ほとんどの人を抜いて静かになった。右手に見える丹沢北面では沢筋が白い。雪？ 菜畑山から下る尾根左手の窪に、まさに雪渓が残っていた。本当に沢筋が長く白く埋もれている。2月の大雪の名残だろうか。こんな山域のこんな時期に驚きだ。赤鞍ヶ岳 1300m の最高地点まではアップダウンが大きい。織りなす山並みをいくつも越えていく。赤鞍ヶ岳から秋山二十六夜山への地図読みもおもしろい。二十六夜山という名から一度は行くべしと寄り道する。今倉山西側の二十六夜山にも往復してつなげたら、もっと良かっただろう。二十六夜塔に一礼し、北面を下ろうとするが道がわからない。946 ピークまで戻っていったん無生野に下りることにする。この地名も伝説めいた響きがあって気になる。大月の恵能野とか間明野しかり。

最後の締めは立野峠越えとなる。峠への登りはつらかったが、峠に立った時、自然に包まれた安堵感は良かった。山域を面としてとらえ縦横無尽に駆け巡った喜びがある。そして、時間と残り行程に注意を払いながら進むのは、単なるハイキングとは違う緊張感が漂っていた。梁川駅には 17 時過ぎ、明るいうちに到着。さわやかで達成感のある山行となった。

---

**南アルプス：畑薙ダム～聖岳 山地保全事業参加  
【期日】2015.7.19～21 【参加者】橋本(12)、他**

---

7月19日 畑薙ダム上部の聖沢登山口から出発 7:27。天気は曇り、無風。すぐに急登 200m が始まる。出会い所小屋跡 7:54、ややだらだら下りで聖沢吊り橋 8:39、再度急登 400m で造林小屋跡 9:42、久しぶりの重量ザックでへばる。急登が終わると勾配は緩くなり乗越着。右手奥が 2011m ピーク。岩頭滝見台で聖沢の滝が見える。林床にはオオイワカガミ、マイヅルソウ、ウスユキソウ、ハハコグサ、オトギリソウ、キバナノコマノツメ、オサバグサ、ヤグルマソウなどあり。ギンリョウソウ、アズマシヤクナゲも開花中。聖平小屋 12:57 着。13:00～小屋上部の三叉路付近の防鹿柵の雪害破損個所の補修工事、15:00 終了。

7月20日 朝 12℃、曇り無風。聖岳山頂付近の保護ロープ点検、修理に出かける。5:33 出発。急速に天気回復。 薊畑 5:57、付近は高山植物が多い。シナノオトギリ、シロバナノヘビイチゴ、ミヤマキンバイ、シナノキンバイ、ミヤマキンポウゲ、タカネグンナイフウロ、キバナノコマノツメ、ハクサンフウロ、ヨツバシオガマなどが見事である。バイケイソウ、マルバダケブ

キも群生している。ダケカンバが新緑でハイマツの雄花の赤色が目立つ。また、タカネシオガマが群生しており、ミヤマダイコンソウ、ハクサンイチゲ、ミヤマオダマキ、イワベンケイ、イワオウギなどがある。小聖岳 6:40、正面に大きな聖岳、後方に茶臼、東に上河内岳が見える。聖岳の登りはカンカン照りの中をきつい登りが続く。急斜面のコースわきにオヤマノエンドウの濃い紫。前聖岳 7:37、雨上がりのため素晴らしい光景。前方に兔岳と右手奥に赤石岳、東方に富士山、南方に光岳まで望める。奥聖岳の途中で保護杭やロープの点検と補修。キバナノシャクナゲ、ミネズオウ、イワウメ、イワヒゲが咲き、雪田付近ではヨツバシオガマ、ハクサンフウロ、奥聖岳山頂付近ではチングルマ、アオノツガザクラ、イワウメ、イワヒゲが咲いている。湿ったところではムシトリスミレも散見された。前聖岳 8:20、小聖の下降ヤセ尾根では開花中のイワベンケイの大群落、小聖岳 9:10、天気は急速に悪化、薊畑 9:48、聖平小屋 9:58。12:00～聖平小屋上部の三叉路付近の崩壊地で土壌移動防止ヤシマット貼り付け工事。14:00 終了。

7月21日 薄曇り。生木割山より朝日が昇る。5:33 小屋出発。岩頭滝見台 6:22、乗越 7:03、コース途中にはオオイワカガミ、マイヅルソウ、ゴゼンタチバナ、カニコウモリ、ヤブレガサが多く、ミヤマカラマツ、モミジカラマツも咲いている。聖沢吊り橋 8:07、出会所小屋跡手前から左へ分岐すると冬季用の奥聖岳東尾根ルートがあるらしいが見逃した。小屋跡 8:50、聖沢登山口 9:13 着。

---

### 南アルプス：茶臼岳・上河内岳

【期日】2015. 7. 26～27 【参加者】橋本(12)、他

---

7月26日 畑薙ダム上部の茶臼岳登山口 6:09 出発。天気は晴れ、微風。全長 182m の畑薙大吊橋を渡る。渡り終わると急登が始まる。ヤレヤレ峠 6:33、ここから下降してウソッコ沢に出、吊り橋を3回渡り再度急登が始まる。急なザレ場を過ぎ、しばらくするとウソッコ沢小屋(無人)である 7:33。上河内沢を通過して急坂が続く、中の段 8:24、非常に暑い。引き続き登りが続き、横窪峠 8:46、横窪沢へ下り、横窪沢小屋 8:52 着。さらにジグザグの急坂が続く、樺段 10:28、この急坂でバテる。茶臼小屋 11:16。小屋付近は高山植物が多い。ハクサンフウロ、タカネグンナイフウロ、オトギリソウ、シナノキンバイ、ミヤマキンボゲ、ハクサンチドリ、オタカラコウ、マルバダケブキ、バイケイソウ、イワカガミ、ミヤマダイコンソウ、エゾシオガマ、ミヤマカラマツ、クルマユリなど。作業までに時間があつたので、茶臼岳に向かう。11:58 茶臼小屋出発、縦走路でライチョウ親子に出会う。聞くところでは、茶臼岳付近にライチョウの営巣地があるらしい。タカネバラが多い。茶臼岳 12:30 着。西寄りの風が強くガスがかかっており、何も見えない。12:58 茶臼小屋帰着。13:00～小屋裏斜面で防鹿柵とネット張り工事、15:00 終了。

7月27日、工事が終了したので、上河内岳へ清掃登山に出かける。朝から風が強く昨日から断続的にガスがかかっている。茶臼小屋 5:08 出発、縦走路 5:19、濃いガスと西からの強風だが寒くない。すぐに二重山稜帯に入る。ミツバオウレン、ツマトリソウ、キバナノコマノツメの大群落。ハクサンシャクナゲ、イワウメ、アオノツガザクラ、チングルマなどが咲いている。ここをぬけると再度ハイマツ帯となり、引き続き西からの強風とガス。一瞬ガスが晴れ、前方に聖岳

の雄姿。2つの奇岩が立っている奇岩竹内門 6:08、上河内岳の肩 6:26、上河内岳 6:33。小休後下山開始。肩 6:44、奇岩竹内門 7:01、二重山稜帯ではヨツバシオガマ、エゾシオガマ、タカネバラなどが咲いている。茶臼小屋帰着 8:03。軽食・小休後、茶臼小屋 8:02 出発、樺段 8:46、急下降の連続、横窪沢小屋 9:23、小休。横窪峠への登りがあり、峠 9:39、中の段まで再度急下降、中の段 9:53、ウソッコ沢小屋 10:10、天気回復しカンカン照り、暑い。吊り橋3つを渡り、再度登りとなり、ヤレヤレ峠 11:14 着。大吊橋を渡り、茶臼岳登山口 11:37 帰着。

## 北アルプス/WC：水殿川大東沢～小嵩沢山 【期日】2014.7.26～27【参加者】尾崎(47期)

このルートにいつ気付いたのか思いつけな。しかし、小嵩沢山という穂高前手の茫洋たる山塊は、また別の魅力を醸し出している。地形図を見るほど縦横無尽に歩き尽くしたい気持ちが湧いてくる。地図の限りこの辺の沢も尾根も、大きな問題はなさそうだ。インターネットには水殿川大東沢の記録はわずかにあって、上部に1か所滝があるようだったが、これは気を付けなければならぬが、一人で行ってみることにした。



山の装備をしているのに、上高地行バスを水殿ダムで降りると言うと、運ちゃんには不思議な顔をした。ダム堰堤は夏の日差しが暑かったが、作業用トンネルを越えて沢に入ると風が心地よい。ここから取水口までは道があるのでこれを使う。途中、釣り人2人パーティとすれ違う。明瞭な支流が左右より入るごとに休みを取るイメージで沢歩きを継続するが、ペースが上がらない。15:40、大東沢出合に到達し、良い場所を見つけたのでツェルトを張る。テントと違って幕営に手間取ると、薪集めなどで小一時間を要してしまった。

翌朝、沢は傾斜が増してきたが問題となる箇所は無く、昨日より歩程も順調に上の三俣まで登る。ここで左俣に入る。しばらく行くと2段ほどの例の滝が現れるが、さほど問題はなさそうだ。右側に取りつく。しかしもっと安全なルートがあるにもかかわらず、余裕を気取って少々足場に無理して、小さく滑落してしまう。小さくとはいえ下手したら大変なことになるので、反省する。改めて慎重に登った。その後沢筋はいつしか単調な笹漕ぎとなる。稜線に出て、マークを残して右折すると、やや藪の濃い所もあるが、頂上直下は踏み跡らしきも見受けられた。20分ほどで小嵩沢山頂上に至る。9:43 到着。

3分ほどの滞在ですぐ下山を始める。沢源頭の単調な笹地帯で時雨に見舞われ結構濡れる。滝はクライムダウンもできそうだが、念のため懸垂下降した。幕営地に戻ったときは少し安心

した。しかしこれから歩く距離も長い。平沢とはいえ水量がそれなりにある下りは、光の反射の加減か歩きにくい気がした。歩くペースも今回は登り下りとも遅いのだが。途中2匹子連れの熊がいた。やがて左岸に延々と軌道跡があるのを発見し、驚く。結局これを桂立沢と池の沢の間伝うことで時間短縮できた。あとは心軽くスムーズだった。バス停についたらちょうど4-5分後にバスが来て、帰途についた。

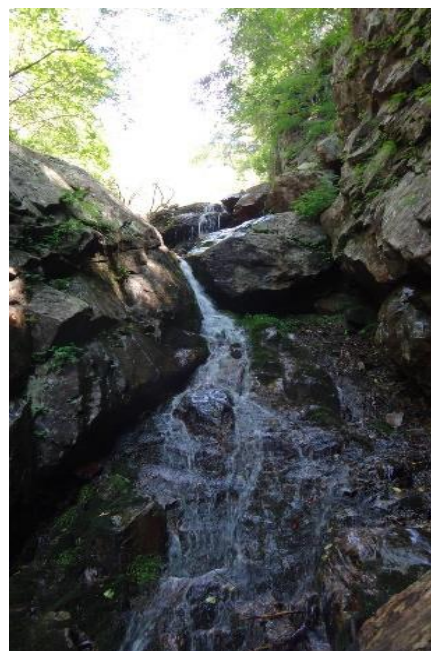
その後2015年になって、岳人に水殿川から徳本峠を目指す記事が出た。この軌道のことにも触れられていたが、その記事の筆者も軌道の存在は知らなかったようだ。

## 大菩薩/WC：赤岩沢～黒岳～黄蓮谷下降

【期日】2014. 8. 25 【参加者】青谷(28)

前々からルート集に紹介されていた赤岩沢が気になっていたもので、半日程度の沢遊びにと出かけてみた。帰りはそのまま下るのも味気ないと考え、名前が立派なすぐ北の沢を下ってみた。

大峠に車を置き、登ってきた林道を南に戻る。まもなく橋がかかり、その下が赤岩沢というわけだ。橋の手前から簡単に沢に降りられる。小滝をいくつか越えて行くと、核心部の滝に出る。兩岸が切り立ち、ナメ滝の細い流れの中に大きなチョックストーンが挟まっている。手掛かりが乏しいが高度感はないので、むりやり体を割れ目に押し込み、体を引き上げれば何とか越えられる。その上は大きなガレとなり水流が2つに別れる。より低い方を選んでいくと、一気に源流の様子に変わり、スラブ状になってくる。できるだけ岩っぼい所を進んでいけば、背後も開け気持ちが良い。それもほどなく終わってくるので、左の黒木の中に逃げれば、斜面をひと登りで、黒岳山頂に至った。



誰もいない静かな山頂を独り占めする。下山はしばらく尾根道をたどり、大峠方面に入って間もなくの北斜面を適当に下っていく。岩がぐずぐずして、やぶや虫の類で快適とは言い難かったが、水流がまとまってくると、苔むした小滝が出てきて、そこそこの沢になる。5mほどの滝をいくつか下ると、大峠からの林道に出る。林道の下は滝場になっている気配。小金沢本谷の源流部にあたるこの沢は、ダムや林道ができる以前には、魅力ある沢の源流部を構成していたのだろう。美しい大木や花にむらがるアサギマダラなどを観察しながら、しばらくで大峠の駐車場に戻った。

## 船形山/WC 笹木沢下降～大倉川本流鬼口沢

【期日】2014. 8. 13～15 【参加者】青谷(28)・松本(28)・上野(37)・尾崎(47)

船形山の懐を沢から沢につないで山頂に至る。充実するも気の抜けない緊張感に満ちた山行ができた。

### 8月13日

黒伏山南の林道をたどり、終点でテント泊

### 8月14日

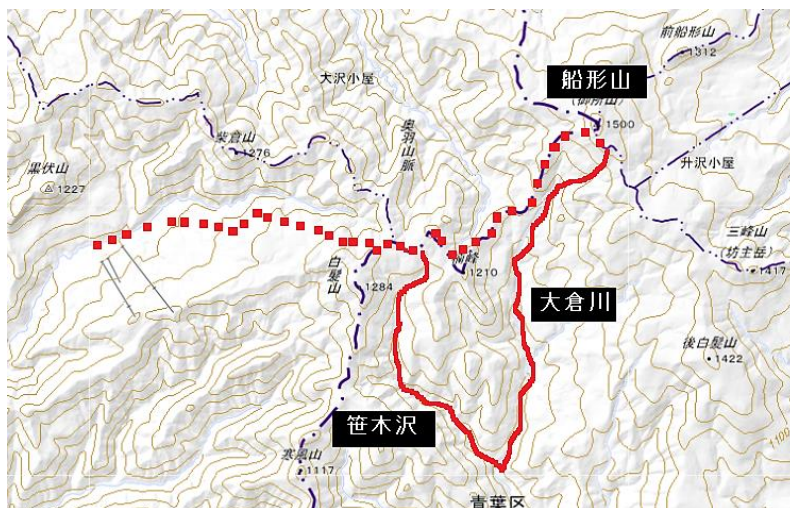
駐車場 5:55—仙台カゴ下  
下降点 6:55—大滝 9:15～  
35—大倉川出合 11:45～

12:00—R 13:45～14:00—赤倉沢出合 15:00頃

緩やかな登りから、仙台カゴの真下あたりより緩やかな沢筋を下降する。いくつかの滝を下っていくと、豪快な大滝がかかる。右岸を懸垂下降で下る途中、下から登ってくる2人パーティと交差する(後ほど遭難騒ぎになった)。滝場をやりすごすと、しばらくで大倉川出合に達する。ここから大倉川本流を登り返す。まもなく大釜を持つ15m滝に行く手を阻まれるので、右から大きく高まき、懸垂下降で下る(ここでカメラを紛失)。1Pほど単調な川原を行く。ほどなく赤倉沢の出会いに達し、ここで幕場とする。火おこし組に任せ青谷は釣り糸を垂れる。沢沿いのどこでも魚の反応があるが小さい。本流の少し先に大きな釜があったのでそこでそこそこの2匹を釣り上げてテントに戻る。

### 8月15日

発 6:00頃?—ゴルジュ出口 900m地点 8:45～  
9:00—鬼口沢二股 9:35—船形山稜線—船形山—駐車場



笹木沢下降 懸垂下降が何か所がありました



流心までのトラバースが微妙に緊張



5m滝を越えていくと、兩岸のスラブが高く  
なり、壮大なグリーンタフのゴルジュとな  
る。小釜を作るナメ滝がどこまでも続き、魚  
影も濃い。最後のかぶり気味の滝をザイルを  
出して越えていくと、美しいゴルジュが終わ  
る。鬼口沢になり、二股を右にとると大した  
藪こぎもなく船形山の稜線に飛び出す。曇り  
ながらも遠くまで見渡せ、我々だけの山頂を  
満喫した。沢筋はほんとに素晴らしかった  
が、駐車場に着いたときは精魂尽きた感じだった。



## 北アルプス／VR：黒部ダム～剣岳北方稜線～早月尾根

【期日】2014. 9. 20～22【参加者】岡田(30)、尾崎(47)

1週間前には天気予報が懸念されたが、数日前になって好転して喜ぶ。初日、黒部ダムから内蔵助乗越経由で真砂沢までの道のりは意外ときつい。黒部川から内蔵助平の間は数年前に通行止めになったが、その際の崩落個所を思しき場所もあった。内蔵助乗越から見上げる剣は秋の装い真ただ中だ。

2日目、暗いうちから歩き始める。昨日も今日も歩き始めは下りというのは珍しいかもしれない。二股の吊り橋で朝日に染まる三ノ窓雪渓とチンネを見上げる。本場アルプスにいるようだ。仙人山へ登るに従い小窓雪渓や北方稜線がよく見えてくる。稜線に出た所と池の平で休憩。剣を背にした紅葉が素晴らしい。池の平山からは、昔モリブデンを採掘したという鉱山道をトラバースする。モリブデン鉱らしきを見ることができた。小窓雪渓とトラバース道の接点は、ザレっばい。下山時はこのトラバース入口は見逃しそうだ。小窓雪渓は氷河であると学術的に証明されたので、この上を歩くことも今回の目的の1つだ。わざとアイゼンをつけてみた。しかし見た目はただの雪渓である。小窓からの稜線にも人は多く、道はしっかりしていて、小窓の王手前までは問題なし。小窓の王を富山側から巻き下るところも幅広のバンドで落石を起こさないよう注意して下り、難なく三ノ窓に到着してしまう。まだ14時前だがここで幕とする。見上げるチンネ左稜線のクライマーがうらやましい。16時過ぎごろだったか、翌日のチンネの偵察だという2人パーティが池ノ谷ガリーを降りてきた。

3日目、このパーティが再び降りてくる前に池ノ谷ガリーを登りきるべく早出をする。登り切った所は西風が冷たい。長次郎右俣を昨夕の2人が登ってきた。稜線の岩場は注意を要するが、レベルは容易でロープは不要だ。頂上が迫ってくる。長次郎雪渓左俣が突き上げるコルへの下りは少し急なので、ここは懸垂下降とした。最後の急登で無事剣岳に到着。ちょうど、剣沢からの登山者も到着する時間帯となり、頂上は混雑した。下りは早月尾根を選定。地元富山の高校生が、ワンゲルだろうか、早月小屋テント泊で来ているのに出会った。15時過ぎに馬場島に下山。

## 上越：西黒尾根～谷川岳～田尻尾根

【期日】2014.11.16【参加者】尾崎(47)

東京を始発で出て、土合駅の階段を登り、登山センター前を9時に歩き始める。都会はまだ秋の盛りで山の麓も雪はない。しかし稜線は雪雲に隠れ、上空の風の音に、冬の到来を感じる。

マチガ沢経由の道を合せるぐらいまで登ると、ホワイトアウトの中で雪稜が続くようになる。ガスった前方の急斜面の様子はもう完全に冬山だ。先行トレースを付けてくれていた人が、ワカンがないので撤退といって降りてくる。ここから気持ちの逃げ場がなくなったのか、むしろ順調だったと思う。かえって無心になったのだろう。頂上小屋近くにあるケルンが左下にぼんやりと確認でき、しばらくして天神尾根からのトレースに合流した。14時頂上。トマの耳からオキの耳まで往復し、天神尾根を下山する。田尻尾根を下って17時前にロープウェイ下の水上行バス停まで歩きつく。1泊したかと思えるような充実感だった。

## 南アルプス：仙丈ガ岳～地蔵尾根下降

【期日】2014.12.27～30【参加者】青谷(28)・松本(28)・尾崎(47)

昨年末に続いての冬山参加である。今回もまた、年末の低気圧通過が予想され、無理ができない状況になった。小太郎尾根から北岳までの遠大な計画は、仙丈東尾根に変更され、さらに日とって、仙丈ヶ岳への一般ルートから地蔵尾根下降へ。悪天により北岳では遭難も発生。結果オーライであったが、体力と気力が試される山行となった。(青谷)

### 12月27日

戸台に着いたのが昼近く、河原の入山口で登山届を済ませる。無風快晴で上々のスタート。はるか甲斐駒の稜線も見え、登高意欲を掻き立てられる。戸台からの登山道をたどるのは何年ぶりか。遠く吉田の双児沢での滑落救助以来となれば、何十年ぶりということになるだろうか。そういえば鋸尾根をたどったのも、はるか記憶の彼方である。

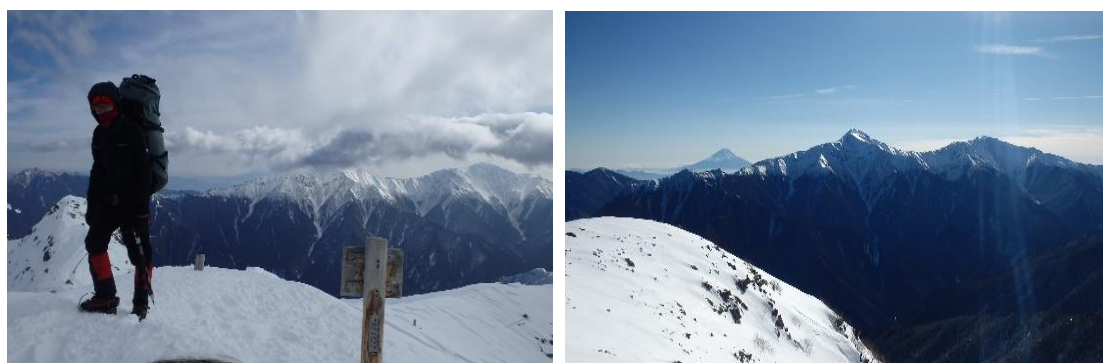
いくつかのパーティと前後しながら、薄く雪が積もった川沿いを進む。3pで丹溪山荘前。ここよりアイゼンを付け、急登に入る。2pで抜けるもただらとした登りが続く。陽も傾き始め、林道が横断する頃には、すっかり暗くなってしまった。ヘッドランプをつけ、思いのほか時間がかかって北沢峠にたどりつく。先行者のテントや小屋などを横目に見ながら、仙丈への登山口の少し先の台地にテントを張る。思ったより雪が深く、この先の林道にはトレースはない。東尾根に取り着くまでの行程が思いやられる。天気予報は、明日後半からの悪天を告げている。寝ながらあれこれ考える。突入して、悪天につかまったらまた林道に戻ってこられるだろうか？東尾根のテント場は、安定しているのか？

### 12月28日

朝出した結論は、少なくとも仙丈ヶ岳に登頂すること。そして悪天でも可能でしかもチャレンジ感のある地蔵尾根を下ってみようというものだった。トラバースして取りつくルートから山

頂に向かう。先行者もありラッセルにはならないものの、重荷を背負っての急登にピッチが上がらない。見覚えのある森林限界に出ると、北岳や富士山が美しい姿を見せている。背後に甲斐駒や鋸岳の稜線が鋭いラインを見せる。小仙丈の大斜面、右手にカールと思いのほか迫力ある景色が展開する。アイゼンが小気味よく決まり、滑落しないよう慎重に進むが、ばて気味の体が悲鳴を上げている。

ようやく東尾根が合流し山頂にたどり着く。峠から軽装でアタックしたグループはほぼ下山の途に着き、山頂に着いた我々は最後の登頂者になった。風雲急を告げ、怪しい雲がわき出し風も強まってきた。ゆっくりする間もなく、地蔵尾根に踏み込む。途中地蔵尾根を登ってきたという大学生グループとすれ違ったので、トレースが期待できることは安心材料になった。荒れた風景がひろがる上部斜面をかけ下り、尾根らしくなったところで、大休止とし、ひと息つく。岳沢が食い込む西壁と、青い氷柱が印象的。はるか昔、岳沢を登ろうという計画も考えたなあ。今はちょっと体力気力とも足りない。まもなく広大な雪の斜面を下ると、森林地帯に入って一安心となる。三峰川源頭を左に見て、2422m地点を越え、緩んだ尾根に格好のテントサイトを見つける。



## 12月29日

予想通り、しんしんと雪が降り続ける。すっかりテントも埋まった。トレースも消えたことだろう。雪の降り方と今日の行動を見計らいながら、様子見で時間が経過する。ようやく小降りになったのを機に、10時半出発を決意する。

地蔵尾根らしい苦しいラッセルが続く。交代しながら行くが、青谷は先頭を担うこともままならない始末。4pほどでようやく松峰を巻くルートに入る。ほどなく林道の形状が現れる。地形図とは合わない道形を進む。林道が大きく曲がりくねるようになると、およその方向が見えてきた。林道を離れて左下の登山道標識に従う。その後も林道と交差しつつ下降が続く。夕方になりテント場を探しつつ行けば、水流のある沢沿いに絶好の場所を見つけ、テントを張る。美味しい水がたらふく飲める。

## 12月30日

どんどん下る。ようやく深雪も終わり、1pで集落が見えてくる。孝行猿の碑などを見て、市野瀬の対岸の集落の上に出る。登山口の駐車場である。ここより凍った舗装道路になり、ヘアピンを忠実にたどって三峰川の橋を渡り、バス停に至った。ちょうど、コミュニティーバスの時間に間に合い、高遠まで出る。古い寺社などを見学して、苦しかった山行の疲れを癒して帰京した。

## 上越：五日町・六万騎山～長森山～堂平山

【期日】2015. 1. 10～11、2. 14～15 【参加者】杉坂（他）・尾崎(47)

上越線の越後湯沢を過ぎると車窓右手に平野に突き出す小山が見える。湯沢では飯土山、六日町では坂戸山などがよく知られる。五日町の六万騎山は、春のカタクリでよく知られる。これらの小山は平野からの比高はいずれも 500m 程度だが、豪雪地帯だけあって、雪をかぶるとそのスケールは倍増する。数年前の坂戸山で実感した。この時期は鉛色の空のもと越後の湿雪と重いラッセルに悩まされ、私はこのくらいの山でキャパシティーフルになる。深田久弥氏が指摘する越後三山には及ばない。今回は六万騎山とそのすぐ裏の山だ。

1月10日の第一回山行は、長森集落のお寺裏から 204.9m 三角点のある小尾根を東に登り、北向きの尾根へと合流する。そこから延々ラッセル。平坦なところでは本当に空身で両足を大きく外へ回しながら底なしのラッセルが続く。地図を見れば



まだこれしか進んでいないと愕然とするか、居場所を進み過ぎの方向に読み間違えるかのどちらかだ。初日は 392.8m 三角点を過ぎた辺りでめいっばい。山自体は深くないが、雪と風で下界とまったく隔絶されている。翌日もラッセルの状況は不変だが、空は少々明るい。テントは撤収して背負っているので、空身ラッセル・荷物回収方式も使う。遅々たる進捗で、10時半過ぎに今後の行動方針を検討することとした。結果、ある程度前方の視界が開けそうなので、この先の状況の判断ができたなら荷物をデポし空身となる、そして六万騎山からの尾根の合流点から長森山 551m をめざす、帰路はトレース利用として往路を戻る、の方針とした。これが功を奏したか、合流点手前の急なラッセルはこれまでよりもスムーズに行き、合流点から右へ長森山に到達できた。軽い吹雪状態だったのが、尾根に出ると程なくして晴れ間が見られる。坂戸山、金城山方面の眺めも開けた。すぐ下に麓の民家が見えたと思うと犬の鳴き声まで聞こえてくる。狐につままれるようなホッとするような感覚に包まれつつ、キツネもイヌ科だなあなどと思ってしまう。下山はトレースを利用し、五日町までは小一時間の歩き。

第二回山行は、前回のゴール目標としてたどり着かなかった六万騎山からほぼ逆コースとする。さすがに 2 月半ばになると雪の底ができていて、ラッセルの進捗にはやりがいがある。そうになると、こんな集落裏の小山でも吹雪は冬山をばっちり演出してくれてちょうどよい、など思ってしまう。六万騎山を過ぎると小ピークのアップダウンが続き、吹雪の向こうの山稜は遠くに見える。目標の 449m に到達し、風を除けられる地形を選び幕営する。翌日は順調に長森山へ。

その後少々吹雪がきつくなり、しっかりしたラッセルを強いられるが堂平山 630m まで到達。時間が許せば、この先にある猿倉山 687.8m まで行けそうだが、今回はここまでとする。猿倉山まで行った場合、南尾根から上出浦集落か、南南西尾根から貯水池へと下山することができそう。また、尾根を辿り続ければ八海山に至る。これらを今後やってもおもしろそう。下山は1月山行時のルートを使い、再び五日町に出た。麓に八海山酒造の蔵元があることはその後知ったので、立ち寄りすらしなかった。たしかに観光のマイカーと思しき車の出入りは多かった気がする。

### 山形・弁慶山地：真室川＝西川～弁慶山

【期日】2015.3.7～8 【参加者】松本(28)、岡田(30)、上野(37)、尾崎(47)

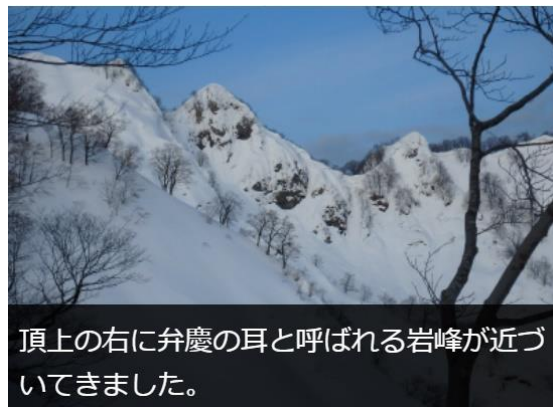
弁慶山という、関東ではほとんど知られない山に登った。ここでは主に山行に至るまでの過程を書きたい。弁慶山地を初めて認識したのはいつの頃か覚えていないが、2010年頃だったか。他の記録を読んだとか、そういう受け売りではなかった。広域地図で鳥海山の南、丁山地の南西、どうも何か気になり始めたのだった。2万5000図は弁慶山頂上付近が図のちょうど角部分に近く、4枚を要した。

当初、弁慶山から西南西に続く猪ノ鼻岳を経て、その西尾根に注目した。この尾根は途中まである林道があり、それが使えそうだった。それを2012年9月初めに偵察すると、たしかに林道は非常に立派だが、地形図通り520m地点でブツリ途切れ、その後ヤブに覆われ踏み跡はまったく見られなかった。残雪期がよさそうだが、地形は複雑で、低標高だが尾根は急峻で、残雪量も予想は難しかった。



その後、上野先輩がたいへんな興味を示してくれた。また「岳人」記事で、最上山岳会の坂本俊亮氏が詳しいことを知った。坂本氏に手紙を書き、ご本人による『弁慶山戦記』を購入し、2人で読んだ。さらに、東の真室川から差首鍋・西川に入り、そこから東尾根を登る坂本氏の「岳人」ミニガイド記事を発見した。その東尾根を上野先輩が前年5月に偵察してきてくれた。

2015年1月、春に弁慶山に東側から登る計画が具体化した。2015年3月6日金曜の夜、各自東京を出発し、翌朝真室川駅で合流する。接続するコミュニティバスをうまく利用して、西川には朝7時半ごろ到着した。2日間とも天気は完全快晴で、複雑な地形もほぼ問題はない。頂上手前の急登に苦しむが、豊富な残雪を満喫しての登頂を果たすことができた。頂上からは北に鳥海山が大きく迫った。弁慶山は東西南北に尾根を広げており、険しい地形が確認できる。西の猪ノ鼻岳方面も見えているが、不慣れな山域で同定はどの方向も難しい。まだまだ奥は深そうだ。今後再訪はあるのだろうか。



弁慶山頂上。北に鳥海山を望む。

# 2015 年度

|         |       |
|---------|-------|
| 会長      | 松本 哲郎 |
| チーフリーダー | 上野 午良 |
| サブリーダー  | 尾崎 宏和 |
| 会計      | 上野 利之 |
| 都岳連関係   | 上野 午良 |
| 記録・会報   | 渡辺 喜仁 |
|         | 尾崎 宏和 |
|         | 灘吉 聡  |
| 装備      | 灘吉 聡  |
| 西高係     | 山野 裕  |
|         | 博多 誠  |
|         | 中谷 航  |
| ホームページ係 | 灘吉 聡  |
| 超 OB 係  | 松田 稔  |
|         | 黒澤 隆  |

---

**2015 春：丹沢、奥秩父、富士**  
**【期日】 2015.4~6 月 【参加者】 橋本（12 期）**

---

山行報告ではこれまでタイム記録をつけてきた。これは西朋の現役時代に先輩から教えられたことを忠実にそのまま実施していることになるが、この記録データは次回の山行の計画には欠かせないものになっている。同じ山に登るにも、60 歳代前半と後半、70 代の前半である現在とは当然かかる時間が異なるし、疲労度も違う。しかし、例えば、同じ雲取山に冬季に登るにしても、以前と違って最近では精神的な疲労度が少ないことに気が付いた。尾根歩きを再開した 60 歳代前後の時には精神的な疲労度がきつかった。現在では自身の当日の健康状態から歩くテンポを余裕をもって決めることができる。

■ **4 月 1 6 日（木） 檜洞丸（1601m）**

西丹沢一帯は標高約 500m、現在はヤマザクラやヤマブキが満開である。自然教室前 7:19 出発。快晴、6℃、微風。カエデ・キブシなど新芽が出始める。ミツバツツジの薄い赤紫色が目につく。ゴウラ沢出合まで南面するコースの陽当たりには多数のタチツボスミレとわずかだがエイザンスミレが咲き、ミツマタは花が終わり緑が美しい。昨日までの降雨により東沢の水量が多い。ゴウラ沢出合 7:57、展望園地 8:35、アセビも緑を増してきた。石棚山稜つつじ新道分岐 9:26、馬の背状の稜線にはバイケイソウが 10cm ほど地面から顔を出している。檜洞丸 9:39、軽食休憩後下山開始。つつじ尾根分岐 9:55、標高 1300m 内外のツツジ類はやっと新芽が緑がかってきた。展望園地 10:25、ゴウラ沢出合 10:48、よく見ると、ウバユリやヨゴレネコノメも散見される。自然教室 11:17 帰着。近くのマメザクラは咲き終わった直後。登り 2 時間 20 分、下り 1 時間 38 分、所要計 3 時間 58 分。雪は全くない。

■ **4 月 2 2 日（水） 御正体山（1682m）**

国道 4 1 3 号線山伏峠付近はマメザクラが満開。山伏峠朝、快晴、6℃、無風。トンネル西側に車を置き、トンネルを東に戻ってルートの中ノ岳に向かう。山伏峠 7:36 発、すぐに急坂になるが、陽当たりの良いところではタチツボスミレとニリンソウが多い。石割山分岐 8:05、付近は馬の背状だがバイケイソウの緑が鮮やか。奥ノ岳 8:12 付近ではマイヅルソウ、キジムシロ、ヤブレガサなどが顔を出している。送電鉄塔 8:17、富士山は一部雲の中。鹿留山方面は明るい。中ノ岳に登る斜面にはエイザンスミレと lindou が咲いており、シハイスミレ？も小群生していた。中ノ岳 8:43、前ノ岳 9:04、ニリンソウやヤブレガサが多い。御正体山 9:37。今回の山行はブナの実生を見つけることだったが、なかなか見つからない。山頂で小休止し下山開始、前ノ岳 10:01、カエデ類が新緑の葉を出し始める。中ノ岳 10:19、送電鉄塔 10:42、アブラチャンの黄色の花、石割山分岐 10:54、山伏峠 11:15。登り 2 時間 01 分、下り 1 時間 38 分、所要計 3 時間 39 分。

■ **4 月 2 7 日（月） 雁坂嶺（2289m）**

登山口のみとみP、朝、快晴、9℃、無風。軽い朝食をとり 7:43 出発。沓切沢まではアスファルトの林道だが、道脇にはハシリドコロとミツバツツジが咲き、シラカンバやヤナギ類が新芽



を出している。途中シカの死体2体、骨と毛のみ。沓切沢橋 8:28、ナメラ沢入口 8:38、引き続き久渡沢の左岸に行くが、途中、久渡沢に流れ込むクッキリ沢の徒渉点は問題ない。峠沢の沢の中をしばらく歩き、右岸に出る。ここからコースは本格的な登りが続く。沢沿いの斜面にはハシリドコロが満開。大群生である。ニリンソウも多い。9:30 井戸ノ沢を渡る。例年より水量が多い。引き続き登りが続くが、樹林帯を抜けだすと西方に黒金山や国師岳などが見える。雁坂峠 (2082m) 10:16、峠には雪はないが、武州側と水晶山の北面には残雪。雁坂嶺に向かうが、珍しく今日は西風ではなく、武州側から強風が吹き上げてくる。山頂手前で残雪 20~30cm だがアイゼン不要。雁坂嶺 10:57。軽食休憩後下山開始、雁坂峠 11:23、井戸ノ沢 11:46、沓切沢橋 12:26、ミツバツツジが満開、エイザンスミレも咲いていた。みとみ P 13:05 帰着。登り 3 時間 14 分、下り 2 時間 08 分、所要計 5 時間 22 分。

#### ■ 5月20日(水) 富士山7合目 (2700m)

富士山裾野の新緑を見に行く。吉田口馬返し、朝、晴れ、14℃、微風。馬返し 7:50 出発、1 合目 8:00、2 合目 8:21、3 合目 8:38、ルート脇にタチツボスミレ多数開花中。井上小屋 9:09、アケボノスミレ?小群落あり。佐藤小屋 9:37、小屋付近はマメザクラとバッコヤナギが多数咲いている。雲がやや多いものの日差しがあり、風もそれほど強くないので歩行続行。6 合目 10:07、7 合目花小屋 (2720m) 10:45。軽食休憩後下山開始。6 合目 11:10、佐藤小屋 11:22、井上小屋手前で不注意から転倒し左脚を痛めた。井上小屋 11:50、3 合目 12:05、馬返し 12:40。よく見ると、ツボスミレもある。馬返し付近にはシロバナノヘビイチゴとマルバウツギが咲いていた。

#### ■ 5月29日(金) 甲武信ヶ岳 (2475m)

登山口の西沢入口 P、朝、曇り、13℃、無風。6:10 出発。ヤマツツジとヒメウツギが咲き、トチノキが終花。ヤマツツジは標高 2000m 位まで続く。西沢山荘 6:29、10~15cm のミズナラの実生が見られる。徳ちゃん新道を登る。近丸新道との合流点手前からアズマシャクナゲが始まる。合流点 7:55。この付近からコース両側にアズマシャクナゲのトンネルとヤマツツジが素晴らしい。このトンネルは延々と続く。2111m のピークを過ぎ、稜線に出る手前にはバイカオウレンの小群落が点々とある。稜線 9:20、コースには残雪があるがアイゼン不要。木賊山 9:29、甲武信小屋 9:42、甲武信ヶ岳 9:57。山頂には人が多く、早々に下山開始。北東寄りの風が強くなる。山頂は見晴がよく富士山から浅間山まで見える。木賊山 10:27、稜線分岐 10:32、近丸新道分岐 11:21、しばらく下降が続くが、この付近にあるカラマツの新緑が絶品である。西沢 P 12:46。登り 3 時間 47 分、下り 2 時間 49 分、所要計 6 時間 36 分。

#### ■ 6月2日(火) 大室山 (1588m)

知人 7 名と。用木沢~犬越路~大室山~白石峠~用木沢。西丹沢の新緑を見に行く。所要 7 時間 23 分。詳細略。

#### ■ 6月10日(水) 大洞山 (1384m)

知人 8 名と。三国峠~大洞山~立山~須走。フジベニウツギとサンショウバラを見に行く。所要 4 時間。詳細略。

#### ■ 6月16日(火) 北奥千丈岳 (2601m)

大弛峠に通ずる川上牧丘林道は標高がかなり高い所を走る。マタタビの葉が白化し、オオバアサガラが見事に咲いている。林道斜面にはシロバナノヘビイチゴの大群落、カラマツの新緑も美

しい。ガスで金峰山方面は見えない。大弛峠の朝、薄曇り、10℃、微風。6:57 出発。7:21 前国師、ミツバオウレンの花。7:32 北奥千丈岳、ガスで国師岳も見えない。それでも薄日が差してきた。すぐに国師ヶ岳に向かう。国師ヶ岳 7:44。大弛峠 8:10、朝日峠 8:33、ミツバオウレンとコミヤマカタバミが多い。朝日岳 8:59、依然としてガス、見晴はない。樹林帯を抜け、ハエマツ帯に入るとコメバツガザクラとハクサンシャクナゲが咲いていた。金峰山 9:48、五丈岩もガスの中。軽食をとり下山開始。朝日岳 10:39、朝日岳を過ぎアップダウンがあるが、ここで枯れ木に顔面を打ち付け怪我。応急消毒する。大弛峠手前で雨が降り出す。大弛峠 11:21 着。所要 4 時間 24 分。

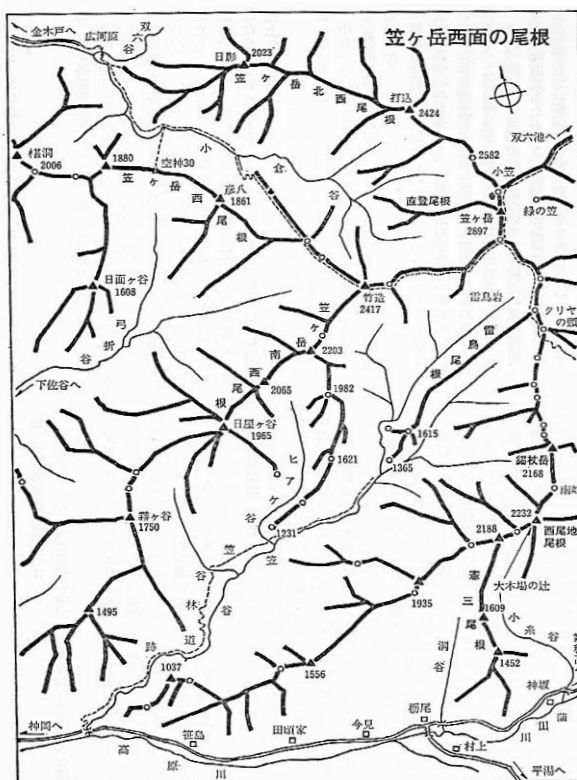
### 北アルプス/VR：笠ヶ岳南西尾根

【期日】2015. 5. 2~4 【参加者】松本(28)、尾崎(47)

笠ヶ岳の西面は遠い。早朝の松本電鉄からバスを 3 本乗り継ぐ。2010 年 9 月の偵察に従って、笠谷林道へと分け入る。予想より快調に進み、歩き始めから 1 時間と少しで先方に笠ヶ岳頂上が見える。偵察したのはここまでである。2 時間強でホウガ谷を渡り、対岸の尾根を回り込み、林道はまだ続いているがここから左斜面へ。いよいよ南西尾根の末端に取り付く。最初の 2P は藪は低く傾斜も強くはないのだが、ネマガリ竹で足元が定まらない。アイゼンを付けると楽になった。先ほどの林道から回り込んでくる分岐林道跡の末端に至り、そこから 1415m 台地までの登りは左に小沢を見ながら獣道らしきをたどる。1700m ぐらいから雪がつながるようになってくる。傾斜が増えてきて厳しいが、忍の一字で予定地 1900m まで。

17 時過ぎに到着。

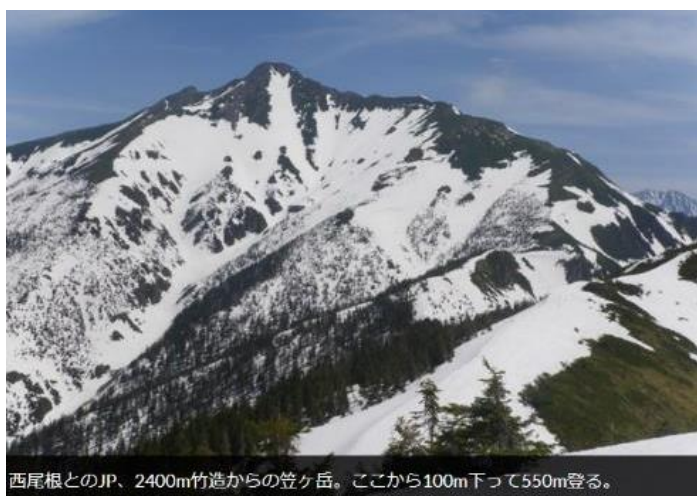
2 日目、すぐに主尾根 1965m に到達する。そこからは雪のない所はかすかな踏み跡が認められた。樹間より笠ヶ岳、奥穂、南東に霞沢、南に焼岳、乗鞍、御嶽など珍しいアングルで展望される。とくに乗鞍岳は大きく見える。登山大系に記載のある、南西尾根のもう一方の末端尾根が合流する 2203m からは左折するイメージ。2400m ジャンクションピーク（竹造）手前は密ヤブ



日本登山大系 7「槍ヶ岳・穂高岳」p255

(柏瀬祐之・岩崎元郎・小泉弘 編、1997、白水社)

で、左斜面を巻き西北西からの尾根を經由し JP に至る。11 時。真北に見える真っ白で端正な三角形は黒部五郎岳。まさに黒部源流の盟主の風格をもっている。昔このピークは、金木戸から通じる道があったようだ。また、その後知ったことだがこの辺りは播隆上人の笠ヶ岳開山ルートでもあったようだ。笠ヶ岳はだいぶ近くなってきたが、ここから 100m 強下って 550



西尾根とのJP、2400m竹造からの笠ヶ岳。ここから100m下って550m登る。

m 強登るので、まだまだ長い。雪の切れた 2 か所が望見されるが、ハイマツはさほど濃くないように見えた。難しい所はなかったが、きつく長い登りを 12 時、13 時、14 時に休憩しながら確実に高度を上げた。13 時休憩地点から雪が無かったが、背の低いハイマツと露岩帯の中に、踏み跡も見つけながら登る。14 時からのピッチでは、主稜線直下で雪稜状となる。右側は急な雪の斜面で切れ落ちて、高度感がある。体力的にますますきつくなってきた。笠ピークは白布をなびかせるような雪渓を頂上直下から落としているのがよく見える。まだまだ遠く高い。主稜線に上がると、クリヤ谷からのトレースがあった。地図では目と鼻の先の頂上まで、厳しい登りを牛歩して、15 時 20 分ついに登頂。喜びに浸る。ガスが増えて視界が効かないので、小屋まで長かった。小屋横のテラスに幕営。

3 日目、天気予報は午後からだいぶ降ると伝えている。朝からすでに小雨とガスだ。この条件では抜戸岳東尾根を使った下山は無し。大ノマ乗越経由で行くことにする。稜線は雪が解けて登山道が出ている所も少なくないが、雪に埋まった場所は視界が悪いためルートの見極めを要する。とくに 2667m 小ピーク手前から右への下降とその後のルート取りは注意を要した。右折後の小カール状の地形内で、やや左方向にトラバース気味に進むとトレースが現れ秩父平に降りついた。夏に歩いた感覚が手伝ったが、それより大きくトラバースした気もした。大ノマ岳へ登り返し、それを下ると大ノマ乗越。ガスで視界が悪いが、よく見ると双六谷側へはスキートレース、少し登り返した向こうにテントが張ってあった。雨が降ってきて、このガスの谷に入り込むのかと思うとあまり気が進まなかった。それでも降りていくと雪のカール斜面なので歩程は早い。下からスキーで登ってきた単独の人とすれ違う。先ほどのテントの住人の一人であるようだ。さらに降り、鏡平からの夏道を合わせる前に雲底を抜けたか、視界が開ける。秩父沢を渡って林道が目の前に近づくあたりで、抜戸岳東面の下部斜面が見えた。どれが東尾根なのか不明だが、どこも斜面はきわめて急であり、乗っかる雪はズバズバに切れている。こんな雨では今にも全層雪崩が起きそうだ。これを下っていたら大変だっただろう。林道に出た地点で雨が本格化する。天気が良ければもう一泊山を味わいたいものだが、この天気でしかもまだ 11 時である。新穂高温泉 13 時半のバスを目指して歩き、ちょうどよくバス停に到着して山行が終了する。念願の笠ヶ岳南尾根を登ることができて良かった。

## オーストリア グロースグロックナー(3798m) 登頂 & ザルツカンマーグート・ホーエタウエルンの山々

【期日】2015.7.17~29 【参加者】岡田(30)、登頂ツアーはガイドおよびオーストラリア人2名と

オーストリア最高峰のグロースグロックナー登頂を目標に、観光と登山ハイキングもプラスして、ザルツブルク近郊の山旅に出かけた。グロースグロックナーは比較的手ごろな料金で現地ガイド会社に申し込むことができ、オーストリア在住の若い男女とガイドで4人パーティーを組んで晴天の中、無事登頂を果たすことができた。2級の岩場が少しある程度で難しい山では無いが、氷河やヤセ尾根に積雪部もあり安全のためにザイルパーティーで登るべき山。オーストリアには登山ハイキングコースがきりが無いほどにあり、この周辺で単独で比較的登りやすい3000m級のペーゼス・ヴァイブル(3121m)、グローサームンタニッツ(3232m)、シュライニッツ(2905m)の3座に登頂した。天気の周期としては23日までは街で30度を超える暑さで、山にはわか雨程度でおおむね好天に恵まれたが、その後気温が下がって山では曇りや雨の日が多くなったので、山頂で展望が皆無ということもあってちょっと残念だった。ホームページに全体のレポートを載せている中から、グロースグロックナー登頂の分を以下に抜粋した。

### 7.21~7.22 のびやかな山村カルスからグロースグロックナー(3798m)登頂

ガイドと午前中に合流するために、前泊したリエンツを朝6:40のポストバスに乗り、カルスから登山口のルックナーハウスまでは朝早いバスが無いのでタクシーを利用しなければいけない。朝から雨模様でいよいよ本番だというのに心配になる。タクシーの件バスの運転手に相談すると、親切に村中心部のバス停前のホテルの人に話をつけてくれ、この場所に8時に迎えに来てくれると告げられた。一時やんでいたが再び降りだし標高1200mのカルス村も雨模様。残念な天気かと思いきや意外に上の方は晴れている様子。低い土地に湿った空気が溜まって降っているなら山の方は大丈夫そうだ。タクシーの運転手が迎えに来て、別のメンバーと6人程でワンボックスカーに同乗して出発。同乗者はグロースグロックナーとは別のハイキングコースを登る予定だそうだ。登山口となる標高1900mのルックナーハウスまで15分、前方に氷河をまとった三角形の鋭峰グロースグロックナーが朝日を浴びてぼんやり見えた！山の天気は大丈夫そう。ここに来る人はほとんどマイカーであり、一軒の大きなロッジが建ち大自然に包まれてなかなか魅力的な所だ。

登山口のパノラマ図案内板に付近のコースが示されている。ガイドと落ち合うのはシュテュドウルヒュッテ、間違えないようにコース番号を確認。コーディネッツ谷の川沿いに正面にグロースグロックナーを見ながら一般車進入禁止の林道を進む。全荷物を背負っているので軽量化したとは言え結構重たい。代表的なコースらしく、家族連れやグループなどたくさんハイカーでにぎわっている。2241mのルックナーヒュッテに1時間を切って到着、順調なペースだ。この先は車が通れなくなるが、良い道が続いている。傾斜が急になると川はスラブ状の岩場を滝のように流れるようになり、左よりに進路を変えて高度を上げていく。背後に3000m級のホーエタウエルンの山々が見えてくる。雪渓も残り迫力ある山容の魅力的な山々であるが、山の

名前は後でゆっくり確かめることにして今は待ち合わせに遅れないよう先を急ぐ。稜線に出るとすぐ近くに待ち合わせ場所のシュテウドウルヒュッテ(2802m)が建っている。ここまで荷物や暑さにもめげず早めのペースで来ることができた。若い小屋のスタッフに私のことが伝えられていて声をかけられ、ガイドが到着するまで席で飲み物でも飲んで待つように言われた。お勧めの花(名前は忘れた)の香り付きの水を注文。ジュースと違って超薄味であるがナチュラルテイストだ。



左：ルックナーハウスから正面に聳える鋭峰グロースグロックナーを目指して出発  
右：ルートは前方の氷河を横切って右側の岩尾根に取り付く：左の大きな山がグロースグロックナー

ガイドはそこそこの年配の男性で名前はジョージ(発音はチョージと聞こえる?)、この国のグラーツ在住の若い夫妻と私の3人がクライアントだ。奥さんはスウェーデン出身だとか、そう言われるとどこことなくラップ人の雰囲気が漂うような気も。だんな様は来日経験あるそうで横浜もご存知であった。昨夜はこのヒュッテに泊まったそうで、ゆっくり順応して本日に備えている。レンタル装備のハーネス・アイゼン・ヘルメットを受け取り、不要な荷物はこの小屋に預けて軽くする。エルツヘルツォークヨハンヒュッテ(小屋が建設された当時のヨハン大公にちなんで命名)へは統一された黄色の道標に **STEEP** の表示があり上級コースであることを示している。また **Luisengrat** という稜線を直接山頂に登る、よりハイグレードなルートについても案内板があった。稜線の右側を巻いてゆるやかに登っていく。歩く人も多くてよく踏まれているので特に困難は無い。夫妻とガイドはドイツ語であれこれ話し込んでいて、何を話しているのかはわからない。時々私にも英語でコースや周りの眺望のことをひとことふたこと説明してくれた。前方には三角形の山頂の肩に建つ本日泊まる小屋が見えてきた。その手前には所々クレバスが牙をむく氷河と岩が露出した急な登りが立ちはだかっている。氷河の手前でアイゼンを装着しガイドがロープを出してここからはアンザイレンで進む。

氷河を斜めに登りながら横断する形で、対岸の岩場の取り付きを目指してして進む。ガイドは氷河の登り易い所を熟知しているので迷うことなく進んでいく。何か所か小さいギャップを飛び越す所があったが容易に通過できた。パーティによって氷河上を歩くルートは多少違って、場合によってはもう少し苦勞することになるのかもしれない。氷河を終えた所は、雪のブリッジを渡って急な岩場に取り付かなくてはならず、少々緊張するところだ。小屋を目指して岩場をぐんぐん登る。確保用に鉄杭やヴィアフエラータのワイヤーが随所に設けられ、ガイドが支点

を取って安全確保してくれるが、易しい岩場なので特に難儀するようなことは無い。途中でグロースグロックナーの氷河を望む観光地フランツヨーゼフスヘーエ方面からの稜線と合流し、その方面からの別コース分岐を示す黄色の道標が立っている。初登頂者がとったルートにほぼ近いのだが、距離が長いので登山者の姿は見当たらない。グロースグロックナーを目指すほとんどの登山者はカルス側から登るようだ。若干高度の影響を感じつつも順調に2時間強でエルツヘルツォークヨハンヒュッテ(3454m)に到着。アドラーズルーエ(鷲の休息)という肩の台地ぎりぎりに立っていて、入口付近は工事中で狭いうえに騒音がうるさい。風もなく暖かいので外のテラス席が欲しいところであるが、落ち着ける場所が無くガスが出てきて山々の眺望も隠れがちなので、小屋の中に入ってラガーと表示された寝室(ビールではなくて雑魚寝の大部屋をラガーという)の場所を確保してから食堂でのんびりすることに。ジョージは多数のガイド仲間が来ているので小屋内をあちこち廻って立ち話している。今日の予定はこなすことができたと安堵して、2人のクライアントや他の登山者とコーヒーなど頼んで行動食をつまんでゆっくりしていた。するとジョージが来て、クライアントは元気そうだから、様子を見て晴れてきそうだったら今日のうちに頂上を往復したいと言う。てっきり明日アタックのつもりだったので心の準備ができておらず、スタミナが足りるかとか、朝の方が展望が良さそうとか思い自分はちょっと躊躇したが、他の2人は特に否定しなかったし明日の天気もわからないので、ここは同意するしかなかった。結局15時に再び装備を身に着けてアタックに出発。

平たい岩がごろごろした平らな尾根を少し進むと、雪の斜面が現れ頂上稜線の北側に残る雪の上にルートが作られている。暖かいので雪が解けて川のように水が流れ落ちている。ガチガチに凍っているよりも歩きやすい。稜線に出る手前は岩場と雪の混じった急斜面で、私のストックはデポして両手を使って登り、ピナクルの所で稜線に出て、ここでアイゼンもはずしてデポする。いよいよハイライトの岩場の稜線を頂上へ向けて1本のロープに3人つながってツルベで登る。足場は豊富にあり確保用の鉄杭が一定間隔で設けられている点は安心、でもバランスを崩したら他の人を引っ張ってしまうので慎重に進む。ジョージに私のカメラを渡すように言われ、彼は3人の登攀の様子を写してくれた。写真にするとさほど迫力あるシーンでもなかったが、登攀中に変に写真を撮ろうとして危険にさらされない為の気遣いかもしれない。頂上十字架も目前となりクライングロックナー(3770m)という前衛ピークに登り着く。ここからナイフリッジを経て一旦鞍部へ下るところが核心部。雪が残っている上に左右はスッパリ切れ落ちているのでバランスを崩したら大変だ。ガイドは我々が進む前に浮石を除去したりや雪上の足場をならすなど5分ぐらいかけて歩きやすいように整備してくれた。

鞍部から最後の岩場を通過して有名な十字架の立つ山頂に到着。パーティ4人で握手をして祝福した後、360度の周囲の雄大な景観を堪能する。眼前には隣接する岩峰のホフマンズスピツェ(3722m)、その奥から右下へと迫力あるパステルツェ氷河の流れがフランツヨーゼフヘーエの展望台方面へと続く。氷河の上部は広大なアイスフィールドとなって、アイスケーゲル(3426m)やヨハニスベルグ(3453m)などの岩峰が頭を覗かせ、何とも雄大な景観だ。午後に湧いてきた雲が流れて周辺の第2の高峰グロースヴェネディガーに向けて遠方に続くアルプスの展望は遮られてしまった。これが朝の雲一つない快晴の展望だったらひとしおだろうというのがちょっと心残り。小屋から山頂まで2時間近くかかり思いの他大変であったが、体力的には限界

を感じる所まで行かずに無事登頂できたことで何よりも安堵の気持ちで一杯である。



**左：ナイフリッジに行く：後方はフランツヨーゼフスヘーエ方面へ続く稜線**  
**右：山頂の雄大な景観：眼前はホフマンズスピツェ、奥から右下へパステルツェ氷河**

15分の祝福の時間を過ぎて下山にかかる。岩場は下山の方がむしろ危険であり慎重に進む。稜線をはずれて雪の急斜面に入った所はスローペースで下る。オレンジ色の小屋が次第に近づいてくるのが励み。この時間になると雪解けは収まり水の流れは消えていた。

18時30分に無事小屋に戻り、装備をはずして食堂で夕食タイム。当然生ビールを注文、二杯目は周りの人が飲んでいたレモン果汁入りにした。酸味がきいてなかなかいける。メイン料理はパスタと牛肉がこれでもかと山盛りで、味付けが相当に塩辛くて全部食べるのはひと苦労だった。チロール地方の食事は全体に塩辛い印象だ。食べ物はやはりイタリアか。ピッツペルニナのイタリアの山小屋で食事が美味しかったことを思い出す。朝6時にリエンツから行動開始して登頂まで達成した長い一日を終え、今晚は安心してぐっすり寝る。

早朝5時過ぎには明るくなり雲一つない快晴だ。アタックする登山者が前後して出発していく中、私は小屋のまわりから朝焼けの山々を撮影。ホッホショーバー(3242m)、ロータークノップフ(3281m)、グレーディス(3206m)、ガノット(3104m)、ペッツエック(3283m)、等々ショーバー山群の山々が鋸の歯のように多くの凸凹のピークを連ねている。山頂の左側の遠方には、おそらくグロースヴェネディガー(3666m)からワイススピツェ(3300m)にかけて大きな氷河にどっしり腰を据えた岩壁のピーク群が朝日に輝いている。その手前にはグルーサームタニッツ(3232m)を主峰とする中間のグラナートシュピッツ山群が長く横たわっている。小屋の反対側にまわると昨日山頂から眺めたパステルツェ氷河の奥のグルーサーペーレンコップフ(3396m)やホーエドック(3348m)の先にひとときわ高いピーク、グローセヴィースバッハホルン(3564m)が聳えていた。山頂には及ばないにせよ小屋からの景観もすこぶる感動的だった。簡素な朝食の後、ザイルで結びあって注意深く往路を戻る。シュテュドウルヒュッテでジョージとお別れ、彼は別の客と再び山頂へ向かうのだ。シーズン中ずっとこのピストン操業では気の毒だが、スイスアルプスなどいろいろな山のガイドに行くと言っていた。3人グループのガイド代は1人当り195Euro、切りの良い所で200Euro渡す。そしてお二人と一緒にルックナーハウスへ向けて下った。前方に連なるホーエタウエルンの山々は谷を下るにつれ周囲の岩壁に隠れていき、気温も上がって汗ばんでくる。観光客の多い林道を避けて沢沿いの遊歩道をたどり、大駐車場の横を通って昨日の出発地点だった案内板前に下りついた。



小屋の朝の展望：ショーバー山群の山並み

## 南アルプス/WC：雨乞山～口の鬼の窓～鬼の窓～大岩岳

【期日】2015. 7. 19～20 【参加者】尾崎(47期)

小淵沢駅から釜無川の谷に向かって歩いていると、車が止まった。「どこの山行くのよ」とおばさん。雨乞岳から鬼の窓…と答えると、話は即通じ是非乗れと。私も行きたけれど、今回成功したら電話頂戴と番号をくれた。こんな山の話がすぐ通じたのは驚いた。おかげでサントリー工場裏にある石尊神社の登山口にすぐ到着した。お参りしてから登ろうと境内に入るが、本殿はかなり奥で、最後には急な長い階段まで。ちゃんとお参りはしたけれど、またかなり下るのがもったいない。神社前の水路は花崗岩の砂利が美しい。ここで水を汲むと、最初は白濁していたが、やがて沈殿した。

参拝のおかげか雨乞岳肩までまあまあ順調。雨乞岳は空身で往復し、いよいよ今山行の本題に入る。登山道が途切れると緊張する。甲斐駒方面は夏雲に隠れてしまう。「口の鬼の窓」まで、数度のアップダウンはあるが、ほとんど藪というほどでなく、人？鹿？の踏み跡もある。一箇所、右へルーファイミスした。口の鬼の窓では目前に急な斜面が迫る。右には、本物の「鬼の窓」へ突き上げる沢がよく見えており、本当にあそこへ行けるのだろうかとの不安がよぎる。ここから右へ沢を下り、20分ほどで鬼の窓に突き上げる本流に下り着く。ここからの本流は穏やかな部分で、30分ほどで幕営適地に到着する。先ほどまでは黒っぽい雲が多かったが、気持ちよく晴れてきた。明日のことは忘れて気持ちよい焚き火を楽しむ。

翌朝も晴れ。本流は少しずつ傾斜を増していき、とくに左岸の岩壁は圧倒的な比高となってくる。しかし、沢筋は落石さえ注意すればほとんど困難ない。一箇所、滝があつて直登を試みたが、やはり無理しないこととした。右から巻く。源頭部を詰めて、鬼の窓に到着。ただの森の中のコルであった。向こうに鋸岳が見渡せる、風の通る場所だった。この森を左に登り、1時間ほどで



大岩山。頂上にはちょうど良い幕営可能場所がある。近い将来一人でここに泊まりたい。

時間があれば、ここから日向八丁尾根を甲斐駒なり鋸なりにつなげたい。しかし、今日は登山道を日向山経由で下る。日向山まで来ると家族連れや中高年ハイカーがたくさんだった。なるほどここは素晴らしい展望地で、だいぶ高い位置まで車で来れるのだった。その林道にいったん出たが、ほどなく白州駒ヶ岳神社への歩道を発見した。40分ほどの下りで神社に到着した。そして甲州街道の白州の道の駅まで、参道を名残を随所に見ながら麓を歩く。この解放感は嫌いではない。もちろん、行きに乗せてくれた方へ電話した。長話になってしまった。

---

### 奥秩父：里宮平～金峰山

【期日】2015.7.21 【参加者】橋本（12期）

---

今夏は梅雨が早くおわり、すぐに連日猛暑となり、体力を消耗した。先月も金峰山に登っていた。今回は瑞牆方面から入る。

登山口の里宮平Pの朝の気温16℃、快晴、無風で快適である。7:01出発、新調した登山靴が足に若干フィットしない。富士見平小屋 7:32、朝日が出てくるとともに急速に気温が上がり暑い。体が重い。飯森山の南面をトラヴァースするコースは樹林帯で涼しい。大日小屋手前の緩斜面の下降では、通常は小さな流れの沢が、水かさが増え、水量が多かった。台風11号のためか。大日小屋 8:17、付近に群生するアズマシャクナゲは現在は茎頂部で新芽がそろい始めた。大日岩付近は右手の樹林帯のまき道を利用する。大日岩分岐点 8:50、この分岐点から先は平坦と急登が大きく2回繰り返される。9:44砂払ノ頭(2317m)着、ややガスが出始める。ここからは樹林帯からハエマツ帯に変わる。金峰山 10:36、山頂は人が多く、すぐに下山開始、五丈岩の西側に行き、昼食休憩。ハクサンシャクナゲ、チョウジコメツツジ、ゴゼンタチバナが満開～終花である。また、ミネウスユキソウ、ハナニガナ、ミヤマダイコンソウなども咲いていた。金峰小屋分岐 11:02、砂払ノ頭 11:21、大日岩分岐点 11:53、大日小屋 12:14。富士見平付近はマルバダケブキが多いが黄色の見事な花や蕾が観察された。富士見平小屋 12:51。登山靴が幾分足に合わず、左右の足親指のツメを痛めた。里宮平P 13:17着。登り3時間35分、降り2時間41分、所要計6時間16分。

---

### 南アルプス：鳳凰三山 観音岳・薬師岳

【期日】2015.8.4 【参加者】橋本（12期）

---

先月金峰山に行くとき通過する増富ラジウムラインから見える甲斐駒ヶ岳や鳳凰3山が素晴らしく、次回は鳳凰3山に行くことに決めた。

登山口の青木鉱泉(1094m)は気温19℃、晴れ、無風である。朝食をとってから6:35出発。

ドンドコ沢を登る。マルバダケブキが咲いている。気温と湿度が高く体が重い。南精進滝 7:55、鳳凰の滝（下） 8:28、（上） 8:34 着。白糸の滝（下） 8:55、（上） 9:25、五色ノ滝（下） 9:50、（上） 9:59、急登が続く。五色ノ滝上部付近からはコバノイチヤクソウ、シモツケソウ、ミヤマホトトギス、ミヤマコゴメグサ、ゴゼンタチバナなどが見られる。昨年まであったヒトツバランの姿はない。鳳凰小屋手前のドンドコ沢にはタカネビランジ、ミヤマキオン、ミヤマコゴメグサがある。鳳凰小屋 10:55 着。水を補給、半昼食をとる。小屋周辺にはいつも多種の高山植物がある。タカネビランジ、タカネグンナイフウロ、キタザワブシ、ミヤマシャジン、ヤマホタルブクロなど。地蔵岳方面に黒い雲。ここまででかなりの体力消耗があったので、サイノ河原には行かず、直接観音岳に向かうことにした。しかし、この直登ルートは一部かなりの急登で、コースも荒れているところがあった。稜線 11:59、稜線はタカネビランジが群生しており、よく見ると、各開花株の花色が白～濃紅までであった。また、トウヤクリンドウ、ミヤマホツツジも咲いていた。観音岳 12:30、薬師岳 12:50、ガスが出てきて、辺りが暗くなる。南の方面で雷鳴。すぐに中道を下山開始。10分位降ったところで半昼食。御座石 13:43、急下降が続く。標高 2000m 位から始まるカラマツとシラビソの疎林の延々と続くササ原。再度南で雷鳴、すぐに雷雨が始まる。雨脚が強くなり、コースに露出している木の根がぬれて、きわめて滑りやすく歩きにくい。2回ほど転倒。雷が頭上高いところを通り、さらに雨脚が強まる。靴の中も水浸し。雨が小止みとなったところで水場に到着、顔を洗う。薬師岳登山口入口 15:32、林道を歩き、青木鉱泉近くのドンドコ沢の徒渉にかかる。水量が多いため徒渉禁止の立札があったがトライ。水中で転倒、下半身水浸し！！。仕方なく青木橋まで下り、迂回して青木鉱泉帰着 16:16。所要計 9 時間 40 分。

その後やっと夏が終わったと思って山の計画を立てていると、悪天候であったりして、なかなかうまく山行が実現しなかった。

## 奥多摩/WC：三頭沢

【期日】2015. 8. 9 【参加者】青谷(28)、他 1

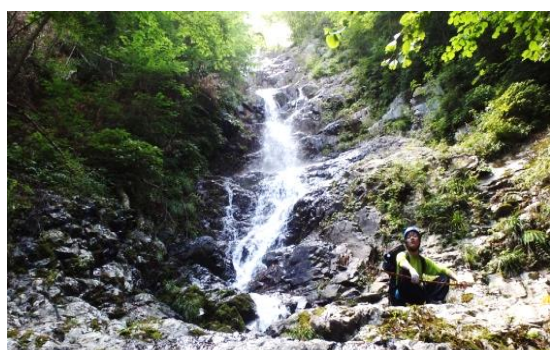
「東京周辺の沢」には、三頭沢の上部からの入渓で紹介されているが、周遊道路入り口の夢の滝からのルートも古いガイドには載っている。今回は地質調査も兼ね、沢床がどんな石でできているかを確認しながら、遡行してみた。古くから知られたルートだったが、美しい滝と人工物と困難なゴルジュが交錯する、いろんな意味で興味深い沢であった。

### 夢の滝 9:10—菅平の滝上 9:50～10:00—三頭大滝下 13:15～40—周遊道路入口 14:20

周遊道路入口に車を置いて、夢の滝より入渓。夢の滝は予想に反して四万十帯の砂岩のナメ滝であった。その上にも滝が続く。堰堤や奇妙なトンネルをくぐり、まもなく菅平の滝。これは檜原村のパンフにあるが、登山道からは一部しか見えない。沢をたどるとダイレクトに登ることができる。面白いことに滝を作る岩は円礫が固まった礫岩である。

擁壁や 3 面張の人工物をやりすごすと、登山道が交差する。3:1 の水流を分けると小ゴルジュから 6 m 7 m と立派な滝が続く。これを左よりザイルを出して越え、ゴルジュ状になり、こ

れもザイルを使って越えて行く。まもなく右手に周遊道路が近くなり、沢ガイドにある上部入口になる。堰堤が連続するが、時折見える沢床が四万十帯の砂泥互層になっていて、虎模様がきれいだ。堰堤を左から越えると険悪なゴルジュになる。ガイドでは右側を高まくが、ここは突破することにする。シャワーを浴び、何度もドボンしつつ、残置されたシュリングをつかむ。滝の水流にかかる倒木を頼りににじり登る。きわどく抜け、そのまま上部もザイルを延ばすと、ようやく突破できる。きれいな赤いナメ滝をたどると7m滝。これを容易に抜け、頭上につり橋を見ると三頭大滝が眼前に迫る。その手前に「大滝登るな」の看板。頭上にギャラリーというわけで、直登は遠慮することにする。大滝の岩質は・・・予想に反して四万十帯の砂泥互層である。すぐ上に露出するであろう石英閃緑岩に焼かれ、黒くホルンフェルス化している。結局、ここまでの三頭沢には石英閃緑岩の露出は見られなかったことになる。右側のクボを登っていけば、つり橋の根元にでる。つり橋からあらためて大滝を眺めたあとは、三頭沢沿いの登山道を下る。見覚えのある沢筋を左右に越えながら、周遊道路入口に戻った。数馬の湯に寄った後、九頭龍の滝や龍神の滝などを見物して帰る。



#### 追記

三頭山大滝については、2017.9.12 に再訪し直登することができた。縞々模様の階段状の岩場を登ったところでザイルを出し、水流の右側を途中1か所支点を取って越える。高度感があるので緊張する。3級程度。滝の上で、右側に登山道が接近してくるのでそこで遡行を打ち切った。

### 南アルプス/VR：戸台～鋸岳～日向八丁尾根～雨乞山

【期日】2015.8.23～25 【参加者】尾崎(47期)

7月の鬼の窓山行に続く、甲斐駒北西部の山シリーズ。今回は懸垂下降などロープワークトレーニングと、甲斐駒北西部で課題だった大岩山～雨乞岳をつなぐことを目指す。

北沢峠行バスは満員だったが、戸台で降りる人などいない。高 2 の春山合宿での下山の地であり感慨がある。戸台川河原で、角兵衛沢を登ったが途中でルートを失ったと言い下山してきた単独行者に会った。私は角兵衛沢は 16 年ぶりで、前回の登りは覚えていない。ルーファイミスなどしないよう慎重になった。踏み跡はしっかりしており、ルーファイミスをするような所はないと思った。要するに、特に記憶するような所はないような気がした。むしろ急な登りできつかった。右上に岩壁が迫ってきて、角兵衛沢の岩小屋に到着。ちゃんと水も出ていてよかった。前回来たのは 1999 年 10 月の秋晴れで、当時もここが 1 泊目だった。秋だったのもっとすっきりしていたと記憶する。今日は曇りで、盛夏でアザミが茂りなんとなくボサついている。

翌朝ヘッドン不要になってから行動を開始した。角兵衛沢のコルまでは、前回こそ何も問題なかったような記憶である。しかし今回、ガレで足場が崩れたり、上部は右側壁に沿って巻きぎみからトラバースするような所があったりして、16 年間に崩壊が悪化したのかもしれない。角兵衛沢のコルには、数か所幕営の跡のような地形がみられた。核心の鋸岳稜線は 1999 年も楽しく歩いた。小ギャップと大ギャップで懸垂下降したが、後者ではロープ回収に手間取り反省する。甲斐駒ヶ岳が近づくが、今回は三つ頭から左に烏帽子岳へ。近年開かれた道はハイマツの切株などが多い。大岩山手前の急登には頑丈な赤い梯子が設置され、問題ない。かつては逆方向での懸垂下降に限られたようだ。大岩山頂上で以前から目をつけていた場所に幕営し満足する。

3 日目、下山するなら大岩山から日向山經由駒ヶ岳神社への道がもっとも早い。しかし、本山行には次の目的が待っている。7 月に訪問した「口の鬼の窓」へ繋げることだ。問題は口の鬼の窓への下りルートで、2144m 標高点から扇状に広がる下降のルートファインディングである。結果として、時折現れるマーキング、たまに見出すわずかな踏み跡に助けられ、少々迷った箇所もあったとはいえ無事に口の鬼の窓に降り立った。やはりここを歩く人は少し入るようだ。あとは少々長い道のりだったが、問題なくサントリー白州工場裏に降り立った。

---

**南アルプス/VR&WC : 岳沢越～三峰川源流～仙丈岳～大仙丈沢～  
小太郎山西尾根～北岳～ポーコン沢の頭～広河原  
【期日】2015. 9. 19～22 【参加者】尾崎(47 期)**

---

この連休は絶対に山に行こうと考えていたが、前夜まで国会前の安保法デモに参加して、落ち着かなかった。山遊びしていてよいのかとも思った。逆にそれには負けていられないとも思った。理不尽のない山に、その絶対的存在を求めて。本当なら、岳沢越～大仙丈西尾根～大仙丈沢下降～小太郎山西尾根～北岳～池山吊尾根と横断すると壮大だ。しかし大仙丈岳西尾根はまだ行ける気がしない。懸案だが大仙丈岳西尾根は敬遠して、三峰川源流から地藏尾根経由とした。

初日、長谷村循環バスを「岩入」で降り、2 時間ほど歩いて林道終点に至る。昼になってしまう。この時点で重大な問題が発覚。なぜか大切な 2 万 5000 円「仙丈ヶ岳」が無い。どこかで落としたかもしれない。今更の気づきに痛恨だが、まずは落ち着く。幸い、2010 年 7 月に仙丈岳までこのルートを歩いたので、その記憶とエアリアマップで何とかかなりそうだ。前は間違え

て沢を直進した 1409m 二俣は、左俣のさらに左に踏み跡を見出す。これを登って水平道に出ると、迅速に廃屋に出る。実際に住んでいたような規模だが、かつての造林小屋か。すぐ裏手が岳沢越に至る沢で、前回時間切れで幕営した場所だった。この時点で 14 時。1 箇所左からの巻きも含め、問題なく沢を詰めて岳沢越が 16 時前。16 時半前に予定通り三峰川本流に降り立つ。

2 日目、今日も天気がよい。大仙丈西尾根最下部の偵察をしてもよかったが、あまり時間はなさそうなのでカットする。とりあえず現場の空気は実感している。これも偵察として意味は大きい。前回同様三峰川本流をたどる。これが右に直角に曲がる地点から、また前回同様右岸の支流に入り、地蔵尾根へ上り詰める。前回見出せなかったマーキングとトレースがあり、適当にそれを追って 9 時ごろ尾根に上がる。仙丈岳は北沢峠から来る人でいっぱい、通過して大仙丈とのコルに荷物を置く。空身で大仙丈を往復し、西尾根最上部を確認した。見る限りは…、問題はなさそうだが、元に戻って今度は大仙丈沢の下降に入る。記録にあったような岩雪崩の起きそうなガレ場はとくに感じない。正面に北岳を見ながら、順調に下る。ただし先が全部見える分、延々と「見えてからが長い」が続く。15 時半ごろ、標高 1800m 付近で正面に北岳が見える地点を選んで幕営。ちょっと斜めっているが開放感のある快適な場所である。

3 日目も快晴でスタートする。今日は野呂川まで下って渡渉し、小太郎山まで登り返す。所要時間が読めないため、5 時半には出発する。水が少し冷たい。1 時間半ほどで両俣への林道に下りる。下山の人か、写真を撮りながらのんびり歩いている人も見かけた。林道が無ければ深山の趣がもっとあろう。仙丈岳東尾根取り付きを左斜面に見上げ、小仙丈沢の分の屈曲を過ぎ、次の小さな枝沢が見える手前に、林道の一段下に治山工事作業場のような所がある。この対岸に小太郎山西尾根の末端が北方向へ向きを変えて落ち込んでいて、その左に沢が流れ込んでいる。大仙丈沢を終えここのまで、対岸を観察しながら 30 分ほどの林道が、直線距離の割に遠かった。小太郎山西尾根末端をめざし、右へ巻きつつ不明瞭な踏み跡の斜面を下る。野呂川本流はくるぶし上程度の水量で問題なく渡り、対岸の支流で、今夜用の水をくむ。

ここから次のステージ、小太郎山西尾根。取り付きには赤布と踏み跡がある。昔の林業の遺構を見る。ヤブはなく、尾根の高みをたどり続ける。2180m 屈曲点を過ぎる頃、対岸の大仙丈沢や小仙丈沢が意外に急な角度に見える。2550m 付近からハイマツヤブが優勢になるが、許容範囲程度か。小太郎山は 14 時ではもう人つけはなかった。ちょっと早いが頂上脇の広場にて幕営とする。北岳肩の小屋まで行くにはちょっと遠いし、なにより誰もいないのがいい。結局その後も誰も来なかった。

4 日目、北岳はやはり高かった。だいぶ登らされる。八本歯のコルからポーコン沢の頭までバットレスの展望を楽しむ。ポーコン沢の頭から左に少し下った所に嶺朋ルート入口の表示がある。その下りは思ったより急で、枝尾根も多かった。下部では真っ白で美しいキノコを多数見た。耳たぶ状で、うまそうだ。しかしそれは、たぶんスギヒラタケだった。かつては食用とされたようだが近年こいつは毒だとわかったらしい。広河原山荘の少し下流側に降り立ち、対岸のバス停へと吊り橋を渡った。

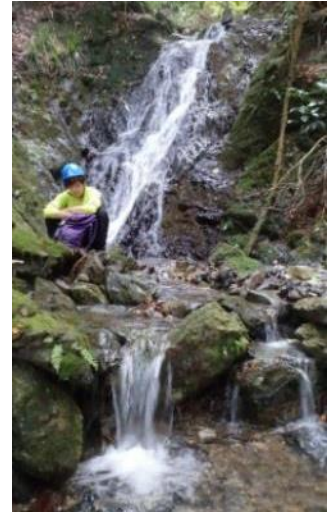
## 秋川水系/WC：石仁田沢～刈寄山～金堀沢下降

【期日】2015.9.22 【参加者】青谷（28）他1

地質探査を兼ねた沢登り。刈寄山の下部に塩基性岩の露頭を探したが、よくわからなかった。あえて行くほどの沢ではないが、刈寄山の夏の登路と思えば悪くない。

石仁田沢の出会いに車を置く。盆堀川の出会いから石仁田沢の水流を忠実にたどる。魚影などを見ながら、小滝とボサを越えて行く。林道終点付近でようやく滝らしい5m滝。容易に越える。あとは小滝がいくつか。いつしか源頭になり、藪こぎもなくひと登りで枝尾根につめあがる。左にたどると刈寄山山頂。無線に夢中のおじさんが1人。

小休止後南斜面の金堀沢を下る。林道を横断し、藪こぎの斜面。沢形がしっかりしてくるも依然としてブッシュがひどい。堰堤をいくつか難儀して下ると、お目当ての緑の岩盤が露出する。昔から知られている枕状溶岩が見られる露頭である。いくつか確認して、さらに下っていくと、思いのほか大きな滝や堰堤が出てくる。これをやりすごし、断続する作業道をたどっていくと、林道に飛び出す。盆堀川沿いの興味深いかつ渋い支流を確認しながら車道をのんびり下り、車にもどった。（青谷）



## 和賀・真昼山地：高下岳～和賀川～和賀岳～鹿の子山

【期日】2015.10.16～18 【参加者】尾崎（47期）

かつて和賀の沢登りをして以来、和賀岳と真昼岳をつなぐのは目標だった。情報によれば、和賀～真昼岳の縦走路が、かなり整備されたらしい。「和賀岳から真昼山への大縦走路 (<http://www.obako.or.jp/kurasan/yamagaidoindex.html>)」をもとにルートや交通をよく検討した。東北は帯状高気圧に覆われ、仲秋の絶好の日和だ。なお関東はずっと秋雨だったようだ。

15日木曜日、最終新幹線で北上駅へ、ベンチで駅寝する。16日金曜日、朝いちばんの北上線でほっとゆだ駅へ。濃霧である。これはやがて晴れてくる霧だろうが、地元人ではないのであまり自信はない。7時過ぎの盛岡行のバスを大荒沢で降り、高下岳へ東から登る。以前青谷さんが下ったルートだろうか。もう本当に紅葉の盛り。ブナの実は豊作で、集めて食べてみる。生でもコクがあつてうまい。夜は飯に炊き込んでみよう。昼ごろ高下岳着、和賀川本流渡渉点は14時。水をくむ。この付近は2004年ごろに通い詰めたことが懐かしい。このあたりで、和賀岳から降

りてくる人に複数に会う。平日だがよい季節だからだろうか。コケ平 16 時半ごろに到着する。もうひと踏ん張りして和賀岳頂上まで行くべきか？しかし間もなく日没なので幕営する。2010 年 5 月の和賀岳山行が、とても楽しかったのを思い出す。夜は強い風が吹き、テントをしっかりと固定していなかったことを反省する。

16 日、今日も快晴である。和賀岳から薬師岳まではしっかりした道だが、それを過ぎて急に藪が濃くなる。ペースがダウンし先が危ぶまれる。しかし甲岳分岐から先はまた刈り払いがなされていた。ネット情報の道整備はこれの事だろう。中の沢岳を過ぎ、その次の緩やかなピークを過ぎた 975m コルで、いったん荷を置き南へと窪筋を下ってみる。予想通り 5 分も行けば水が得られた。安心してあとはテン場探しモードで秋山を楽しむ。風越の次の次のピークの平らなところで、道の真ん中に幕営した。笹の切り口でテント床シートに穴が開かないよう気を使った。振り返れば和賀岳が、澄んだ秋空遠くに見えた。

17 日、今日も絶好の天気が続く。南下を続け、鹿の子山を過ぎて 835m のコル水無沢分岐から右へ下る。この下りは、2010 年 5 月末の真昼岳山行で登った際、ルーファイで苦労した。そのためちょっと緊張して下りに入った。しかし記憶は確かであった。季節の事もあるだろうか踏み跡ももっと明瞭だった。たった 40 分ほどで全く問題なく川口溪谷の林道へ降り立つ。あとは本流に落ち入る滝をめながら川口集落を目指す。バス停では付近に住む山好きのおばさんに声をかけられる。14 時過ぎのバスに乗って角館駅に出て、秋田新潟経由で帰る。これは、切符が一筆書きになり安くなるからだ。帰りのいなほ号（秋田 16 時半～新潟）では日本酒のみつつ夕日が偉大。山の帰りに海の景色を楽しむのは贅沢だった。

---

### 中央アルプス：本高森山～奥念丈岳～越百山

【期日】2015.12.31～2016.1.3 【参加者】尾崎（47 期）

---

数年前の偵察に基づき、飯田線の山吹駅から歩く。好天の大晦日ということで地元の人々は忙しそうに見える。山に行くのが申し訳ない。11 時半過ぎ、ゴルフ場上の登山口。特別な急な登りはないが、重荷のせいかととてもきつい。16 時少し過ぎに目標の本高森山に着く。くるぶし未満程度の積雪を整地して幕営する。夜は夜景がきれい。

2 日目、穏やかな元旦を迎えた。雪の量は歩くのに問題ない。大島山手前の幕営適地前後から雪が増え、ワカンにする。2158m からの下りはいったん右に入ってしまう軌道修正する。夏道でも、結構左に曲がっている所だった。下って水場に至り、念丈岳手前ピークへ登り返す。この登りの途中からトレースが現れる。念丈岳からの下りにトレースは無いが、ここも過去 2 回来ているので問題ない。奥念丈岳 14 時過ぎ、ここは沢登り含め 4 回目ぐらいか。安平路方面から北上したとみられるトレースが現れる。しばらく歩いて、南アルプス絶景の場所に幕営する。まったく寒くないので外で景色を堪能し、幸せな時間を過ごす。

3 日目朝、朝焼けがやや赤黒い。風強く越百山方面は少し暗い。登るにつれ、さらに強風になり、ガスの中に突入する。南越百山頂上では止まっていられないので、進む。越百山本ピークまではだいぶ登り長く感じる。途中の岩陰で休憩。越百山頂上では一瞬雲が切れ、仙涯嶺、南駒ヶ

岳が見える。今朝は、時間に余裕があれば仙涯嶺ぐらいまで往復するが、などと思っていたがとんでもない。ここでアイゼンピッケルにして即下山する。下降ルートが分からないほどではなく良かった。しばらく下るとトレースが弾丸トレース状態になってきて、さらには往復登山とみられる2人組に会う。しかし越百小屋は誰もいなかった。下り続けて伊奈川の林道に15時半ごろ到着する。伊奈川ダムからも駅まで歩くので、今日は日向を選んで幕営。

1月3日、まだ真っ暗の午前4時半歩き出す。中央西線の須原駅に10時前に到着して、10時40分の列車で帰途につく。

## 冬の丹沢、御坂、雲取

【期日】2016.1月～3月 【参加者】橋本（12期）

### ■ 1月2日(土) 蛭ヶ岳(1673m)

暖冬か、今朝は比較的暖かい。登山口の戸沢山荘の朝、気温2℃、微風、晴れ。7:32 出発。正次郎尾根の標高差670mを登り稜線分岐8:46、稜線には雪はない。尾根の北斜面にわずかにある。書策小屋跡8:53、新大日9:05、塔ノ岳9:38。富士山、南アが美しい。風は弱いですが太陽光が少ない。日高10:06、竜ヶ馬場10:19、丹沢山10:38。風が弱く、陽がさしてきた。暖かい。丹沢山を過ぎるとしばらく急降下が続く、すぐに大きな不動ノ峰の登りにかかる。不動ノ峰休憩所11:10、不動ノ峰11:23、再度ダウンアップして棚沢ノ頭11:32、弁当沢ノ頭へのコースを左に見る。正面にやはり素晴らしい富士山と南ア。再びダウンアップして鬼ヶ岩の頭を過ぎ、鬼ヶ岩11:46、不動ノ峰から始まるこのコースは日当たりがよく、コースは早くも泥濘状態になり歩きにくい。蛭ヶ岳12:12着。半昼食をとりすぐに下山開始。鬼ヶ岩12:44、棚沢ノ頭12:58、棚沢ノ頭と不動ノ峰中間で北面の本谷沢で大きな落石発生。不動ノ峰13:07、きつい登りがあり、丹沢山13:42、半昼食と水をとる。丹沢山山頂には小さな阿弥陀様を祭る祠があり、そこに線香がたかかっていた。小屋の管理人によると、この山は真言密教の霊場とか。蛭ヶ岳と塔ノ岳は天台密教である。塔ノ岳14:43、新大日15:13、この下山コースも泥濘。書策小屋跡で軽食。戸沢分岐15:30、戸沢山荘16:14。所要8時間42分。

### ■ 1月8日(金) 檜洞丸(1601m)

西丹沢自然教室前の朝3℃、晴れ、微風。8:35 出発。急斜面を登って緩斜面になるところに毎年早春にミツマタが咲くが、今年はまだ蕾は固い。ゴウラ沢出会9:13。東沢の水量は多くない。急登が始まり標高900mくらいのところでヒヨドリ大のキツツキ、写真撮影に失敗。展望園地9:53、大室山が望めるが、山頂付近は雪が多い。石棚山分岐10:51、付近にシカ3頭。檜洞丸11:04。富士山に笠雲。軽食をとり下山開始。石棚山分岐11:20、展望園地11:49、ゴウラ沢出会12:13、近くでシカ1頭、西丹沢自然教室12:42。所要4時間07分。

### ■ 1月28日(木) 畦ヶ丸(1293m)

先週末の寒波で日本各地で大雪が降った。丹沢の山々も白い。降雪の状況を知るため畦ヶ丸を選んだ。西丹沢自然教室、朝-2℃、快晴、無風。8:05 出発。橋を渡ってすぐにアイゼン着用。西沢に沿って歩くが、数回木橋を渡る。ルートは雪があるがトレールはしっかりしている。権現山分岐8:40、善六のタワ9:42はコルである。ここを登り切ると馬の背状の尾根になる。積雪は20～30cmくらいか。畦ヶ丸



10:34。水と軽食をとる。風は殆どなく快適である。下山開始、善六のタワ 11:10、西丹沢自然教室 12:11。所要 4 時間 06 分。

#### ■ 2月8日(月) 檜洞丸(1601m)

西丹沢自然教室前は昨日から降った雪で林道が凍結している。登山口は朝-2℃、晴れ、微風。8:37 出発。ゴウラ沢出会までは雪は少ない。9:20 ゴウラ沢出会。川原は全面雪。コースは樹林帯の下は雪は少ないが途切れているところは次第に雪が多くなる。10:17 展望園地。体調悪くここで引き返すことにする。下山は念のためアイゼン着用。10:53 ゴウラ沢出会、西丹沢自然教室 11:29。

#### ■ 2月24日(水) 大室山(1588m)

左脚クラハギ痛だが出かけることにする。用木沢出会の朝3℃、曇り、微風。8:14 出発。すぐに小雪が降り始める。ルートに雪はない。犬越路 9:18、ガスでほとんど視界はない。引き続き標高差 100m の急登。その後は小さなピークのアップダウンが続く。稜線に出る前の急坂には木橋が新調された。稜線 T 字路 10:39、大室山 10:46、軽食をとる。稜線沿いに前大室へのコースにもかなり長い木橋が設置された。また、案内板も多くなった。破風口 11:21 は大室と前大室の鞍部である。左脚の痛みだけでなく、体調が思わしくなく消耗が激しい。前大室 11:36、加入道山 11:48、水と軽食をとる。間断なく小雪降り続く。白石峠 12:04、峠からの急下降コースはやや荒れている。白石の滝 12:36、林道終点 13:05、用木沢出会 13:20。所要 5 時間 06 分。

#### ■ 3月8日(火) 御坂黒岳(1793m)

御坂山塊の盟主黒岳に登る。登山口の天下茶屋の朝、9℃、快晴、微風。9:00 出発。御坂峠まではすぐに標高差 140m を登る。コースには多数のドングリやブナの実が落ちている。シカの足跡あり。付近はブナとミズナラが多い。御坂峠 9:14。右手は三ツ峠方面。御坂山までは3~4つの小ピークをアップダウンしながら進む。御坂山 9:42。山頂ではアズマシヤクナゲの葉が緑を増していた。山頂から緩く下降する馬の背状の尾根にはブナの巨樹が数本。旧御坂峠 10:04 着。野鳥が多い。峠にツノハシバミ。この峠から先もいくつかの小ピークを越えてゆく。黒岳 10:56。コースの殆どは表面の雪解けがおわったばかりで、落葉の下はまだ凍結しているところがあり危険である。山頂から展望台まで往復する。黒岳 11:07、旧御坂峠 11:36、鉄塔 11:51、御坂山 12:04、軽食をとる。御坂峠 12:28、天下茶屋 12:37。所要時間 3 時間 37 分。

#### ■ 3月30日(水) 雲取山(2017m)

鴨沢集落から小袖林道を約2km 登ったところに以前からあった広場が村営の駐車場となった。朝の鴨沢5℃、晴れ、無風。登山道入り口 7:40 出発。キブシ、アブラチャンが開花。途中の水場には水が流れている。堂所 8:40、この先七ツ石山への分岐は2か所ある。分岐下 9:18、分岐上 9:39、分岐上から先はコースは凍結、アイゼン着用。ブナ坂 9:55、石尾根は雪は殆どなし。奥多摩小屋 10:21、雪解けのためコースはぬかるみのところがある。ヨモギノ頭はまき道を取り、雲取山 11:10、山頂付近にシカ2頭。10m 位まで近寄っても逃げない。山頂からは和名倉山、大菩薩連山など見えるが、春霞で遠方は見にくい。小休止の後、下山開始。奥多摩小屋 11:48、ブナ坂 12:06、七ツ石山分岐上 12:18、高山蝶のコヒオドシカ、体調 3cm くらいの蝶が温まった小石の上で体を温めている。軽食をとる。分岐下 12:36。堂所 12:55、登山道入り口 13:37。所要計 5 時間 57 分。

先週末は西朋のシニアハイクの高水3山登山に参加させていただいた。途中小雪もちらついたが、楽しい1日を過ごさせていただいた。参加者の多くが先輩であり、先輩の健脚ぶりにはただ脱帽である。

## 中信：上田・太郎山

【期日】2013. 3. 31 【参加者】玉田（38期）

### 表参道登山口 10:30—11:45 頂上 12:00—12:50 表参道登山口

長野県上田市にある、上田市民がこよなく愛する「上田市民の山」太郎山に行ってきました。登山道はとてもよく整備されていて、一年中登山者がいます。毎日登る人もいます。斜度も山頂までほぼ一定で（なので膝に過度の負担がかかることもなく）、岩場もありません。別の見方をすれば、単調で飽きるとも言えますが、飽きる前に山頂に着きます。

登山口から頂上までは一丁ごとに丁石が置かれていて、頂上はおそらく二十三丁かな？だと思います。登り始めると、すぐ右下に上信越道が見えます。上信越道太郎山トンネルはまさにこの太郎山の中腹を貫いています。じぐざぐと高度を上げていくと、この季節、芽吹く前の樹々の間からは上田市の街並みが見えます。ジグザグ登りが終わって、広い尾根上の道やトラバース気味の道をもくもくと登って行くと大きな石の鳥居があります。ここで半分弱です。

景色も道の状態も変わり映えのない中（・・・）丁石の数字が増えることだけがモチベーションみたいな登りを続け、やがて大きな赤い鳥居の前につきます。太郎山神社です。神社への階段の右側の道は裏参道です。神社へ行くには目の前の階段か、または階段の左側にある坂道で行きます。神社でお参りをし、左手へ回ると神楽殿があります。神楽殿からは眼下に千曲川、上田から小諸へ続く町、目をあげれば八ヶ岳、美ヶ原と雄大な景色が見えました。空気が澄んでいれば富士山まで見えます。神楽殿からちょっと下って登り返すと広場みたいな太郎山山頂です。山頂にはお地藏さんがいます。山頂からは最近大河ドラマでにわかに注目されている（？）上田城址公園や塩田平が見下ろせ、北西にはまだ白く輝く穂高から針ノ木あたりまでがよく見えます。鹿島槍以北は樹に隠れて見えないのが少し残念ですが、気持ちのよい山頂です。

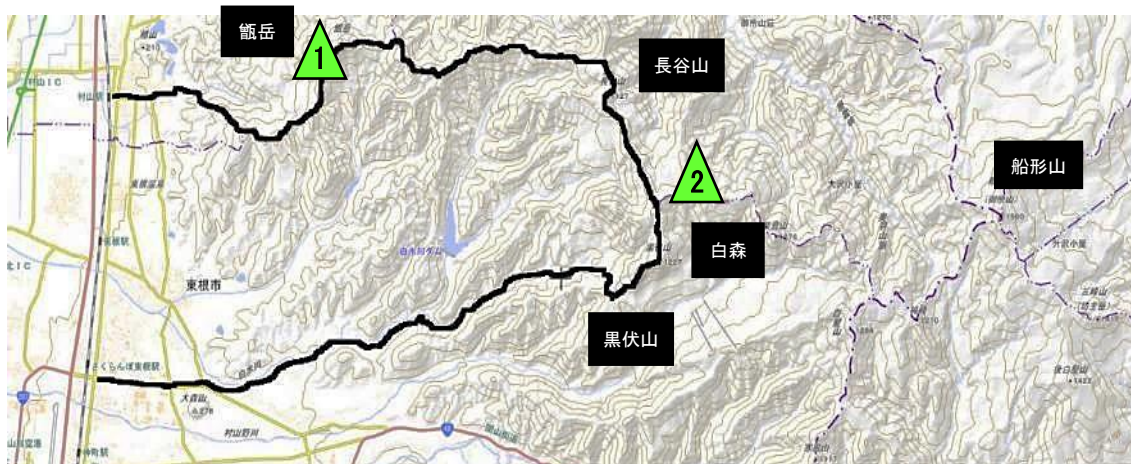
山頂からは来た道をとってこと下りました。のんびり出てきたので太郎山しか行きませんでした。いつか太郎山からさらに虚空蔵山への縦走路も歩いてみたいと思っています。虚空蔵山の縦走路は岩場もあり、やや変化に富んでいるようです。また、雪はまったくありませんでしたが、数年前3月下旬に登ったときにはけっこう雪が残っていました。暖冬を実感した今年初の山歩きでした。

## 船形連峰/VR：甑岳～白森～黒伏山

【期日】2016. 3. 31～4. 2 【参加者】尾崎（47期）

2014年夏に船形山の沢に行って、この付近の地図やガイドブックを見たとき、船形山西側に広がる1200m前後の山々が目に留まった。尾根末端から船形山まで山稜がしっかり続いており、南麓のジャングルスキー場以外はおそらく人臭くない。天候が安定し雪が締まる4月の中旬が最適とみた。以来チャンスをうかがってきたが、一発で行けるとは思わなかった。最初は、村山

の市街から甑岳のハイキングルートぐらいの偵察ができればいい所だろうと。



3月31日、山形を経て村山駅に11時前に着く。半袖で十分な陽気で、町中を30分ほど麓に着く。民家の廃水も流れ込んでいそうな川で水をくむしかなかった。そのあたりから沢筋沿いの道と尾根沿いの道が分かれるはずで、後者を行きたいと登り口を探すが見当たらずあきらめる。沢沿いの道でいくしかないとの方向で進んでいくと立派な案内板があって右に尾根沿い道の入り口が分かっていたのでそちらに行く。ここで先の沢筋を渡るが、橋そばの養殖池っぽい淀んだ水たまりの廃水が流れ込んでいた。めんどろなので水を入れ替えず進む。

尾根道は最初は急登だったが見晴らしはよい。たまに私も花粉症が突発するのだが、今回初めて山の中でそれに悩まされながら登る。左遠くに甑岳が見える。麓で見るより遠い感じ・・・700mを越えるころには雪が続くようになる。14時ごろ、登り始めの沢に沿う道との合流点で、そちらにはトレースがあった。単調気味の登路だが、快晴で左右の展望が開け感じはよい。歩き続けるしかない。16時前にようやく山頂手前の広場に到着する。本来の予定の山頂を越えたところまではまだ時間がかかりそうで、ここは明るく見晴らしがよいので幕営とする。

明日の目標地点である白森まで、山並みがうねっているのがよく見渡せる。明日朝は好天が望めるが、明日夕方以降は怪しい。明日は最大でも白森まで行ければいいところだろう。白森の下降、黒伏山のルートファインディングは少々不安もある。

2日目快晴の朝。とくに寒くないが、やや冷えたようで、歩き始めはワカンの歯を利用して歩く。甑岳を過ぎると夏道は無いので、慎重を要する。大きなアップダウンはないが、地図で数えて22個のピークを越え、23個目が幕営予定の白森となる。前半と後半の各ピークは尾根屈曲点であることが多く、下り方向に注意がいる。984mから1005.4mまでの各ピークが前半部の方向注意の各ピークである。ド快晴でめっぽう視界が良いので不安はないが、2万5000円でよく確かめながら進む。ブナ大木にピッケルを使い二〇一六年四月一日と切り付けを入れてみる。もちろん縦書きだ。なかなか難しい。雪の状態と量は100%想定通りで、歩程ははかどる。実際には道のりは長くその実感はない。964mからの下りは尾根が細く切れているのでワカンを外しバックステップで行く。その後ワカンは外したまま行動する。1104mピークとそれに続く長谷山

1127.1m の横長の山稜が近づくと案外と小さなアップダウンが続く。やがてすぐ右下に沢の源頭地形を見ながら気持ち良い雪尾根を登る。振り返ると自分のトレースが延々続いているのが爽快だ。1104m に 12 時着。かなり来た感とまだ先はある感が交錯する。正面に白森はまだ遠い。左手奥、霞の中に見えるのは船形山本峰だろうか。とにかく今日は白森まで行く必要がある。

長谷山は雪の台地状で山スキーっぽい場所である。しかし左に回り込みながら下る尾根は狭くヤブも出ており、少々気を使う。1007m の峠を横切る林道も完全に雪の下である。今後が見えてきたような気もするが、まだ、なだらかだが 5 個ほどのアップダウンが残っている。実際、先の休憩からここまで完全に 1 時間を要しており、気合を入れなおして残りの行程に入る。

14 時を過ぎると、やや風が強まり、また、予想通り上空に雲が広がってきた。やがて白森にその雲が引かかるようになってしまい、右手の沢渡黒伏に太陽光がチンダル現象を起こしながら当たるようになる。昨夕見えた白森直下の灌木斜面を登るころは、完全にガスの中になってしまう。視界の無い 15 時、白森頂上道標を突然見つける感じで頂上に着く。向こう側には何も見えない。下降路に不安を感じる。

問題の下降～黒伏山へのルートだが、これを見出してから幕営したい。頂上直下で 10m ほど夏道が出ていた。しかしすぐに雪の下に消えてしまう。その方向（南西）に続く尾根は沢渡黒伏に続く尾根である。この尾根を 40～50m ほど下ったところから、左に下るのが正しいが、左側は小雪庇が張り出し視界もなく、正規の尾根筋はまったく見えない。下降ポイントは不明である。どう考えても行きすぎ、という地点まで行き、そこから左にトラバース気味に下ってみるが、だだっ広い斜面で程なく森林内に入ってよくわからない。あきらめて元のところに戻り、いったん頂上に向けて登り返す。その距離感覚からおそらくこの辺が正しいだろうという地点まで登り、雪庇手前でも風の当たらない斜面を切り出して幕営地とする。テントに入る前に、その場から左下方を改めて偵察すべく、雪堤を乗り越えて行ってみると、左上は小さな崖状になっていて、その下方が尾根らしき形状をなしている。方向を確認しつつ 70～80m ほど下ってみると、どうも正しい雰囲気である。ここで、3 月半ばに導入した小型 GPS で緯度経度を測定し地図に照合した。ばっちりである。安心してテントに戻った。

3 日目、昨日より少し遅くまで寝て、7 時に出発した。天候は昨夕同様ガスに包まれている。昨日の偵察トレースが消えるタイミングはちょっと緊張するが、地図通りの地形が続く。さらに、古いトレースも現れ、鬼に金棒・・・などと思っていたら、やがてトレースは消えてしまう。広い尾根から黒伏への登りになり、右へカーブして黒伏山頂上と思しき場所に着く。道標も何もないのはっきりしない。つまりここからの下降も次の問題箇所である。とくにこの先 1185m の判別とここからの下降ルートは注意を要する。南西へ下ると再び登りとなる。先の場所はやはり黒伏頂上だったようだ。登りきって一番高い所を過ぎてそれが 1185m だと確認してから、念のため GPS で位置確認し、ほぼ真西方向への尾根へと入る。やがて木に赤ペイントが現れ、急斜面に道が現れた。正解だった。尾根が真西に向かうあたりから右（北）へ下り、雪の林道に出る。あとはこれを忠実にたどって白水川ダム下流の入集落に出る。このあたりは果樹栽培地が広がるが、まだ花も葉も出ておらず、山麓の春はまだ浅い様子だ。そこから 2 時間と少し歩いてさくらんぼ東根駅に 12 時 40 分に着いた。

# 2016 年度

|         |       |
|---------|-------|
| 会長      | 渡辺 喜仁 |
| チーフリーダー | 松本 哲郎 |
| サブリーダー  | 尾崎 宏和 |
| 会計      | 上野 利之 |
| 都岳連関係   | 上野 午良 |
| 記録・会報   | 松本 哲郎 |
|         | 尾崎 宏和 |
| 装備      | 灘吉 聡  |
| 西高係     | 山野 裕  |
|         | 博多 誠  |
| ホームページ係 | 灘吉 聡  |
| シニア山行係  | 松田 稔  |
|         | 黒澤 隆  |

## 屋久島：宮之浦岳

【期日】2016.5.7【参加者】小川（12期）、他4

小川が関与している視覚障害者と山に登る会「六つ星山の会」のメンバーを交えた5人パーティーで日帰り登山を行った。5名のうち2名が視覚障害（弱視）があるが、登山経験は豊富である。宮之浦岳(1936m)は屋久島にあるが九州地方の最高峰である。

5月7日、淀川登山口(1,300m地点)を6:50に出発した。雨である。ゴアテックスのレインウェアを着こんだがさすがに暑い。通常視覚障害者と登る場合はザックにかけたロープを握ってもらい、ザックの移動具合から歩幅や高低差を感じてもらおうが、今回の2名は弱視なので明るい所ではロープに捕まることなく先行者の動きが判断できるようである。淀川小屋を過ぎ、本格的な登りとなる。南国でしかも豊富な水分で木々はどれも大木である。特にヒメシャラは都会で見かけるのとは大違いの天を突くような巨木なので驚いた。10:10頃1,600m地点にある花之江河に到達。どろどろした湿地帯が広がっている。さらに1時間歩くと投石平という巨岩の広場にでる。本来なら宮之浦岳や永田岳が見渡せるビューポイントらしいが、小ぶりになったとは言え一面の霧で天望はほとんどない。我々のペースが落ちてきたのか、すでに山頂をきわめ下山を開始した人たちとすれ違った。間もなく宮之浦岳の山頂という時点で急に青空があらわれ、見事な展望が開けた。13:30宮之浦岳山頂に到着。360度の展望に歓声をあげる。スローペースのお陰で手にした絶景である。下山は、疲れもあり予定時間をオーバーしたが19時に無事登山口に到着した。

視覚の障害にも関わらず登山に挑む視覚障害者の積極性に、今回も大いなる刺激を受けた。

## 佐久：御座山

【期日】2016.5.15【参加者】渡辺（21期）

安曇野の有明の耳塚に民家を借りて、「関山荘」と名付けた。そこへの往復の時に、手ごろな山にも登ることにした。佐久の御座山は、深田久弥の登山記録があり、気になっていた。栗生まで、車で入れるので、東京を4時に建ち、6時には登山口に到着、そこから2時間で山頂に着いた。北側は岩場で佐久平の見晴らしがいい。なぜか、山頂のそばに、不似合いなほど立派な避難小屋が建てられていた。下山は1時間。そこから安曇野に昼前には着いた。今度は、避難小屋に泊まり、頂上で星空を眺めるのもいいだろう。

## 八ヶ岳：夏沢鉱泉～根石岳

【期日】2016.6.4【参加者】玉田（38期）

桜平 P 11:00 (いろいろあって (後述) こんな時間・・・) -- 11:20 夏沢鉱泉 11:30--12:15

オーレン小屋 12:25--13:25 根石岳 13:40--14:15 オーレン小屋 14:30--15:10 桜平P

- ・桜平→夏沢鉱泉 砂利道林道
- ・夏沢鉱泉→オーレン おじさまパーティに追いついたら、いろいろ聞かれたのでお話ししながら一緒に歩いた。久々にパーティー組んで歩いた気分。道は歩きやすかった。沢の音、森のにおい、鳥の声、幸せな気分であまりよく歩けた。
- ・オーレン→根石岳 夏沢峠へ向かう人がほとんどで根石岳への道に入ったとたん、誰もいない。ひとりぼっち。林の中の空気をたっぷり味わいながら、花を探したり、歌ったりしながら登る。稜線に出たら風が冷たくフリースを着込んだ。
- ・根石岳 何度か縦走でこの山を踏んでいたはずだけれど、申し訳ないことにこの山の記憶がない……。でも見晴らし良好。人も少なくいい山だった！お隣の天狗岳は東も西も頂上に人がたくさんいるのが見えた。
- ・帰りは来た道をただ下る。メジャーじゃないけど、その分静かでもよかった。  
＜おまけ＞遅くなった理由  
その1：5時に目が覚めたのに、次に目を開けたら7時半だった……。  
その2：新しい道路が出来ていて（うちのナビにはのってなくて）、よくわからなくて2度も道を間違えた……。  
その3：翌日は八ヶ岳開山祭ということで入山者多数。そのため桜平P近辺は車がいっぱい。駐車に時間がかかった。（強引に路肩に停めた）開山祭だということは小屋に掲げられた看板を見るまで知らなかった……。不覚です。

### 南八ヶ岳／WC：地獄谷本谷、川俣尾根 【期日】2016.7.16～17【参加者】尾崎（47期）

16 日朝、清里ではかなり濃い霧雨。悪天前提だったとはいえ出鼻をくじかれる。7時半ごろ弱くなって歩き出すが、すぐまた強くなる。11時出合小屋。川俣尾根の取り付きを確認して11時半過ぎに地獄谷に入ると急に晴れてくる。よかった。大滝左岸の高巻き特に問題なし。稜線14時着、曇り。この時点ですでにテント場はそれなりに埋まっているので出合まで下ることにする。ツルネまでの登り返しは予想より楽だった。ツルネ東稜は初めてでないので油断した。下りで一か所間違える。トレースが怪しくなって数十メートル登り返すが、正規の道が見出せないのも再度下るとさらに怪しくなる。もっと上で間違えたのだろうと再び登り返した。確かに、（下へ向かって）右へ間違えていた。しっかりとしたマーキングが（下方向へ向かって）左にあったにもかかわらず見逃した。ツルネ東稜を降りきったところに16時前について幕営。出合一帯は、夏草茂りぎみでありすっきりしない。本当は稜線で泊まりたい気もしていた。しかしここは誰もいなくて気楽で良い。19時過ぎに寝てしまう。

17 日朝、疲れ感があって朝起きたくない。6時過ぎまで寝ていて7時ごろ出発。川俣尾根は、赤岳沢出合対岸の数メートル下流で、小さな草っ原から岩へ向けて踏み跡が分かっている。この踏み跡がほぼ続いていて、マークもある。2300m 地点は地形図ではスペースがありそうだが、

実際にはほとんどなかった。むしろ遭難碑のある 2380m 地点の方が気持ちいい。夏なら水が必要だが今後泊まってみてもよさそうだ。ここまで基本的に藪漕ぎなし。しかし 2400m を過ぎると完全に藪漕ぎである。藪漕ぎ終了地点は三ツ頭から少し権現岳に寄った 2560m 地点の登山道である。ここに 11:40 着、天女山経由でゆっくり下って甲斐大泉駅 15:30。

---

### 南アルプス：聖岳 高山植物保護活動

【期日】2016. 7. 16~18 【参加者】橋本（12期）、他

---

一昨年から参加しているボランティア活動で、静岡県の依頼による聖岳で高山植物保護活動に参加した。前日の7月15日（金）夜中に自宅を車で出発し、畑薙ダムに向かう。新東名の新静岡から井川方面に向かうが、県道 189 号線は山岳道路である。急な勾配とカーブの連続と当夜の濃霧に閉口したが、何とか畑薙第1ダム沼平ゲート前に4時ころ到着、仮眠をとる。6:00 にゲート前から車で聖岳登山口に向かう。

7月16日（土）天気曇り、無風、18℃、聖岳登山口 7:07 出発。出会所小屋跡 7:36、ここからはやや下降気味に聖沢橋まで歩きやすいコースで、吊り橋に着く 8:10。ここから急坂が始まる。造林小屋跡 9:05、前夜発の疲れが出てバテがひどい。やや傾斜が緩くなり標高 2011m 地点近くの乗越着 9:59。付近にはイワカガミ、オサバグサ、マイヅルソウ、カニコウモリが多い。急なアップダウンを繰り返して岩頭滝見台に着く。ガスで視界無し。聖平小屋 12:12 着。所要 5 時間 05 分。午後より作業（旧登山道土砂崩壊部分補修工事）。

7月17日（日）曇り、風やや強い。聖平小屋 5:55 出発。薊畑 6:15、ここは高山植物が多く、一面のお花畑である。マルバダケブキ、ハクサンフウロ、グンナイフウロ、タカネスミレ、シナノキンバイなどが咲いている。樹林帯を過ぎ、稜線に出るとガスを伴う西風の強風である。稜線にもハクサンシャクナゲ、イワベンケイ、コケモモ、チシマギキョウ、タイツリオウギなどが目を引く。小聖岳 7:00 着。依然として強風と濃霧。前聖岳の急坂ではさらに風が強まり、ガスも濃いまま。ガレ場にはオンタデ、チシマギキョウ。前聖岳 8:00、小休して奥聖に向かう。稜線や凹地にはコケモモ、チングルマ、ハクサンシャクナゲの大きな群落。凹地でコース脇の木杭のチェックと打ち込み作業。奥聖岳 8:48、強風やまず。カメラのレンズがすぐ水滴で曇る。引き返し、前聖岳 9:04、小休軽食、すぐに下山開始、小聖岳 9:44、薊畑 10:30、聖平小屋 10:41。所要 4 時間 46 分。午後は、小屋上の縦走路付近で作業。

7月18日（月）快晴、微風。早朝、小屋前から生木割山に登る朝日が刻々と光が変化。6:00 より小屋上の崩壊地付近で再生してきたニッコウキスゲ幼植物保護枠（4本支柱立）設置作業。聖平小屋から下山開始 7:01、急坂のアップダウンを過ぎ聖平小屋まで 80 分の標識 7:37、引き続きアップダウンがあり、岩頭滝見台 7:47、聖沢の2本の沢にかかる滝を遠望する。その後方に聖岳。乗越までのコース右側には良い水場がたくさんある。かなり消耗して聖沢吊り橋 9:04、小休。出会所小屋跡 9:41、聖沢登山口 10:36 着。所要 3 時間 35 分。



## 白神山地/WC：追良瀬川本流～三の沢、白滝訪問、ウズラ石沢

【期日】2016.8.11～14【参加者】松本（28期）、尾崎（47期）

8/11

前夜、各々18きっぷにより能代に至り駅寝する。11日は五能線の一番列車で景色を楽しみ、陸奥黒崎に7時過ぎに到着。タクシーで追良瀬大橋へ。8時に歩き始める。ほぼ同時刻にジャンボタクシーで来た6人パーティと相前後しながら進む。途中の淵ではたった5mほどの泳ぎでも、水は冷たく消耗する。この淵泳ぎでは、「水流が穏やかそうでも必ず流れがあってそれが渦をなしていることもある」、「水温はプールと違って冷たい」、「したがってザイルは必ずつける」と反省した。最近いくつか泳ぎをしたので悪い慣れがあった。それ以外は、絶好の晴天のもと順調に進む。二の沢合流点から先が長く感じた。五郎三郎の滝の所に6人パーティは泊まると言っていたので、我々は明日の予定のこともあり、三の沢出合いまで行く。河原付近に場所はなかったが、本流左岸・三の沢からは右岸にあたる段丘上に良い場所を見つける。



8/12

白神の最高峰「向白神岳」に至る沢として、追良瀬川三の沢に日帰り挑戦する。しかし事前情報は25000図と衛星画像のみ。結果はまったくの敗退だった。しかし、未知の沢を探ったのは「やることをやった」、という印象がある。行動部分の記録を残す。なお、ここで示す緯度経度は、帰宅後にGoogle衛星画像と再照合したもので、推定の位置である。

### ■ N40度30分12.65秒 E140度3分35.30秒 (40.503513,140.059805)

5:40. 歩き始めてすぐ、沢が左に曲がるとともに釜をもった10m滝。しばらくは何もないと思っていたにもかかわらず、すぐに滝が現れたので、「この先ただではすまないかも」と感じた。反面、滝つぼの左を上がる踏み跡のような地形があり、楽観しても良いのだと思ってしまう。

■ **N40度30分25.48秒 E140度3分11.89秒 (40.507078,140.053303)**

沢がわずかに右に屈曲しながら、兩岸岩壁が立ってくる。

■ **N40°30'31.0、E140°03'06.1 (40.508608, 140.051692)**

最初の二俣の上にある12m滝。6:50。手前の565m地点二俣から見ると両門の滝をなす。740m付近までは何もないだろうと思っていたのは全く異なる展開にビビる。左壁の草付きに取り付く。足場ヌルヌルで登れないと思っていたとき、左にちょうど良い倒木を見つけ、ヨッサヨッサと引き寄せる。これを足場によじ登り、アイスハンマーを駆使して8mほど上の岩の上に出る。ここからさらに右へ10mほどトラバースする。先行記録はないので非常に神経を使う。途中なんとか2か所、細いブッシュにランニングを確保できた。滝上に出て別の倒木でビレイ。7:30、滝を突破。

■ **N40度30分39.72秒、E140度3分2.54秒 (40.511034,140.050707)**

滑床が美しい。

■ **N40度30分50.70秒 E140度3分2.54秒 (40.514085,140.050707)**

緩い傾斜でほとんど歩いて登れる滝。だが下りは懸垂下降するレベル。今後の滝もこの程度で続くことを祈る。

■ **N40°30'57.3"、E140°03'03.7 (40.515922, 140.051032)**

前衛滝(8m)の奥にやや左から25m直瀑が落ちている。仮称「ねじれの大滝」。直登の可能性は皆無である。前衛滝とともに左の草付きから巻く。樹林に達してからもう一段登り、灌木沿いに右へ斜めに降りる。

■ **N40°30'59.9、E140°03'01.4 (40.516642, 140.050376)**

15m滝。右から登る。ザイルはなくても登れるが使用する方が安心。

■ **N40°31'01.3、E140°02'59.9"E (40.517039, 140.049959)**

770m二股で休憩。9:15。

本流は右。左俣に落ちるスラブ滝が美しい。この辺りは、沢の屈曲と右岸への支流の入り込みが頻繁にあり、左俣または右俣本流が左に屈曲する地点に大滝がそびえる地形が連続する。地形形成因子として、地質的な何かがありそうだ。

■ **N40°31'09.7、E140°03'02.9 (40.519349, 140.050800)**

6m・4mの2段滝。上の滝はショルダーで左寄りから乗越す。

■ **N40°31'11.5、E140°03'01.3 (40.519865, 140.050360)**

仮称「黒滝」20mの下で敗退10:36。沢が右に屈曲すると、大落差の滝が太陽光にキラキラと輝いているのが目に入る。まるで天から落ちてくるようだ。その瞬間「これで打ち止め！」との気持ちがはたらく。とにかく滝下まで行き可能性は探してみる。滝は見た目では順層の段々のようにも見えるが、傾斜が強く苔でぬめっている。黒い色はそのため。直登の場合はかなりのシャワーになる。行けそうな気もするが勝算は読めない。むしろ相当な躊躇を覚える。まだ進みたい気持ちとのせめぎ合いで、右の草付きからどうだろうか、などとも考える。しかしこれも足場は不安定そうである。どこを登るにしても落ちたらただ事では済まない。ここを突っ込んでも、引き返しの懸垂下降に必要な残置用スリングも不足する可能性が高い。標高950m付近はさらに等高線は混んでいて、まだいくつも大滝があるのは確実だ。頂上は標高1250m、現在まだ830

mで10時半。出発からすでに5時間。ここからの下降も4-5時間を要するだろう。敗退。下降は、最下部の滝以外は全て懸垂下降を行った。最下部の滝は、右の段丘地形をたどってテン場に戻る。16時テン場帰着。帰宅後再び衛星画像を確認すると、「黒滝」よりも上に同クラスの滝がまだ2-3個以上はあると思われた。先に進んでも非常に厳しかっただろう。

## 8/13

ガイドブックだと我々が今日のテン場にしようと考えているウズラ石沢 650m の二俣までは6時間ほどかかりそうである。しかし地形図的にはそんなにかからないような感じはする。昨日とは変わってややのんびりモードだが、5:40には出発する。本流の流れは釜のヘツリ1回、ミニゴルジュの巻きと懸垂下降1回でとても緩やかである。グリーントフの沢床に朝日が差し、天国のような美しさをみせる。8:20にはウズラ石沢出合いに着いてしまう。あっけないので、空身で本流の探索に出発。尾崎は、上流2.5kmほどの地点にある白滝（ひぐらしの滝）を見物してくる（40°28'05.3"N 140°02'11.6"E、40.468139, 140.036558）。落差100m以上、末広がりですダレ状に落ちる様は息をのむ。融雪期は圧巻と言われるのが想像がつく。

ウズラ石沢は小滝やミニゴルジュのチョックストーン滝など楽しむ。予定地には14時に到着した。予想通り快適な場所で、少々早いのがこれより上に適地は見込めないのが焚火を楽しむ。

## 8/14

5:17に出発。左俣に入り、810mは右、その後上部は左、左と行く方針である。しかし855m地点では左から枝沢が入った。ここは高度計と地形図で右と判断。次の二俣で二人で議論となる。ここが880mか915m地点か？結局ここは右に行ってみるがやがてヤブに没した。左へトラバース気味にヤブを漕ぎ窪に出る。それなりに顕著な切れ込みのように思える。二人ともこれを本流に戻ったと思ってしまう。しかし1000m付近で濃密な笹藪になる。急で滑りやすく登高に苦勞する。ここはすでに谷状でなく、後方北側には970m付近のなだらかな地形とその向こうに尾根筋が見える。やはり違うことが明らかである。高みを目指してヤブを漕ぐ以外にもはや選択肢は無い。地形図で1175m付近の尾根に出たしまい、時折前方に小屋が見える。あともう少しだと思つてうれしいがぬか喜び。笹はさほど固くないが濃密だ。10時40分、ハイカーで盛況な山頂に出る。

11時前に陸奥黒崎に向けて速足で下山を始め、五能線白神岳登山口駅に14時前に着く。14時14分の列車にちょうど間に合う。これを逃すと数時間列車が無い。海辺の駅に直接下りて来るなど、なかなかない機会、それなりの感慨を味わった。

## 富士山：吉田口～7合目

【期日】2016.9.1【参加者】橋本（12期）

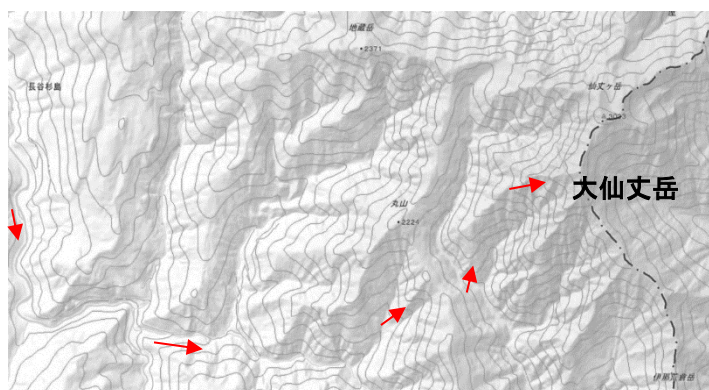
台風10号は岩手・北海道に甚大な被害をもたらした。お見舞い申し上げたい。久しぶりの山行である。約1ヶ月半のブランクである。富士山吉田口の登山口の馬返し、朝16℃、晴れ、微風。8:15出発。付近はすでに秋の気配である。テンニンソウ、ノコンギクが咲き乱れている。1合目8:25、2合目8:46、3合目9:04、イタヤカエデ、バッコヤナギ、コメツガ林が続く。4

合目井上小屋 9:38、佐藤小屋 10:12、トモエシオガマが多数咲いている。6合目安全指導センター10:50、この付近は交通の便もよく、特に外国人の登山者が多い。ただし、馬返し～5合目も静かな、美しい樹林帯を楽しむことができる。ガスが出始め、視界が殆どない。ただ、風が弱いので先を目指す。7合目花小屋(2700m) 11:55。今回はここで引き返す。6合目 12:00、佐藤小屋 12:16、井上小屋 12:43、昼食休憩。付近にはハナイカリとトモエシオガマ多数。3合目 13:13、馬返し 13:50。所要 5 時間 35 分。

## 南アルプス／VR：岳沢越～大仙丈岳西尾根～両俣

【期日】2016.9.27～10.1【参加者】尾崎(47期)

2016年9月は12日以降悪天候に終始した。秋分の日の連休も月末も連日の雨続きである。向こう10日の予想天気図が更新されるのを毎朝みて、休暇との兼ね合いの中、可能性を探る日が続く。そんな中、9月24日ごろから、30日は前線が南下し、この日ばかりはぜったいに好天だろうと思う予想図が現れつつあった。スケジュール調整の具体的画策が始まる。



### 9月27～28日

小淵沢行最終に乗る。小淵沢で寝て翌28日朝の始発を乗り継いで伊那市へ、さらに路線バス、伊那市民バスとつないで、高遠経由、岩入という最終集落に10時半に着く。すぐに頑丈なゲートがあるが、ダンプが多いのは相変わらずで地元？バイクまでもが入ってくるのはどんなものか。天気予報は、今日午後から明日いっぱい最悪の予想である。空は明るいがやがて降り始めた。幸い、降ったりやんだりの中歩き、丸山谷林道終点到12:15着。横の斜面かフィールド調査らしき大学生2名と教員1名が下りてきて、置いてあった車に乗る。悪天に一人で突っ込むこちら、不安感が募る。丸山越の道は勝手知ったるので、1409m標石地点から斜面を登ってトラバースして廃屋に至るのは問題ない。廃屋の少し上から丸山越に至る沢は、1か所、右への枝沢に入りそうになるが急な左沢の方向を確認し、滝を左から巻くと右の樹林に入って急登をすると鬱蒼とした丸山越に着く。空はかなり暗くて対岸の森はますます怪しげである。三峰川に下り、下流方向に大仙丈岳西尾根取付点まで行って幕営する。じめじめして、昔のゴミもあって、あまり快適でない。夜半から翌朝は、予報通り強い雨になる。

### 9月29日

朝はやはりかなり降っており、想定通り沈殿する。午後は雨やむという予報通り、11時ごろから小降りになってきたので出発するかなあなど考える。昼過ぎに行けるところまで行くこととして歩き始めるが、大ガスの中でパツとしない。大仙丈岳西尾根下部はほぼ予想通りヤブは

薄い。加えて、それなりにはっきりした踏み跡も頻繁にみられる。ここまでの踏み跡ができるまで人が入っているとは思えないので、獣道だと思うのだが実際にどうなのかは不明である。14時、2200m付近のちょっとした平坦地で休憩。2300m付近までは二重山稜状になっており、基本的に窪地の左の尾根を進む。このあたりも踏み跡のような筋がある。2396mはピークで左折する感じである。さらにはっきりした尾根筋を問題なく淡々と登り、ちょっとした露岩を過ぎた15時半、2475mの平坦地で幕営とする。ここを過ぎると急登となって良い場所はなさそうだ。天候は相変わらず小雨交じりのガスである。

### 9月30日

天気予報は午前うちに回復を伝えている。5時半出発は気合を入れたつもりだ。幕営地を出るとすぐに急な尾根となる。ややヤブっぽいのが、尾根筋の地面は昔人が歩いたような地形がみられる。2710m 地点付近はややハイマツ漕ぎとなる。行く手に2段ほど、岩がちで急な部分が見え、やや心配になる。1段目の急なところは、大岩下を右からトラバースして灌木のある斜面を登る。大岩にはハーケンが数本残っていた。2段目はとくに問題なく通過し、高山帯の尾根を登り詰め、9時20分、大仙丈岳頂上に出た。

とりあえず大仙丈沢下降点まで行って荷物を置き、仙丈岳本峰を往復してくることにした。しかしこのまま沢を下ると、時間が余りそうで、大仙丈沢自体2015年9月に下降したことがある。そこで行ったことのない両俣へ稜線を縦走し、今日は両俣小屋でテント泊することにした。そうすると今度はそれなりの距離があること、明日の林道歩きは雨を覚悟する必要が出てくるが、今日は白峰三山を望む秋の南アルプスを楽しむことができた。両俣下降点に14時半、両俣小屋テン場15時半。



左：2710m 手前から見る大仙丈岳西尾根上部

右：手前の岩を右から巻き、上部灌木帯を通過後、さらに上の岩斜面は右寄りを登る。

### 10月1日

5時半ごろからぼつぼつときたが、問題なし。広河原まで4時間弱歩く。向への大学生グループとすれ違う。広河原に着いた頃、小雨と青空が入り混じる天気になった。

---

**信越：鳥甲山 【期日】2016.10.6~7**

**【参加者】小川(12期)、渡辺(21期)、松本(28期) 【連絡先】中村(21期)**

---

10月6日、中野8時10分発、のよさの里にてキャンプ。7日、台風一過の好天に恵まれ、念願の鳥甲山に登って来ました。むじな平口に車を置き、屋敷口に下山。車の回収用に自転車を屋敷口に置いたのですが、これがチェーンが外れて使い物にならず、先に下った松本君が車を取りに、6.2kmを30分で走ってくれました。のよさの里も、出来て30年の間にかなり古びてしまっただけ、オートキャンプ場は簡素で気持ちのいいところでした。一人2160円で、温泉は24時間、入り放題の源泉かけ流し。ここに再度行くとしたら、次は苗場山登山の時かな。(渡辺)  
--- 昨夕無事に下山と。天気完璧でとてもよかったと。くそ。(中村)

---

**奥秩父：大弛峠～金峰山**

**【期日】2016.10.11【参加者】橋本(12期)**

---

焼山林道はまだ紅葉は一部だが、カラマツ林が異様に黒灰色である。大弛峠に近づくにつれ、ナナカマドが葉を落としているが赤い実をたくさんつけている。大弛峠の朝5℃、薄曇り、微風。8:23 出発。今回は北奥千丈に向かわず、直接金峰山を目指す。朝日峠 8:46、近くの露岩帯付近で天気回復し、雨後のためか富士山と南ア連峰が素晴らしい。朝日岳 9:12、展望台からは八ヶ岳全山、中央アも見える。森林限界に入るとコケモモが多いが果実は殆どない。金峰山 10:01、北アまで見える。軽食と写真を取り、下山開始。朝日岳 11:28、朝日峠 11:28、大弛峠 11:53。所要3時間30分。

---

**シニア山行：南高尾山稜 【期日】2016.10.25**

**【参加者】南波(2期) 川口(6期)、林(6期)、高山(9期)、松田(9期)、黒澤(10期)、橋本(12期)**

---

秋の西朋シニアハイクは、今日、好天に恵まれ、7名の参加者で、南高尾尾根を、にぎやかに楽しく、歩きました。今回も、南波さん(2期、数え86歳)の健脚ぶりに皆圧倒されました。

(以上 黒澤) 高尾山口駅に10時集合。10時15分のバスに乗り大垂水峠10時35分。大洞山11時05分、西山峠12時30分、三沢峠に13時着で昼食。草戸山13時57分、四辻15時19分で高尾山口15時32分。約9.4km程の山行でし



た。その後美味しい生ビールと山芋蕎麦を食べました。次回は来年3月を予定しております。(松田) 写真は、左から、橋本さん、川口さん、高山さん、南波さん、林さん、松田さん、黒澤さんです。

## 中信の山報告：黒斑山、湯の丸山

【参加者】玉田 (38期)

### ■ 黒斑山 2016/10/27

あまりに青空がきれいだったので居ても立っても居られなくなり近くの黒斑山へ。高峰高原のあたりは紅葉が見ごろだった。浅間山が噴火するかも、と(3分の1くらい本気で)思い、計画書を登山口のBOXにちゃんと投函して出発。八ヶ岳や富士山にうっとりしたり、シラタマノキ(多分)の実を見つけてかわいいなあ〜とみとれたりして、のんびり登る。途中から真新しい木の階段が敷設されていた。避難小屋手前でいきなり浅間が顔を出しその大きさに思わず「うわっ!」と声を出してしまった(まわりに誰もいなくてよかった・・・)。槍ヶ岳手前では日陰に霜柱も。トーミの頭には地元の幼稚園と思われる集団がいた。黒斑山の頂上ではなんと・・・ミニショベルカーがいて、工事をしていた(-)。携帯の基地を作っているらしい。基地完成後は賽の河原で携帯が繋がるようになるそう。それにしてもこのミニショベルカーはどうやってここまで運んだんだろう?登山道を登ってきた?工事のお兄さんたちは毎日登ってくるのかなあ。そんなこんなで頂上はゆっくりできる状態ではなく、通過地点みみたいな雰囲気だった。その先、蛇骨〜Jバンドまで行こうかなと思っていたが、この日の稜線は風がものすごく強かったのでやめた。帰りは中コースを下った。トイレの話。以前はビジターセンターのトイレを使えたが、いつの間にか高峰山の登りに公衆トイレができていて、登山者はそちらへ。

### ■湯の丸〜烏帽子 2016/11/05

起きたらとっても天気がよかったので裏山の湯の丸へ。地蔵峠までは車で20分。思い立ったが吉日(?)。湯の丸はいつも地蔵峠からグレンデを直登。つつじ平は昨年だったか整備されて、新しい案内板や見晴台、ベンチなどが置かれておしゃれになった感じ。5cm以上ありそうな霜柱をザクザク踏んで雲一つない青空の下、目の前の湯の丸山にるるるん登った。頂上は相変わらずすばらしい眺望。奥秩父、富士山、八ヶ岳、穂高から白馬まで、北信五岳、志賀・・・。頂上についた人、みんな思い思いに写真を撮って惚れ惚れしてる(ように見える)。湯の丸から向かい側にある烏帽子に向かって下る。ここの下りはけっこうキツイのでゆっくりと。そして皆様にはいろいろとアドバイスをいただいて購入したストック登場!今こそ本領発揮!と思ったが、使いこなせない・・・。ストックは突けばいいと思っていたけれど、何やら難しい。勉強しよう。湯の丸と烏帽子の鞍部からは霜柱が解けてぬかるみ状態(T T)。帰りを想像すると気が重くなった。が、実際には下りでそんなには苦労しなかった。烏帽子の頂上からは今年の大河ドラマ真田丸で大いに盛り上がった上田市の街を眺め満足して下山した。

## 丹沢・御坂の山々

【期日】2017.1~2月【参加者】橋本（12期）

山行には必ずコースタイムを記録している。当然のことだが、この記録は過去の山行を思い出させ、次回の山行の安全登山に大いに役立つ。もちろん過去との比較もできる。

### ■ 1月2日（月） 蛭ヶ岳（1673m）

登山口の戸沢山荘の朝、曇り、5℃、無風。7:10 出発、政次郎尾根を登る。標高差約 640m の急登を一気に登り丹沢主脈稜線に出る 8:32。少し手前の開けたところからは新春の相模湾のキラメキは弱い光。新大日 8:54、木ノ又大日 9:06、南寄りの強い風が吹き出し、一時小雪が舞う。塔ノ岳 9:33、天気は快方に向かい風も弱くなる。山頂北面の急下降に着雪はあるがアイゼン不要。日高 10:00、竜ヶ馬場 10:12、丹沢山 10:33 着。快晴となり気温が上がる。丹沢山を過ぎしばらくすると長い木道の下降が続き、再度不動ノ峰への登り返しがある。不動ノ峰休憩所 11:11、不動ノ峰 11:20、ここから見る富士山と蛭ヶ岳は素晴らしい。南アは見えない。再度アップダウンがあり棚沢の頭 11:30、鬼ヶ岩 11:43、蛭ヶ岳 12:10 着。山頂からは真鶴半島、富士山、山中湖など、東面からは塔ノ岳、横浜方面、宮ヶ瀬湖などが見える。半昼食をとり下山開始、鬼ヶ岩 12:41、棚沢ノ頭 12:56、不動ノ峰 13:05、丹沢山 13:43。帰途のこのコースは気温上昇のため凍結雪が融解して泥濘状態、足回りが汚れる。急坂の木道に助けられる。丹沢山で半昼食。竜ヶ馬場 14:10、日高 14:22、塔ノ岳 14:48。丹沢山～塔ノ岳間もひどい泥濘。小休後出発、木ノ又大日 15:11、新大日 15:19、午後の光の加減でコースを間違え、札掛方面への下山道に入り込み、少し時間をロス。休憩ベンチのみとなった、かつてあった書策小屋前で軽食。大部へばってきた。戸沢分岐 15:38、戸沢山荘 16:32 着。政次郎尾根の急下降は消耗した。所要 9 時間 22 分。

### ■ 1月24日（火） 檜洞丸（1601m）

過去 1 週間くらいは関東地方は寒波で寒い。西丹沢自然公園前は朝-4℃、快晴、無風。8:44 出発、ゴーラ沢出会 9:24。東沢の徒渉地点の水量は少ない。ゴーラ沢から流れ出た土砂が出会地点に大量に堆積し、ゴーラ沢の川筋がまた少し変わった。標高 1000m 付近からコースに凍結雪があり、アイゼン着用。近くでカタカタと早打ちのドラムの鳥の声。また、木の幹をたたく音。展望園地 10:40、雪はちょうどアイゼンが良く効く硬さで、急登の連続だが歩きやすい。石棚山尾根分岐 11:07、南西からの風が強い。檜洞丸 11:21。山頂からは大島、利島、式根島、神津島まで見える。軽食を取り下山開始。石棚山尾根分岐 11:39、展望園地 12:07、ゴーラ沢出会 12:37、西丹沢自然教室前 13:07。 所要 4 時間 23 分。

### ■ 2月14日（火）（御坂）黒岳（1793m）

登山口の天下茶屋（標高 1300m）の朝、-6℃、快晴、無風。8:43 出発、急坂を登る。縦走路の丁字路が御坂峠である 9:00。右は清八山方面。左を行き、最初の小ピークでアイゼン着用。積雪は 5~20cm で軽く乾燥している。いくつかの小ピークをアップダウンしながら進み御坂山 9:37、山頂から先は広い馬の背状態の尾根が続くが、ここにブナの巨木が数本ある。送電鉄塔のある場所は開けたところで、右に南ア甲斐駒ヶ岳、左に富士山と河口湖が見える。旧御坂峠 10:07、やや体調不良でここで小休、ここから先もアップダウンが続き、積雪は 30cm くらいか。軽い雪



なので足が潜り、歩きにくいところがある。風が弱いので寒さはない。黒岳 11:11、やや雲が多くなり気温が一気に下がる。軽食を取り体調も不十分なのですぐに下山開始。旧御坂峠 11:52、送電鉄塔 12:11、御坂山 12:29、しばらくはアップダウンを繰り返すが、ここの下りで、天下茶屋への下降路を見落としてしまった。いくつかの小ピークを越えて、50m 位先に送電鉄塔である。ここは八丁峠のすぐ下である。ここで間違いに納得して引き返す 13:39。御坂峠 14:09、天下茶屋 14:22。所要 5 時間 39 分。

#### ■ 2月27日(月) 毛無山(1946m)

登山口の朝霧高原麓部落は朝、2℃、晴れ、微風。毛無山はガスの中。8:41 出発。5 分くらい歩き、沢を渡るが、水流はない。2 合目 9:08、不動の滝見晴台 9:09、滝にも水はわずか。コースにはよく見るとブナの実が落ちている。5 合目 9:57、ここからは急登が一段と増す。6 合目で軽食を取る。8 合目 10:48、ガスの中に入り、急に気温が下がる。小雪が降り始める。富士山展望台 11:00、8 合目付近からはコースは凍結雪、急坂で危険だがアイゼンつけず。稜線丁字路 11:09、毛無山 11:18、視界無し、休憩せずにすぐ下山開始。丁字路 11:26、5 合目 12:05、不動の滝見晴台 12:32、登山口 12:55 着。 所要 4 時間 14 分。

### 丹沢：塔ノ岳

【期日】2017.1.8【参加者】山野(19期)

1月8日(日)に丹沢の塔ノ岳に日帰り登山をしました。朝雨が降っていたので出るのが遅くなりました。大倉バス停発 10:40、堀山の家 12:55。この後雪が出てきたのでアイゼンを履く。途中でアイゼンをひっかけて膝を打ち、手の指を突き指してしまう。立花山荘 14:20、塔ノ岳山頂 15:10-20。頂上で晴れて富士山や東京のスカイツリーまでよく見えた。大倉バス停 18:50 でバスはまだあった。久しぶりの山行だったのと、膝を打って下りが非常に遅くなり最後はヘッドランプを使った。普段走ってトレーニングする必要があると感じた。でも満足した山行でした。

### 北信：飯縄山

【期日】2017.3.15【参加者】渡辺(21期)、松本(28期)

3月15日、調布駅で松本さんと待ち合わせ。中央道経由にて飯縄山の南登山口に10時着。20分より登り始め、13時15分着。雪こそ降らなかったけど、真っ白で展望はない。頂上に山スキーで来た年配のカップルが一組。瑠山から来たとのこと。40分より下山を始め、ほぼ1時間30分で登山口に。かすかに青空が見え、日も差した。むろ温泉にて入浴し、安曇野餃子館で夕食。耳塚の関山荘へ。

16日は、ゆっくり出て、礫山美術館、田淵行男記念館を見学して帰京。安曇野から小淵沢あたりはよく晴れて、山々もくっきり見えたが、東京に近づくにつれ、雲が厚くなった。

---

**奥多摩：鴨沢～雲取山**  
**【期日】 2017. 3. 15 【参加者】 橋本（12期）**

---

体力・気力の減退から、最近では標高差が1000m位が目安となってきた。しかし、今回は春山にもかかわらず、これ以上の標高差の山行を実施した。

鴨沢から小袖林道を上がったところに町営の無料Pが整備され、トイレも新設された。天気は曇り、1℃、微風。7:25 出発。昨日は奥多摩一帯に降雪があり、また本日は本州南岸に低気圧が発生し天気が怪しい。しかし、天気は快方に向かい心配していた風も弱い。8:27 堂所、このあたりからごく軽い雪が1～2cm。七ツ石への分岐点は2ヶ所ある。分岐点下 9:09、分岐点上 9:34、ブナ坂 9:46、風が急に強くなる。カラマツ林がうなっている。奥多摩小屋までの尾根筋は強風で氷片が横殴りに飛んでくる。一時は立ち往生。奥多摩小屋 10:17。小屋から先は2回の急坂があるが、依然として強風が続く。雲取山山頂手前でやや風が弱くなる。積雪は20cm位。雲取山 11:12。写真を取りすぐに下山開始。避難小屋で軽食。奥多摩小屋 11:49。風はまだ強い。ブナ坂 12:08、ここより下は風が弱まる。雲が出てきてにわか雪。七ツ石分岐上 12:19、分岐下 12:32、堂所 12:52、ここから少し下ったところにある水場の水量は少ない。登山口 13:35。登り3時間47分、くだり2時間23分、所要計6時間10分。

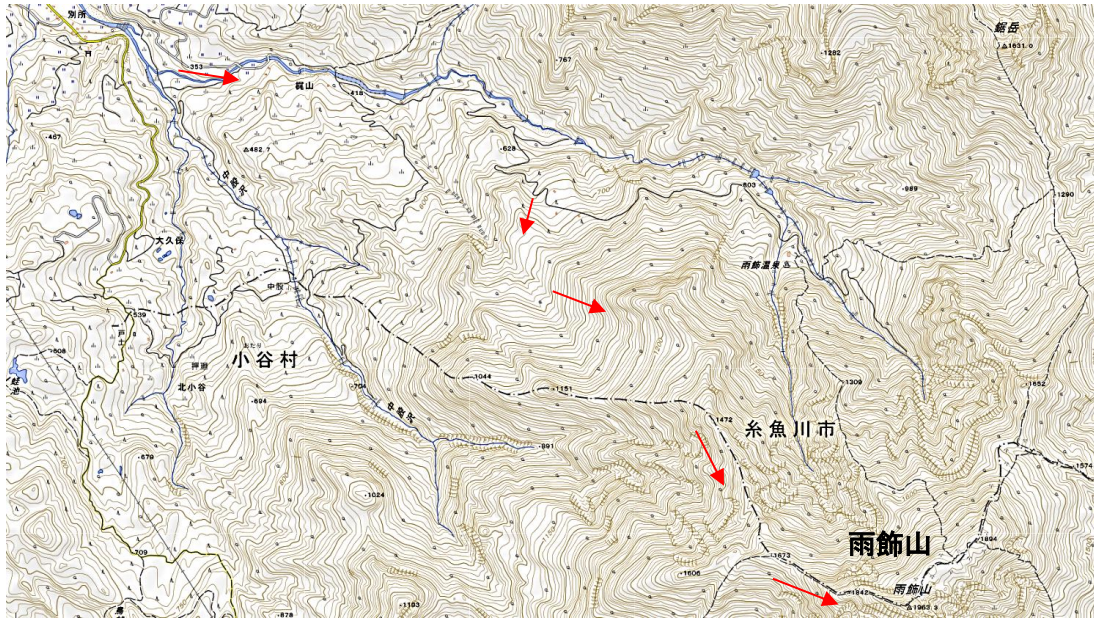
---

**頸城／VR：北西尾根～雨飾山**  
**【期日】 2017. 3. 18～20 【参加者】 尾崎（47期）**

---

雨飾北西尾根は3月のルートだと思い続けていた場所である。これまで春の時期に行こうとして、3-4回は悪天のため中止したと記憶する。したがって積雪期の雨飾は相当難しい山だと考えている。好天前提で考えても、いざ具体化しようとするれば、取り付け点はどうするか、本当に大丈夫か不安だなどと、いろいろ問題が出てくる。よって本当に行けるためには偵察が必要となる。それも、最初は偵察のための下見というレベルの漠然としたものから始まる。私の場合この段階では通い詰めるというほどでない。ようやく偵察の体をなしてきたのが2016年夏で、7月下旬に2回、9月に1回、それなりにシミュレーションしながら偵察する。もちろん、夏だけでなく雪のある時期の様子見も必要なので、2016年3月にはシーサイドバレースキー場に行き、スキーをするというよりトップより雨飾北面を遠望した。こうした経緯で、ようやく行けるといふ確信が沸いてきた。

2017年3月は11-12日の土日は絶好の天気が期待でき、ぜひ登ろうと勇み立つ。だが調子あがらず完敗。無風快晴の下山は無念以外に何もなかった。幸い翌週の3連休も好天で、雨飾にまた向かう。先週の反省から下部林道は久々フリートレックスキーを使い、ラッセルを大幅に軽減した。11時、前週より2時間半の短縮で尾根に取り付く。先週のトレースを期待したのは甘かったが、順調に登高する。急な登りだが悪場は無い。15時過ぎ、先週の最高到達地点1350mに1日で達しテントを張る。頂上がばっちり見える。ここは尾根合流点で下降時は注意を要する。

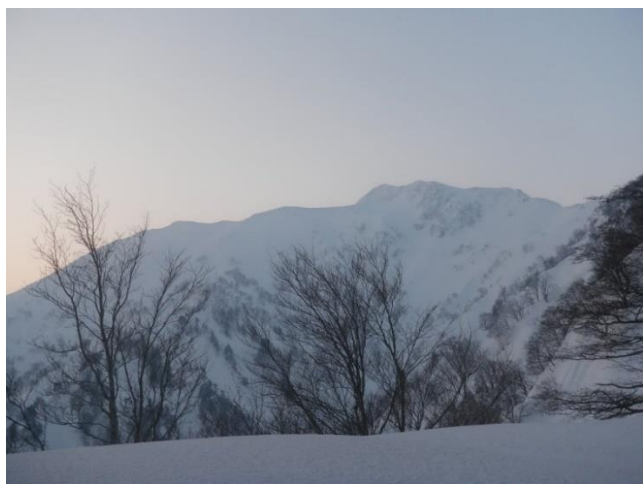


2日目、肝心のアタックの朝は寝坊して、出発は8時ぐらいになる。寒気の影響で怪しげな雲が空を覆うが、頂上は見えるので予定通り出発とする。アタックとはいえ撤収し全部背負った。その方が安心だった。ラッセルを続け、夏道のある稜線の下の広い尾根に10時半過ぎに達する。この辺りは下降でトレースがないと広くて迷いそうなので、赤布などをよくつけておく。稜線の1673mでは風が強く、頂上方面はガスに覆われている。ここからの下降で方向を失うとまずいので赤旗を立て、覚悟を決めて進む。下山時はトレースと赤布が頼りになる。2時間半はトレースはもつだろうが、恐かった。

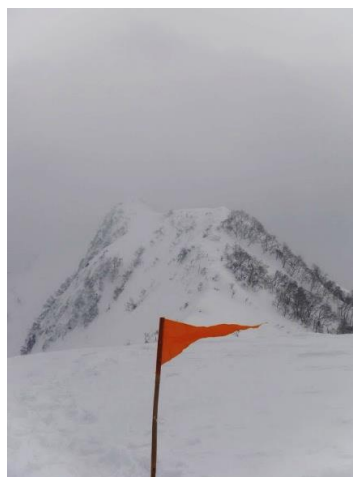
左右が切れ急斜面になった所でワカンでは厳しくなる。アイゼンに交換すると楽に進めた。ほどなくしてガスに突入し、どんどん視界が悪くなる。広い斜面に感じられるが、実際は左へと斜めった片斜面で、右手の雪庇がよくわからないだけである。雪庇との距離感覚と地形の感覚を研ぎ澄まして登っていく。尾根がやや平らになり左へカーブする地点で現在地を確認するが、頂上まではまだある。急に視界が100mほどきいて、右上方に目印になる岩が2つ見えたのが助かった。雪庇は右数m先に見えても、ガスっていて遠くに見える。ピッケルを伸ばしたらすぐそこだったことさえあり、いっそう注意して進む。12時半過ぎに登頂。「登らせてやるが、景色は見せない」と山から言われた気がした。だが一瞬視界が開け、笹平が見えた。仏像のある東峰まで行って、確かに頂上であることを確認しすぐに下り始める。トレースが残っているのを頼りながらも慎重に下り、赤旗が向こうに見えて一安心。ここからは視界があり、赤旗のところで小休止する。ここからテント場までは1時間半ほどだろう。ワカンに履き替え、時折小雪が舞うものの、のんびりとした気持ちになって下る。テントには14時半帰着で、下ろうと思えばじゅうぶん時間があるが、もう一泊山を味わうことにした。

3日目は無風快晴で迎える。昨日の雨飾が輝いている。西海谷の峰を右手対岸に臨み、左手遠くに北アルプスを望みながら、スキーデポ地点まで一気に下る。せつかくなのでスキーを履くが、重荷にぼこぼこの雪で滑るのはまったくだめ。途中で雪の状態がやや良い所でちょっとだけ滑れた。スキーを使うとこけまくって進みが悪い。除雪終点到10時半過ぎ。この辺になると好天

の3連休のためか、スノーハイクのような踏み跡が増えている。でも人には一切会わない。バス停には11時15分ごろ、ちょうどバスが行ってしまったので根知駅まで歩いて12時半着。ホームでテントを干して列車を待つ。やってきた大糸線は運転手が相当山好きらしく、終点の南小谷では列車からの山岳展望のみならず、先日はここに行ってきたとか雪で大変だったなどいろいろと声をかけられ、しばらく話をして別れた。思いついてから実現まで約10年を要したものの、他ルートもこのくらいの年月がかかっている。きっと登山とはそういうものなのだろう。



初日の幕場から。夕方、頂上を望む。



頂上アタックは覚悟を要した。

### 身延：羽衣～七面山

【期日】2017.3.29【参加者】橋本（12期）

一昨日～昨日にかけ列島は寒さがぶり返し降雪があり、七面山周辺の山も雪が残っている。登山口の羽衣の朝、3℃、無風、快晴。8:20 出発。13 丁目肝心坊 8:55、18 丁目でアイゼン着用、23 丁目中適坊 9:31、36 丁目晴雲坊 10:10。40 丁目で若いシカ1頭、余程食糧不足か、クマザサの葉を食べている。山門 11:08、敬慎院の上、富士山展望台 11:08、東からの風が強くなり、富士山は見えない。ここまで、急登のためか疲労がひどい。少し上の索条ケーブル小屋の広場で軽食休憩。下山してきた人によると、ここから先は通常40分のところ2時間かかるとのこと。確かにコースはトレールがついているが深さは約50cm位で、幅が狭い。軽食で疲労感が緩和されたので頂上を目指す。ラッセルは無いものの湿った軽い雪が塊となってアイゼン底に張り付き、歩行中にしばしばバランスを崩す。ストッパー付きのストックを持参すべきだった。七面山の大崩れの横が急坂でありこの辺でかなり消耗した。七面山 12:37、疲労回復のため半昼食と小休憩をとり下山開始。下山中も雪の塊がアイゼンに張り付き難儀する。腰と膝に疲労感がたまっているが徐々に歩行速度を上げるよう努める。展望台 13:16、晴雲坊 13:36、中適坊 13:56、肝心坊 14:11、登山口 14:31 帰着。肝心坊では野鳥が多く群れていた。登り4時間17分、下り1時間54分、所要計6時間11分。

# 2017 年度

|         |       |
|---------|-------|
| 会長      | 渡辺 喜仁 |
| チーフリーダー | 松本 哲郎 |
| サブリーダー  | 尾崎 宏和 |
| 会計      | 上野 利之 |
| 都岳連関係   | 上野 午良 |
| 記録・会報   | 松本 哲郎 |
|         | 尾崎 宏和 |
| 装備      | 灘吉 聡  |
| 西高係     | 山野 裕  |
|         | 博多 誠  |
| ホームページ係 | 灘吉 聡  |
| シニア山行係  | 松田 稔  |
|         | 黒澤 隆  |

## 中信の山報告：独鈷山、湯の丸山

【参加者】玉田（38期）

### ■ 独鈷山(長野県上田市) 4月24日 玉田 ほか1名

前から気になっていた、信州の妙義山とも言われる(ちょっと大袈裟な気も・・・)独鈷山に行きました。南側、上田市丸子から往復。前半は沢沿いの道、後半は転がったら止まらないような急坂。そんな急坂を下山する際には、昨年購入したストックが大活躍！！ひざの痛みは全くなきストックのありがたみを初めて実感できました！帰りに近くのひなびた(失礼?)霊泉寺温泉に入りました。今回の独鈷山で驚いたこと3つ。その1. 登山口の満開の千本桜と菜の花の美しさ。オーナー制で桜を徐々に増やしているとか。一本一本オーナーの名前の札がありました。なんと台湾のオーナーさんもいました(^) 近くに住んでいながら、こんなに素敵な桜の名所があるとは知らなかった。その2. 頂上からの展望。塩田平、北アルプス、北信五岳、浅間連峰、八ヶ岳、美ヶ原。360度の眺めとは思ってなかった。その3. 頂上で大学の山の先輩に遭遇。こんな偶然ってあるんだなあ(\*o\*)びっくりびっくり。

### ■ 湯の丸山 4月30日 玉田

上田の里山に行く予定が、朝アルプスがきれいに見えたので景色のよい湯の丸山に変更。頂上まで雪があつたりなかったり。念のためとアイゼンとスパッツを持って行ったけれどいらなかった。期待の景色は春の霞でぼんやり。残念。おまけに頂上は風が強くて、持ってきたおやつも食わずに5分滞在で下山。GW前半?で人が多いかと思ったけれど、あまりいなくて静かな山歩きを味わえました。

## 飯豊連峰/VR：蒜場山～烏帽子山～大日岳～北股岳

【期日】2017.5.3～6【参加者】尾崎（47期）

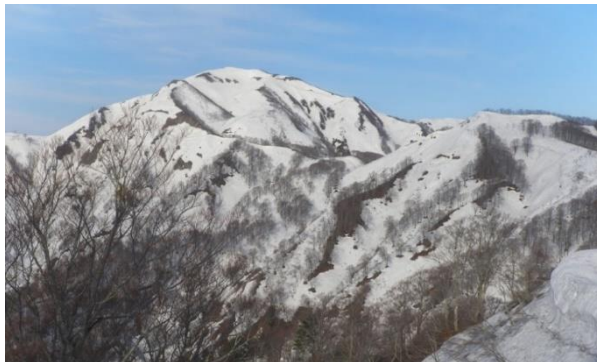
高気圧は既に東だが、5日まで、もしかしたら6日まで、その勢力は残る。思い切って飯豊でルートを選定する。蒜場尾根は飯豊主稜に西から突き上げる各尾根の中でも、“偏執的に長い(わらじの仲間大津政雄氏だったか?の言)”,二王子岳から赤津山経由のルートと双壁をなすだろう。こちらは既に上野先輩と踏破済みだ。

5月3日、新発田駅昼12時半のバスに乗り、赤谷まで。そこからは歩く。ややつらいがこの原始的素朴感はそんなに悪くはない。俎倉山に登るという女性に会う。冬季ゲートを越えさらに進むが加治川ダムが高い。あそこまで登るのかと思っていると、なんと木の枝や落石を避けながら向こうから軽トラが下りて来て、どこ行くだ乗れと言う。聞くと蒜場山への道を開いた下越山岳会の方で、ダムサイトまで送る、健闘を祈ると大エールをいただいた。お蔭で14時半に登山道を登り始め、932mピークへの急登も新緑とイワカガミを愛でながら行くことができた。そこからもラジオを聞きつつ夕暮れの尾根の登高は順調で、蒜場山山頂の雪田に19時ごろ到着。下方1280m付近に先行者のテントが見えた。

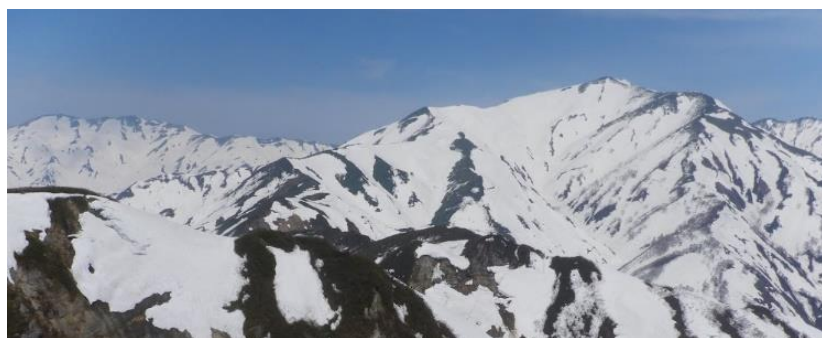
4日、蒜場山東面のカール状を下り、右に近接する主尾根にトラバースしながら乗る。高立山まではヤブがあつたが、尾根が細くなると薄く踏み跡を見出す。高立山を過ぎると尾根が広がり雪の上を行く。岳人選定マイナー12名山の烏帽子山が迫ってくる。2名の先行者が見える。烏帽子山は残雪状況から

双耳峰の真ん中にルートは収斂された。鞍部はササが出ていたが、過去の幕営を示すスペースも認められた。空身で主峰の南峰を往復する。東面の断崖がすごい。実川と裏川の出合いから、筆塚尾根經由でここに登ることは将来できるだろうか・・・？夢のまた夢。

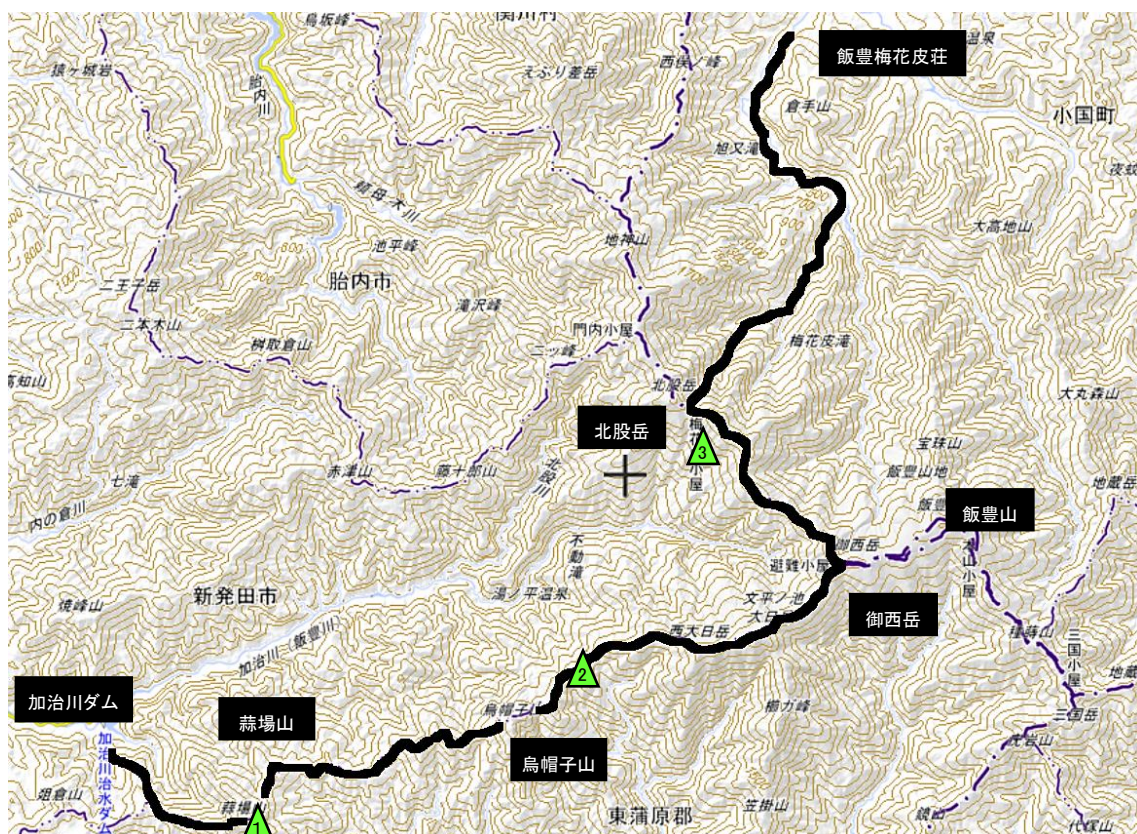
烏帽子山北峰の下りは扇状に広がる下降で今山行のポイントの1つだが、晴天の好視界に感謝する。右に、ルート特徴の岩を認め、滑落しないよう急斜面のルートを選びながら下る。一部雪面に亀裂もあり、左に巻き気味に下降。1410m コル付近のヤブ越えにはアイゼンを活用し、大きく苦しむこともなく進む。15時半前、1614m 付近で明日の実川山薬師岳を望む良い場所を見つけ、幕営する。



蒜場山をふり返る。真ん中のカール状をいっきに下った。



烏帽子山南峰から望む大日岳。真ん中の雪形が、人か土偶のようだ。





左:4 日の幕営地付近から見返す烏帽子山北峰北東斜面。この下りで晴天に恵まれほんとうに良かった。右:5 日、ついに至った大日岳頂上から飯豊主稜線。北股岳右のコルに梅花皮小屋が見えた。

5 日、飯豊最高峰大日岳を越える今日も好天である。大雪城の斜面を右に見下ろして、実川山、薬師岳へと延々と登りが続く。好天の大展望の反面、そう簡単に頂上は近づかない。西大日岳から大日岳へも、まだまだ甘くない。ついに大日岳を越えれば、文平ノ池付近で大休止。御西小屋へ登り返し主稜線を北へ。もう一個の烏帽子岳の登りも雪の大斜面でなかなかきついが、蒜場尾根をトレースした喜びと、これを越えて幕営だという思いで一步一步進んでいく。クサイグラ尾根は思いのほか雪が少ない。この時期のルートとしてはもう遅いのだろうか。梅花皮小屋は大盛況とみられ、石転び沢を見下ろす少し離れた地点にて、17 時ごろ幕営する。雲は増えてきたものの、幸いまだ天気は問題ない。

6 日朝、まだ降りそうにないものの、どうなるかわからない。飯豊梅花皮荘のバスは 11 時半。石転び沢の雪崩リスクも考えれば早いに越したことはない。朝 5 時に下り始めるが、急な下りでこんな所は登りたくないと思った。途中、急で怖いのでアイゼンを装着した。とはいえ下りは早い。以前、上野先輩と登った幸七尾根の取り付け(門内沢出合い)にはあっという間に到達した。梅花皮滝のある滝沢を合わせしばらく行くと、さすがに雪はバツクリと割れてきて、左岸のトラバース道に入る。下山中の山スキーパーティが休んでいて、トラバース道入口はすぐ分かった。板を背負ってヤブをくぐるから遅いよ先に行きな、と親切に声をかけてくれた。自分も休みたかったが、温身平まで来て休憩。あとは新緑の始まったブナ林を愛で、やがて林道の雪は消えた。明るい曇り空が続く中、余韻に浸りながら歩くのは味があると思う。実際には最後の舗装路では、ベース定着&スキーヤーのチャリに多々抜かれた。足にマメもできる。梅花皮荘には 9 時半ごろ到着、風呂に入ってバスに乗ったら急に強く降ってきた。

## 佐久：御座山

【期日】2017. 4. 14 【参加者】中村 (21 期)

14 日、休暇が取れたので好天を期して行ってきました。天候期待どおりでしたが、1900 メートルから上は雪が凍りついて足許びくびくでした。アイゼンは車の中に置きっぱなし。おかげで3時間もかけましたが、佐久の山の風情を楽しめました。西上州は今後のターゲットゾーンです。



---

**上越：平標山・仙ノ倉山**  
**【期日】 2017. 5. 3-4 【参加者】 中村 (21 期)**

---

連休中、平標～仙ノ倉行ってきました、一泊で。雪はしっかりありました。その上、潜らない程度に固く、アイゼンが要らない程度に柔らかく、ベストコンディションでした。何より好天が続き、向かいの苗場山から上越の山々全部一望。ただし、GW中高速は予想通りで往復クタクタでした。帰り温泉入って何とか頑張りました。

---

**2017 春から初夏の丹沢、奥秩父、富士山**  
**【参加者】 橋本 (12 期)**

---

引き続き尾根歩きを続けています。体力に応じて。少しゆっくり歩くことも楽しいものです。

■ **4月20日(水) 檜洞丸(1601m)**

この1週間で気温が上がり、一斉に桜や山々の木々が開花した。朝の西丹沢は 17℃、快晴、微風、ただし上空は南寄りの強風。自然教室前 8:51 出発、南面する登山コース脇には多数のタチツボスマレ、ごくわずかにハルリンドウ。ゴウラ沢出会 9:28、昨日の雨でゴウラ沢からの水量が多く、東沢の水量も多い。展望園地 10:13、富士山はガスの中、石棚山稜線 11:15、やや風が強い。木道の下にはバイケイソウが～10cm 位発芽。檜洞丸 11:28、軽食と水を摂り下山開始。この頃になり富士山が良く見えだす。稜線分岐 11:47、展望園地 12:19、ゴウラ沢出会 12:46、西丹沢 13:16。所要 4 時間 25 分。

■ **4月25日(火) 富士山吉田口5合目**

レンゲツツジ、フジザクラを見に行くつもりであったが、少し時期が早かった。馬返しの朝 7℃、晴れ、微風。9:01 出発。1合目 9:12、2合目 9:34、2合目少し手前より残雪。所々にコマツガの巨木倒伏。3合目 9:56、少し上で念のためアイゼン着用。4合目大黒天 10:24、井上小屋 10:37、北方に河口湖と黒岳、4合目より上はコースが残雪と雪解けで深い溝状になっているところが多く、極めて歩きにくい。5合目佐藤小屋 11:12、6合目へのコースは深い雪。すぐに下山開始。途中で軽食。井上小屋 11:46、3合目 12:01、2合目 12:12、1合目 12:27、馬返し 12:33。所要 3 時間 22 分。

■ **5月2日(火) 三つ峠山(1785m)**

旧御坂トンネルの手前を右に入ると三つ峠山登山口で、ここからは山頂まで近い。登山口の朝 8℃、快晴、無風。8:00 出発。広い林道が続く。コース左手にベンチ 8:27、三つ峠山荘 8:51、開運山 9:07、山頂からの眺めは素晴らしい。この山は花の山だが、今回はスマレがわずかとキブシが発芽しているのみ。軽食を取って下山開始。登山口 9:57 着。

■ **5月8日(月) 雁ヶ腹摺山(1874m)、黒岳(1988m)**

真木小金沢林道は新緑が美しい。カラマツも若葉を出している。しかし標高 1560m の大峠付近は木々はまだ発芽ごくわずか。大峠の朝 12℃、快晴、北寄りの風強い。7:34 出発。見事なミズナラ樹林帯を登

り雁ヶ腹摺山 8:22 着。富士山が素晴らしい。すぐ下山開始。大峠付近にはハシリドコロがまばらにあり。大峠で小休。風がやみ暑くなる。黒岳に向かう。コースにはマイヅルソウがわずかに発芽。1792m の赤岩ノ丸は巻道を取り、なだらかな坂道となる。標高 1800m 内外より上は開花中のバイカオウレンの小群落が延々と続く。黒岳手前はやや急坂、稜線にでて左奥が黒岳山頂。10:01 着。すぐに引き返し、風を避けながら軽食。大峠 10:40 着。所要 2 時間 57 分。

#### ■ 5月23日(火) 檜洞丸(1601m)

ツツジを見に行く。西丹沢自然教室、朝 17℃、曇り、無風。7:26 出発、ゴーラ沢までのコースは見事な新緑のトンネル。ガクウツギとヤマツツジが少し。ゴーラ沢出会 8:04、展望園地 8:41、石棚尾根稜線手前でシロヤシオ数本開花、トウゴクミツバツツジは未開花。9:50 稜線着。木道の両側にバイケイソウ多数。檜洞丸 10:04、軽食、すぐに下山開始。稜線分岐 10:21、展望園地 10:58、ゴーラ沢出会 11:31、ゴーラ沢の水流で顔を洗う。西丹沢 12:06。所要 4 時間 40 分。

#### ■ 5月30日(火) 甲武信ヶ岳(2475m)

朝の西沢溪谷P13℃、快晴、無風。7:40 出発。林道ではヤマツツジとウツギが満開。徳ちゃん新道登山口 7:56、ここからカラマツ樹林帯の中、急登が続く。標高 1600m 付近ころからアズマシャクナゲが多くなり、延々と標高 2000m 付近まで美しい開花のトンネルが続く。近丸新道分岐 9:33、1869m と 2111m のピークを過ぎ稜線丁字路 11:21、周辺にはバイカオウレンの花とアズマシャクナゲの実生。軽食休憩。木賊山 11:23、コースには残雪あるがアイゼン不要。甲武信小屋 11:47、甲武信ヶ岳 12:00、南ア、金峰山など展望よし。写真を撮りすぐに下山開始。甲武信小屋 12:14、昼食休憩。木賊山 12:48、稜線丁字路 12:54、ここから約 10 分位下ったところに露岩帯があり、このすぐ下にサクラソウ(たぶんクモイコザクラ)が咲いていた。昨年もこの同じ場所で確認しており、うれしかった。近丸新道分岐 13:52、甲武信小屋で買った水がうまい。軽食。カラマツ樹林帯を急下降中に、よく見るとタチツボスミレの咲き残りが多数。登山口 14:59、西沢P15:15。所要 7 時間 35 分。

#### ■ 6月5日(月)北奥千丈岳(2601m)、金峰山(2595m)

大弛峠の朝、2℃、晴れ、微風。うすら寒い。8:11 出発。前国師岳 8:37、南ア甲斐駒ヶ岳が美しい。シラビソ林の林床は雪解けが終わったばかりで、バイカオウレンの白い花が目を引く。アズマシャクナゲはやっと頂芽が膨らんできた。北奥千丈岳 8:46、国師岳 8:58、コケモモが新芽を伸ばしている。大弛峠 9:21、軽食。朝日峠 9:56、朝日岳 10:23、金峰山、小川山、南ア甲斐駒ヶ岳がはっきり見える。鉄山のトラバースコースにもバイカオウレンが多い。樹林帯を抜けるとハエマツ帯にはミネズオウが多く咲き、コケモモとキバナシャクナゲが開花はじめ。金峰山 11:16、人が多くすぐに下山開始。やや寒い、瑞牆山が良く見えるハエマツ帯で半昼食。朝日岳 12:13、朝日峠 12:37、大弛峠 12:59 着。峠でマメザクラ開花はじめ。所要 4 時間 48 分。

#### ■ 6月22日(木) 富士山吉田口7合目

バッコヤナギの開花を見に行く。吉田口馬返し、朝 15℃、くもり、微風。7:57 出発。1合目 8:07、2合目 8:30、3合目 8:48、シロバナノヘビイチゴとキンポゲが多数咲いている。バッコヤナギは3合目では咲き終わり。4合目大黒天付近でツマトリソウ、中宮付近でエンレイソウ、井上小屋 9:57、バッコヤナギ満開、黒岳とその背後に奥秩父連山、八ヶ岳。佐藤小屋 9:57、軽食。少し上の八角堂で神事の準備。6合目指導センター10:28、微風。昨日の降雨で砂が舞い上がらない。7合目花小屋 11:10。崩落止め鉄ブロックの間からイワツメクサが咲き始める。ここで引き返す。6合目 11:40、佐藤小屋 11:54、林道途中で軽食。

井上小屋 12:17、3合目 12:33、1合目 12:57、馬返し 13:04 着。

#### ■ 7月31日(月) 金峰山(2595m)

瑞牆側から入る。昨日までに付近一帯はかなりの降雨があったらしい。瑞牆山荘前P7:05 出発、17℃、快晴、微風。里宮平の緑は濃い。7:38 富士見平、コース少し上にはマルバダケブキ終花。大日小屋前後は昨日来の雨でコースに多量の水が流れ込んでいる。大日小屋 8:23、テント場少し上に良い水場あり。ここも多量の水。大日岩丁字路 8:56、ここからコースはやや平坦になるが水たまりが多くなる。2回の急登があり9:51 砂払ノ頭、ハナニガナ開花中。まだ実が青いコケモモ。ハクサンシャクナゲ終花。金峰山 10:49、山頂は人が多く、すぐに下山開始。五丈岩を回り込んだところで半昼食。五丈岩岸壁にミヤマダイコンソウ小群落。この時間に強い疲労感が襲う。千代ノ吹上の岸壁にチョウジコメツツジと思われる白色ツリガネ状の花弁の花が大群落。ハナニガナも多い。砂払ノ頭 11:43、大日小屋手前の水場で給水。疲労感から解放された。富士見平小屋 13:18、瑞牆山荘前P13:43 着。所要 6 時間 38 分。

#### ■ 8月10日(木) 檜洞丸(1601m)

真夏は丹沢は静かである。ゆっくりと山旅を楽しみたい。西丹沢自然教室前 8:15 出発。ゴウラ沢出会までのコースは台風5号の影響かサルナシの青い果実が落ちている。ゴウラ沢出会 8:55、ゴウラ沢の水量は多い。ゴウラ沢までは快調であったが、この少し上で急にペースダウン。展望園地で給水、休憩を多くとる。展望園地の先の急登始まりの場所でシラヤマギクの小群落、体が重い、なんとか石棚山稜丁字路にたどり着く 11:08。途中、標高 1300m 付近より上でシモツケソウが多数咲いている。木道の両側は濃いガスの中、マルバダケブキの黄色い花が美しい。檜洞丸 11:23、リョウブが終花。山頂で半昼食。長めの休憩。石棚山稜丁字路 11:45、展望園地 12:20、ゴウラ沢出会 12:51、西丹沢自然教室 13:27。所要 5 時間 12 分。

## 南アルプス：聖沢～聖平 高山植物保護ボランティア

【期日】2017. 7. 14～17 【参加者】橋本（12期）、他

毎年静岡県が実施している高山植物保護ボランティア活動に参加した。今年で4年目である。主催者の計画で聖岳には登れなかったが、聖沢登山口から聖平小屋までのコースを堪能できた。

### 7月14日

体力の減退もあり、集合前日から出発し、畑薙第1ダム沼平ゲート前Pに入り、車中泊。

### 7月15日

沼平ゲート前より車で出発。聖沢登山口 6:40 出発。天気は快晴、微風。すぐにスギ樹林帯の急登が始まる。7:19 出会所小屋跡、ここからはコースはやや下降気味となり、すぐに右手に水場。7:56 聖沢吊橋着。ここから再度急登で約 380m 登り造林小屋跡 8:54、引き続きアカマツ樹林帯のやや緩い傾斜の登りで、乗越に到着 9:41。途中にイワカガミ、シャクナゲがあり、オサバグサが開花中。しばらくすると左側から流れ落ちる小川が数本あり、よい水場である。大きな流れのあるガレ場付近では、イブキジャコウソウ、キタザワブシ、ミヤマカラマツなどが咲いており、ヤグルマソウ、ハリブキ、カニコウモリ、モミジガサなども多い。10:52 岩頭滝見台。2つの大きな滝、その先に聖と奥聖、東聖岳が見える。小屋まで 80 分

の標識 11:11、この先も水場が多い。コース脇にはミヤマチドリ、キバナノコマノツメ、マイヅルソウ、ゴゼンタチバナなどが咲いている。聖平小屋 12:14 着。午後は聖平上部崩落地でのヤシマット貼り付け作業、マットや丸太材など機材の作業現場までの運び上げ運搬はきつい仕事だ。隣接する防鹿柵に囲まれた区域では、見事にニッコウキスゲの再生が見られた。

#### 7月16日

引き続き聖平で旧登山道の土壌流出場所の修復工事。付近の草地では、シナノキンバイ、少数だがテガタチドリが咲き未開花のリンドウが多数。

#### 7月17日

未明より雨。朝方小降りとなり、下山開始 5:50。80 分標識 6:27、岩頭滝見台 6:37、ガスで何も見えない。乗越 7:10、小休、小食。7:35 造林小屋跡、8:01 聖沢吊橋、急下降でへばる。小食と給水。出会所小屋跡 8:41、聖沢登山口 9:00 着。

---

### 八ヶ岳：桜平⇄夏沢峠⇄硫黄岳

【期日】2017.7.19 【参加者】玉田（38期）、他1

---

職場の人と八つの硫黄岳へ行ってきました。桜平⇄夏沢峠⇄硫黄岳(休憩入れて5時間半)。

桜平の駐車場が整備されていました。これまでのような路肩駐車は不可(ロープ張ってあります)。3か所あって登山口に一番近いのは登山口から50m先、15台くらい。ここに停められればベスト。一番遠いのは登山口の手前 3.5km! (絶対歩きたくない...) アブがたくさんたくさん飛んでいて、駐車後、靴を履くのに苦労しました。平日とあって車も少なく、人も少なく...と思いきや! 学校登山と遭遇。そうか、この時期は学校登山か...。そういえば地元の新報~信濃毎日新聞には連日、燕岳や白馬、木曾駒などへの学校登山の記事が載っています。みんな若くて元気でいいな~。

花も楽しみの一つでしたが、ゴゼンタチバナ、ミヤマダイコンソウ、ミヤマシオガマ、ツガザクラ?、キバナシャクナゲ?、イチゴ(種類は?)などなど咲いていました。頂上で学校登山の先生が生徒たちに爆裂火口について説明していましたが、八ヶ岳の諏訪側には縄文の遺跡がたくさん残っているが佐久側は少ない。これは硫黄岳の爆裂火口の向きで分かるように噴火によって佐久側は埋もれてしまったからだ、とのお話でした。勉強になりました。下山したら梅雨が明けていましたが、八ヶ岳の上は雲。ガスが湧いて空中を踊り、頂上から赤岳方面は見えませんでした。でもおかげで炎天下にならず助かりました。気持ちよく歩いて今も余韻に浸っています♪

---

### 北アルプス：越道峠 ⇄ 初雪山

【期日】2017.9.9~11 【参加者】尾崎（47期）、他1

---

泊から北又に至る越道峠から、初雪山までどうにも道があるらしい。Google 衛星画像でもよく判る。そこで偵察として本山行を試みた。ルートに大登り大下りは無いのだが、細かい上下が多数あり、時間を要した。水は途中4か所で得られた。1番目、越え道峠から1時間ほどの1040コルを過ぎて10分ほど

の東斜面。その後すぐに北又谷魚止滝への踏み跡がある。2～4 番目は 1338m ピークの西面巻きの途中。互いに近接しているのが贅沢な難点だ。一番北の水場は、水取り用のパイプまでである。さらに、1-2 分登ると、ブナ林のもと絶好の幕営可能地がある。この雰囲気は良い。開拓当時のものか、ツルハシとクリーニング屋のハンガーまで残置してあった。1491.4m ピークへは森林限界を越える登りとなる。ピークは縦走路から分岐道に入る形だ。1 泊目はここを宿泊地とする。頂上に鉄塔の立つ初雪山が目立ち、東に梅海新道の主稜線、南には白馬連峰と、夕方は絶好の展望を楽しんだ

2 日目、鉄塔ピークはすぐ右手前方に望める。初雪山は遠くないはずが、細かなアップダウンが続き時間を要した。頂上は北陸電力の雨量計があって、広く刈りはらわれていた。初雪山頂上北方の、1595.6m 三角点付近までヤブをこぎ、犬ヶ岳へ続く尾根への下降を見てきた。復路も時間がかかるが、明日も好天の予報である。ブナ林を楽しみ、水を補給し、1040m コルまで戻る。

3 日目は1 時間ほどで越道峠。車道歩きで 11 時ごろ町営バスのバス停、11 時半ごろ泊駅。行って見て、こんなに整備された道には驚いた。それがほとんど知られていないのはもっと不思議。越道峠にはタクシーでしか入れないからか？とはいえ、知られていない方が良いでしょう。



## 南会津：帝釈山・田代山

【期日】2017. 9. 26 【参加者】渡辺 (21 期)、小川 (12 期)、松本 (28 期)

6 月には、この山は「おさばぐさ」の白い花が咲くのだという。頂上には、苗場山の湿原を小ぶりにしたような湿原となる。登ったのは9月の末で、湿原には花はほとんどなかったが気持ちのいい登山ができた。湿原のわきには、立派な避難小屋が建てられていた。東京を朝に出て、西那須野 IC から登山口まで4 時間かかった。駐車場には立派なトイレもあったが、そこから300mほど先の小川のそばにテントを張り、27日に帝釈山と、田代山を往復した。帰りは鬼怒川温泉に抜けたが、この林道は荒れ気味で時間がかかった。同行小川さんと松本さん。途中で買ったサルナシはおいしかった。

**年末の御坂、丹沢、道志**  
**【期日】 2017. 12 月【参加者】 橋本 (12 期)**

本年は9月と11月は他用で山に行けなかった。また、残念ながら 3000m 級の山に登れなかった。来年は体調を整え、高山へのチャレンジを続けたい。

■ **12月5日(火) 御坂黒岳(1793m)**

登山口の天下茶屋の朝0℃、快晴無風。昨日、当地は降雪があった。8:34 出発。急坂を登り御坂峠 8:52、稜線に出ても今日は殆ど風がない。積雪は 1~3cm。何回かアップダウンを繰り返し御坂山 (1596m) 9:25 着。視界は殆どない。厚く重なった落葉の上に乾燥した雪が積もり、急坂では歩きにくい。御坂山を過ぎると一帯は大きな馬の背状の明るい尾根で、ここにブナの巨木2本とミズナラの巨木がある。くだりが続き、明るい送電鉄塔に出る。再度登り返し、再び下りとなって旧御坂峠 9:51 着。この先黒岳までは積雪が多くなる。落葉と樹木の根、隠れた石に注意して歩く。黒岳 10:43、少し先の展望台に行く。すぐに引き返し、山頂で半昼食。山頂にはマユミが赤い実をつけていた。旧御坂峠 11:36、御坂山 12:05、御坂峠 12:29、天下茶屋 12:39。所要 4 時間 5 分。

■ **12月12日(火) 檜洞丸(1601m)**

登山口の西丹沢自然教室前の朝、-3℃、快晴、微風。7:59 出発。ゴウラ沢出会 8:37、このところの少雨で東沢の水量は少ない。展望園地 9:17。ここからは従来は尾根の左側面を歩くコースであったが、このコースはやや道が狭く、直接尾根沿いに歩くコースに変更された。途中の標識も新調された。石棚山稜 10:18、ここまでのコースは崩落ヶ所や露岩帯、急傾斜地などに木製のハシゴががかなり広範囲に新たに設置された。歩きやすくなったのは確かだが、やや野性味が薄れた。檜洞丸 10:32、軽食後すぐに下山開始。石棚山稜分岐 10:53、展望園地 11:23、ゴウラ沢出会 11:53、西丹沢自然教室 12:27。所要 4 時間 28 分。

■ **12月26日(火) 今倉山(1470m)**

この今倉山は道志川の北に連なる唐沢尾根にあり、12年前に登った。静かな山旅が楽しめる。登山口の道坂トンネル西側出口の朝、-1℃、快晴、無風。明るい落葉樹林帯を登ると丁字路に達し、右は御正体山方面、左に行く。ここから今倉山までは深く積もった落葉の急坂を登る。途中 1310m の三角点 8:49、今倉山 9:12、ここから唐沢尾根を東に向かう。急坂のアップダウンが連続する。水喰ノ頭(1344m) 9:55、山頂にはブナの巨木があり、今倉山の双耳峰が樹間に望める。この先もコースはアップダウンが続く。一帯はブナ、ミズナラ、カラマツ林であり、ことに菜畑山付近では直径 30~40cm のブナが多い。10:25 菜畑山(1280m) 着。南に西丹沢の山々、その右奥に相模湾、伊豆半島、御正体山の奥に富士山。軽食休憩。下山開始。11:07 水喰ノ頭、よく見ると山頂にはブナの実が多数落ちていて、また、この唐沢尾根上で、まだ新鮮な、スダチ大の大きさの黒い糞(タヌキの糞?)が、しかも20個内外と多量で、合計6か所で目撃した。大型の動物が多数生息しているらしい。11:58 今倉山、12:32 道坂トンネル登山口。所要 4 時間 20 分。

---

**中央アルプス：越百山～奥念丈岳～安平路山**  
**【期日】 2017. 12. 30～2018. 1. 2 【参加者】 尾崎（47 期）**

---

天気読みが続いた。予想天気図には温暖前線と寒冷前線を伴う低気圧が朝鮮半島の西に接近中だ。まさに鎌首をもたげているような雰囲気だ。ただ、冷静に天気推移を見ると、大晦日午前までは何とか持ちそうだ。最悪の場合は往路下山として入山を決めた。

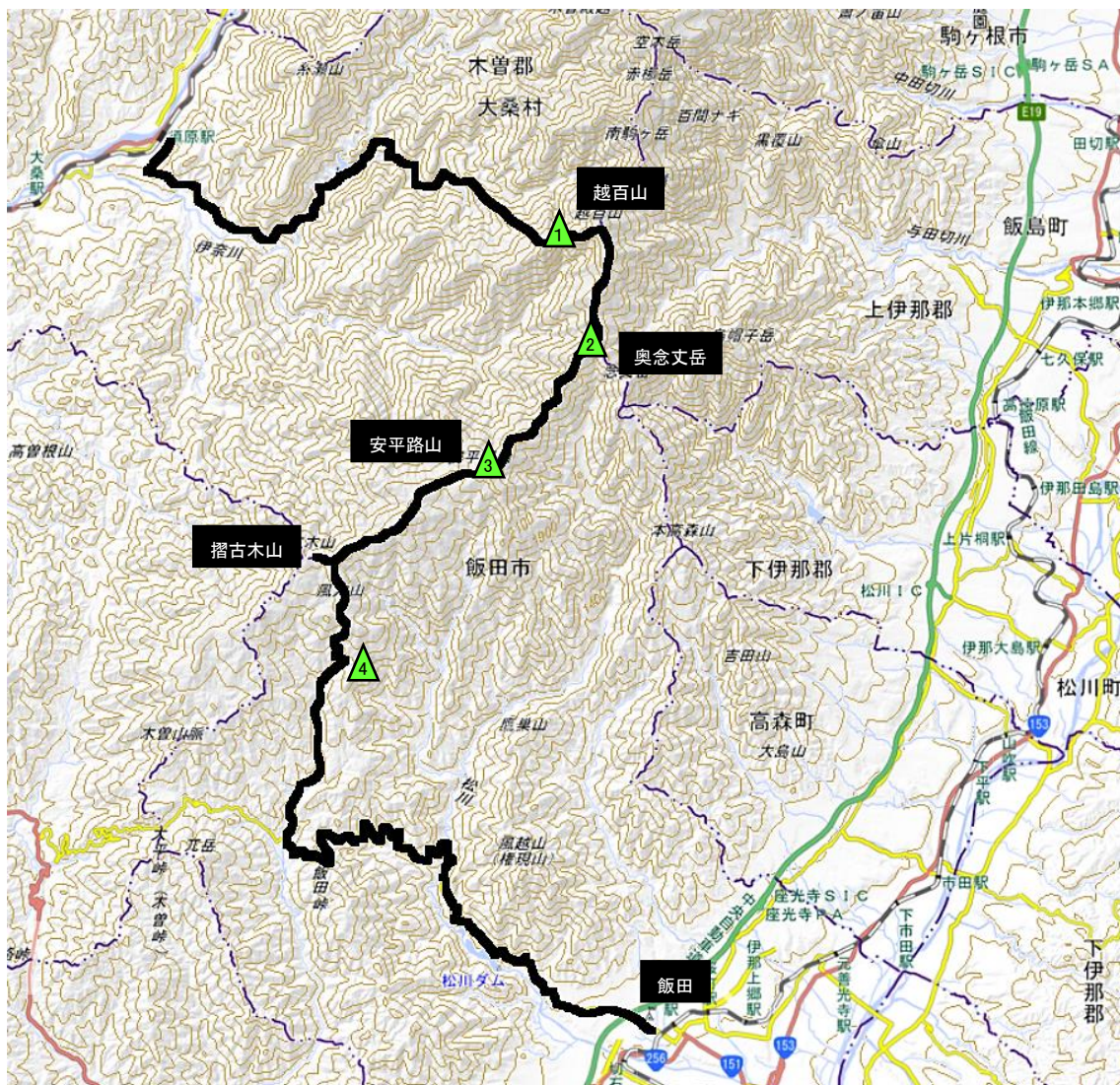
12 月 30 日は快晴で中央西線木曾須原駅から歩く。伊奈川ダム奥の登山口に至る。先行トレースがあった。そして往復登山者の下山に予想以上に出会った。中には複数人のパーティもあった。雪の台地に、そのパーティが泊まったと思われる広い幕営跡もみられたが、トレースはそこで途切れた。越百小屋まではしっかりラッセルが待っていた。手前ピークは巻きの夏道を見失ったが、冬のセオリーとしてピーク上を行って小屋まで緩やかに下る。夕方の稜線の上には白い月が美しい。

12 月 31 日、天気予報では昼前までがリミットとみられる。その時間帯までに南越百山を越え樹林に入れば、その向こうは何度も通ったことがあるので大丈夫だと思う。曇りだが視界ははっきりして、幸い雪も締まっている。ラッセルはたいしたことはない。越百山でも視界はあったが、徐々に雲が迫って来るのがわかる。南越百を大急ぎで越え、樹林帯に逃げ込むべく、全力で進んだ。無事樹林に入るとともに幸い風の問題はなく、奥念丈岳の頂上で泊まった。ここはマイナー系の山であることは間違いない。しかし私は、ここに来たのはもう 5 回くらいになるだろうか。

1 月 1 日、まず今日は低気圧通過の日である。次に、元旦。つまり新年の感覚は無い。霧と小雪の稜線を南下していく。視界は良くない。だが幸い、積雪やラッセルに苦しむほどでなく、地図を読めばルートも分かった。ルーファイに悩むことは無く、最低コル付近もヤブに苦しめられることもなく、結構順調に進むことができた。むしろこの状況で歩きに意識を集中した。安平路山の登りは右にトラバースする夏道を積雪で失うと、急だったものの何とか到達した。頂上付近は雪が深い。ガスが出てさらに樹林で視界悪く、下る方向が良くわからない。方位磁針で大方の方向を見極め、幕営。

1 月 2 日、幸い早朝から快晴に恵まれる。下るべき主尾根は、偽尾根の右にある。目立たないので、樹林内でルーファイが難しい。やがて尾根がはっきりしてきて安心した。安平路山避難小屋のコルは樹林が開けている。その後の稜線は小粒ピークが続く。どれも特徴に欠け、居場所が不明となって長かった。摺古木山東ピーク(2168.9m)にようやく着いた頃は、雲にまかれ吹雪いてきてしまう。ここから南に下るがルートが不明で怖い。今山行で初めて GPS に頼る。GPS はいざという時に使う本当に心強いツールだ。2164m ピーク手前からの下りも陰鬱な空、急下降、積雪は雪崩れそうだ。今山行の核心部であった。なんとか摺古木山西峰からのトラバース登山道の合流を見出した頃には、日差しが戻り、雪も少なくなってきた。しかし風穴山のトラバースは沢を巻いて長い。水を汲んだりしていたら、気温が低いせいかとても寒くなってきた。16 時近くになって、幕営。

1月3日、登山道からほどなく林道に出た。雪は踏み程度まで少なくなり、蹴散らしながらどんどん下る。黒川右岸の林道に合わさるが、そこからもやはり長い。大平集落跡は廃村を夏のキャンプ施設にしているようだが、わずかに積もる雪に新しめのタイヤ跡がみられた。しかし、当然無人。しかもここからは飯田峠越えて登りとなる。傾斜は緩いが、努力に努力を重ねろと言われているようで心がしぼむ。飯田峠を越えるとようやく日差しが暖かくなり、携帯電波も受信した。とはいえ、飯田の町らしきはまだまだ下方遠くに見えるのみ。野麦峠物語のような気分。山嶺を延々と乗り越えて、松川ダム左岸まで来てようやくあと一息となってきた。結局飯田駅まで歩き通した。これを書いている今、再びこんな山行をできる自信はない気がする。





# 2018 年度

|         |       |
|---------|-------|
| 会長      | 渡辺 喜仁 |
| チーフリーダー | 松本 哲郎 |
| サブリーダー  | 尾崎 宏和 |
| 会計      | 上野 利之 |
| 都岳連関係   | 上野 午良 |
| 記録・会報   | 松本 哲郎 |
|         | 尾崎 宏和 |
| 装備      | 灘吉 聡  |
| 西高係     | 山野 裕  |
|         | 博多 誠  |
| ホームページ係 | 灘吉 聡  |
| シニア山行係  | 松田 稔  |
|         | 黒澤 隆  |

---

**2018 春：富士山周辺山々の記録**  
**【期日】2018.4～6月【参加者】橋本（12期）**

---

■ **4月3日(火) 毛無山(1946m) s.**

登山口の朝霧高原麓部落の朝、11℃、霧、微風。8:38 登山口P出発。1合目 8:53、2合目 9:04、久しぶりの山行で体が重い。霧が晴れ気温が上がる。不動の滝見台 9:05、3合目 9:22、4合目 9:39、気温は高いが木々の芽はいまだ冬眠中。5合目 9:54、歩行と休みを繰り返し、ノロノロと前進。6合目 10:16、7合目 10:37、8合目 10:55、富士山展望台 11:07、富士山は霧の中、9合目 11:14、縦走丁字路 11:16、尾根筋は残雪あるが歩行に問題ない。毛無山 11:26。富士山は見えない。半昼食を取りすぐに下山開始。丁字路付近のアルプス展望台(露岩)からは南アの展望もない。丁字路 11:41、5合目 12:16、不動の滝見晴台 12:50、登山口P13:14。所要 4時間 36分。

■ **4月10日(火) 御坂黒岳(1793m)**

登山口の天下茶屋の朝、7℃、快晴、微風。9:08 出発。すぐに高度差約 150m の急坂を登って御坂峠 9:24、ツツジ類、ブナ、クヌギ類などまだ芽は固い。アセビが蕾を膨らませている。いくつかの小ピークをアップダウンして 9:51 御坂山(1596m)着。山頂付近にある数株のアズマシャクナゲの葉が緑を増している。山頂を過ぎると広い馬の背状の尾根となるが、ここにブナとクヌギの巨木が数本ある。10:05 送電鉄塔、ここから富士山、南ア北岳などが望める。10:16 旧御坂峠、付近にツノハシバミがあり盛んに雄花を咲かせている。11:02 黒岳、ここにもツノハシバミ雄花。すぐ先の展望台へ。富士山、河口湖、南ア、八ヶ岳の展望。半昼食を取り下山開始。11:42 旧御坂峠、12:05 御坂山、12:36 天下茶屋。所要 3時間 28分。

■ **4月27日(金) 七面山(1982m)**

羽衣登山口の朝 13℃、薄曇り、微風。8:47 出発。13 丁目肝心坊 9:20、23 丁目中適坊 9:53、コースにはタチツボスミレが多く開花しコミヤマカタバミも 25 丁目付近に多い。36 丁目晴雲防 10:42、山門 11:23、敬慎院 11:30、富士山とその左手前に毛無山。12:18 毛無山。途中コース近くまで七面山の大崩落が迫っている。山頂付近の針葉樹林帯にはミツバオウレンが多数開花。すぐに下山開始。途中凹地で昼食。13:05 敬慎院、36 丁目 13:22、給水。23 丁目 13:43、クロモジの新緑が美しい。肝心坊 14:00、登山口 14:20。所要 5時間 33分。

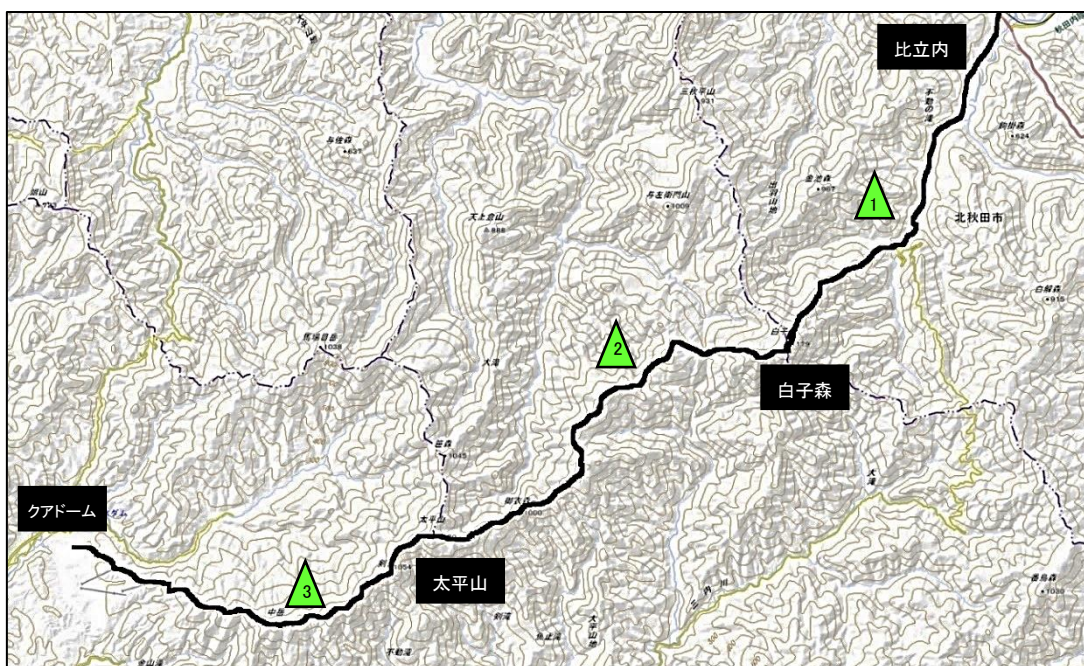
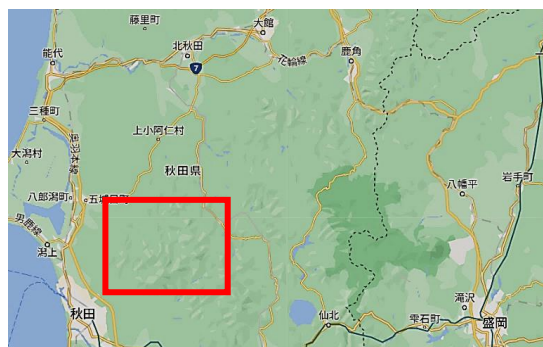
---

**太平山地/VR：比立内～白子森～大平山**  
**【期日】2018.4.15～18【参加者】尾崎（47期）**

---

太平山地は単なる秋田近郊の山と認識するのは間違いである。北東の阿仁合、森吉山、東は番鳥森を隔て田沢湖に続く一大山塊だ。私にとって地味に課題なエリアだったので、6-7年前からちょびちょび来ていた。昨年の白子森も今回も、いずれも前夜に秋田内陸縦貫鉄道の駅まで。今回、翌朝はしつ

かり雨。比立内駅からカラム内沢左岸林道に入るころ、幸い小降りとなってきた。「阿仁合」「カラム内」「〇〇森」など、アイヌや採鉱を思わせる地名が興味深い。進むにつれて雪の上を歩く。天狗ノ又沢出会いを渡ってルートは尾根だが、雨と残雪の中登るのは辛い。実はここには東屋がある。昨年の偵察で知っていたから雨でもここまで来たわけだ。まだ昼過ぎだが、ここで幕営とし濡れずに済んだ。



山中 2 日目、まだ天気はよくなかったが、状況を知っているためか昨年より好ペースで白子森へ登りつく。まだ天気は回復せず、西への下りルートファインディングが懸念された。ごく一部 GPS に頼ったが、大部分は地図読みに成功してコルまで下った。幕営の頃には待ちに待った青空が見えだした。

3 日目、快晴の絶好の日を迎えた。アップダウンや一部細いところもあるが、残雪量も雪質もばつちりだ。一步一步に大平山が近づいてくるのを実感する。頂上から南西への下山路は正面に日本海を見下ろし、午後の太陽が残雪にまぶしい。そんな雪尾根でもう一泊し、翌朝クアドームザブーンに下った。

**2018 春・初夏：丹沢・富士・奥秩父**  
**【期日】 2018. 5～6 月 【参加者】 橋本（12 期）**

■ **5月11日(金) 檜洞丸(1601m)**

シロヤシオと新緑のブナを見に行く。西丹沢の自然教室前Pは満車。朝の気温 9℃、快晴、無風。7:25 出発。このところ2～3日で大量の降雨があったので新緑が美しい。林道にはガクウツギ。東沢の水量は多いが、丸太の渡しがおいてある。ゴーラ沢出会 8:01、ここから急坂が始まる。展望台手前でギンリ

ョウソウが群生。例年よりかなり早く出現。展望台 8:38、湿度が低くそのためか富士山がくっきりと見える。石棚山稜分岐 9:37、途中の休憩場所付近ではシロヤシオがほぼ満開、トウゴクミツバツツジが7~8分咲き。尾根ではシロヤシオは蕾。未だ開花していないがバケイソウとマルバダケブキの大群落、山頂直下にはキジムシロが多数開花。檜洞丸 9:54、半昼食。マメザクラ開花。すぐに下山開始、石棚山分岐 10:14、展望台 10:43、ゴウラ沢出会 11:11、西丹沢自然教室前 11:44。所要 4 時間 19 分。

#### ■ 6月13日(水) 富士山吉田口7合目

登山口の吉田口馬返し朝 15℃、晴れ、無風。7:45 出発。1合目 7:55、2合目 8:17、付近にはキンポウゲとシロバナノヘビイチゴが多数開花。3合目 8:36、井上小屋 9:07、ガスで眺望無し。佐藤小屋 9:41、経ヶ岳付近にはダケカンバとシャクナゲが多い。6合目 10:10、時々薄日が差し風も弱い。7合目花小屋 10:56、砂防ブロックの金網のスキマからイワツメクサ、タカネツメクサの白い花、バッコヤナギの幼苗に尾状花序が見える。半昼食、今しばらく登れる気力はあるが、ここで下山することにする。6合目 11:25、佐藤小屋 11:40、井上小屋 12:00、3合目 12:16、1合目 12:44、馬返し 12:52。所要 5 時間 07 分。

#### ■ 6月22日(金) 北奥千丈岳、金峰山

大弛峠までの川上牧丘林道は緑を増した木々が美しい。標高 1000m 付近では葉が白くなったマタタビ。満開のニセアカシア。大弛峠朝 8℃、快晴、北西寄りの風強い。7:27 出発、前国師の手前から見る富士山は雪が少ない。前国師 7:54、北奥千丈岳(2601m)8:02、南アが美しい。すぐに国師岳に向かう。林床にはミツバオウレンの花が多い。アズマシャクナゲは頂部が膨らんできた。国師岳 8:20、前国師東斜面にはイワカガミの群落で林床が赤く染まっている。大弛峠 8:50、軽食。峠から高度差約 100m の登りとなるが、新しいコースが作られた。朝日峠 9:17、朝日岳 9:49、金峰山 10:44、山頂ではダケカンバが新葉。イワカガミ1株。半昼食後下山開始。朝日岳 11:47、風がやみ暑くなってきた。朝日峠 12:08、バイケイソウが多い。大弛峠 12:32。所要 5 時間 05 分。

#### ■ 6月27日(水) 鬼ヶ岳

御坂山地の西端にある鬼ヶ岳に向かう。家を出るときは晴天であったが、県境に入るところには空が暗くなり、籠坂峠付近では雨交じりの霧である。富士吉田市内ではいったん曇りとなったが、西湖付近で再度黒い雲が出始める。登山口の西湖の根場部落のいやしの里Pでしばらく様子を見る。南寄りの風強く、依然として小雨。少し明るくなったところ合いを見て 8:55 出発。気温 19℃。鍵掛峠へのルートははっきりしており、歩きやすい。しかし、空は暗く、樹林帯の中のコースは霧と降雨で視界が悪い。風が徐々に強くなってきた。本沢川沿いを登るが、ブナとミズナラの美しい樹林帯が続く。ウツギ、ヤマボウシ、マルバウツギ、バйкаウツギ、コゴメウツギなど、下界では終わったウツギ類がここでは今が満開である。雨も強くなってきた。10:14 鍵掛峠(1512m)着。ここでしばらく天気回復を待ったが風と降雨が強くなり、ここで下山することにする。いやしの里P11:08 着。

### 北アルプス/VR：初雪山～犬ヶ岳～明星山

【期日】2018. 4. 28～5. 1【参加者】尾崎 (47 期)

この山行も課題解決シリーズだ。前年、大地山・初雪山取りつき点訪問、7 月末小滝～黒岩山偵察、9 月越道峠から登山道を初雪山往復。今年 3 月再び大地山経由で初雪山の積雪期偵察、下山地側の

偵察も行った。それらを経て、この連休こそ北ア北部横断をめざす。問題は主稜線の犬ヶ岳手前のカール急登であり、ブロック雪崩に遭ったらおしまいである。

4/28、泊から、今回は奮発してタクシーを用い登山口近くまで。しばらく歩道を歩いて取りつき、順調に進む。好天で、しばらく雪は無い。大地山付近から雪を踏むようになった。この山域の適期は3月から4月上旬ごろのようだ。3月の偵察ではあれだけ人がいたけれど、今回は踏み跡すら見当たらない。大地山から先はヤブが懸念されるからだろう。幸い今回、その問題はほとんどなさそうだ。毎回思うのだが、偵察時はあんなに時間がかかっても、2回目などの本番は本当にすんなり来る。大地山から少し進んだ雪の台地で幕営する。正面に明日まず登る初雪山がドーンと見える。



4/29、4時半ごろ出発。ところどころ雪が切れヤブをこぐが、前年の飯豊蒜場尾根の方がヤブも人も多かった。知名度の点が高い。初雪山から北に折れ、未偵察エリアに入る。左右に屈曲する尾根の下りも、展望はばっちりで一気に進む。問題のカール急登が迫ってきた。カールに降りない場合は、急な小尾根を延々劇ヤブになる様子がよく見える。ポコポコはまる雪質の樹林内トラバースをえっちらおっちら下って行く。近づくほど雪壁と化すカールを正面に見つつ、遅くなるほど雪崩れるのではと気分が焦る。9時過ぎ少し落ち着きたくて、カール下の安全地帯で休む。お日様はガンガンで、遅くなるほど雪崩のリスクは高まるだろう。もし雪崩れたら本当に一卷の終わりである。結局あまり落ち着くことは無かった。こうなると人間、火事場の馬鹿力が出るのだろう。超ではないが、かなりのスピードだったはずである。気づけばかなりの高度に来ていた。目の前の傾斜が緩み、雪溪の終わりが見え、もう大丈夫だと休憩できたのが10:50ごろ。そこからゆっくり進んで最後の藪は10分ほどで、梅海新道に飛び出した。そこから北へ、小ピークもあって犬ヶ岳へは案外つらい。東尾根への分岐も過去の偵察縦走での把握を生かす。小屋手前で北東への微地形的な尾根に乗った。しかしこの辺りでグツタリしてきた。一部細い尾根のヤブを過ぎると広い緩やかな山稜になる。小ピーク2つを越え、次の1525mピークがでかい。30分休んで、何とか越えると極楽的スロープだった。下った所で14時に幕営とする。張り終えたら撃沈した。



初雪山から犬ヶ岳へのルート



幕営地から朝日岳の北面

4/30、最初のピークは正面がヤブだ。左(北)を巻き込み、窪筋の手前で左岸を登るとヤブを回避できた。柴倉山、源太夫山、ヨシオ山、村杉山と順調に進み、3月に偵察に来た横前倉山に到達するとちょっと感慨だった。しかしここからが問題区間。一本松山南面をからヒヨドリ池までの地形はきわめて複雑だ。おまけに雪も減っていて、偵察の甲斐なくルーファイ大ミスをしてしまう。気が付くと明星山に背を向けて歩いていた。軌道修正してヒヨドリ池北岸に着いた時には、あーまだ明星山アタックかー、と座り込む。空身になって歩き始めた。明星山西尾根はやがて夏道が出てきて、空身のためか予想よりは楽だった。頂上で電波が入ったので自宅に明日の下山を連絡する。

5/1、ヒヨドリ池東岸の小尾根から東へと下るが、雪がたっぷりあり、林道は見いだせなかった。3月の偵察では自分のトレースをたどったのでうまく下ったが、今回はルーファイが難しい。少しミスって早めに沢筋に出てしまったが、標高700m地点で林道に合流した。3月には雪に埋もれてわからなかった林道の崩落が現れていたが、問題なく通過できた。大糸線小滝駅へ。南小谷行は小一時間の待ちだったが、陽光にテントを干したりして、ちょうどよく帰途に就けた。

---

### 日光：女峰山

【期日】2018.6.9 【参加者】渡辺(21期)

---

日光の女峰山を目指しましたが、霧降高原は名前の通り、霧。午後から雨の予報だったので、赤薙山までで、下山。ニッコウキスゲは数輪、咲いていたのみで、まだ満開までには二週間ほどかかりそうでした。宇都宮餃子と、大谷資料館も堪能して、帰京しました。

---

### 頸城：雨飾山

【期日】2018.6.13 【参加者】渡辺(21期)

---

5回目の雨飾山登山。例年と比べて、荒菅沢の積雪は少なく、花は二週間ほど前に盛りを過ぎていました。それでも6時20分から登り始めて、10時30分には頂上に着きました。シラネアオイは満開。カタクリはほぼ終わっていました。今回も頂上からの日本海の展望はありませんでした。この山は、毎年登ってもいいほど、楽しい山です。

**中信周辺の山々：2018 年春～夏**  
**【期日】2018.4～7月【参加者】玉田（38期）**

■ **4/14(土) 茂来山(長野県佐久穂町)**

雨の予報が、朝起きたら青空が見えていたので茂来山へ行きました。佐久穂町から登ると 2 時間くらいかかるらしいけれど、今回は小海町側から登りました。小海町側からは 1 時間ちょっと。駐車場から林道を 30 分強歩いて登山口。そこから 40 分くらいで頂上。小海町の HP にある通り登山口からは、ず～ず～と急登でした。下山時は、これ以上 下りが続いたら膝が笑う～と思いました。夫婦一組にしか会わず静かでした。

■ **4/29 飯盛山 1,643m**

片道 1 時間のピクニックですが一応”山”なので報告します。いろいろおいしい飯盛山に行きました(清里と野辺山の間)。八ヶ岳と富士山の眺めが最高。登る前、または後に近くの野辺山宇宙電波観測所を見学できる。少し移動すれば清泉寮のソフトクリームも食べられる。全部堪能してきました。開通したばかりの中部横断自動車道を利用したら、とても早く着いて便利になったものだ！と思いました。

■ **5/26 飯縄山(長野市)1,917m**

北信五岳(ほか妙高山、黒姫山、戸隠山、斑尾山)の一つ。とても良い山でした。新緑がとっても美しく、森林を抜けると長野市や北アルプスが一望できました。登り 2 時間半。もともと修験道の霊山で、登山道に沿って13の仏像？に出会えます。修験の格好をした方とも2度すれ違いました。また戸隠山～戸隠神社～飯縄山～飯縄神社～善光寺まで「気」の道が通っているといわれていて、そのせい？元気が湧いた気がします！帰宅してひとつショックだったのは・・・なんとほっぺたをブヨに刺されてました。しかも5か所。。。みなさまもお気を付けてください。

■ **6/2 北八ヶ岳 天狗岳**

唐沢鉱泉～西天狗～東天狗～黒百合ヒュッテ～唐沢鉱泉。雪は日陰の斜面にちょこっと残っている感じ。花はイワカガミくらい。お天気はくもり。赤岳・阿弥陀の頂上は雲が動いて一瞬顔出した！程度。富士山も北アルプスも見えず。でも八ヶ岳特有のコケが瑞々しく美しく、朽ちた倒木からは新しい芽が出ていたり、と生命感あふれる森を堪能してきました。下山後の唐沢鉱泉も気持ちよかったです。帰宅後、唐沢鉱泉に忘れ物をしたことに気付いて連絡をしたらすぐに着払いで送ってくれました。ありがたや。ありがたや。

■ **6/17 柵池自然園ピクニック？**

知り合いが尾瀬で水芭蕉を見てきた、というので、ああそうだ水芭蕉を見に行こう！と思いたち本州で一番最後に水芭蕉が咲く、と言われているらしい柵池自然園へ。ゴンドラからロープウェイに乗り換える道端に早速水芭蕉が。しかしその大きさにびっくり。水芭蕉って可憐なイメージだったのに、このお化けは何？水芭蕉って日が経つとお化けになるって知りませんでした。柵池自然園の水芭蕉はちょうど見ごろで可憐でした。よかった☆ 残雪が思いのほかたっぷりあって、小蓮華から白馬の山を眺めながらるんると歩いてきました。シラネアオイも咲いていました。

■ **7/21 上越 平標山**

7月21日 平標山に行きました。ルート:駐車場～松手山～平標山～山の家～駐車場。猛暑で風も

あまり吹かず暑さにやられました。ツアーが来ていましたが誰かが歩けなくなってしまったのかヘリを要請していました。この日は熱中症で何人か運ばれたらしいです。事前に調べて階段が多いことは覚悟していったのですが、こんな階段見たことないくらい階段攻め。作った人凄すぎる。猛暑の階段攻めに体力消耗し、へとへと。咲き乱れるお花畑を想像していましたが、期待したほどではなかったです。タイムングがむずかしいですね。

#### ■ 8/2 八ヶ岳 硫黄岳

桜平駐車場 8 時過ぎ着。第2P既に満車で路肩に駐車。学校登山で賑わう時期なのに、コロナで静か。小屋前の休憩中はマスク着用。帽子、サングラス、マスクの三点セットだと顔がわからず、異様な世界。頂上では数分雲が晴れて赤岳が見えて嬉しかったです。

#### ■ 8/14 中央アルプス 宝剣岳

千畳敷カールではやっとなくさんのお花を見られました。数年ぶりの 3000m 近い稜線の風は気持ち良くて気持ち良くて幸せ。久しぶりの岩場？鎖場は年齢を考えて・慎重に。もう槍も剣も後立も怖くて行けないな、と思いました。木曾駒は昔行ったので欲張らずにのんびりして下山。帰りのロープウェイは2時間待ちでした(TT)。

---

### 南アルプス：広河原～北岳

【期日】2018.7.31【参加者】橋本（12期）

---

猛暑で出発するまでは心配が付きまとったが、実行に移した。前夜発で奈良田に入り、現地で約3時間の仮眠をとる。奈良田発 5:30 のバスで広河原に入る。一昨日の台風 12 号の影響は軽微か。準備体操をして 6:20 出発。快晴・微風。広河原から北岳が良く見える。6:38 御池分岐、大樺沢沿いに登るが、やはり水量が多い。しばらくすると右岸に移るが、左手から流下するいくつかの沢筋からの水量も多い。8:11 二俣着。大樺沢の雪渓は二俣付近まで残っている。ここから右股コースに入る。東面するこの急坂のコースはダケカンバが多少あるが日影がなく容赦なく照り付ける陽ざしで猛烈に暑い。しかし、この急坂斜面には多数の高山植物があり疲れをいやしてくれる。ハクサンフウロ、ミヤマシャジン、タカネヒゴタイ、キタザワブシ、トモエシオガマ、シモツケソウ、タカネナデシコ、イブキトラノオ、タカネツメクサ、イワツメクサ等々。御池小屋分岐 10:11、小太郎尾根稜線 10:30、軽食休憩。肩ノ小屋 11:17、かなりの疲労感あり。12:00 北岳山頂。ややガスがかかり仙丈ヶ岳が見えない。すぐに下山開始。12:26 肩ノ小屋、小屋から少し下ったところで、多数咲いているトウヤクリンドウ小群生場所で昼食。よく見るとウラシマツツジ、チョウノスケソウ、イワギキョウ、ミヤマダイコンソウなどもある。小太郎尾根稜線 12:54、御池小屋分岐 13:02、二俣 13:44、同じコースを下ったのは、このコースは多種多数の高山植物がみられるからだ。大樺沢右岸に入り給水。御池分岐 15:10、広河原 15:28。所要 9 時間 08 分。帰途奈良田で入浴。

---

### 南アルプス：北沢峠～甲斐駒ヶ岳

【期日】2018.8.22【参加者】橋本（12期）

---



前夜発で仙流荘に入り、数時間の仮眠をとる。仙流荘から 6:00 発のバスに乗る。南アルプス林道は今がヨツバヒヨドリの満開時期で、アサギマダラが多数舞っている。同時にフジアザミ、マルバダケブキ咲いているのが見られる。6:40 北沢峠着。準備体操をして 6:50 出発。天気は晴れ、快晴。北沢駒仙小屋から北沢沿いに登り、仙水小屋 7:23。ここで水が補給できる。なだらかな登り、ゴロゴロした露岩が押し出すハエマツ帯を過ぎると仙水峠 7:55 である。ハクサンシャクナゲが群生し、北に摩利支天、南に粟沢山。ここから標高差約 480m の急登で駒津峰(2740m)9:31。ここから見る摩利支天と甲斐駒ヶ岳は素晴らしい。痩せ尾根を少し下り、白いザラ砂の急坂を登り、摩利支天への分岐 10:28、引き続きザラ砂の急坂が続き黒戸尾根との合流点 10:56、甲斐駒ヶ岳 11:00。軽食を取り下山開始。ザラ砂の斜面は猛烈に暑い、少し風が出てきて歩きやすくなった。仙丈ヶ岳、北岳、鳳凰3山、塩見、赤石、富士山が見える。摩利支天分岐 11:30、時間に余裕があり摩利支天に登る。11:46 摩利支天。甲斐駒ヶ岳の東面壁が大きい。12:04 分岐点。ザラ砂が多いためコース斜面には高山植物が少ないが、それでもトウヤクリンドウ、タカネツメクサ、イワツメクサなどがまれにある。駒津峰 12:57、下山路は眺望が良い双児山ルートをとる。双児山(2643m)13:25、長い下りがあり北沢峠 14:19 着。所要 8 時間 29 分。仙流荘で入浴。

---

**御坂：西湖・根場～鬼ヶ岳**  
**【期日】 2018. 10. 26 【参加者】 橋本（12 期）**

---

御坂山地に西部にあるこの山には6月に訪れたが、悪天候のため鍵掛峠で引き返した、再度挑戦する。登山口の西湖根場Pの朝、くもり、微風、10℃。8:18 出発、林道をしばらく歩くと登山口の標識があり、ここから入る。コースは急坂が連続し、標高差約 500m 登ると鍵掛峠である 9:46。峠の南直下にはブナの巨木が数本ある。シロヨメナ咲き終わり。今日も峠は天気が悪く冷たい霧雨が吹き付ける。小休後東に向かう。縦走路はロープが張られた小さなコブ状の岩場を数か所、順次高度を上げながら進む。山頂手前では、2～3回の急坂があり、コブ岩のある山頂に至る 10:45。悪天候のため視界はなくすぐに下山開始。少し下った場所で風を避けて軽食休憩。鍵掛峠 11:33、やや雲が切れて、西方に鍵掛が見える。くぐりは美しい紅葉を見ながら快適に下る。根場P12:23 着。所要 4 時間 05 分。

---

**南アルプス/VR：鶏冠山西尾根～池口岳南峰～ダルマの頭～**  
**寸又川～百俣沢の頭～光岳～池口岳北峰**  
**【期日】 2018. 10. 6～9 【参加者】 尾崎（47 期）**

---

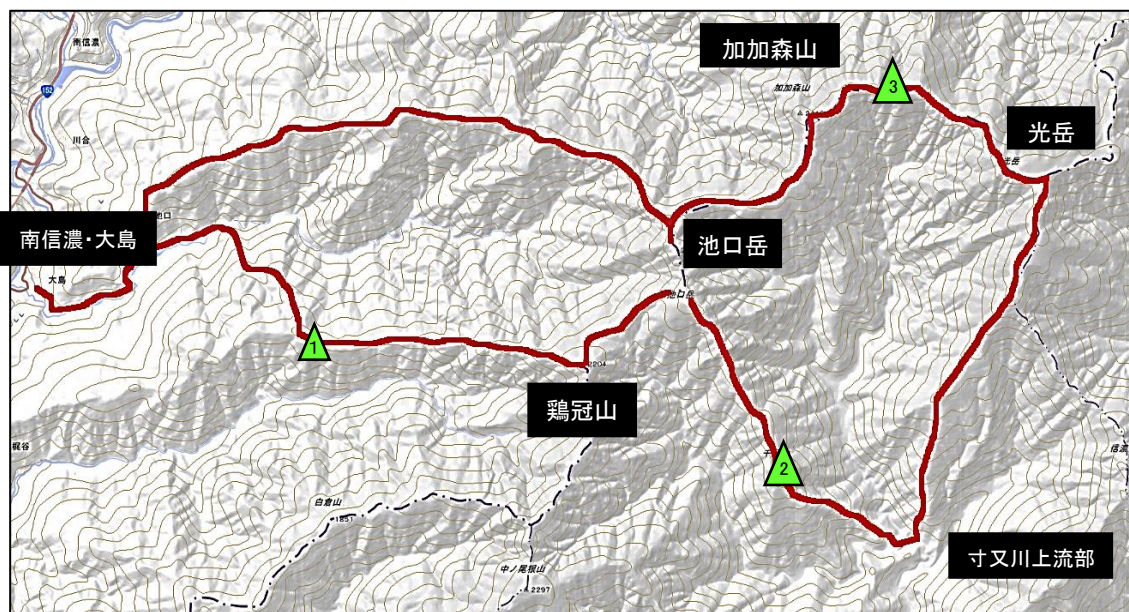
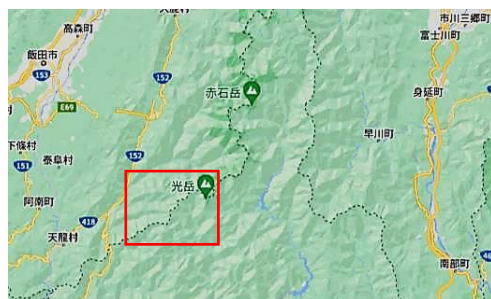
このエリアに数回訪れ、少しずつ状況がわかってきた。そうした中、ダルマの頭という謎めいた名称や、池口岳南峰の良い雰囲気、寸又峡上流部がもつ魅惑などが気になった。ルートは横倒し8の字、反時計回りになった。初日は鶏冠山西尾根(犬切尾根)を登る。登りは最初が急だが、途中にしっかりした水場がある。主尾根に乗れば緩やかだ。尾根に着いた所で幕営する。

2 日目、犬切尾根上部の放射状地形は踏み跡もあいまいとなる。下る場合は難しそう。鶏冠山北峰は北面の緩傾斜帯を巻いて先を急いだ。池口岳南峰への本格的な登山に入る手前、尾根東面直下に

もしっかりした水場があり、ここでまた給水する。池口岳南峰(2376.1m)から、くるぶし程度の小笹の尾根を雰囲気良く下る。2212m がダルマの頭で、その南東が絶壁である。秋の南ア深南部の展望台ではあるが、どれがどれだかわからない。ここからの下りは最高点手前から南西へ派生する尾根を歩き、左に折れてトラバース状に元の尾根に復帰するのだが、ここが第一の核心部か。詳細は最近ネット情報が見られるが、永野敏夫氏著「南アルプス・深南部」(2010)に詳しい。トラバース開始地点は平坦になっていて、テープ類もあって案外苦勞せずに判別できた。千頭山を過ぎたあたりで斜めだが幕営。

3 日目、暗いうちに歩き始めると、ルートを決めてちょっと怖い。20 分ほど待ったか、薄明るくなってまた歩き始めた。寸又川の柴沢左岸に降り立つ。これに掛かる吊橋が、古びていて乗ったらぶち切れそう。もちろん踏板は朽ちている。ここも核心部。寸又峡林道が完全崩壊している今、先ほど寸又川に下りついた所と光岳登り口の 2 つの吊橋は、時の流れに従いやがて朽ち果て、再建されることもないだろう。2023 年現在どうなっているか？ 下流に向かい、ダルマ沢を合わせて計 30 分弱ほど歩く。この辺りは寸又川林道の末端手前と思われるが、この辺は落石だらけとはいえ歩くには問題なかった。光岳への吊橋を再度渡らなければならない。こちらの橋はだいぶマシで助かった。その後特に 2000m までは急登が連続し、登りなのに道を失う廃道状態の箇所もある。ようやく信濃俣からの尾根を合わせると、踏み跡がしっかりしてきた。そちらの方が歩かれているのか。その後も、だらだらエンドレスの登りがつらい。光岳には 14 時に到達した。よくまあここまで来たという感覚だった。加加森山方面へ進み、2430m 手前で幕営。水は背負ってきた量で足りた。

4 日目の 10/9、池口岳北峰を再訪したかは定かでない。一般登山道で南信濃・大島へと下る。偵察的な位置づけとしては、冬山で来るには全体的に労多くして益少なしという感覚だった。一方秋の深南部としては、この足跡は次への取っ掛かりとなるかもしれない。



南ア、池口岳報告を懐かしく読ませていただきました。2003年7月に樫島から入り、赤石岳～光岳～寸又峡温泉のルートを経由して縦走しました。コースの最終、光岳～寸又峡温泉までは16時間を要する長丁場です。光岳から下山を開始し、暫くすると信濃俣への分岐に出ます。信濃俣へはやや踏み跡は少ないものの、はっきりしていました。その時は直進し、柴沢吊り橋に至り、そこから36Km 12時間の中部電力工事用林道を歩くことになります。当時はこのコースは健在で、ルートは工事用林道を含めはっきりしていました。ただ、あまりの遠隔の地、登山者が少ないこともあってか、徐々にコースが廃道になってゆくのは仕方がないですか。光岳から加加森山を経由して池口岳に至るコースを検討している間に、気が付いたら15年が経過しました。(橋本・12期)

## 二口山塊 冬到来

【期日】2018.11月【参加者】尾崎(47期)

### 11/4～5

仙台近郊の面白山付近、関山峠～舟形山付近、米沢と福島の間、栗山付近、これらのどこかに行こうかと思った。福島・三春からでも少々遠いが、東京からわざわざ来るには、強いモチベーションを要するだろう。今、三春居住の地の利をいかそう。まず今回は面白山付近とした。

11月3日の最終で面白山高原駅に来る。ホームには立派な待合室がある。翌朝、北面白山へ。頂上直下で天童高原からのルートと合流するとハイカーが増えた。月山、朝日、飯豊は真っ白だ。もう根雪になるだろう。頂上を辞すると静かな山に戻る。権現様峠を過ぎ大東岳西面のトラバースで水を得た。南面白山の頂上で幕営する。計画当初は笹谷峠までと欲張ったが、4日朝は眠くてはかどらず、二口峠から林道を山寺に下山した。ともあれ、南東北の晩秋を楽しめた。

### 11/23～25

先日の面白山の残り部分。朝三春を出て、面白山高原駅から、権現様峠に直接上がる。ここは面白山高原からの道、先日の縦走路、大東岳へと十字路になっている。20日前とはうって変わり、峠手前から真っ白で、道が判然としない部分もある。上空は冬の風の音が大きい。一時的には吹雪となった。大東岳北面の沢筋で泊まる。雪の中だが、沢筋で水を得られた。

2日目、大東岳への登りは降雪とラッセルだった。頂上はガスの中で、樋の沢避難小屋への下り口は雪とヤブで判然とせず、やや神経を使った。小屋付近に下りれば積雪はちらほら程度で驚いた。小東峠へ登り返すと再びラッセル気味である。二口峠からも稜線南下を継続し、暗くなりかけた糸岳頂上の灌木内で2泊目。3日目は良く晴れて、鳥海山、月山、葉山、朝日、飯豊と真っ白な景色を楽しむ。山形神室から笹谷峠へのルートは爽快だった。笹谷峠から関沢、防原まで歩き、山形に出た。

## 冬の大菩薩・丹沢・御坂

【期日】2018.12月～2019.2月【参加者】橋本(12期)

健康に留意しながら、年齢相応に、安全な山行を心がけ、引き続き尾根歩きを楽しんでいます。

## ■ 12月5日(水) 大峠～小金沢山

甲州街道大月の先、真木小金沢林道から大峠に向かう。大峠の手前に湯ノ沢峠へ向かう林道があり、約20年前にハマイバから歩いてこの林道を登って黒岳に行った。このコースには美しいクヌギ・ミズナラ林があった。しかし今回、付近を車で通過したら、この林道周辺は大規模に皆伐され、無残な山肌が露出していた。大峠の朝、晴れ、微風、10℃、7:55 出発。美しい富士山、黒岳へ向かうこのコースもクヌギ・ミズナラが多い。途中赤岩ノ丸は巻道を選び直進する。標高 1800m 付近からコマツガの巨木多数が先日の台風のためか、倒木となってコースを塞いでいる。付近は広い馬の背状の尾根のため、迂回コースなどで時間のロス。黒岳(1988m)9:02、山頂にもコマツガの倒木。すぐに引き返し北に連なる縦走路に向かう。川胡桃沢ノ頭(1940m)9:29、南ア北岳から赤石方面が望める。ここから大きなギャップを越え、牛奥ノ雁ヶ腹摺山(1990m)10:01、やはり南アの眺めが素晴らしい。この先は比較的アップダウンの程度は少なく、小金沢山(2014m)10:35 着。山頂はやや荒れた感があるが、アズマシャクナゲが数株あり。軽食と給水して下山開始。牛奥ノ雁ヶ腹摺山 11:11。この山の西側にある雨沢方面から登ってくるコースがり、登山者があった。川胡桃沢ノ頭 11:41、稜線分岐 12:06、大峠 12:52。所要 4 時間 57 分。

## ■ 1月2日(水) 蛭ヶ岳(1673m)

年末の檜洞丸で肋骨を強打したが、痛みが和らいだので、例年通り蛭ヶ岳をめざす。さいわい、年末は降雪が殆どなく、また、今日は好天である。登山口の戸沢山荘の朝0℃、快晴、無風、6:58 出発、政次郎尾根に取り付く。標高差約 640m の急坂を一気に上り、表尾根の稜線に 8:17 着。途中、新春の陽に輝く湘南海岸と真鶴半島、伊豆半島が美しい。旧書策小屋跡 8:25、新大日 8:36、塔ノ岳 9:15。風は少ないが、富士山と南アは雲がかかっている。日高 9:44、付近には数か所ヘリポートが作られ、登山道整備のための資材の荷揚げ準備中である。竜ヶ馬場 9:58、丹沢山 10:18、軽食・給水。引き続き好天のため先を目指す。ここから蛭ヶ岳まで往復4時間を要する。途中大きなギャップがあり下りと登りが連続する。不動の峰休憩所 11:04、不動の峰 11:11、棚沢ノ頭 11:20、鬼ヶ岩 11:35、蛭ヶ岳 12:04。山頂で昼食休憩。東京・横浜のビル群、筑波山まで見える。すぐに下山開始。鬼ヶ岩 12:48、やや雲が多くなり、急激に気温が低下、風が出てきた。棚沢ノ頭 13:02、不動の峰 13:12、丹沢山への登り返しに苦勞する。丹沢山 13:48、小休憩。竜ヶ馬場 14:10、日高 14:23、塔ノ岳 14:47、軽食・給水。下りは天神尾根を取る。金冷し 15:03、疲労がたまっているので、この標高差約 920m の下降はきつい。また、この下降コースは悪路である。再度転倒すれば大けがである。途中慎重に、2回の小休憩をとった。戸沢山荘 16:23 帰着。所要 9 時間 25 分。

## ■ 1月16日(水) 王岳(1623m)

御坂山地の西端に位置する王岳を目指す。籠坂峠は-4℃であったが、登山口の根場Pは2℃、快晴、やや南寄りの風、7:53 出発。西入川に沿って林道を歩き登山口 8:24、昨日降雪があったのか 2~3cm の積雪。ここからかなりの急坂が始まる。雪面が凍結しだったので、標高 1350m 付近でアイゼン着用。付近にはアブラチャン、ミズナラ、ブナ、カラマツが多い。標高差約 600m を登るとクマザサのやや緩斜面となり、しばらくすると縦走路に出る。すぐ右手が王岳である 9:44。小休。富士山の北面と眼下に西湖。王岳より尾根沿いに東へ、10分位で吉沢山(地図にない)に着く。いくつかの大小ピークを過ぎると鍵掛 10:35 だが、標識はなく、樹木にテープで記載されている。このピークを下ると鍵掛峠だが、標識が手前のものと少し先に登ったところに本来の峠がある。王岳から鍵掛峠までの稜線からは左手に甲府盆地、右に富士山が望める。この峠から下山する。根場P11:45 着。所要 3 時間 52 分。稜線はツツジも多数。

### ■ 1月30日(水) 檜洞丸(1601m)

西丹沢自然教室前の朝-2℃、快晴、無風。8:10 出発。途中、ミツマタはいまだ固い蕾。このところの少雨で東沢やゴウラ沢の水量は少ない。ゴウラ沢出会 8:49、展望台 9:31、展望台の前後から右手にゴウラ沢越しに石棚山稜が見えてくる。このテシロの頭山頂部から下に大きな崩落沢があり、ここに落石が頻発している。石棚山稜稜線 10:26、南寄りの風強い。檜洞丸 10:39、山頂では小雪が舞う。一時風がやみ、富士山と南アが現れる、素晴らしい。小休後下山開始。石棚山山稜分岐 10:55、展望台 11:19、最近になってコースの多くは植生保護のための木のハシゴ、階段が多数設置された。ゴウラ沢出会 11:55、西丹沢自然教室前 12:28。所要 4 時間 18 分。

### ■ 2月27日(水) (御岳)黒岳(1792m)

今年は暖冬のためか雪が少ない。国道 137 号線から御坂トンネルに向かう道路に雪はない。登山口の天下茶屋、朝 0℃、曇り、微風。8:44 出発。近くにシジウカラとアトリが渡りの途中か多数。急坂を登り 8:59 御坂峠。いくつかの小ピークをアップダウンして御坂山 9:28、稜線も雪無し。送電鉄塔 9:42、左手に河口湖、薄曇りだが白い大きな富士山。旧御坂峠 9:52、薄日が差してきた。付近はすばらしいブナ・ミズナラ林である。ここから黒岳へのコースは稜線の北斜面に一部雪が残っている。黒岳 10:34、天気は良くないが、少し先の展望台に行く。引き返して黒岳にて軽食、すぐに下山開始。旧御坂峠 11:16、送電鉄塔 11:30、御坂山 11:43、御坂峠 12:06、天下茶屋 12:17。所要 3 時間 33 分。

### 中信：上田市 太郎山

【期日】2019.1.14【参加者】玉田(33期)

運動不足解消と、落ち葉がカサカサ言う地面を歩きたくて里山ハイキングに行きました。雪は頂上直下に少～しあり、陽当たりのよい頂上にはまったくありませんでした。1 月末から数回雪が降っているの、今はもっと雪が残っていると思います。富士山、八ヶ岳、北アルプスも見え、眼下に蛇行する千曲川や上田城跡公園などの市街地を眺め、のんびりした時間を過ごしリフレッシュしてきました。

おまけ：昨日は菅平でスキーをしてきました。昔に比べ人が少なくて滑りやすかったです。

### 奥秩父：徳和～乾徳山

【期日】2019.3.5【参加者】渡辺(21期)、他

大学時代の友人と乾徳山登山。前日の雪で、山々の木々は霧氷に覆われていた。今までは徳和から登っていたが初めて大平牧場からの入山。扇平までは先行者の足跡が一つあったが、なぜかその足跡はここで切れていた。あとは私が新雪に新たなトレースをつけながらの気持ちのいい登山となった。8時半に大平牧場を出て、頂上には11時50分着。ほとんど乾いた雪だったが、部分的にはしごなどが凍っていて、ピッケルで足場を切るのに手間がかかった。下山は水のコル経由。国師が原の小屋はすっかり整備されて、中には薪ストーブもしつらえてあった。15時半に大平牧場発。近くの温泉が定休日だったのでほっとらかし温泉まで足をのばし、富士山を見ながら露店風呂につかった。20時に帰宅。

## 福島：安達太良山

【期日】2019.3.6~7【参加者】渡辺(21期)、小川(12期)、中村(21期)

猪苗代湖畔の秋元浜は無料のキャンプ場が郡山市により設けられている。8月であれば水浴やボート遊びでにぎわう。何よりも無料というのがいい。3月は、あいにく炊事場の水は出ず、トイレも閉まっていた。中村さんは例によって盛大な焚火を始めた。7日は願ってもない晴天。雪を踏みつつ、くろがね小屋から安達太良山へ。温泉のあるこの小屋は近く建て替えるとのこと。この日は快晴無風だったが、風が強いところのようで、エビのしっぽが20センチほど、岩や道標にまとわりついていた。帰りはスキー場経由で下山。かろうじて1本だけリフトが動いていた。

## 南会津（裏那須）/VR：齋藤山～赤柴山～流石山～三倉山

【期日】2019.3.23~25【参加者】尾崎（47期）

福島の三春で初めての残雪期をむかえた。裏那須のエリアは東京からは東武で北上して行けるが、今回郡山、若松経由で会津田島へ南下するのは、少し違和感もある。

3月23日、朝7時の会津長野駅前は、畑は黒いが小雪が舞い、春は名のみや。齋藤山登山口への畦道は、踏切は無いのにはっきりしていた。940m標高点付近から雪を踏む。齋藤



山までは無雪期のハイキングコースが整備されている。頂上以降も明るい曇りで視界がきき、ラッセルも軽い。山に分け入る川沿いにはすぐ下に集落があり、さほど緊張感なくて済む。1381mまで登り、1338mを緩やかに越え、1390mの雪原に泊まる。麓の夕方の音楽が聞こえて、まだ里山の範囲のようだ。

3月24日、ボタボタと雪が降っていて、嫌になって二度寝する。出発しても天候は回復しなかったが、雪が締まっていたので順調だった。1480m、1535.4mへの登りは顕著。その後緩やかになるが距離がある。県境稜線のピーク1634.5m付近は地形は緩やかだがクラスト気味で、ワカンの歯が程よく刺さる。1624mの雪原は再びラッセル、ガス、降雪が続いたが、懸念していた1489mコルへは何とか視界がきき、うまく下降した。登り返しも小雪とラッセルだったが、自分自身の快調に助かった。三倉山分岐に到着して幕営したが、風が当たって場所選びは失敗だった。

3月25日、快晴で那須連峰や昨日歩いた尾根がよく見える。わずかに進んだ所が尾根が広く、昨日ここまで来るべきだった。大倉山を通過して流石山まで往復した。那須連峰西面が大きく見えた。下山の三倉山から振り返ると、驚いたことに昨日の私が来た所を逆方向に歩く人がいた。唐沢山までは雪は多かった。最後は道標に従うと沢沿いになり、春爛漫の神社横に降り立った。

# 2019 年度

|         |       |
|---------|-------|
| 会長      | 渡辺 喜仁 |
| チーフリーダー | 松本 哲郎 |
| サブリーダー  | 尾崎 宏和 |
| 会計      | 上野 利之 |
| 都岳連関係   | 上野 午良 |
| 記録・会報   | 松本 哲郎 |
|         | 尾崎 宏和 |
| 装備      | 灘吉 聡  |
| 西高係     | 山野 裕  |
|         | 博多 誠  |
| ホームページ係 | 灘吉 聡  |
| シニア山行係  | 松田 稔  |
|         | 黒澤 隆  |

## 2019年春～初夏の丹沢、御坂、奥秩父

【期日】2019.4～6月【参加者】橋本（12期）

### ■ 4月9日(火) 大室山(1588m) s.

用木沢出会の朝、6℃、快晴、微風。8:26 出発。ブナの実生苗やタチツボスミレ。犬越路 9:29、東の檜洞丸方面が良く見える。避難小屋前のアセビの大木が満開。引き続き急登 100m を登り、やや傾斜が緩む場所からの富士山と南アが美しい。10:41 稜線丁字路、大室山 10:50、山頂に倒木、マメザクラは未開花。小休後、すぐに下山開始、大室山から破風口までは馬の背状の広い尾根。多数のバイケイソウ。破風口 11:34、前大室 11:48、加入道山 12:00、白石峠 12:13、ここからの下山コースは標識などすこしづつ整備が進んでいる。コースは悪路が多いが特に問題ない。途中陽だまりで軽食。12:52 白石の滝、13:20 林道終点、13:35 用木沢出会。所要 5 時間 09 分。

### ■ 4月18日(木) 十二ヶ岳(1683m) s.

御坂山地の西部、十二ヶ岳に登る。登山口の桑留尾の朝 10℃、快晴、微風。8:25 出発。すぐに急登が始まる。途中地蔵まで標高差 530m を登り 9:35、ここからも急登が続くが次第にコースは悪路となる。十二ヶ岳 10:13、西湖の向かいに残雪の富士山北面。山頂右手奥に節刀ヶ岳が見える。ここを目指す。痩せ尾根を通り、北斜面の急降下が始まる。数分で 10m 足らずのほぼ垂直に下降する岩場に達する。ザイルが設置されているが岩場のスタンスには凍結雪が付着していて滑りやすい。ザイルを頼りに下降する。体重全体を腕力で支えたためか、着地点でかなりの疲労感。ここで引き帰すことにする。十二ヶ岳 10:45、地蔵 11:12、登山口 11:49。

### ■ 6月4日(火) 富士山吉田口6合目 s.

新緑の富士山裾野を見に行く。登山口の吉田口馬返しでハルゼミの大合唱とバッコヤナギの綿吹雪に迎えられる。馬返し朝、14℃、快晴、微風。7:37 出発。1合目 7:48、2合目 8:12、シロバナノヘイチゴ、タチツボスミレが満開。3合目 8:38、ワチガイソウ、バッコヤナギも満開。ハウチワカエデやムシカリも開花中。4合目井上小屋 9:18、ガスで河口湖方面は見えない。ウツギ開花中。9:58 佐藤小屋、経ヶ岳のダケカンバ林の中でマメザクラが満開。5、5合目指導センター 10:32、体調不十分でここで下山することにする。佐藤小屋 10:52、3合目 11:33、馬返し 12:11。林道下山途中の中の茶屋付近でレンゲツツジが満開。

### ■ 6月20日(木) 檜洞丸(1601m) s.

登山口の西丹沢自然教室前の朝、19℃、晴れ、微風。7:28 出発。ゴウラ沢出会 8:06、展望台 8:59、ウツギが満開。ここからしばらくは急登が続くが、体が重く、歩行速度が急速にダウン。石棚山稜ツツジ尾根分岐 10:16、檜洞丸 10:31、山頂のブナ巨木の新緑。すぐに下山開始。石棚山稜分岐 10:48。少し下ったところで、サラサドウダンとヤマボウシ満開。下山速度もダウン。展望台 11:23、ゴウラ沢出会 11:55、西丹沢 12:35。所要 5 時間 07 分。

### ■ 6月26日(水) 北奥千丈岳(2601m)、金峰山

川上牧丘林道は今が春から初夏への変わり目、マタタビの白化した葉が目立つ。大弛峠の朝 8℃、快晴、無風。7:38 出発。前国師 8:06、ミツバオウレンが終わり、今はバイカオウレンが一面に咲いている。前国師から甲斐駒ヶ岳、北岳、八ヶ岳が素晴らしい。北奥千丈岳 8:15、ここからはさらに南アの荒川岳、



策ヶ岳までみえる。ひきかえし、国師岳 8:27。大弛峠 9:00、小休。朝日峠 9:30、周辺は多数コミヤマカタバミの白い花卉。朝日岳 9:58。ここからは南ア、中央ア、乗鞍、北ア、八ヶ岳まで見える。金峰山 10:54、すぐに下山開始。森林限界の残る尾根筋で昼食休憩。ウラシマツツジの新葉、コケモモ開花。朝日岳 12:03、朝日峠 12:32、多数のバイケイソウが草丈 20~30cm。大弛峠 12:58。所要 5 時間 20 分。

---

**上越：土合～芝倉沢～武能沢**  
**【期日】 2019. 5. 23 【参加者】 渡辺（21 期）、児玉**

---

50 年ほど前の 4 月中旬に登ったコースをその時の仲間（児玉）とまた歩いた。5 月 23 日、願ってもない晴天。5 時に下北沢を出て、8 時に天神平へのゴンドラ乗り場着。その先の自動車道路は、24 日 10 時より一の倉沢まで開通すること。登山センター前に駐車をして歩き出す。カタヅミ沢はデブリ。芝倉沢は雪渓を越す。ここからの夏道は残雪が多く歩行に時間がかかり、武能沢近くで時間切れで引き返した。蓬峠を眼前にして行けなかったのは残念。オオルリがよく鳴いて、新緑の散歩を楽しむ登山となった。

---

**中信：京ヶ倉**  
**【期日】 2019. 5. 303 【参加者】 渡辺（21 期）**

---

生坂村の京ヶ岳に登りつた。990mで、登山口より1時間30分で山頂に着いたが、意外に急で、これが奥多摩あたりにあつたら、上級コースになりそうだ。好天で3日蝶が岳から鹿島槍までの展望は見事だった。実はこの山に行ったわけは、麓にある「かあさん家」の「おやき」が有名で入手するためだった。しかし 12 時に行く、10 時から売り出した「おやき」は売り切れで、冷凍のものしか手に入らなかった。

---

**中越：守門岳 本高地沢慰霊碑訪問**  
**【期日】 2019. 6. 22-23 【参加者】 森下眞夫、山野、渡辺、中村、松本**

---

森下道夫(25 期)さんが越後・守門岳本高地沢で遭難されたのは 1983 年 8 月 21 日で 36 年経つ。道夫さんのお兄さん森下眞夫さん(西高 19 期で山野と同期)と道夫さんの慰霊碑を訪ねる山行を行った。6 月 22 日(土)23 日(日)、参加は森下眞夫(兄)、山野、渡辺、中村、松本。

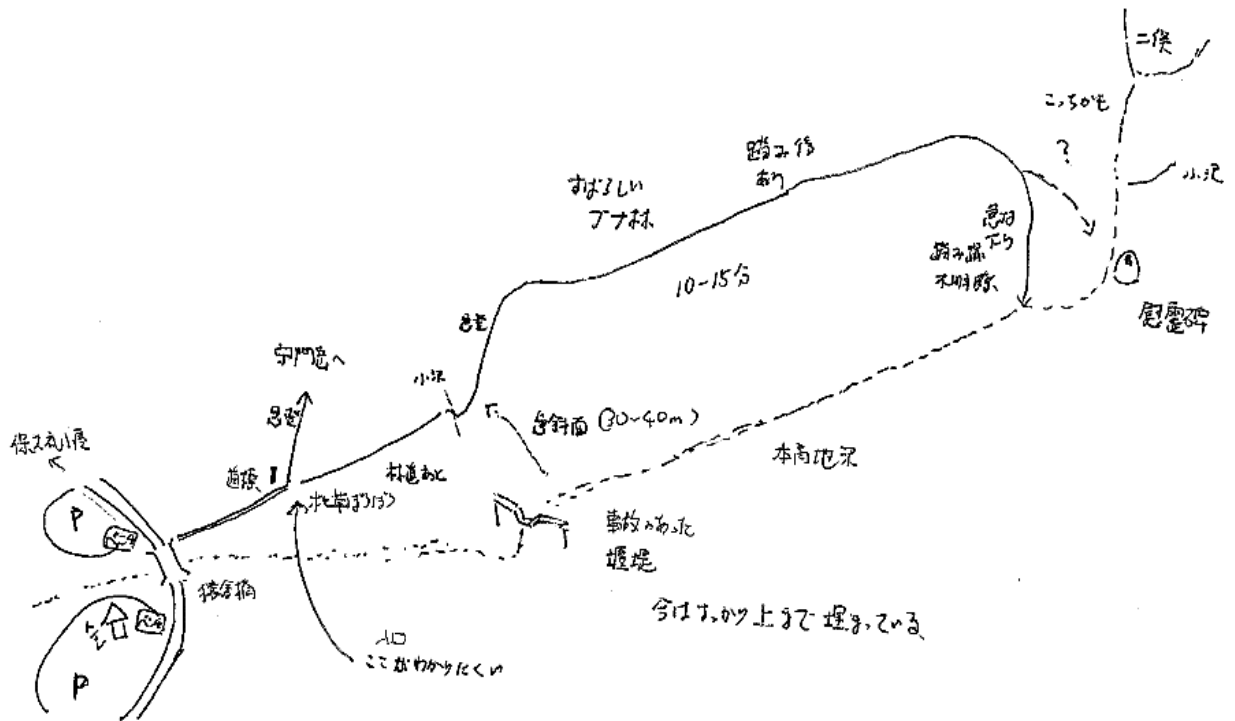
23 日朝 6 時半に猿倉橋の駐車場のテントを出発し、慰霊碑に向かって林道から巻道を進むが以前とルートが異なっていて中々見つけられない。最終的に大きな岩に打ち付けられた慰霊碑を発見した。あきらめかけていたところ、渡辺さんが見つけてくれた。慰霊碑はしっかりとしていた。場所の記憶が間違っていて、見つけるのに苦労した。現場まで行った 3 人で線香をつけて慰霊した。事故現場の堰堤は、現在はその上部まで、しっかりと埋まっている。36 年前は、この堰堤で深い湖ができており、事故になった。場所も確認できたので、今度は秋にでも皆さんを誘って再訪したい。現在の状況を簡単な図にしてみた。次回訪問時の参考にしてください。



2019. 6. 23

伊豆 花本

守門岳 本高地沢周辺図



**ロシア・カムチャツカ半島グレートハイキングツアー（プロスキー・トルバチク & アパチャ山登頂）【期日】2019. 7. 3~23【参加者】岡田(30期)・ロシア人ガイド・他 7名**

壮大な火山が聳え立つ美しい景観が雑誌やTVなどで紹介されているのを目にするにつけ、カムチャツカ半島の山を一度訪れてみたいと強く思うようになった。登山の技術的にはそれほど難しくもなさそうだし、どうせ訪れるなら最高峰のクリチェフスカヤ(4750m)を目ざしたいと、登頂ツアーを探してみたが、ネットに出ているツアー会社に問いあわせても一派的なグループツアーを行なっているところは無く、大変高額な個人手配のツアーをアレンジするしかなかった。ガイドの確保できる期間をそんなに長くはとれず、火山噴火の状況や天候により登頂できないリスクもある。それでは最高峰の登頂はあきらめて、近くのトレッキングのグループツアーを検討してみると、これもかなりの高額で15日間前後と長い期間で何

箇所か巡って 30~40 万円もする。その中で Website でモスクワ在住の Evgeny Androsov さんが募集しているグレートハイキングツアーに目がとまった。15 日間で 900US\$という格安ながら、クリチェフスカヤ付近の登頂やトレッキングを含み、クリチェフスカヤ火山の登頂はしないものの近くまでのアプローチも含むようだ。ローカルバスで移動し、荷物を分担して 20-25kg を背負って連日 17 - 25km を歩くとされ、相当体力を要求されそう。彼の Homepage や Facebook では世界各地のハイキングツアーを企画し、その写真も多数紹介している。問い合わせしてみると、それほど体力のことは言われずすんなり OK をもらえた。ロシアの観光ビザ取得に関しても1ヶ月まるまるのバウチャー(旅行予約の証明書)を発行してくれた。ロシアの大使館の対応も細かいことは言わず好意的で、一昨年の中国とは大違いだ。

参加メンバーは国際色豊か、スイス・オーストリア・イスラエルから若いメンバー、ノルウェーとカザフスタンから少し年上の女性、そして 50 代前半のガイド氏で計9名。皆テントを背負っての山歩きには慣れている強者ぞろいであった。皆のペースについて行くのは大変であったが、それなりに緊張していると何とか歩けるものだ。英語が苦手という人ばかりで、ドイツ語とロシア語が飛び交う状況で、コミュニケーションにはちょっと苦労した。それと今年は何年にも無く寒い夏で残雪が多く、コース変更や天候不順のためにクリチェフスカヤにあまり近づけなかったのはとても期待はずれで残念だった。また蚊の大群には悩まされた。でも広大なカムチャツカの山々と大地を長期間歩きとおしたのは、めったにできることではなく、貴重な体験となった。トレッキングの概要は以下。

**7月6~10日:** 北部のトルバチクからクリチェフスカヤの山城。六輪駆動車で標高 1100m のキャンプ地に入り、溶岩地帯からプロスキー・トルバチク(3140m)の外輪山に登頂、花と火山の大地を延々歩いてクリチェフスカヤふもとの登山口へ下山。最も長い日は行動時間 13 時間にもなった。8日後半から天候が悪くなって9日以降は停滞気味だった。

**7月12~17日:** 車で南へ移動してナリチェボ溪谷から入山。峠を越え、歩きかヘリコプターでしか行けない山奥の秘湯ナリチェボ温泉へ。さらに雄大なコリャフスキー火山(3456m)の裾野を横断し、アバチャ山登山口(ベースキャンプ)へ下山。翌日アバチャ山(2741m)へアタック、山頂往復の行動時間は9時間。



プロスキートルバチクの噴火口を囲むクレーターの全景を望む



左: ウディナ(2921m)を望む大自然の中でキャンプ、中: 雄大なコリャフスキー、足元はウルップソウの大群落、右: ベースキャンプからアバチャ山と天狗山を見る

## 南アルプス/VR・WC：大仙丈岳西尾根～大仙丈沢～仙丈岳東尾根～地蔵尾根

【期日】2019.9.12～15【参加者】尾崎（47期）

大仙丈岳西尾根は、2010年ごろから行きたいと思いつけ、2016年にトレースできた。大仙丈沢下降と小太郎山西尾根も、仙丈岳をめぐる山行の一環で2015年に訪問した。しかし、各山行は偵察的で、意味はあったが別々にトレースした、断片的なものだった。よって、仙丈岳西面の大仙丈岳西尾根を登り、東の大仙丈沢を下り、小太郎山西尾根から北岳につなぎ、池山吊尾根、夜叉神峠へと横断するルートは壮大である。しかし考えた結果、今回は仙丈岳東尾根を登り返して地蔵尾根を下ることにした。

丸山越えで三峰川上流に降り立つのも、3回以上か。ここで1泊。大仙丈岳西尾根は2回目。中盤の細尾根や緩いフェイス状は適度なバリエーションルートとしてお勧めできる。ハイマツヤブや腕力登攀も一部ある。再訪のため問題がなかったのかもしれないが、記憶は甘くなるものとも実感した。冬季のルートとしては、沢の渡渉や峠越えから始まって、尾根の上部は西風をもろに浴びてのロープ使用も推測される。厳しいだろうが充実しそうだ。稜線を越え、大仙丈沢最上部のカールに14時過ぎに到着した。早かったが北岳の大展望を正面に泊まる。3日目、登り返しの仙丈岳東尾根も記憶していたつもりが甘かった。取り付きの急登に加え、スムーズだった覚えの上部は遥かまでの劇ヤブに苦しむ。それを抜けてもまだ長かった。幸い絶好の場所を発見し、東尾根上部で3泊目。夕日の甲斐駒が雲海に浮かぶ。4日目、地蔵尾根は松峰小屋からのダラダラ下りを逆に登るのは辛そうで、これは記憶の通りだった。

## 北アルプス周辺：鉢盛山 タカの渡りを見に

【期日】2019.9.26【参加者】渡辺（21期）

9月26日、鉢盛山に登った。一番の目的は、鷹の渡りを見ること。ここは白樺峠の東に当たる。いい天気での日白樺峠では1000羽のタカが記録されているが、鉢盛山からは3羽のみ。谷を抜ける上昇気流がないとタカも通らないようだ。来年9月末に再び白樺峠に行くことにしよう。

27日は美ヶ原へ。ここでは1羽のサンバを間近で見ただけ。

## 中信：京ヶ倉

【期日】2019.10.25【参加者】渡辺（21期）

乗鞍岳を予定していましたが、その一週間前からの積雪で、畳平までのバスが運休になりました。25日はいい天候になりましたが、前夜にまた北アルプスには積雪。かわりに生坂村の京ヶ倉に登って来ました。990mですが、展望もよくほどほどの岩場もあり面白い山でおおすすめです。

読んだ方もいるかと思いますが、河村正之の『山書散策』に、森下道夫遺稿集の『見果てぬ山』へが書影つきで紹介されていて、とてもほめていました。著者は、浦和浪漫山岳会員で沢登を広く楽しんでるようで、山書への造詣も深いようです。2001年の出版で、『岳人』の連載をまとめたものでした。

## 朝日連峰：障子ヶ岳～狐穴～大朝日岳～祝瓶山

【期日】2019.10.19～22【参加者】尾崎（47期）

北端の山にはその孤高に憧れる。飯豊なら杵差岳、朝日連峰なら、以東岳、化穴山、障子ヶ岳。朝日連峰なら南端の祝瓶山もまた孤高の魅力をもっている。その両端をつないだ。

10/19、西川町の月山口から歩き始めると、降りだすと同時に車が止まってくれた。障子ヶ岳への林道末端近くまで行ってくれ、ドリップコーヒーをいくつも差し入れてくれる。ラッキーな出だしである。しかし障子ヶ岳への登りは大きく、雨も強くなってきた。幸い視界があつて、雨具の山行もまあまあだった。1349mの紫ナデを過ぎた主稜線では目の前に熊がいた。障子ヶ岳の頂上は15時で、ここはガスに巻かれ雨が続く。障子池手前まで下り、道の真ん中で幕営した。

10/20、雨はあがった。天狗角力取山付近で青空が広がってきた。高松峰手前付近では、やや雲は多いが紅葉と草紅葉の尾根が美しい。紅葉の時期が遅くなった。積雪期は非常に悪いところはどこだろうと推測しながら歩いたが、その場を把握することができなかった。昼過ぎの狐穴小屋はがらんとしていた。秋はこんなものか、または時間のせいかな。高曇りの天気が寂しい感じを増やしている。水だけ汲んで進行を続ける。竜門小屋付近から急に人が増えてきた。去来するガスが晴れ間に優占する天気となる。16時を過ぎて大朝日小屋まではきついなと感じながら、西朝日岳へ歩を進めた。西朝日岳は、別の孤高峰、袖朝日岳への分岐点である。ちょっとそちらが気になって、つい足がそちらに向かうと、どうにも薄い踏み跡がある・・・。西朝日岳は実は双耳峰であり、主稜線から外れた袖朝日への尾根にある南西峰が0.1m高い。雲間に見え隠れする1814.1mを訪れておくべきだ。そして両ピークの鞍部にいい場所をみつけてしまう。5月に泊まった雪の相模池付近ともども、相模様許してください！

10/21、前日到着が遅くなったこともあり出発が遅れる。大朝日岳頂上は8時半を過ぎ、祝瓶山は遠いなあ、登り返したくさんだなあと。平岩山を過ぎた水場で給水するのが今夜の水だ。大きな登り返しで大玉山へ、12時を過ぎる。先は長いと感じてペースが上がった。桑住平への分岐は過去2回泊まったことがある。ハイペースになったおかげで祝瓶山まで行けそうだ。その北壁がどんどん迫ってくる。あの頂上に泊まれるはずだ。明日は雨だが、500mの登り返しはかなりきつい。何とか着いた祝瓶山頂上は、やはりスペースはじゅうぶんで、テントからは高曇りで寂しげな朝日連峰を北望できた。

10/22 未明からポツポツきて、やばいと飛び起き下山した。本降りの林道を五味沢まで歩く。小国への町営バスには待ちの間に風呂に入る。朝日飯豊が近い、三春在住の地の利を生かした。

## 船形連峰：関山峠～白髪山～白森～黒伏山

【期日】2019.11.2～4【参加者】尾崎（47期）

2016年3月末に、船形山西側の甑岳～白森～黒伏山を訪れた山行の続編として、この山域で気になる部分を歩いた。関山峠～白髪山間は一般道ではないことから静かな山行が期待できる。しかし大きな苦労もなく行けそうだ。アプローチは、さくらんぼ東根から仙台への48ライナーバスを大滝バス停で

降り、その道をしばらく歩けば関山峠への古道が使える事が判明し、この山行実施を後押しした。

国道 48 号線の山形側標高 390m 地点で左岸へ分かれる林道へ入る。すぐに支流を渡り水をくむ。尾根に取り付く登山道は明確だった。県境稜線まで、地図ではさほどの距離でないはずが、長く感じた。北側から国道の車の音が聞こえ続けたのも一因だろうか。県境稜線 800m のピークからの北への下り、ヤブ気味でルーファイを要した。しかし 730m ピークを越えて仙台側国道 48 号からの一般道を合わせるとしっかりした道となった。秋晴れの爽快な稜線歩きで寒風山を越える。この辺りで一般道は終了で、藪漕ぎになるかもしれない。しかし刈払いは続いていた。北寒風山 1132m で幕営。

11 月 3 日、北上する道はまだはっきりしている。さすがに、1142m 付近の登り以降は笹藪が覆いかぶさるが、足元はしっかりしており、問題無かった。白髪山ではキノコ採りのおじさん 2 名に出会った。以前青谷さんたちと来たとき泊まった、柳沢小屋方面から来たと思われる。粟畑分岐ではいったん船形山方面に進み、仙台カゴ南面の水場で給水。さらに、そこから分かれる踏み跡から仙台カゴに登頂した。粟畑に戻り、最上カゴ、柴倉山へ進む。ここも直線距離は長くないが、小ピークと屈曲した尾根筋に、地図の感覚以上に時間を要したと覚えている。柴倉山北面の巻きは少し滑りそうな箇所があった。巻き終わって柴倉山頂上への踏み跡分岐があった。ヤブがちな道だったが、柴倉山の頂上では快晴の山々を望遠できた。福祿山手前のコルでは、岳人に載っていた姥像に挨拶した。この辺りから疲れてきたが、銭山 1237m まで来ると絶好の泊り場で、なんとも幸せな時間を過ごせた。

11 月 4 日、白森は目と鼻の先を思いきや微妙なピークが複数あった。白森頂上では甑山からの残雪山行が懐かしい。黒伏山、遅沢の林道はその山行で経験済なので気楽である。このルートをさくらんぼ東根までまた歩くとは、思いもしていなかった。

## 中央アルプス南部：恵那山

【期日】2019. 11. 2~3 【参加者】渡辺（21 期）、中村（21 期）、他 8

11 月 2 日、阿智村の弓の又キャンプ場泊まり、3 日、広河原より恵那山登山。登山口 6 時 10 分、頂上 10 時 50 分、発 12 時 15 分、駐車場着 15 時。ここまでは良かったが、中央道が大渋滞で、帰京したのは 23 時だった。3 連休は、車は使わない方がよさそう。行きが 6 時間、帰りが 7 時間。山は紅葉が見ごろ。北岳などは積雪があった。台風 19 号で長野県北部や山梨県など登山道などもずたずたなのに、北アルプスや恵那山は影響がなかったようだ。21 期の中村正俊、中野区立中央中ワンゲル OB 会のメンバー 8 名にて。

## 初冬の奥多摩・御坂・道志・丹沢

【期日】2019. 11. 2~3 【参加者】橋本（12 期）

今年は夏～秋季にかけ悪天候が続き、特に台風 19 号や豪雨で関東地方などが大きな被害を被った。自身の健康状態と天気の状態をうまく調節して山に登る。しかし、気力と体力の低下はいかんともしがたい。来年も状況が許す限り、尾根歩きを継続できるようにしたい。

### ■ 11月12日(火) 雲取山(2017m)

鴨沢上部の小袖林道の登山口から入る。朝の気温6℃、快晴、無風。8:16 出発。9:20 堂所。七ツ石山分岐下部 10:01。ここから先にある木橋が先の豪雨で崩落し、七ツ石小屋経由のう回路となる。七ツ石小屋 10:16、石尾根縦走路 10:32、七ツ石山 10:41、山頂は見晴らし良好、南ア全山、丹沢、富士山。ブナ坂 10:55、奥多摩小屋 11:25、引き続き天気良好、南アの笹が岳や青薙山まで見える。雲取山 12:14、山頂には多数の果実をつけたマユミの大木。樹林越しに東京方面が見える。人が多く、すぐに下山開始、山頂下の笹原で昼食。奥多摩小屋 13:04、ブナ坂 13:25、七ツ石小屋 13:55、小屋手前に水場、水を補給、七ツ石山分岐下部 14:02、堂所 14:26、左手ヒノキ樹林下に大型のキジ♂がガサガサ餌を探している。堂所より下は快調に歩が進む。登山口 15:15。所要 6 時間 59 分。

### ■ 11月25日(月) 本社ケ丸(1631m)

この山には 2005 年 1 月に雪道を歩く目的で笹子駅から入り清八峠を經由して本社ケ丸に登り、初狩駅に下山した。今回は御坂の天下茶屋から登る。天下茶屋の朝 14℃、晴れ、微風。暖かい。富士山には山頂付近に大きな笠雲。8:25 出発。御坂峠 8:42、いくつかの小ピークをアップダウンしながら送電鉄塔に達する。八丁峠である 9:14。付近はブナ、ミズナラが多く特に直径 50~60cm 位の大きな木もある。左手に甲府盆地が望める。さらに小ピークのアップダウンが続き、八丁山(山頂表示?)らしきピークに着く 9:35。しばらく歩くと丁字路となり、右手は三ツ峠方面、左手に進む。すぐに清八山 10:02 である。素晴らしいブナ、ミズナラ林を下り清八峠 10:09、ここからは小規模な露岩帯がいくつかあるが歩きやすい。本社ケ丸 10:40、小休後すぐに引き返す。初冬の柔らかい日光が心地よく、コースのアップダウンの苦しさが和らぐ。清八峠 11:12、丁字路分岐 11:22、女坂方面分岐 11:35、八丁峠 11:50、御坂峠 12:22、天下茶屋 12:32。晩秋の静かな山旅だった。所要 4 時間 07 分。

### ■ 12月11日(水) 御正体山(1682m)

ブナや秋の台風の影響を見に行く。413 号線が秋の豪雨で不通のため、山中湖側から入る。山伏峠西側に車を置き、トンネル東側の登山口から入る。登山口には道志溪谷で失踪した女兒の写真がある。登山口の朝、3℃、快晴、微風。山伏峠 8:15 出発。石割山分岐 8:45、奥ノ岳(1371m) 8:55、送電鉄塔 9:00、富士山、南アの白い峰々、西丹沢の眺望がすばらしい。中ノ岳 9:27 は山頂が広い。前ノ岳を過ぎると長い急坂が始まる。傾斜が緩やかになるとブナ、ミズナラなどのすばらしい落葉樹林帯となる。ブナの巨木が多数あるが、よく見ると直径 10、20、30cm くらいのもも多数ある。御正体山 10:28、軽食を取り下山開始、前ノ岳 11:00、中ノ岳 11:17、送電鉄塔 11:42、石割山分岐 11:55、山伏峠 12:18。台風や豪雨の影響はほとんど見られない。所要 4 時間 03 分。

### ■ 12月24日(火) 檜洞丸(1601m)

ここ 1~2 日の降雨で丹沢の大山や西丹沢方面の山々が白い。登山口の西丹沢自然教室前、朝の気温 2℃、快晴、微風。8:41 出発。ゴウラ沢手前で東沢を渡るが、今回は水量が少ない。ゴウラ沢出合 9:20、展望台 10:06、展望台の少し手前、標高 1000m 付近からコース上に積雪。展望台でアイゼン着用。トレールはしっかりしているが積雪は 20~30cm 位。久しぶりの雪道で手間取り(体力低下もあり)ペースダウン。石棚山稜丁字路 11:22、檜洞丸 11:40、軽食休憩、やや黒い雲が多くなり、暗くなる。下山開始。石棚山丁字路 11:58、展望台 12:37、ゴウラ沢出合 13:11、西丹沢自然教室 13:46。所要 5 時間 05 分。

**南アルプス：池口岳～光岳～上河内岳**  
**【期日】 2019. 12. 31～2020. 1. 3 【参加者】 尾崎（47期）**

12/30 に三春を出て、首都圏経由で飯田 18 時半のバスに乗り継ぎ、20 時過ぎ、ついに大島バス停まで。ここは広い待合所(小屋)があって、その中にテントを張って寝た。12/31、朝は異様に暖かく大晦日とは思えない。しかし、昼ごろ寒冷前線が通過したようで、温度は急降下した。黒薙 12 時、ザラ薙テニ場から 1 時間弱登り、15 時過ぎに幕営。この辺からそれなりの積雪量になる。2 年前のこの時期よりも雪が多い気がするが、むしろ暖冬で南岸低気圧の影響が大きいのかもかもしれない。

1/1 朝から晴れ。6 時前出発。ジャンクションからの池口岳はバスして光岳方面に進むが、こちらにもトレースがある。しばらくしてテントあり。光岳へのアタックと思われる。実際、光岳手前で 6-7 人のパーティが戻ってきた。トレースはあるが雪の固着が無い。足の踏み場が固まらず苦しい。13 時光岳。快晴でこの先もトレースがある。先ほどの雪の状態など考えると、トレースが無いと厳しい。センヰヶ原 14 時、イザルヶ岳バスで三吉平まで下り、眺めの良いところで 15 時半前に幕営。無風快晴で爽快。

1/2 晴れ。易老岳付近に幕営跡が 4 か所ほどあった。易老渡や畑薙方面からの入下山組もありそう。トレースあるが、とくに喜望峰から茶臼岳付近は踏み抜きや強い西風でバテ気味となり、茶臼岳 12 時。上河内岳手前の二重山稜帯までは意外にスムーズに行けて 13 時半。今日中の上河内岳アタックを決め、アタック装備で即出発し、上河内岳 15 時前。登頂前から急に視界が失われ赤旗を立てる。しかしなんと頂上で一瞬晴れ、北には絶景が広がった。聖に行きたい！ その後すぐにガス。帰幕 15:40。

1/3、今日中に帰宅したい。白樺荘 14:40 のバスに間に合いたい。お帰りパワーだった。晴れているつもりでテントをガバツと開けたら吹雪いている。朝 4:40 当然真っ暗だがしばらくはトレースに助けられる。しかし、2555mの稜線に出ると樹林を抜け、クラストしてトレースが無い。下降方向を失う。明るくなるのを待つしかないか…吹雪の闇の中、怖い。だが超幸運！彼方より明かり 2 つが近づいてきた。上河内に向かう人のおかげで方向を得る。下山者に会うとはと、驚いていたようだ。茶臼小屋前も真っ暗だが、トレースのおかげでどンドン下り、横窪沢小屋 7 時半。雪はこの辺までとなる。聖岳へ向かう若者 2 人がいた。ウソッコ小屋の上部では、忘れ物を探しに再び登ってきた人に会う。畑薙大吊橋を過ぎ、その人に再び追いつかれると、なんと沼平から金谷駅まで車で送ってもらえた。夕方に帰宅出来た。

**冬の丹沢・身延**  
**【期日】 2020. 1～3 月 【参加者】 橋本（12期）**

スギ花粉症で毎年2～4月は苦痛の季節である。加えて、今年はコロナウイルス感染症が不気味に人間社会の中に入り込み、未曾有の混乱を我々にもたらしている。それでも、山歩きは「3密」に当たらず、体調を勘案しながら出かけています。

■ **1月2日(木) 蛭ヶ岳(1673m)**

毎年新春に今年の登山の安全を祈願してこの山に登っているが、体力的には今年が最後であろうという状況である。この時期、冬至明けで、昼間の時間が約9時間50分であり、蛭ヶ岳の登山コースの所



要時間は10時間であるので、休憩時間を入れれば、出発時間は朝まだ暗いうちからとなる。ところが、家を出るとき、車のフロントガラスの霜取りや、登山口の戸沢山荘へのダート道路が昨秋の豪雨でかなり荒れていたりして現地到着が遅れた。登山口戸沢山荘の朝、2℃、快晴、微風、7:16 出発。政次郎尾根を標高差 640mの急登で表尾根稜線に 8:41、稜線手前の森林限界から見る新春の相模湾が美しい。新大日小屋 9:09、塔ノ岳 9:46、小休。南ア、富士山、蛭ヶ岳は見えるがやや視界は悪い。尊仏小屋裏手の北面する急下降は凍結しているが、アイゼンをつけずに歩く。日高 10:19、疲労からか、ペースダウンが激しい。竜ヶ馬場 10:33、丹沢山 10:55、昼食休憩しながら天気状況と時刻と自身の残存体力を考え、今年が最後だという気持ちから先を急ぐことにする。不動ノ峰休憩所 11:43、不動ノ峰 11:52、棚沢ノ頭 12:01、ここで引き返せば明るいうちに下山できるが、先を急ぐ。鬼ヶ岩 12:15、正面に大きく蛭ヶ岳、12:42 蛭ヶ岳。南アと富士山、相模湾、宮ヶ瀬湖、筑波山が見える。軽食休憩して下山開始。コースは泥濘が始まり歩きにくい。鬼ヶ岩 13:14、棚沢ノ頭 13:29、不動ノ峰 13:40、風は弱く好天が続く。丹沢山 14:18、小休。竜ヶ馬場 14:41、日高 14:54、塔ノ岳 15:21、表尾根が急速にガスに包まれる、気温が下がる。新大日 15:57、旧画策小屋付近にベンチ新調。政次郎尾根分岐 16:11、右手天神尾根に太陽が沈み、左手の三ノ塔に一瞬の素晴らしいアーベントルート。しかしすぐに針葉樹林帯に入り間もなく漆黒の闇となる。覚悟はしていたものの、急な下降が連続するガラガラ道は大変危険、ヘッドランプをつけて慎重に歩く。戸沢山荘手前の所で道に迷う。戸沢山荘 17:14。所要 9 時間 58 分。

#### ■ 1月11日(土) 菰釣山(1379m)

今回も山中湖側から入る。登山口の山伏峠の朝、小雨時折小雪、0℃、無風。山伏トンネルを抜けて山伏峠8:03。山伏峠分岐8:16、石保土山(1297m)8:39、この山から南方向に下山するコースがある。西沢ノ頭 8:59、樫ノ木沢の頭 9:16、シカが多く出没する。コースはブナなどの落葉樹林帯が延々と続く。油沢ノ頭(1310m)9:32、やや大きな山のブナノ丸9:54、菰釣山北面の坂には雪は少ない。菰釣山 10:13、風がやや強く、すぐに下山開始、ブナノ丸との中間地点で軽食休憩。この頃より少しづつガスが晴れてくる。ブナノ丸 10:36、油沢ノ頭 10:57、樫ノ木沢ノ頭 11:11、西沢ノ頭 11:27、北方に御正体山があるがガスで見えにくい。菰釣山の双子峰は見える。石保土山 11:44、山伏峠分岐 12:05、山伏峠 12:14。このコースは標高差は少ないが小さなアップダウンの連続で、消耗する。所要 4 時間 11 分。

#### ■ 1月31日(金) 檜洞丸(1601m)

登山口の西丹沢ビジターセンター前、天気晴れ、1℃、微風。7:40 出発。ミツマタの蕾はまだ固い。このところの雨天で東沢の水量は多い。また、ゴーラ沢が東沢に合する地点では川筋が少しづつ移動分散して、地形が変わった。ゴーラ沢出会 8:19、ここから徐々に高度を上げるが標高 1000m 付近から積雪が始まる。展望台 9:03、ここからアイゼン着用。しかし、歩き始めてすぐにアイゼンの右足ゴムバンド 1本が切れてしまった。石棚山稜丁字路 10:11、ここまで展望台から標高差約 350mでアイゼン不良で歩きにくかった。丁字路から上は木道で、付近は積雪 10~20cm。檜洞丸 9:03。白い南アが見事。富士山は見えない。軽食を取ってすぐに下山開始。下山開始 10 分後に右足の残りのアイゼンバンド切断。石棚山丁字路 10:44、ここからの急下降は右足アイゼン無しで危険、慎重に歩く。展望台 11:19、ゴーラ沢出会 11:50、西丹沢ビジターセンター12:22。所要 4 時間 42 分。

#### ■ 3月6日(金) 鬼ヶ岳(1738m)

御坂山地の山々は静かな山旅が楽しめる。登山口の根場の朝3℃、快晴、微風。9:13 出発。本沢川沿いの林道を登り、暫くすると登り口となる 9:34。沢の斜面の急坂が続き、アセビの巨木林を過ぎて

「ブナ原生林」の標識 10:14。高度が上がるにつれアセビの樹高が低くなる。10:35 鍵掛峠、登山者が少ないためか野鳥が多い。ここからはアップダウンがつつき、鬼ヶ岳手前の急坂を登り山頂着 11:32。山頂からは奥秩父連山、八ヶ岳、南ア連山、富士山、ことに、南アの鳳凰 3 山の地蔵岳まで見える。下山は雪頭ヶ岳経由とする。雪頭ヶ岳の北面は凍結雪ありだがアイゼン不要。雪頭ヶ岳 11:54、堰堤 12:49、根場 13:01。この山はブナの巨木があり、アカマツ、アセビなども多い。所要 3 時間 48 分。

#### ■ 3月18日(水) 檜洞丸(1601m)

西丹沢ビジターセンター前の朝 8℃、快晴、微風。8:54 出発。ミツマタとアセビが満開。日当たりの良い南斜面にはタチツボスマレが咲き始める。ゴウラ沢出会 9:32、展望台 10:16、コースには 4 日前に降った雪がまだ残っている。しかし気温が高くアイゼン不要。石棚山丁字路 11:20、檜洞丸 11:34、軽食休憩してすぐ下山開始。石棚山丁字路 11:53、やや強い北風が吹き始める。展望台 12:27、ゴウラ沢出会 12:58、西丹沢ビジターセンター13:31。所要 4 時間 37 分。

#### ■ 3月25日(水) 七面山(1982m)

この山は登山口の羽衣(510m)から山頂までの標高差が 1472m であり、かなりタフな山である。羽衣の朝 1℃、快晴、無風。7:59 出発。13 丁目肝心坊 8:31、18 丁目でメ鹿 1 頭、近づいてもすぐに逃げない。23 丁目中適坊 9:01、水場あり。36 丁目晴雲坊 9:49、水場・トイレあり。46 丁目山門付近で 4 頭の鹿。10:42 敬慎院ご来迎場、富士山の西面が美しい。この先はカラマツ帯に入るが、手前でアイゼン着用。11:37 七面山、小休、軽食。山頂からの眺望はない。すぐに下山開始。七面山の大崩れ「ナナイタガレ」のすぐ横を通過するが凄惨な光景である。敬慎院 12:13、晴雲坊 12:35、中適坊 12:59、肝心坊 13:16、登山口羽衣 13:40。昼食をとらずに歩行、帰着。所要 5 時間 41 分。

### 猪苗代湖・安達太良山境界：天狗角力取山、北北東尾根～達沢

【期日】2020.3.7～8【参加者】尾崎(47期)

本山域は、安達太良山の南西、猪苗代湖の北東側にある。川桁山は唯一夏道がある山だ。会津と中通りの境界をなすが、冬型気圧配置となれば日本海側になるようだ。しかし、歩き始めのリステルススキー場の裏付近で積雪 10cm 程度。聞いていた積雪量と比べてとても少ない。661m 付近から右の尾根に取り付く。登り斜面は、とくにヤブ急斜面などは少雪のため滑ってしまい、アイゼンを使った。標高 1000m 弱からしっかりした積雪量となってきた。1082m 付近からは穏やかな雪尾根が続く。雪はワカン無しでも歩けたが、使う方がよく安定する、まさに3月の雪質だった。途中からワカンを装着した。穏やかな天候で、西の磐梯山や猪苗代湖の白、東の阿武隈山地の青が対比的だ。

天狗角力取山は朝日連峰の方がはるかに有名だ。しかしこちらにも頂上南に2か所植生のない相撲取り場がある。風衝地らしい。Google 衛星画像でも識別できる。今回はその1か所が確認できたが、雪が少ない証拠だと思う。

翌日は9時ごろから雨勝ちとなってきた。天狗角力取山から北東に向かうと、途中で林道が横切るため、地図では人臭さが増加する。しかし、大滝山、ニッ森付近はだだっ広い尾根が続く、視界不良時のルートファインディングが難しい。小雨の中、達沢へ下山した。ここもほとんど雪は無く、雨でますます森は黒かった。このまま雪が少ないと、5月連休などの計画が影響を受けそうだ。

# 2020 年度

|         |       |
|---------|-------|
| 会長      | 渡辺 喜仁 |
| チーフリーダー | 松本 哲郎 |
| サブリーダー  | 尾崎 宏和 |
| 会計      | 上野 利之 |
| 都岳連関係   | 上野 午良 |
| 記録・会報   | 松本 哲郎 |
|         | 尾崎 宏和 |
| 装備      | 灘吉 聡  |
| 西高係     | 山野 裕  |
|         | 博多 誠  |
| ホームページ係 | 灘吉 聡  |
| シニア山行係  | 松田 稔  |
|         | 黒澤 隆  |

## 富士山塊：愛鷹山・位牌岳

【期日】2019.5.26【参加者】渡辺（21期）、児玉、他1

車で、愛鷹山の南側の水神社まで入り林道を歩き登山道へ。今は呼子岳と位牌岳の間のやせ尾根は通行禁止とのこと。位牌岳は登るにつれてブナの大木が茂り、かつての丹沢のような雰囲気があった。愛鷹山まで行き、車にもどる。下山の途中で、同行者が足首を捻挫してゆっくり下ったので、22時ごろに車に戻った。ほかの登山者には会わず、静かな山歩きではあった。

## 中信：黒斑山

【期日】2019.6.20【参加者】玉田（38期）

緊急事態宣言が解除され、晴れの日を待って、浅間山の外輪山、黒斑山に登ってきました。イワカガミやコマクサ、ゴゼンタチバナなどが咲いて癒されました。お天気も良く目の前に堂々たる姿の浅間山を眺められました。多くの人が緊急事態宣言の解除、県境を超えての移動制限解除を待っていたのでしょう。黒斑山は3度目ですが1番人が多かったです。数日後、火山性地震の増加、山体膨張の観測により噴火警戒レベルが2に引き上げられました（黒斑山までは行けます）。下から見ている分には噴煙はいつもと変わりませんが、お越しになる際にはおきをつけください。

## 九州支部報告：小倉周辺の山々 2020 春 山田（34期）

北九州はコロナ第2波かということで大変物騒ですが、皆さまお変わりなくお過ごしでしょうか。もともとこちらの危険度は東京の比ではないような気がします。

人混みを避けてというわけでもないですが3週続けて週末に小倉近郊の低山ハイキングに出掛けてきました。どれも短時間の行程ですが、本州とは雰囲気の異なる山で面白いです。

### ■ 5/23: 自宅 515=655 足立山 710=940 門司駅

まずは自宅から大きく見える足立山(597.8m)を越えて門司に降るコースへ。家から歩き出して4.5時間で門司駅にたどり着いてしまいましたが、足立山は別名霧ヶ岳と呼ばれるように登った朝は尾根を越える雲が滝のようでちょっとした深山気分が味わえました。道中、住んでいる小倉の街並みや関門海峡が見下ろすことができ、高度こそ低いですがものこのんな山が関東圏にあればもっと混雑しそうな良い山でした。

### ■ 5/30: 吹上峠 535=635 貫山 645=725 吹上峠

貫山(711.7m)は小倉市内にある平尾台というカルスト台地の外れにある山です。吹上峠までは車で30分程度で到着。羊群原(ようぐんぼる)という石灰岩がちりばめられた中を抜け、大小さまざまなドリーネを眺めながら進みます。あまり本州では経験したことのない風景でした。あまりに早く終わってしまった

ので、街外れにある往復 1 時間程度の剣立山(355m)にも登りました。笠岩という岩越に先週登った足立山が見える山です。



羊群原



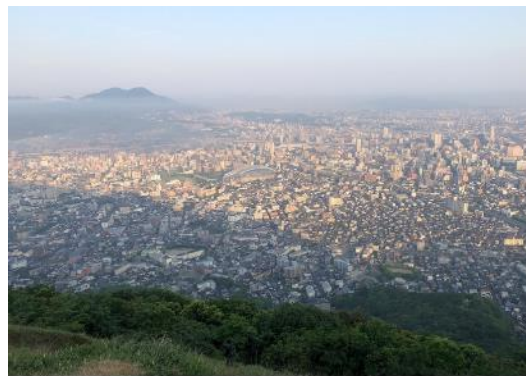
大小さまざまなドリーネ

■ 6/7: 上野郷 530=645 福智山 700=725 鷹取山 735=810 上野郷

自宅から見える中で一番高い福智山(900.5m)へ。天気予報では土曜より日曜が天気が良かったので日曜にしたのですが、生憎登り始めは曇天。どうなることやらでしたが、山頂付近で雲を抜け、雲海を望むことができました。これはこれで良かったのですが、小倉に戻ったら山頂が良く見えて少し悔しいです。



福智山から望む皿倉山



小文字山から見下ろす小倉市街

南アルプス：夜叉神峠～辻山  
【期日】2019.8.4【参加者】橋本（12期）

鳳凰3山の南にあるこの山には以前から登ってみたいと思っていた。現在は南アルプスはその核心部へのアクセスがすべて閉鎖中である。夜叉神峠からは入山できる。夜叉神峠登山口の朝、20℃、晴れ、微風、5:02 出発。湿度が極めて高く、歩き始めてすぐに汗が噴き出す。コース両側に白い花を咲かせたバイケイソウ、夜叉神峠 5:50、峠から見えるはずの白峰3山は雲の中。鉄製の「杖立峠」標識のある櫓 7:07(ここは偽杖立峠)、杖立峠の標識がほとんどわからない小さな鉄板がある杖立峠 7:35、ここまで

は夜叉神峠小屋よりかなりの急坂が続く。引き続き急坂となり、ゴロゴロした石があるやや急斜面が延々と続き、緩斜面になると葎平 8:34 である。左手に木に打ち付けた辻山方面の標識があり、約30分と書いてある。緩い坂道を登り辻山8:52、山頂は3角点の標石と辻山と書かれた石が置いてあるだけであり、先に道が続いているが、天気が悪くなり、ここで引き返す。葎平 9:04、小休。ここから辻山までのコース両脇にはバイケイソウが多数あるが、ほとんどすべての株の先端がシカに食害されていた。杖立峠 9:40、偽杖立峠 9:59、夜叉神峠 10:42、夜叉神峠登山口 11:16。ブナ、ミズナラ、カラマツ、クロモジ、イタヤカエデなどが美しい。

## 二口山塊：三方倉山～神室山～大行沢～面白山

【期日】2020.8.9-12【参加者】尾崎（47期）

三春の地の利を生かし、東北南部の山を訪問する。三春～郡山～仙台～愛子と普通で行き、二口温泉行のバスに乗継ぎ、昼前に歩き始める。朝のうち降っていた雨が止んだのを機に歩き出す。しかし最初の川沿いの道は水没していた。また大雨になり、ずぶ濡れになる。寒くないので全然 OK とか思っていたが・・・三方倉山頂上で小降りになり、標識の向こうにあるスペースで幕営しやれやれと思っていると、何やら赤い液体がそこここに。テント内でヒル！雨の間に体に引っ付いてきたと思われる。落ち着かない就寝だったが、いつしか寝ていた。

8月10日、無事に朝を迎えた。天候も回復した。しかしここからほとんど道はない。三方倉山の下りはさっそく笹藪に尾根を外す。姉滝からの尾根が合流すると踏み跡が出てきた。しかし1195.1m手前からヤブがシャレでない。右への下降点は感覚で見出す。仙台神室手前1510m鞍部に至って一安心したものの、地図では近そうに見えた頂上まで激藪2Pを要した。仙台神室で泊まろうかと思ったが、登山者がいた。進むしかなかった。山形神室とのコルに来る一般道を少し下って水を得て生き返る。山形神室分岐に登り、やっと泊まれた。あー解放感と青空がすばらしい！

8月11日、縦走路を北上する。昨年11月に逆コースで来たときは雪だった。

その時登った小東岳も往復し、大行沢へと道を下った。途中から沢に降り、1箇所の懸垂下降で本流に合流した。樋ノ沢避難小屋はパスして上流へ進む。素晴らしいナメが続いており、これは確かにデート沢といえる(岳人 2007年7月号:「関係を深めたい異性(初心者)と楽しむために神様が用意したような



仙台・山形の間、二口山塊と面白山

溪」だと。)。しばらく行って、私は焚火でソロ泊した。

8月12日。源頭で迷った。最後は泥壁登りだった。もし本当にデート山行ならこれらは避けたい(初日のヒルは、ありえない!)。天気が不安定な中頑張って、北面白山まで縦走した。草刈りの人に会いつつ仙山線面白山高原駅に下山した。下界は蒸し暑かった。

---

**北アルプス：清水尾根・大黒鉾山道周回 樺平～白馬岳～唐松岳～祖母谷温泉**  
**【期日】2020. 8. 24～8. 27【参加者】岡田 (30期)**

---

外出自粛に長雨に猛暑...と山に出かける元気が出ない毎日を過ごしていたが、意を決して前から行きたかったちょっとハードな周回コース、黒部峡谷・樺平から白馬岳への清水尾根と唐松岳への大黒鉾山道へ。山溪2003年8月号特集「発見! 秘密の極上コース」に紹介がある、避難小屋1泊+営業小屋2泊のコース。避難小屋へ急登が連続し暑さが半端でなかったが、連日午前中は快晴の展望に恵まれた。清水岳から白馬岳のお花畑は遅い季節ながら素晴らしく、また後立山連峰をいつもの裏側から見上げるのも新鮮。登山者の少ない今年、白馬村営山荘はガラガラで山小屋のスタッフの皆さんは暇そうであった。テント場の方はそこそこ賑わっていた。例年は渋滞するという不帰の嶮もスムーズに通過。

唐松岳山荘では、下山コースの注意点説明を受け、避難小屋裏で電波が通じるので通過時刻を連絡するように言われる。祖母谷温泉にも連絡して下山後の一泊を申し込んだ。祖母谷温泉も混雑しらずでゆったりと疲れを癒す。梅池から一日で白馬を超えてきたという元気な若者もいた。日本アルプス縦断トレランの有名人も訪れるとか。



清水岳付近のマツムシソウ群落と剣岳と北方稜線

## 九州支部報告：小倉周辺の山々 2020 秋 山田（34 期）

**9/20: 三萩野 440—大蔵 600—645 国見岩 650—皿倉山 700—950 尺岳 955—1130 福智山 1145—1410 牛斬山 1435—1530 採銅所**

北九州市民の心の山である皿倉山から南の山城は福智山山系と呼ばれており、香春岳(かわらだけ)という五木寛之の『青春の門』にも登場する山まで続いている。皿倉山だけ登るのも少々手軽すぎるので途中の尺岳で下りようかとも考えたが、交通機関までの距離があり不便なので、思い切って福智山を超え牛斬山まで行き、採銅所駅という日田英彦山線の駅から電車で戻ってくることにした。このコースは、最高峰の福智山でも 903m と高さこそないが、歩行距離が約 40 km と大変である。3 ヶ月程前の 6 月 20 日に初めて出かけた時は牛斬山まで行ったのだが、予想以上に手ごたえのある縦走だった。今回は香春岳まで縦走して全山制覇を目指そうと意を決し、自宅のある三萩野を夜明け前に出発した。

まだ暗い小倉の街中を歩いて皿倉山の大蔵登山口まで行き、登山開始。皿倉山手前の国見岩はロッククライミングのゲレンデにもなっていて、そこからは小倉の街を一望することができる。今回は権現山や尺岳の山頂はパスして先を急いだが、それでも福智山への登りとなるころには脚が疲れてきてちよつと攣り始めた。一年中枯れることがないという山頂直下のためき水の冷水に癒される。ここから一息で草原状の福智山山頂まで歩いた。いつ来ても気持ちの良い山頂で、彼方には小倉の街が望まれ、自宅近くのメディアドームを確認することができる。ここから道が藪っぽくなり、やがて踏み跡を完全に藪が覆うようになり、足元が怪しくなる。少しでも道を外すとたいそうな藪漕ぎになってしまう。尾根上は防火帯となっていて、広く樹木が切られているため迷うことはないのだが、防火帯の中の登山道がわからず難儀する。途中の赤牟田の辻までの 300m 程の登りは藪が薄く歩きやすい。14 時過ぎ、ようやく牛斬山分岐に到着。この頃にはかなり消耗しており、香春岳に続く尾根筋も藪になっているかと思うと突っ込む気になれず、分岐から採銅所に向けて下山することに。下山中、すれ違った登山者から、牛斬山から皿倉山へのコースでは北九州の八幡山岳会主催のカントリーレースが年 2 回開かれていること、また毎年 11 月頃に防火帯の草刈りが実施されていることなどを教えてもらう。

この後 2021 年 6 月 5 日に藪がひどくなる前に入山し、香春岳までの縦走を果たすことができた。歩行距離 41.5km、累積標高差 3680m と低山ながらもハードなコースである。

**10/2 九重山: 牧ノ戸峠 725—星生山 830—920 久住山 925—諸星山 950—1025 中岳 1100—1210 沓掛山 1215—1230 牧ノ戸峠**

紅葉には少し早かったが、九重山のメインコースを登ってきた。小倉の自宅を暗いうちに出たおかげで牧ノ戸峠の駐車場にはまだ余裕があったが、流石九重山、登山者が多い。火山特有の風景が広がる中、星生山、久住山、諸星山と周遊して、九州本土最高峰の中岳に到着する。すぐ隣に明日登る予定の三俣山が見える。中岳でランチのカレーメシを食べて牧ノ戸峠に下山。今夜は炭酸温泉で有名な長湯温泉に泊まる。

**10/3 三俣山: 長者原 855—1025 法華院温泉 1027—1100 諏蛾守越 1110—1250 三俣山南峰 1300—1435 長者原**



宿を早朝に出発して長者原へ向かう。8時頃着いたが、登山客のものと思われる車が多い。湿原を横切って三俣山のふもとを廻り込み、坊ガツルに到着。周りを三俣山、大船山、中岳に囲まれた気持ちの良い草原だ。近くには法華院温泉やキャンプ場もあり、一度は泊まってみたい。今日は三俣山に向かう。法華院温泉から一登りで北千里の荒涼とした砂地となり、諏峨守越着。ここから三俣山への登りとなる。三俣山は典型的な火山で火口をいくつかの峰が囲んでいる。ここまできると少し紅葉が始まっており、秋を楽しむ。火口を一周できると聞いていたので、地図上の三俣山から北峰へ向かう。ロープが何ヶ所かある急な下りを過ぎると北峰だが、この先は登山道がザレ場で遮断されている。今年の集中豪雨の影響で周囲の登山道も不通となっていたので、ここもその影響かもしれない。単独行であまり無理をしてもいけないので、ここで引き返す。諏峨守越えからも登山道が通行止めとなっているため、長者原まで道路をたどって戻る。帰路に立ち寄った山里の湯は炭酸泉で、入浴していると身体中に泡がポコポコと着いて楽しかった。

#### **11/1 祖母山:尾平登山口 635-840 稜線 845-930 祖母山 942-1135 尾平**

前日に九重大船山に登山、豊後三重のビジネスホテルに泊まり、翌日祖母山に向かった。祖母山は九重と比べるとだいぶ静かだ。頂上直下は結構な岩壁で楽しめる。山頂から尾平側の谷の景色が素晴らしい。

### **北アルプス周辺：白樺峠 タカの渡りを見に**

**【期日】 2019. 9. 28 【参加者】 渡辺 (21 期)**

9月28日、願ってもない青空で、白樺峠にタカの渡りを見に行くことにした。ところが、奈川からの乗鞍スーパー林道は、途中で閉鎖。地図も持たなかったが、林道を歩くこと2時間30分。15時に白樺峠にたどりついた。その手前30分ほどの林道が沢のところできくえぐられて、舗装の半分ほどは崩れていた。この日は晴天で多くのタカが渡っていったに違いないが、15時過ぎると、見たのは3羽だけ。それに飛行機が3機。乗鞍高原からの林道は開いていて、多くの車が止まっていた。来年、タカの渡りを見るときは、乗鞍高原経由がいい。林道の途中で、サルとクマと2匹のなんとライチョウに出会った。

### **丹沢：大山**

**【期日】 2021. 1. 26 【参加者】 山野 (19 期)**

**丹沢大山ケーブルバス停 7:10、女坂経由阿夫利神社下社 8:10 山頂 10:20 昼食 11:00 下山開始、下社 12:30、大山ケーブルバス停 13:20**

昨日東京は雨でしたが山の方は雪が積もりました。天気ははじめ晴れていましたが、途中から曇ってきました。標高1,000m付近から雪が出てきて、頂上は積雪20cmくらいでした。下りはアイゼンを使用しました。富士山は良く見えませんが相模湾方面は良く見えました。足が上がりなくてゆっくりの上り下りでした。人では途中あった人が50人くらい。トレイルランの人やアイゼン無しで下り苦労している人がいました。

~~~~~

本「山岳捜査」笹本稜平著を読んだ。小学館、2020年1月、1,700円。長野県警山岳救助隊が鹿島槍ヶ岳周辺で起こる殺人事件を中心に展開するフィクション。天後尾根の天狗の鼻先の最低コルからカクネ里に降り死体を確認し、ヘリコプターで脱出するなど昔の山を思い出しながら読んだ。大学生の時、1970年の冬天狗尾根を登っていて、降雪直後朝一に出発したパーティが雪庇を踏み抜いて落ち、一人体重80kgの人を大町からヘリコプターで来たパトロール隊(銀公がいた)とスノーボードでカクネ里に下ろし、ヘリで釣り上げてもらった経験を思い出した。(西朋18号に記録あり)小説は低体温症で沢山死ぬなど冬山登山の怖さも伝えている。中央アルプスの宝剣岳での滑落もあり、山野も滑落してピッケルで止まったことも思い出した。(山野・19期)

---

**奥秩父・富士山・丹沢 2020-2021 冬**  
**【期日】 2020.12月~2021.2月 【参加者】 橋本 (12期)**

---

新型コロナ感染症が発生し、各方面に予想もつかない程の甚大な影響を及ぼす事態となった。不要不急の外出は控えるが、山登りは継続する。山登りは精神的・肉体的健康維持の最良の方法であるから。山歩きは比較的安全で、いわゆる3密を避けることができるものであった。行先は、当面は県外は控えて、丹沢とその周辺に限定する。氣息を整え、尾根歩きを継続している。

■ 11月9日(月) 北奥千丈岳(2601m)と金峰山

今秋一番の寒気団が南下中である。甲州市内は朝 4~5℃であったが、川上牧丘林道に入り大弛峠では-4℃、快晴だが西寄りの風が強く、寒い。8:18 出発、前国師 8:44、北奥千丈岳 8:54、北岳、甲斐駒ヶ岳、八ヶ岳が見える。すぐに引き返し国師岳 9:05、大弛峠 9:38、風はやや弱くなった。朝日峠 10:37、富士山と金峰山の五丈岩が見える。樹林帯を抜け、ハエマツ帯に出ると再度風が強くなる。金峰山 11:33、山頂付近でドローンを飛ばしている人がいる。瑞牆山、八ヶ岳方面は見事な紅葉。寒いのですぐに下山開始。朝日岳 12:36、朝日峠 12:57、大弛峠 13:19。所要 5 時間 01 分。

■ 11月18日(水) 檜洞丸(1601m)

朝の西丹沢Vセンター11℃、曇り、微風。7:56 出発。付近は素晴らしい紅黄葉。林道からつつじ新道に入り、急坂の途中の岩場で紫色の花を咲かせているイワシャジン、小さなシラヤマギク。ゴウラ沢出合 8:37、東沢やゴウラ沢の水量は少ない。こども紅葉が美しい。展望台 9:18、南寄りの風が強くなり、ガスがかかってきた。石棚山稜丁字路 10:11、檜洞丸 10:24、風とガスのため軽食を取ってすぐに下山開始、丁字路 10:38、展望台 11:12、天気は快方に向かい暖かくなった。西丹沢Vセンター12:23。所要 4 時間 27 分。

■ 11月24日(火) 雁坂嶺(2289m)

登山口の道の駅みとみPの朝 5℃、晴れ、微風。7:09 出発。標高約 1100m のこの付近はすでに黄葉終わり。杳切橋までは舗装道路の林道。林道終点 7:57。ここから登山道となるが、5~6 分でナメラ沢への下降地点となる。コースはしばらく久渡沢左岸を歩き、右岸になると徐々に傾斜を増す。井戸沢を過ぎるとジグザグの坂が始まる。付近は見事なクマザサの斜面で、ブナ、ミズナラ、カエデの落葉樹林帯である。標高 1800m 付近から風が強くなり始める。雁坂峠 9:54。いつもながら西寄りの強風が吹き抜け

ている。すぐに尾根筋を北に向かう。間断なく烈風。急に気温が下がり氷片が多数落ちてくる。烈風で木々に付着している氷片の落下である。この氷片落下で周囲が見えなくなる。一時的に体を伏せて待機。雁坂嶺 10:29、すぐに引き返し、風の弱い場所を見つけ、休憩、軽食。雁坂峠 11:03、依然として強風、峠を通過して井戸沢 11:32 付近になってやっと風が収まる。沓切橋 12:22、みとみP13:04。所要 5 時間 55 分。

#### ■ 12月8日(火) 富士山吉田口5合目

今年は富士山の入山規制が厳しく、12 月に入ってやや緩和されたので、5合目まで行くことにした。出発地の馬返しの朝、5℃、快晴、微風、9:16 出発。2合目 9:41、3合目 10:09、4合目井上小屋 10:46、奥秩父と八ヶ岳が遠望できる。5合目佐藤小屋 11:21、天気は良いが気温-5℃、風が出てきたので、ここで引き返す。井上小屋 11:48、付近のコメツガの幼木の緑が美しい。3合目 12:06、2合目 12:17、1合目 12:35、馬返し 12:43。

#### ■ 12月23日(水) 御正体山(1682m)

登山口の山伏峠トンネル、朝0℃、快晴、微風。山伏峠 8:14 出発。石割山分岐 8:42、葉をすっかり落とした樹林越しに山中湖。奥ノ岳 8:51、送電鉄塔 8:55、ここからは眺望が良く、富士山、西丹沢の山々、南ア連山が見える。少し下り、クマザサの登りが続くと中ノ岳(1411m)9:23、前ノ岳(1471m)9:46、前ノ岳より急坂を約 200m 登ると傾斜が緩くなり見事なブナ、ミズナラ林が続く。御正体山 10:18、山頂は殆ど眺望無し、軽食を取ってすぐに下山開始。北西風が時折強く吹く。前ノ岳 10:46、中ノ岳 11:07、送電鉄塔 11:31、気が付くと、コースには多数のブナの実が落ちている。石割山分岐 11:45、山伏峠 12:07、所要 3 時間 57 分。

#### ■ 12月29日(火) 袖平山(1432m)

今回の登山は、年初に登った蛭ヶ岳の下山中に日没となり体力の減退を痛感したが、蛭ヶ岳登山の他のコースを探索するのが目的である。道志の上青根地区から入山し、釜立林道から姫次、袖平山を目指す。上青根地区の家並みが途絶えて釜立林道に入るとすぐにゲートである。ゲート近くに駐車し、7:54 出発。朝、晴れ、2℃、微風。8:07 八丁坂ノ頭への登山口を右に見て林道を直進。林道終点の小広場を過ぎ、右に続く林道のゲート 8:19、モノレール小屋 8:29、ここから登山道に入る。しばらくは釜立沢の左岸を歩くが右岸にわたり、堰堤を越えると急坂が始まるが、特に危険なところはない。斜面はブナ、ミズナラ林だが、アカマツが多くなってくると傾斜がやや緩やかになり、丹沢主脈稜線に近い。しかし風が強くなってきた。9:24 青根分岐、ここからは傾斜が緩やかになり、標識や木道の新調など、広くよく整備されたコースが続く。9:43 八丁坂ノ頭(分岐)、10:01 東海自然歩道最高点、10:03 姫次、右手のコースに入り、袖平山 10:16、山頂は背後にある 10:26。小休、軽食。大室山と富士山、北西に南ア連山。すぐに下山開始。姫次 10:42、青根分岐 11:08、モノレール小屋 11:47、林道ゲート 11:54、12:04 八丁坂ノ頭登山口、釜立林道ゲート 12:14。所要 4 時間 20 分。

#### ■ 1月5日(火) 檜洞丸(1601m)

過去数年間続いた正月2日の安全祈願蛭ヶ岳登山は、体力の減退から今年から檜洞丸に変更する。西丹沢Vセンターの朝、1℃、薄曇り、微風。8:01 出発。林道コースに入り、急坂を少し登るとやや平坦な道となるが、この途中にミツマタの大群落があり、現在はツボミである。ゴウラ沢出合 8:40。ゴウラ沢、東沢の水量は少ない。この先やや傾斜を増す。ミヤマンキミの雄株のツボミ。展望台 9:22。富士山が見える。ここからは急登の連続が始まる。途中石棚山山稜の上から朝日が射し、暖かくなる。石棚山山稜

丁字路 10:13、檜洞丸 10:27、曇りがちで南アは見えない。軽食を取り下山開始。丁字路 10:42。展望台 11:14、標高 1000m 付近で大量のブナの実、すこし拾って帰る。ゴウラ沢出会 11:45、西丹沢Vセンター 12:19。所要 4 時間 18 分。

#### ■ 1月16日(土) 菰釣山(1379m)

山伏トンネル西側出口、朝1℃、快晴、微風。短路を取り山伏峠 8:26 出発。甲相国境尾根丁字路(山伏峠分岐)8:39、石保土山 9:01、西沢ノ頭 9:20、樅ノ木沢の頭 9:36、コースの所々に雪、アイゼン不要。ブナの実が多数落ちている。また、タヌキの溜糞が道幅いっぱい5か所残っていた。油沢ノ頭 9:49、西沢ノ頭付近から菰釣山の双耳峰が見えだす。左手に御正体山。少し大きめの山のブナノ丸 10:12、菰釣山の北面は雪が 1~2cm、菰釣山 10:30、南寄りの風強く写真を撮ってすぐに引き返す。北側斜面の風の少ないところで小休、軽食。ブナノ丸 10:51、油沢ノ頭 11:07、樅ノ木沢の頭 11:18、西沢ノ頭 11:33、石保土山 11:53、山伏峠分岐 12:14、分岐手前から南へ下る西丸方面のコースははっきりしている。山伏峠 12:22。このコースは途中5つのピークとその他小ピークが連続しアップダウンが多く消耗するが、ブナ・ミズナラ林が美しく気が安まる。所要時間 3 時間 56 分。

#### ■ 1月30日(土) 畦ヶ丸(1293m)

西丹沢Vセンターの朝 -1℃、快晴、微風。7:42 出発。コースは西沢に沿って続き、2つの大きな堰堤を越え、何回か木橋を渡り返して下棚、本棚の滝入り口を左に見て急坂に入る。西沢の川原を歩くが、標識が多く迷うことはない。ブナ、ミズナラが続き、アセビの樹林帯が多くなると善六タワである。この辺より積雪 1~2cm。少し登って馬の背状の尾根になると積雪はクルブシ位になる。時折北風が強く吹くが寒くはない。畦ヶ丸手前の急坂ではさらに積雪が多くなるがアイゼン不要。畦ヶ丸 10:05、富士山、檜洞丸、大室山、相模湾が見える。軽食休憩後下山開始。風はやや弱くなった。善六タワ 10:56、本棚分岐 11:30、西丹沢Vセンター12:07。所要 4 時間 25 分。

#### ■ 2月6日(土) 今倉山(1470m)

道志溪谷から都留市に抜ける道坂トンネルの西側が登山口である。朝の登山口 0℃、快晴、無風。8:14 出発。縦走丁字路(道坂峠)8:27、右は御正体山方面、左入る。ここからはほぼ一直線の急坂である。かなり体調が悪いのか歩が進まない。9:18 今倉山。約1時間で 450m の登りである。予定の菜畑山までの往復は断念。山頂に大きなブナ樹があり、近くに胸の赤い野鳥。御正体山の奥に富士山と南ア。付近は見事なブナ、ミズナラ、コナラとアカマツ林。ブナ・コナラの実が多数落ちている。道坂峠 9:47、道坂トンネル登山口 9:58。所要 1 時間 44 分。

#### ■ 2月16日(火) 檜洞丸(1601m)

この山にはブナが美しいためか、毎年数回登る。昨日は強い南風を伴う降雨があり、丹沢の雪がだいぶ少なくなった。出発地の西丹沢Vセンターも周辺に雪はない。8:24 出発。ゴウラ沢出会 9:02、ゴウラ沢は増水していない。展望台 9:44、ここまでにミツマタとアセビの蕾が少し大きくなり、ミヤマシキミの緑が増す。石棚山山稜丁字路 10:40、檜洞丸 10:54、西寄りの風が強く富士山は雪煙の中、南アは見えにくい。軽食後すぐに下山開始。石棚山丁字路 11:09、展望台 11:41、ゴウラ沢出会 12:12、西丹沢Vセンター12:47。所要 4 時間 23 分。

#### ■ 2月22日(月) 蛭ヶ岳(1673m)

コロナの影響もあるが、気力と体力が急速に減退している。気力だけでも落ちないように、また日中の時間も長くなったので蛭ヶ岳に向かう。この山には主に4つの登山口があるが、いずれもアプローチが

長く体力が必要だ。今回は北口の青根地区から入る。青根地区の家並みのはずれから釜立林道があり、昨年暮れにここを経由して蛭ヶ岳へのルートの下見に袖平山に登った。今回は釜立林道の途中にある八丁坂ノ頭登山口から入る。朝、登山口手前のゲート下の小広場に車をPし、約15分歩くと登山口である。朝、快晴、4℃、微風。7:56 出発。高度差約 700m を一気に登る。途中、目印になる三角点などはなく、右手、小屋戸沢越しに袖平山北尾根を見ながら進む。標高 1100m 位だろうか、左下から林業用のモノレールが設置され、右上に抜けるように作られている。しばらくはコースはこのモノレール沿いに歩く。標高 1300m付近、北斜面となったところでコースは凍結し、アイゼン着用。主脈丁字路(八丁坂の頭分岐)9:25、姫次 9:43、姫次から少し下って原小屋平、地蔵平付近は美しい広葉樹林帯、原小屋平 10:00、蛭ヶ岳北斜面は長い木製階段が続く。蛭ヶ岳 11:12、富士山、塔ノ岳が良く見える。南アは霞の中でよく見えない。小休後下山開始、地蔵平 12:02、原小屋平 12:11、姫次 12:28、昼食休憩。八丁坂の頭分岐 12:50、往路アイゼンを着用した凍結急斜面はう回路を使い回避。この下降直後に、左手袖平山北尾根斜面で大規模な土砂崩落が発生、落石の音が長く鳴り響いた。八丁坂ノ頭登山口 13:54。所要 5 時間 58 分。

---

**長野支部報告：中信の山 2020-2021 冬**  
**【期日】 2020. 12 月～3 月 【参加者】 玉田 (38 期)**

---

■ 2020/12/20 佐久市 平尾山

佐久平が一望できる気持ちの良い里山。登山口がわかりづらかった。ちょっとの山でもなんとなく心配でいろいろ持って来てしまうけれど、手ぶらで歩いてる人もいて。自分の持ち物を見て、こんなにいらないよな、と思う。

■ 2021/1/11 上田市 太郎山 表参道ルート

山頂近く凍った箇所ありアイゼン不要。頂上の太郎山神社でいろいろ祈願。太郎山はいくつかのルートがあることが分かったので、今年は全制覇をめざす。手入れが行き届いていて、地元の人たちに愛されている山だなあ、と来る度に思う。

■ 2/6 上田市 太郎山 緑が丘ルート

人がいない、静かな山歩きができるルートだった。表参道より山を感じられて良い。雪はなし。駐車場は4台くらいかな。

■ 2/20 入笠山

雪山入門の山とあってたくさんの登山者。スノーシューの人とアイゼンの人と半々くらい。わたしは6本爪軽アイゼンで。良い天気で360の展望。富士山、南、中央、北アがぐるっと望めた。犬も登っていた。久しぶりの雪道の感触は楽しかった。

■ 2/23 上田市 太郎山 裏参道ルート

駐車場までの林道。何人かはさっき家から歩いてきましたみたいな雰囲気だった。実際、毎日運動で体を動かすために通っているのだと思う。裏参道は日が当たらないので雪が残っており、途中から軽アイゼン装着(4本爪)。アイゼンを持って来ていない人は引き返していた。みんなすぐ来られるから気楽に引き返す。明日また来るか～みたいな感じ。東京の山と違うなあ。。一度溶けて凍ったテカテカの箇所

もあり、アイゼンの歯も立たず。山頂からは、いつもの素晴らしい眺め。悠々と流れる千曲川。上田市街地。八ヶ岳。真っ白な北アルプス。うっすらと富士山。のんびりして下山。何度来てもいい山。次は、3~4月中に四十八曲がりコースに行く予定。

### ■ 3/27 北横岳

頂上は雪が溶けていましたが、樹林帯はアイゼンがザクザク言って気持ちよかったです。家から見えた八ヶ岳の上には重い雲があり、期待せずに行ったのですが意外にも 360 度の展望でした。風もなく、暑くも寒くもなくちょうど良い時期でした。今年は暖くなるのが早いですが、もう一回くらい雪山散策したいと思っています。北横岳はちょっと人が多かったので、次は静かなところがいいかな。

---

## 信越/ST : 菅平～根子岳

【期日】 2021. 3. 3 【参加者】 渡辺 (21 期)、児玉

---

四阿山のかわりに、根子岳の頂上までスキーで登って来ました。初めて、接着式のシールを使ったのですが調子はよかったです。

8時40分に奥ダボスの駐車場を出発し、13時30分に山頂。快晴無風で気持ちの良い頂上で、積雪は30cmほど。14時30分に下山を開始しましたが雪は腐り始めて、私のスキー技術では、スキーをかついで歩く方が早かったです。17時10分に駐車場着。駐車場入り口のゴルフ場のゲートは17時に閉めると掲示がありましたが、幸い、まだ開いていました。四阿山の予定でしたが、隣の根子岳登山に。ジルブレッタの金具はよく外れてしまうので、カンダハーの方が使いやすく思えました。

# 2021 年度

会長	渡辺 喜仁
チーフリーダー	松本 哲郎
サブリーダー	尾崎 宏和
会計	上野 利之
都岳連関係	上野 午良
記録・会報	松本 哲郎 尾崎 宏和
装備	灘吉 聡
西高係	山野 裕 博多 誠
ホームページ係	灘吉 聡
シニア山行係	松田 稔 黒澤 隆

## 2021 年春から初夏：奥秩父、身延山系 他

【参加者】橋本（12期）

例年、春季～初夏の時期に山沿いや山岳道路など林道を車で走っていると素晴らしい光景に出会うことが多い。日本の美しい自然の光景である。時に車から降りてその美しい光景を心に刻み込むため、暫くはそこにたたずむこともある。

### ■ 4月1日(木) 七面山(1982m)

七面山の表参道の登山口は白糸の滝がある羽衣である。羽衣Pの朝、13℃、快晴、無風。8:26 出発。7～9丁目にミヤマウズラの小群落。13丁目肝心坊 9:04、16と19丁目に水道栓が設置された。23丁目中適坊 9:30、36丁目晴雲坊 10:12、46丁目山門 10:52、敬慎院展望台 10:58、黄砂様のモヤで富士山が見えない。すぐ先の荷揚げ用の作業小屋付近にシカ15頭くらい。急に天気崩れ、風が出てきて寒くなった。七面山 11:39、山頂はここだけ陽が当たり暖かい。昼食休憩。コースは「大崩れ」近くを通るが、帰途に今回その凄惨な「ナナイタガレ」を見る。敬慎院 12:16、山門 12:21、晴雲坊 12:39、中適坊 13:06、肝心坊 13:22。羽衣P13:48。所要5時間22分。

### ■ 4月12日(月) 富士山吉田口5合目

国道138号線から吉田口登山道(車道)に入るとアカマツ樹林帯の所々にマメザクラが満開に咲いている、そこだけがポツと明るい。馬返しの朝、6℃、快晴、微風。陽ざしが暖かい。最近富士山に大規模な雪崩が発生し、5合目から上は立ち入り禁止とのこと。8:39 出発。1合目 8:50、キブシ、ヤナギ類が一斉に新芽を出している。2合目 9:14、3合目 9:35、北方の河口湖越しに黒岳。3合目付近でバイケイソウが発芽。コメツガの若木の新緑とハクサンシャクナゲの頂芽の膨らみ。井上小屋 10:11、小屋より上はルートは凍結しているところが多くなり、アイゼン着用。5合目佐藤小屋 10:52、小屋は閉鎖中、星観荘まで登ってみたがここで道路封鎖。下山開始。4合目井上小屋 11:28、3合目 11:48、2合目 12:00、1合目 12:17、2合目～馬返し間は美しいコケが多い。

### ■ 4月26日(月) 小金沢山(2014m)

大峠に通ずる真木小金沢林道の閉鎖が昨日解除された。大峠の朝4℃、快晴、微風。8:27 出発、右手から登り雁ヶ腹摺山を目指す。ブナ、ミズナラなど見事な落葉樹林帯が続く。木々はわずかに新芽。雁ヶ腹摺山 9:09、富士山と南ア連山、すぐに下山開始、大峠 9:45、左手の登山口に入る。しばらく急坂を登り、赤岩ノ丸を巻いてやや傾斜の緩い倒木帯になるが、この倒木帯を抜けるとコース脇に多数のバイカオウレンが咲いており、これが黒岳山頂まで続いている。黒岳 11:00、ここで昼食を車の中に忘れてきたことに気が付く。川胡桃沢ノ頭 11:20、ここからの南ア、富士山の眺めも素晴らしい。この先は大きな下りとなり、サイの河原を通り、登り返して牛奥ノ雁ヶ腹摺山 12:02、山頂には多数の登山者、早々に退散、先を急ぐ。コースは多少のアップダウンを繰り返して小金沢山 12:33、軽食休憩。下山開始、小金沢山からの下山中のササ原は美しく、心が和む。牛奥ノ雁ヶ腹摺山 13:11、川胡桃沢ノ頭 13:39、縦走丁字路 14:02、大峠 14:42。所要6時間15分。

### ■ 5月10日(月) 雁坂嶺(2289m)

この時期、山梨県の街道沿いは各所でニセアカシアの白い花が満開である。標高1100mのみとみPの朝、快晴、10℃、微風。8:07 出発。落葉樹の新葉が出始め、山は一気に春を迎えている。舗装さ



れた林道は沓切沢橋まで続くが、その間、標高差が約 270m あり、かなりの急坂の場所もある。沓切沢橋 8:53、右手唐松尾沢から久渡沢に流れ込む水量が多い。ナメラ沢分岐 9:04、若い雌ジカ2頭と足元からキジが飛び立つ。久渡沢を右岸にわたると急坂が始まる。しばらくすると2か所小さな露岩帯となるが、付近にはワチガイソウとイワツメクサが咲いている。多数のハシリドコロもある。やや傾斜が緩くなる「峠沢の河原」を過ぎると再度急坂、井戸沢 10:00 を渡り、なおも急坂が続く。雁坂峠 10:51、小休して北に向かう。風はなくカンカン照りである。雁坂嶺 11:30、軽食・給水して下山開始、雁坂峠 12:00、井戸沢 12:28、「峠沢の河原」で昼食休憩、付近にはエイザンスミレ多数。ナメラ沢 13:18、沓切沢橋 13:24。久渡沢の釣り場付近で多数のヨゴレネコノメ。みとみ P14:05。所要 5 時間 58 分。

#### ■ 5月29日(土) 大菩薩峠(1897m)

旧青梅街道の小菅村役場前から県道 508 号線沿いに小菅村の街並みを通り、日向沢登山口に向かう。途中、この林道沿いにはガクウツギ、ツクバネウツギ、ニシキウツギ、マルバウツギなどが咲いており圧巻である。登山口の少し上の林道終点に車を止め、8:25 出発。朝18℃、晴れ、微風。8:36 小菅大菩薩道との分岐、付近はブナ、ミズナラ、カエデ類など広葉樹が多い。この道は雁坂道と同様、甲武を結ぶ古道の面影が多く残されている。傾斜は比較的緩やかで道幅も広く歩きやすい。フルコンバ手前から満開のヤマツツジが延々と山の斜面に続く。フルコンバ 9:49、多数のシロバナノヘビイチゴ開花、大菩薩峠 10:30、人が多く、また、体調が思わしくなく、ここで引き返す。フルコンバ 10:58、分岐 11:40、日向沢登山口 11:49。所要 3 時間 24 分。

#### ■ 6月8日(火) 檜洞丸(1601m)

ツツジを見に行く。県道 76 号線沿いはウツギが見事に満開。西丹沢Vセンター前 7:19 出発。ゴーラ沢出合 7:57、展望台 8:43、右手の石棚山嶺下部で大きな落石の音。途中、昨年確認したイチヤクソウが全く見られない。鉄バシゴ箇所の上でツクバネウツギ開花中。石棚山稜丁字路 9:47。馬の背状となる木道の両側はマルバダケブキとバイケイソウの大群落(未開花)。檜洞丸 10:02、軽食を取ってすぐに下山開始。昨年同時期に咲いていたシロヤシオやトウゴクミツバツツジはすべて終わっていた。丁字路 10:19、展望台 10:51、ゴーラ沢出合 11:24、西丹沢Vセンター11:58。所要 4 時間 39 分。

#### ■ 6月12日(土) 八紘嶺(1918m)

山梨と静岡の県境にある安倍峠へ通ずる県道 808 号線もこの時期ウツギが見事である。八紘嶺は15年前に登ったが、多種のツツジとカエデ類が美しい山という印象であった。安倍峠の 1,2Km 下のゲート前に車を止め、8:06 出発。峠に向かい数分歩くと左手にバラノ段入口の標識。8:18 安倍峠。ここから直接登りにかかる。やや不明瞭なところもあるが、小さなピークを登り切り、下りとなると左下にはっきりした登山道、今回はこの登山道を行かず、跡跡がやや薄い直登コースをとる。ブナ、ミズナラ、カエデ類の新緑が美しい。登り切ったところで左手に登山道が出てくる。この登山道に入り、1分位で富士見台であるが、登りの時は見過ごしてしまった。この付近より、ヤマツツジが見事。サラサドウダン、全体が深紅のベニウツギなど。急坂を登りきるとやや平坦な道となり 9:47 八紘嶺。軽食を取り下山開始。シロヤシオ落弁。質素な標識の富士見台 10:33、安倍峠 1:55、ゲート前 11:07。所要 3 時間 10 分。

予定より早く下山できたので、七面山の登山口羽衣に、ミヤマウズラの生育状況を見に行く。12:57 羽衣出発、1丁目ウメガサソウ2株開花、7丁目半から10丁目まで、参道脇のスギ落葉場所に小群落で多数のミヤマウズラ確認(未着蕾)。本葉5~6まで成長。ミヤマウズラの生育環境は丹沢の場合とよく似ている。14:10 羽衣帰着。

## ■ 6月21日(月) 北奥千丈岳(2601m)

大弛峠に通ずる牧丘川上林道はこの時期マタタビの白化した葉が目を引き。ニセアカシアは終わっていた。大弛峠の朝8℃、晴れ、微風。7:20 出発、7:46 前国師、7:54 北奥千丈岳、8:11 国師岳。南ア連山、富士山八ヶ岳が見える。コース脇にはミツバオウレン開花中。陽が出てきて暖かくなった。前国師のイワカガミは7分咲き。大弛峠 8:42、暖かくなったので上着を車に戻す。朝日峠 9:14、朝日岳 9:35、金峰山 10:34、山頂には人が多く、すぐに退散。山頂のイワカガミは株数が増え、7分咲き。ハエマツ帯では多数のミネズオウの白い5弁花、少ないがハクサンシャクナゲの開花株あり、鉄山の巻道ではコヤマカタバミ多数。朝日岳ののぼり途中で軽食、若い雌ジカ2頭、朝日岳 11:34、未開花だがバイケイソウとマイヅルソウ多数。朝日峠 11:56、大弛峠 12:21。所要5時間01分。下山途中の牧丘川上林道の陽当たりの良い斜面ではミツバオウレンが大群落で満開、感動する。

### 奥秩父：瑞牆山

【期日】2021.4.10【参加者】玉田(38期)

以前から行ってみたかった瑞牆山へ行きました。無料駐車場は最後の1台。ラッキーでした。登り始めの林の中は踏み跡が幾通りもあって困りました。(どこを通ってもよいのですが・・)登山者は好天にもかかわらず思ったほど多くなかったです。山アプリ YAMAP の情報のおかげで途中見過ごしそうな箇所から富士山も望めました。頂上に着いたときは富士山には雲がかかっていたので見られてよかったです。頂上まで10分というところからツルツルの凍結。登りは何とか登ってしまいましたが、下山時はアイゼンをつけました。頂上では360度の展望を満喫し、岩の上に寝っ転がって青空を仰ぎ、幸せな時間に浸りました(^)v 最近楽な山歩きばかりだったので久しぶりに山を「登った」気分になり気持ちよかったです。

それにしてもあの独特な山はどうやってできたのだろう？そしてあちこちにあった巨岩(大きな岩というレベルではなく巨岩)はどこから転がってきたのだろう？と頭の中はいまだに???です、どなたか教えて下さい～。

~~~~~

瑞牆山、私も数年前に初めて登り、巨岩を楽しみました。いい山ですよ。山の由来、私の限られた知識での説明です。巨岩は、花崗岩。マグマが深い場所でゆっくり冷えて固まりました。その後、地殻変動で押し上げられ、周りの比較的柔らかい堆積岩などが削られて、硬い花崗岩の部分が残って山になりました。近くでは、金峰山、甲斐駒が岳、また、屋久島も花崗岩の塊で同じような巨岩がある山です。青谷さん、間違っていたら、訂正ください。(松本)

瑞牆山の謎を教えてくださいありがとうございます。マグマが長～い時間をかけて冷えて固まって地上に顔を出し、長～い時間をかけてあの独特の形を形成していったことを頭に描くともう1度あの山の中に身を置いて眺めたくくなります。エベレストがじわじわと未だ「成長」していると聞きますが瑞牆山もこれからも形を変え続けていくのでしょうか。金峰の五丈岩も、なぜここに？と不思議でした。甲斐駒は今年か来年行きたいと思っているので、生きた地球をじっくり味わいたいと思います。ありがとうございました☆彡(玉田) (HP 掲示板より転載)

## 尾瀬：鳩待峠～尾瀬ヶ原

【期日】2021.4.12【参加者】渡辺（21期）・児玉

目指すのは、積雪期の平が岳であった。その偵察として雪のある時にスキーをかついで尾瀬に行った。戸倉に車を置き、自転車にスキーもつけてこぎ始めた。自転車といっても、ギアなしのママチャリである。3時間進んで、ここに自転車はデポ。鳩待峠には、マウンテンバイクが10台ほど。至仏山を目指す登山者がいた。苦労したのは鳩待峠から尾瀬ヶ原への雪道。最初こそスキーをつけたものの、あとはスキーを背負って。沢まで下りたら、右岸、左岸とスノーブリッジを渡りながら進み、最後はやむなく、登山靴を履いたままの渡渉、山の鼻の手前で幕営。クマの足跡、クマに襲われたシカの死骸も見ました。連休前で、小屋はどこも閉まっていた。

13日、あいにくの天気で見界もあまりきかない。尾瀬ヶ原を歩いた。雪はよく締まりスキーの必要もないほど。積雪は1mほど。すぐに、至仏山も鳩待峠も雲に覆われてしまい下山。夏道は雪におおわれ赤いリボンも少なく、夏道と思われるところを迷いつつ鳩待峠へ。沢の中で、クマに襲われたシカの体が雪を赤く染めていた。帰り、3時間かけて歩いた林道を自転車は30分でくぐってしまった。ほかにも自転車で来ている登山者に6人ほど会った。

残念ながら、まだ雪の平が岳は登っていない。結論として、平が岳登山には、4月下旬にバスが開通してからスキーなしで登るのが良さそうだ。2泊3日で、赤リボンを30枚ほど持参し、夏道の要所に付けてきた。

## 信越：浅間隠山

【期日】2021.4.18【参加者】玉田（38期）

天気が良かったので近場の浅間隠山へ。車を走らせて、浅間が見えたらびっくり！富士山みたいに真っ白でした。数日前は雪はもうほぼ溶けていたのに、前日の雨が浅間山では雪だったようで一晩で真っ白になっていました。歩き始めて間もなく、なんとあられが降ってきて、風がどんどん強くなり頭上で唸りだしました。さっきまであんなに晴れたのにいいと思いつつ、そのうち晴れる、と確信をもって歩き続けました。途中、青いキノコを見つけて嬉しくなりました。頂上ではあられも止んで、上州武尊、谷川連峰、志賀、などなど、そして目の前に富士山に劣らぬ美しさの真っ白な浅間山が見えました。晴れた日にはスカイツリーも見えるらしいです。ちなみに駐車場にはトイレなし。登山口からしばらく docomo は圏外でした。

## 中信：子檀嶺岳

【期日】2021.4.22【参加者】渡辺（21期）

青木村の子檀嶺岳（こまゆみだけ）に登って来ました。当郷コースで、ゆるやかな樹林の間を抜けて1時間40分で頂上。ここはそれほど広くはないですが、草原になっていて、鹿島槍など後立山の雪をいただいた山々や、四阿山や、遠くに八ヶ岳連峰などの展望が楽しめます。22日、23日と長野県では、願

ってもない好天が続きました。シダレザクラはまだ花をつけていますが、ソメイヨシノはおおかた散り、ヤマザクラは名残りの花がありました。帰りは「さかた」のお焼きを土産に。いろいろな「おやき」を食べ比べましたが、ここのが一番おいしいです。月、火は休み。10時開店ですが、実質は9時50分ごろに店を開け、行列ができます。(渡辺)

～～～

22日に子檀嶺岳に行かれたのですね。その日、会社の昼休みに、真っ青な見上げて「もったいない～～～山に行きたい～～～」と思っていました(-\_-;) 勤務先は小諸にあります。標高 940m。たまに敷地にカモシカが現れます。子檀嶺岳、里から見るとプリンみたいな形ですね。プリンに惹かれて2年前に登りました。後立山連峰、四阿山、八ヶ岳など見られたのですね。お天気が良くてよかったです。ぜひまた信州の山をお楽しみくださいませ(^) (玉田)

## 南アルプス：奈良田～笹山～広河内岳～農鳥岳

【期日】2021.5.2～5 【参加者】尾崎(47期)

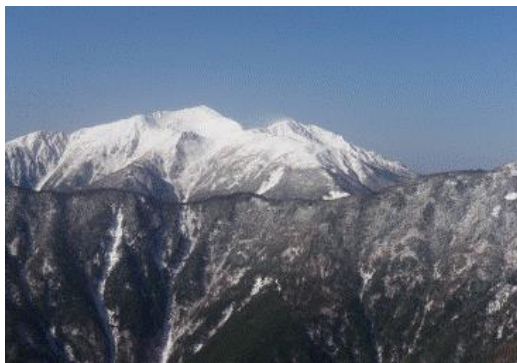
最初に考えた朝日連峰(4月30日～)は、東北方面の寒気悪天候の継続により論外。新潟や北アなど日本海側は引き続き寒気の影響を受けそうだ。それが極力回避できる方面ということで南アを選んだ。結果論だが、昨秋大門沢を偵察していたことが、この連休に役立ったかもしれない。

### 5月2日

麓の奈良田は晴れていたが、見上げる稜線は荒れていそうだ。小雪が舞う時間帯もある。2250m 付近で雪が出てきて、2300m 付近の窪地で幕営。他、2テントあり。1人は笹ヶ岳方面とのこと。

### 5月3日

好天だが朝焼けが赤いので、天候推移に要注意と感じつつ出発。前日の稜線悪天で新雪に覆われ、冬山状態。笹山からの北上は、各々小さいが意外にアップダウンがあると感じた。事前に地図をよく見ていなかったことが要因だろうが。広河内岳手前から急にトレースが現れる。大門沢から枝尾根を登ったのか、大籠岳東尾根か。広河内岳 12時半で、天候が崩れ始める。大門沢下降点で1人幕営者あり。まだ視界はあり、農鳥岳頂上東側に風が避けられそうな平地があることも知っている。農鳥岳に14時半過ぎに着き幕営していると、15時ごろより降雪ホワイトアウトになって、不安になる。夜は大荒れで、降雪対策としてテント上に張ったタープが破れる。テントポールが折れないかと、あまり眠れなかった。



5月3日、朝 笹山付近から荒川岳。 14時半、農鳥岳から間ノ岳と北岳 正月の山のような

5月4日

好天だが強風のため、6時半ぐらいまで行動を見合わせる。というより、昨夜あまり眠れなかったため、起きるのがつらかった。西農鳥岳まで行くが、稜線には人影皆無で、完全に冬山状態だ。ずっと小ラッセルで、元気もないので時間を要する。間の岳は遠く高い。もし行って引き返して着ても、早くて農鳥岳は昼過ぎだろう。夏道が農鳥小屋へとトラバース下降する積雪期危険箇所を偵察して戻ることにする。そこは冬季は、稜線通しに岩稜ルートで、ロープが必要な場合もあるらしい。夏道のトラバース箇所は積雪は安定している感じで行けると思った(2023 年末に下降したが、やはり厳しかった。)。ロープも持っていたが、これ以上行く気は起きない。よく言えば撤退の判断だったが、自分の力不足を感じた。しかし安心の方が大きかった。農鳥岳から大門沢下降点まで、前日の自分のトレースは残っていた。視界も良好となりルートファインディングに問題はなかった。ただ、昇温のため稜線からの雪崩のリスクは少しあると思った。これも間ノ岳まで行かなかった理由の一つである。大門沢下降点からは昨秋偵察した冬道を下る。大門沢小屋あたりは、さすがに春の雰囲気だ。前日大門沢下降点に幕営していた人に出会う。下降点の窪地は吹き溜まって夜中に除雪だったという。北岳まで行く予定が厳しいと判断し、今日は大門沢小屋で幕営するそうだ。私は下山を続け、枝沢に少し入って幕営。新緑が美しい。

5月5日

4時に出発して、奈良田6時過ぎ。6時半のバスで下部温泉駅へ出た。

~~~~

例年になく、厳しい状況だったようですね。無事に戻ってこられて何よりです。新聞記事によると今年のGW中の山岳遭難は157件、死者26名、行方不明3名とありました。遭難件数は例年と変わらず、緊急事態宣言の影響は大きくないとありましたが、おそらく登山者数は激減しており、例年になくひどい状況だったのではないかと思います。(松本)

## 信州の山報告 5~6月

【参加者】 玉田 (38期)

### ■ 5月9日 太郎山 牛伏~四十八曲がりコース (長野県上田市)

太郎山4つ目のコースに選んだのは四十八曲がりコース。登山口「四十八曲がりコース」からスタート。しかし歩くうち現れた標識は「牛伏コース」。。。いったい何が起きた?しかし牛伏コース、曲者でした。登山道なら普通ジグザグに道つけるでしょ、と言いたくなる急斜面にまっすぐ上に向かって道がついて這って登る。苦労した後には良いこともあるもので、山頂手前には三つ葉をたくさん発見。採って帰ってお吸い物にしたら良い香りがしておいしかったです。帰りは予定していた四十八曲がりコースを下山。お花はなかったけど新緑がきれいでした。

### ■ 5月15日 虫倉山(長野市 旧中条村)

前から名前が気になっていた山。登り:不動滝コース。里山の雰囲気たっぷり。頂上からはアルプスがずら~っと見える(らしい。上のほうは雲がかかった)。下り:さるすべりコース。鎖場、ロープが続く、ヘルメット着用、上級とあったから岩場かと思ったら、滑りやすい急斜面。

■ 5月29日 湯の丸山(長野県東御市)

時間が空いたので、近所の湯の丸山へ。相変わらずいい山です。一人の人が多かった。

■ 5月30日 鍬の峰(長野県大町市 1,623m)

餓鬼岳登山口のさらに先に登山口。安曇野の水を張った田んぼがきらきら光るのを見ながら登り、目を上げれば雪が残る餓鬼岳？どこかな？の山々。ちょっとスリルのある鎖場もあり。シャクナゲもあり。白いイワカガミにも出会い。山頂からは目の前に七倉ダムと北アルプスが白馬まで。素晴らしかった。

■ 6月12日 黒姫山(長野県上水内郡信濃町)

中学時代に家族旅行で登り、嫌いになった山。イメージ払拭しようとする行くことに。結果、行ってよかった。根曲がり竹の採集に来てる人がいた(「しなのき」というところから上は採集してよい)。わたしも教わって数本採集。おいしかった(〇)

## 越後：十字峡～丹後山～中ノ岳

【期日】2021.5.31～6.1【参加者】尾崎(47期)

家を出る直前に、越後駒ヶ岳の駒の湯登山口は、吊橋崩落により通行不可との情報を得た。急遽、越後駒ヶ岳からこちらに行先を変更した。駒の湯登山口吊橋は、おそらく2021年シーズンは利用不可だろう。ただ、その後のネット記事だと、水が少ない時は渡渉が可能なようだった。

しゃくなげ湖下の野中までバスで行き、そこから十字峡まで1時間半ほどの車道歩きである。この時期、十字峡までは車が入れる。一方、十字峡～丹後山登山口は、新潟県としては歩きを含め、通年全面通行止めという建前だという。この情報は、行先の検討段階で事前に得ていた。実際この林道は、残雪期のデブリがすごく、ブロック雪崩のリスクが高い。実際の状況は行かないとわからない。よって当初は越後駒ヶ岳を検討していたわけである。十字峡から奥への林道入口まで来ると、ゲートには隙間があり、歩行者なら入れた。林道は落石や枝などが多く、ほどなく1か所完全なデブリがあり、アイゼンを履いてスノーブリッジを越えた。次の残雪箇所はアイゼンは不要だったが、一段下からの巻きを要した。

丹後山登山口からジャコの峰までは、一部を除いて、超急登である。緊張して臨んだためか、懸念したより順調だった。登山口は11時15分、丹後山稜線には15時20分と、近年の私の中では会心のタイムである。丹後山避難小屋は出入りに横板が設置され、6月末に小屋開けと書いた札があった。この横板を一枚ずつ外せば入れるようで、利用後の横板再設置についても注意書きされていた。東側の雪田に回り込み、灰色の濃い雲間に平ヶ岳が大きく見える雪上に幕を張った。

翌朝6月1日、早い日の出を利用して出発した。兎岳までは、地図で見るとよりアップダウンを感じだが、基本的にハイキング。大水上山から平ヶ岳の稜線が分かれる地点で、平ヶ岳側へ微かな踏み跡が認められた。兎岳から分かれる荒沢岳への稜線は、明瞭な踏み跡が続いていた。このルートは1999年5月、荒沢岳前山の岩場に大変に苦労して縦走してきた思い出がある。それより後に整備され、今は無積雪期も歩けると聞いている。中ノ岳の登りは1か所雪壁状があったものの、左から巻いて登れた。中ノ岳避難小屋も、横板で閉鎖されていたが、板を外して入れそうだ。十字峡への下りは暑さもあって時間を要した。結局予定よりも2時間くらい遅れて野中バス停に戻り、17時過ぎの便で帰宅した。



平ヶ岳方面:左右奥には燧ヶ岳と至仏山も見える

中ノ岳と越後駒ヶ岳

~~~~~

本山行に関し、下山連絡のあり方が HP 掲示板で議論となりました。内容は下記をお読みください。転載して記録し、今後へ生かしたいと思えます。

**下山連絡ありましたか?? 投稿者:山野裕 投稿日:2021/06/03(Thu) 10:15:59**

6月1日下山予定ですが、下山連絡ありましたか??

**記入遅れすみません 投稿者:尾崎 47 期 投稿日:2021/06/03(Thu) 19:49:40**

こちらに書いていなくて申し訳ありませんでした。6月1日に下山しました。行動は、越後駒ヶ岳ではなく、丹後山、中ノ岳周回になりました。詳細と写真は例会までにまた記入します。

**掲示板での山行計画の書き方と報告 投稿者:山野裕 投稿日:2021/06/04(Fri) 20:49:50**

この掲示板を見ている人は少ないかもしれませんが、掲示板に書かれたらメールで受け取るようにしている人はかなりいると思われれます。山行計画をあげて緊急連絡先を依頼している場合、緊急連絡先の方が下山連絡を受けたらなるべく早くここに書いて欲しいと思います。昼間仕事や外出ですぐに書けない場合は少なくともその日のうちに書いてください。無事下山したから大丈夫だと思わずに他の人にも知らせてください。よろしくお願ひします。登られた方もなるべく早めに報告していただければと思います。例会等で徹底してください。またパソコンからだけでなくスマホからでも掲示板に書き込めますので利用してください。

**下山連絡と掲示板 投稿者:松本(28 期) 投稿日:2021/06/06(Sun) 08:27:56**

本題、山野さんの提案をうけ、私の意見もいれて話し合いました。山野さんが心配されたことはわかりますが、私は掲示板に少し違う考えを持っています。だれでもいつでも見れる掲示板は、下山連絡のような緊急の可能性もある情報とは相性が悪いと考えています。私もメールに配信される設定にしていますが、そのメールを2,3日見ないこともよくあります。下山連絡と掲示板、つながることで、逆に下山連絡を掲示板ですます(下山したら掲示板に書き込みます)ような使い方は誰も気が付かず下山が遅れたことを見逃す可能性につながる危険があるのでよくないと考えています。下山連絡は、連絡先に個人的に連絡をすることが原則です。今回はそれがきちんと行われていたので問題はありません。ただ、単独行などの場合は、万が一、連絡先にうまくつながっていないことがあるかもしれませんので、バックアップの意味で掲示板にも書き込むことはいいでしょう。その場合、もちろん連絡先の方が書きこめればいいのですが、何かの理由で書き込まず、また、そのあと忘れてしまうこと

もありますので、基本的には登山者が書き込むというルールがいいかと思います。尾崎さんとはこのような内容で話し合いました。ご意見がある方はよろしくお願ひします。

**緊急連絡先でのお詫びと私見 投稿者:上野 37 期 投稿日:2021/06/08(Tue) 22:39:04**

今回の尾崎君の山行での緊急連絡先を担当しましたが、連絡を受けた後のHPへの書き込みがなされなかったことにつきまして大変申し訳ありませんでした。逆にご心配をおかけしてしまい重ねてお詫び申し上げます。赴任先が少数職場でありトラブルが多く毎日遅くなってしまい帰宅後はそのまま夕食してすぐ寝るだけの毎日なので、なかなか返信ができず遅くなってしまいましたことすみません。例会も出席予定でしたが、呼び出しがわかりかねませんでした。緊急連絡先もいつも山野さんとかに集中してしまっていて申し訳なく思っており、できる時は担当するようにしていました。今回は尾崎君より最終下山日(予定下山日)の17時過ぎ頃にメール、留守電でいただき、私は21時頃にそれを確認し、尾崎君にアンサーバックしました。その後、通常ならばHPにアップするのですが今回は仕事先で確認し、そのまま仕事継続して後でアップしようと思っておりましたが、ちょうどその時は業務上で感情の動揺が大きくなる場面があり、そのまま高揚した感情のまま帰宅して寝てしまいそのままアップすることを失念してしまいました 本当はすみませんでした 今回もそうですが、いつも連絡先になった際には必ず、計画書の最終下山日の時間を確認してその日時を記憶にインプットしてそれまでに連絡があることを確認しています。今回のようなご迷惑をおかけした身分で僭越ではあるのですが、私見レベルではありますが緊急連絡先の責任は最終下山日(時間)に連絡がない場合に西朋会長及び関係者に連絡して事態を共有し、現地に向かう+在宅連絡担当という救助隊結成の動きを開始する発信元(初動)になるということだと思っています。下山連絡後にHPにアップするというのは責任行為ではなく役割(ルール)であるのかなと思っています といっても連絡先になっている場合下山後にHPにアップしているのが通例になっているので私もそれに倣いアップしていました 山野さんが無事下山したのか心配になり連絡先が機能しておらず遭難してほったらかしになっているかもしれないという気持ちになるのもよく理解できますし、かといって松本さんの言われるように下山連絡をHP経由で実施すると万事の場合に救助に動く発信源が曖昧になって初動が遅れるリスクがあります。山野さんのご心配については十分に理解できるが故に、連絡先になった者は忘れずに最終下山日までの当事者の安否を確認するという責任をきちんと理解と再認識するべきだと思いますし、それだけ責任の所在が大きいということを改めて会員間で共有することが大事と思っています その責任を果たしてくれるという信用のもとに、HPへのアップは当事者か連絡先のいずれかが実施するあくまでルールとするというのでいかがでしょうか(当事者でも下山後1日あればアップできると思うので)。反面、西朋の山行なのだから西朋メンバ(少なくとも会長他要職者)には下山連絡がなされるべきだという考えもあるかと思います これは西朋という組織により山行行為が管理されているか否かで認識が分かれると思います。この考えについては西朋山行はそこまで組織として管理しているかといえばそうでもない(西朋としての向かうべき志向の方向性の提示等はなく、自己の意思、思考や計画を尊重する)ので、私は前者の考え(連絡先は最終下山までの無事を確認すること 連絡無い場合に救助に動く初動になる責任を果たすことが第一義)に及んでいます。以上、長文になってしまいましたが今回の件で思いつき考えたことを記しました。といっても皆さんにご心配ご迷惑をおかけしたことについては免れないことは事実であり、改めて深くお詫び申し上げます。

**入山者としてのお詫び 投稿者:尾崎 47 期 投稿日:2021/06/12(Sat) 18:22:33**



まず、私が山に行った本人ですので、この度の事に関しお詫び申し上げます。また、平日にもかかわらず緊急連絡先を引き受けてくださった上野先輩や、頻りに緊急連絡先をご快諾いただいた山野さんや松本さんにお礼を申し上げます。特に今回は、上野先輩には平日に緊急連絡先をお願いすることになってしまい、土日に依頼する以上に負担をかけることも認識していました。また、私はいつも山に行くばかりで、緊急連絡先を引き受けたことはほとんどないことも、申し訳ないと思っています。個人的なことですが、私も、特に5月中旬以降の仕事の圧力は強く、日々動揺しながら、なんとか職務にあたっていました。一方、なんとかして梅雨入り前に、雪の残る山に行きたい、仕事に負けたくないと考え、振替休日等をやりくりして日程を確保しました。そして、下山、帰宅した日は、掲示板への記入についてしばらく認識があったにもかかわらず、以上のような状態もあり、片付け等に追われているうちに失念しました。この辺の事情として、私見や勝手な理屈かもしれませんが、以下を、書かせていただきます。これまで、緊急連絡先への電話により下山連絡し、掲示板への記入は緊急連絡先の方が行う運用になっていた(と思われる)点から、それを飛び越えて、山に行った者が先に掲示板に記入することに遠慮がありました。しかし、そのこと以上に、入山連絡を掲示板にしているのだから、誰からでも、下山連絡を早く行うことの方が大切だと考えなおしました。今後は下山報告が未記載の場合は、私からも記載を徹底したいと思います。特に今回は平日に連絡先を依頼していた点もありますので、その点からも、認識しております。本件は、例会でも議題になりましたが、西朋の各個人によって、とらえ方や考え方に温度差がある印象を得ました。緊急連絡先への連絡とは別に、掲示板へ入山連絡をした場合は、登った本人でも緊急連絡先でも早い方が下山の一報を書き込む、または入山連絡の時点で下山チェックは他会や他のシステムによる場合は、その旨記述しておくなどの運用となりましょうか。山に登った私本人が一番の責任があることだと思いますので、改めてお詫びいたします。

## 頸城：雨飾山

【期日】2021.6.20【参加者】渡辺(21期)、中村(21期)、玉田(38期)

梅雨の晴れ間、雨飾山に登って来ました。今年は、花の咲き始めが例年より早く、シラネアオイはもう終わり加減でした。サンカヨウ、イワカガミ、ヨツバシオガマなどはよく咲いていました。ブナの新緑は見事。帰りも、渋滞なく順調でした。玉田さんは登山口で合流。膝の調子がよくない正俊も快調に登りました。思えば、この山に最初に私が登ったのも、6月に正俊と一緒にでした。(渡辺)

～～～

渡辺先輩の計画に参加させていただき、憧れの雨飾山に行くことができました。本当に素晴らしかった！行けてよかった！ありがとうございました。小雨の中、登山口まで車を走らせるうち、雨もやみちようど良いお天気になりました。登山道は雨でぬかるみもありましたが、うっとりするようなブナ林に、岩と新緑と雪渓のコントラスト、急登を忘れさせてくれるたくさんの花と山菜、森林限界を越えてからの標高2000 足らずとは思えない景色、下山後の開放感あふれる・・・露天風呂。何から何まで大満足でした。帰りの運転は、朝早かったし、疲れもあるし眠くなるのではないかと心配でしたが、素敵すぎてハイな気分で全然眠くなりませんでした。渡辺先輩、ご一緒させていただきありがとうございました！(玉田)

## 山梨の名山：富士山と南アルプス

【参加者】橋本（12期）

新型コロナ感染症患者の急増で緊急事態宣言と8月中旬の悪天候で山行は幾分控えた。山岳地帯を走る道路や歩くコースが度重なる豪雨で寸断されているところが多く、事前に調査が必要だ。山ではマスクをしていない人が大多数だが、早く平常な生活に戻りたいものである。

### ■ 7月5日(月) 富士山吉田口6合目

天気予報では富士吉田市は午前中晴れ、午後より曇りである。早朝の須走、山中湖は強い雨と霧、富士吉田市に入ると晴れ、吉田口馬返しの朝、曇り、霧、微風 18℃、湿度が高い。8:09 出発。1合目 8:19、濃い霧で周囲は暗い。2合目 8:44、太陽が出てきて明るくなる。3合目 9:04、体が重く歩が進まない。4合目井上小屋 9:39、5合目佐藤小屋 10:11、ミヤマオダマキが咲いている。6合目安全センター、体調不十分のためここで引き返すことにする。フジハタザオとオンタデが荒れた砂地の上で咲いている。ミヤマオトコヨモギが着蕾。佐藤小屋 11:09、軽食休憩、井上小屋 11:34、3合目 11:52、2合目 12:02、霧雨、1合目 12:19、馬返し 12:27、旧明大小屋開店、所要 4 時間 18 分。

### ■ 7月20日(火) 観音岳(2849m)

前日、夜叉神峠登山口前で車中泊。20日朝、4:54 出発。快晴、20℃、微風。標高差約 410m を登り夜叉神峠 5:38、堂々たる白峰3山、やや下り道となりその後急坂となるが環境省設置の杖立峠標識 6:46、傾斜がやや緩やかになるがこれが延々と続く。ただし、左手のシラビソ林越しに常に白峰3山が見え隠れする。地図上の杖立峠 7:12、ここからはやや傾斜が増し、涸れ沢のようなコースを通り、やや平坦な樹林帯となり右手から甘利山からのコースが合するとすぐに葎平 8:06 である。付近はバイケイソウの大群落。コースは下りとなり南御室小屋 8:33、水を補給、軽食。小屋付近には鹿柵の中に、ヤナギラン、満開のテガタチドリ、日当たりの良いところにはキバナノコマノツメ、引き続き急坂が始まる。砂払岳 9:32、薬師岳小屋 9:45、タカネビランジ、ミヤマコゴメグサ、ミネズオウなど、薬師岳 9:54、富士山、箒ヶ岳、聖、白峰3山、東の甲州街道越しに八ヶ岳など素晴らしい眺望。体調良く、先を急ぐ。観音岳 10:21、軽食を取りすぐに下山開始、薬師岳 10:50、薬師岳小屋 10:56、大部バテが来た。砂払岳 11:08、南御室小屋 11:45、昼食休憩、元気回復。葎平までは登りだが、歩が進む。葎平 12:23、すぐ前で牡鹿、地図上の杖立峠 13:17、杖立峠では大きな雌鹿、夜叉神峠 14:02、夜叉神峠登山口 14:35。所要 9 時間 41 分。帰途白根町の天笑園で入浴、夕刻帰宅。

### ■ 8月4日(火) 北岳(3192m)

夜叉神峠登山口で 5:40 発のバス、6:20 頃広河原着。快晴、微風、北岳と大樺沢が良く見える。6:27 出発。白根分岐 6:44、大樺沢右岸へ 7:02、左岸へ 7:36、左岸に出るとこれまでと同様に急坂が続くが、さらに強い日射で猛烈に暑い。二股 8:08、高山蝶はいるが羽虫類は少ない。二股付近は今が高山植物の開花最盛期、ハクサンフウロ、イブキトラノオ、ヒメシヤジン、ミヤマハナシノブ、ミヤマゼンコ、キタダケヨモギ、シナノキンバイ、キタダケトリカブト、タカネグンナイフウロ、タカネナデシコなど。大樺沢は雪渓が残っている。左股に入る。八本歯のコルまで標高差約 450m の急坂の連続だが、コル手前では延々と梯子が連なる。右手には大きな北岳バットレス、大分へばって八本歯のコル 10:27、ガスが出てきて急に気温が下がる。ここから吊尾根にかけてタカネビランジ、ヨツバシオガマ、イブキジャコウソウ、タカ

ネツメクサ、ミヤママンネングサなどが咲いている。しばらくはゴロゴロ岩が重なる急坂、ガスは北岳東面だけで西側は晴れている。北岳 11:39、展望は得られず、人も多いのですぐに下山開始、チシマギキョウ、ヒメウスユキソウ、ミヤマミナグサ、イワオウギ、タカネヒゴタイなど。北岳肩の小屋 12:07、肩の小屋は現在木造の巨大な小屋を新築中。小太郎尾根を下る。風通しの良い場所で昼食休憩。トウヤクリンドウ、ウサギギク、シラネヒゴタイが近くで咲いている。小太郎尾根分岐 12:33、御池小屋分岐 12:49、右股を下る。途中斜面はダケカンバとナナカマド、その林床にマルバダケブキが満開で、大群落である。右股を下る約1時間、コース両側に延々と咲き連なっている。これほどの大群落は初めての経験。ほぼ二股まで続く。二股 13:34、大樺沢右岸へ 14:01、少し急下降となるところで右斜面から流下する沢の水で給水。左岸へ 14:32、白根分岐 14:56、広河原 15:09。所要 8 時間 42 分。広河原でも鉄筋の巨大ホテルが新築中。かくして、70歳代最後の山行は無事終了。今回入山する前に七面山に行き、前回のミヤマウズラの状況を観察するため山に入った。羽衣口から入り前回と同様、7～10合目までに小群落で点在し、当日には、大多数の株で5～15cmの花茎を立て5個内外を着蕾(未開花)していた。美しい葉を4～5枚つけ、茎を傾斜しながら立ち上がる様子はミヤマウズラに間違いはない。

#### ■ 8月26日(木) 甲斐駒ヶ岳(2967m)

仙流荘から北沢峠へのバスは8月中旬の大雨で南アルプス林道は土砂崩れ発生、歌宿の手前で一旦バスを降り、徒歩で工事現場を通り抜け、再度シャトルバスに乗り換え北沢峠へ。雨が多量に降ったためか、山肌の木々が美しい。林道のそばではマルバダケブキとヨツバヒヨドリが満開、アサギマダラも多数。カツラの木がわずかに黄葉。北沢峠、朝、晴れ、無風。7:19 出発、長衛小屋 7:26、仙水小屋 7:55、仙水峠 8:27、付近にはハクサンシャクナゲ、セリバシオガマ、ここから樹林帯の急坂が続く。ハイマツが多くなりやや傾斜が緩くなると駒津峰 9:59 である。甲斐駒ヶ岳と摩利支天が圧巻だが、急坂と暑さなどでバテ気味である。駒津峰から少し先で甲斐駒ヶ岳へは直登ルートと右手の摩利支天分岐経由ルートがある。今回は直登ルートを取った。しかしこの直登ルートは大きな岩礫が折り重なり急坂でしばしば腕力が必要で、ここで更に体力の消耗を招いた。甲斐駒ヶ岳 11:27、ガスが発生し仙丈ヶ岳や北岳は見えない。すぐに下山開始、下りは摩利支天方面のコースを取る。山頂から数メートル下ったハエマツの生えたところでライチョウのつがいがいた。駒津峰 12:33、付近は、マルバコゴメグサ、コケモモなどが多く、トウヤクリンドウもある。昼食休憩、双児山 13:22、北沢峠 14:12。所要 6 時間 53 分。北沢峠に到着後すぐに臨時シャトルバスが発車、予定より早く仙流荘に帰着、仙流荘で入浴、茅野、竜王、中央高速経由で 20:00 頃帰宅。

### 飯豊：ダイクラ尾根～飯豊本山～杵杵差岳

【期日】2021. 8. 29～9. 1【参加者】尾崎(47期)

真夏でも、天候によっては低体温症を起こす可能性を体験した。そして、山の天気と一般の天気予報だけでは判断できないという、頭でわかっていることを確認させられた。反省の多い山行だったとともに、これを今後どうすれば生かせるか考えさせられる。8月28日、最終で坂町まで来て、駅の軒先で寝る。ルートは、29日小国～飯豊山荘～ダイクラ尾根、30日飯豊山～御西小屋停滞、31日杵差岳、9月1日権内尾根～大石ダム～越後下関だった。

## 8月29日

快晴だが、ダイクラ尾根は長く急で、アップダウンがある。緊張して登り始めた。登り口の桧山沢吊橋付近の様子も偵察。大休場峰手前の急登の前までは思ったよりなだらかな部分が多かった。この日は宝珠山手前付近まで。

## 8月30日

未明から風雨である。悪天は予想をはるかに上回った。西風が強く、雨の降りは強弱を繰り返した。簡単にびしゃ濡れになってしまう。飯豊本山を過ぎるころには体が冷えてきた。この状態で吹きさらしの稜線歩きはまずいと思い、途中の御西小屋で幕営・停滞することとした。御西小屋の水場を下る斜面は、道端でもジャージャーと流れている。しかし濁っているので水場まで下る。さらに冷えた。真夏でも、セーターに加えネックウォーマーやしっかりした手袋が必要になる場合があることを痛感した。手袋に関しては軍手+オーバー手袋のアウトターで良いかもしれない。寝袋は、さすがに飯豊なのでシュラフカバーのみはまずいだろうと思い、シュラフは持っていた。シュラフが無かったらかなり寒かっただろう。最近、奥秩父や奥多摩の山行が続いた上、東京の暑さで気持ちが緩んでいた。山を甘く見ていたという事である。下界が暑いからこそ、体が暑さモードになっている。だからこそ山では防寒具が必要なのだ。雨具も更新する必要があるかもしれない。

## 8月31日

前の日の停滞分を取り戻すべく、3:50に歩き始める。この日は朝から晴れると期待したが、午前は稜線はガスに覆われ続けた。山の天候回復は遅れることが多い。12時ごろ、頼母木山付近からようやく晴れた。頼母木小屋の親父さんはどう見ても飯豊を知っているように見えた。今回の飯豊山行の目的は、鉾立峰西尾根の最上部を偵察することも含んでいる。鉾立峰は杵差岳と頼母木小屋方面との間に余計な登り返しをつくるピークである。この西尾根は5月や6月上旬ごろ面白そうだ。その末端は胎内側右岸であり、ここからは大樽山を経て北に向きを変え鳥坂峰を起こしている。先の推測は的中し、いろいろ情報を教えてくれた。鉾立峰直下の段差は容易だそうだ。大樽山東のコルは、3月頃は雪の残り方が悪いらしいが、5月くらいなら大丈夫だろう、とも教えてくれた。確かに、鉾立峰西尾根最上部の段差は北側から容易に下り、登り返すこともできた。写真に納めて杵差岳に向かった。【鉾立峰西尾根は、2022年5月に佐々木・尾崎でトレースできた。頼母木小屋ご主人にも再開し報告できた。2021年の私の鉾立峰偵察の姿を眺めていたそうだ。】杵差岳には14時半前に到着した。偵察もでき、憧れの杵差岳で幕営できたのは幸せだった。朝日連峰の以東岳とともに、連峰北端の孤峰であり、訪れる人が少ない山として共通点を感じている。2000年夏に大熊沢を遡行し杵差岳に登ったのが懐かしい。大熊小屋への山道は、今や完全に廃道のようなものである。

## 9月1日

早朝からポツポツ降っていた。幸い権内尾根では風はなく、大降りにならずに済んだ。林道歩きはやや長い、11時前に大石ダム下のバス停に到着した。しばらくしたら、前の日まで門内の小屋番をしていたという方に車に拾ってもらい、いろいろ話を聞きながら越後下関まで送ってもらう。越後下関駅から15分くらい東にある、雲母温泉上関共同浴場は良いらしい。コロナ対策のため、残念ながら地域外者は利用不可とされていた。駅でしばらく待ち、災害前の米坂線を、米沢経由で帰京した。

## 南アルプス/WC：大門沢～池ノ沢～雪投沢～北岳～広河原

【期日】2021.9.22～25【参加者】尾崎（47期）

### 9月22日

下部温泉 7時半のバスで奈良田まで来たら、広河原行のバスがあつて驚く。歩いて30分くらいがなんとなく飛び乗った。大門沢の登山道を登り、稜線の大門沢下降点直下の窪地状平坦地で泊まる。到着時刻からして広河原行のバスに乗って正解だった。夜半に時雨れた。

### 9月23日

予想の通り冷え込み、西風が強い。広河内岳への登りではオーバー手袋を要した。広河内岳で沢靴に履き替え、まず白峰南稜に入ってから右カールに下って行くと、場所により道型がある。緩やかだがいぶ下って標高2500mくらいに幕営跡があり、すぐ後左岸に水があつた。流れが顕著となり、広くなったと思うと池の沢池。この上流側も泊まるに良い感じだ。右岸から巻いて下り続けた。この辺りで水は多い感じを受け、大井川本流を横切るのに問題はないか不安になる。大井川の手前で廃墟状態の池の沢小屋を見る。渡渉は問題なく一瞬で済み、対岸の雪投沢に入った。少し荒れ気味な感じだ。2170m付近で左岸に合流する沢がある。雪投沢遡行でルーファイミスをしたというインターネット記事はこの沢だろうか？やがて正面に蝙蝠岳からの尾根が迫り庭園のようになってきた。ここで泊まりたい雰囲気だ。右に窪を詰めるべきか、もう少し本流に行くべきか、判断が難しい。ここは2560m付近だから、たぶん、緩やかな正面の誘惑に負けず右の窪状の急登が正解だろう。半信半疑で登り始めると、やがてゴミなどが散見され始める。ゴミとはいえ、道標となって安心した。ハイマツをくぐる窪から、左に登った跡を見つけると、カールの中に踏み跡が続いた。左から巻くようにして、雪投沢源頭の旧テント場に導かれた。稜線を空身で見て来てから、ちょっと隠られる場所にて幕営させてもらう。

### 9月24日

今朝も稜線に出ると西風が強い。北荒川岳西側の崩壊はすさまじかったが、稜線と東側の牧歌的な様子は良い。熊ノ平小屋北側もそうだった。間ノ岳では東面の弘法小屋尾根を見下ろした。1999年末の冬山合宿のルートだ。北岳に向かい歩くと、北岳山荘のスタッフだという女性に会った。コロナで小屋が閉まっていることを知らない登山者が遭難しないようにパトロールしているとか言う。聞けばテツ場さえも利用禁止だと言う。東面に下った昔の北岳小屋跡(今の水場)まで下ってテツ場かとも思ったが、そちらでもパトロールに会うと嫌だ。その後もパトロールは複数いた。15時近い時間だったが、もはや北岳肩の小屋まで行くしかない。北岳頂上付近は土地勘もあるので、走るように進むことができた。北岳の頂上では登山者が和やかに秋山を楽しんでいて、よい雰囲気だった。無駄に焦っていたようだ。肩の小屋はこのあたりで唯一幕営が可能な場所だが、テツ場はさほど混雑なく助かった。

### 9月25日

小太郎山の往復は、アップダウンがあつて遠い。小太郎山からの北岳は旗雲をなびかせていた。草すべりを経て大樺沢沿いに下ろうとしたが通行止めで、白根御池小屋を経由した。昼過ぎになっても広河原から登ってくる人は多く、白根尾池小屋もテツ場も閉鎖の中、上に着くのは何時になるのだろうと思つた。

## 九州・祖母傾山系：九折登山口～傾山

【期日】2021. 10. 3【参加者】山田（34期）

### 九折登山口 602-734 三ツ尾 740-930 傾山 1000-1045 九折越 1050-1220 九折登山口

昨年の祖母山から遠望された傾山登山。前日は由布岳に登り、同じ豊後三重のビジネスホテルに宿泊。三つ坊主コースはトラバースの赤布が変なところにもあり、少し消耗した。岩場自体はそれほどでもなかったが、本傾の登りの梯子前が木の根だけ空中にぶら下がった状態で少し怖かった。頂上岩壁からの眺めは最高。

## 奥秩父：青笹尾根～黒金山～国師ヶ岳～金峰山

【期日】2022. 1. 8～10【参加者】尾崎（47期）

1月7日、山梨市からの最終バスで天科へ、21時前に神社の裏で幕営し、ひと心地ついた。

8日、青笹集落からの黒金山取り付きは、川の左岸の道に気づかなかった。右岸林道を行ってしまい、砂防ダムを左から超えたところで渡渉。その後も尾根に乗るまで右往左往した。1720m付近で右に小屋跡を見るところに水場があった。1800mごろから雪が続いたが、南面なので踏む程度だ。スローペースで黒金山14時半、大ダオから少し進んで幕営。ここも雪はふりかけ程度。

9日、トレースはシラベ平を過ぎてから無くなる。まだラッセル未満だと思っていたら、ほどなくして急に深くなる。北奥千丈岳と国師岳分岐まで、ラッセルが加わり本当に長かった。2021夏に来た時も同じ感覚だったので、自分の地図の読み方のクセなど何かあるのだろうか。国師の主稜線にトレースが無いと厳しいなと思った。なさけない。国師分岐に来たらトレースはぼつちりで、今度はちょっと拍子抜け。国師岳頂上を往復し、大弛峠から金峰山方向はさらにトレースは太い。林道から登ってきたのか、金峰から大弛小屋までの往復か。大弛小屋は営業しているか判らなかつた。黒木と夕焼けの対比が美しい。

10日、誰もいない金峰山頂上は、中部山岳オールスター全員集合の大展望。でもこの条件でないと、聖岳は登れないかなと、ちょっと無力を感じた。五丈岩の途中まで登った。そのうち多くの登山者がやってきた。下りの道こそ弾丸トレース。ルート上の雪はアイゼンもピッケルも不要だったが、みんなアイゼンやチェンスパイクを使用しており、キックステップで歩くのは廃れているのか。こういう道はアイゼンで下ると、一步一步スライドできないのでかえって歩きづらいと思うのだが。瑞牆山荘からは車道を歩き、増富バス停には14時45分ごろ到着。

## 上越：西黒尾根～谷川岳～茂倉岳～茂倉新道

【期日】2022. 12. 11～12【参加者】佐々木（46期）、尾崎（47期）

2021年末に尾崎・佐々木パーティで聖岳～上河内岳を縦走する計画を立てていたの、準備山行として、11月～12月に日帰り～一泊程度の山行を2回行うこととした。11月21日にも谷川岳にロープ

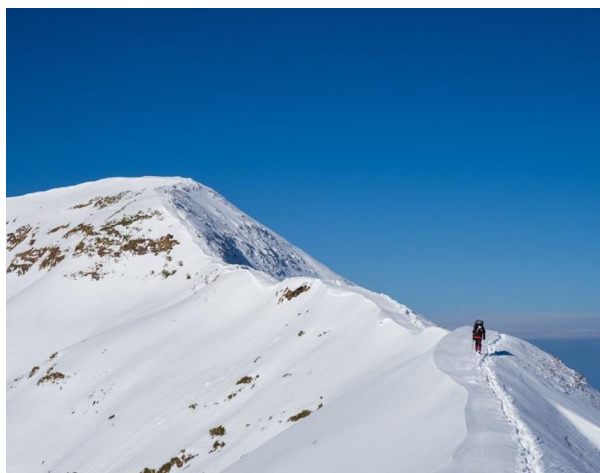
ウェー→天神尾根→西黒尾根というルートで日帰り山行を行ったのだが、雪が全くないという予想外の状態で、準山の目的が達成できなかった。そこで、12月11日～12日に西黒尾根→谷川岳→茂倉岳→茂倉新道という乗っ越しルートで谷川岳を再訪した。

### 12/11 曇り～雪 土合駅～西黒尾根～谷川岳肩ノ小屋(幕)

朝一の列車で土合駅に8時40分に集合し、早速歩き始める。トレースはあったが、さすがに日本三大急登の一つに数えられるだけあり、キツイ。今日中に肩ノ小屋までは行くのは大変だな、とも思ったが、尾根上に幕営可能な平坦地はほとんどなく、唯一テントが一張～二張程度張れそうな1516のポコには先客がいたという。昼過ぎから雪も強くなってきたが、仕方がないので肩ノ小屋まで頑張って上がることにする。1516のポコまではトレースを使いつつゴツ足で上がったが、そこからは稜線が細くなり、傾斜もキツくなる。1時間ほど進み、1600m付近でアイゼンを履く。そこで初めて気が付いたのだが、尾崎氏、なんと今でもバンド締めめのアイゼンを愛用している。佐々木は大学生の時にワンタッチアイゼンに乗り換えてしまったが、とても懐かしく感じた。谷川岳の肩に上がったのは15時を回った頃だったが、風雪が強く視界も悪い。コンパスを切りながらなんとか肩ノ小屋を見つけ、小屋の隣にテントを張った。

### 12/12 曇り～快晴 谷川岳肩ノ小屋～谷川岳～茂倉岳～茂倉新道～土樽駅

朝食で錦松梅雑炊を初めて食べたが、非常に美味しかった。6:00 アイゼンを履いて出発。まだ暗く、雲も残っているが、朝焼けが美しい。30分ほどでトマの耳に到着。そのまま進み、7:00 オキノ耳に到着。先客がいた。小屋に泊まっていた登山者だろう。南西方向に朝陽に映える浅間山がよく見える。ここからは天候がドンドン回復し、茂倉岳に着く頃には快晴に。北方に見える越後駒ヶ岳、巻機山が神々しいまでに輝いている。茂倉岳10:00着。茂倉岳で大学山岳部らしきパーティがアンザイレンでやってきた。雪訓だと思うが、随分厳しいリーダーのようで、水は一口だけだぞ！と指示を出している。今でもこういうスタイルで登っている若者がいるのだな、と嬉しく感じた。茂倉岳からは茂倉新道をひたすら下る。雪が少なく、途中で佐々木のグリベルのアイゼンがヤブに引っかけて外れて落とすという失態があった。グリベルのバンドは外れやすいのでカジタの鱧口がついたバンドが良い、という話を大学の後輩から聞いていたのだが、その通りであった。雪は1000m付近まででその先は無雪の夏道歩きとなった。



快晴の空の元ノ倉岳に向かう

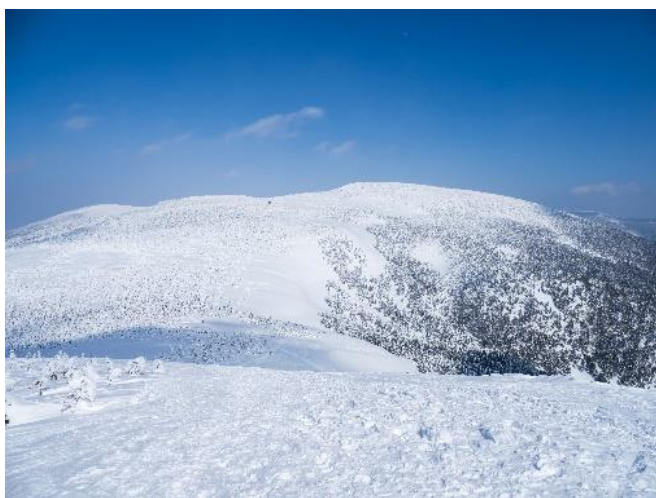
## 吾妻連峰：グランデコスキーリゾート～西吾妻山～天元台高原

【期日】2022. 3. 12【参加者】佐々木（46期）

2021年末の聖岳山行で右手首を骨折してしまい、正月明けの1月4日に手術を受けたのだが、術後の経過が良く、2月も下旬に入ると、元の生活をして構わない、骨折前の硬度に戻っているので右手

首への負荷も気にしなくて良い、という診断がなされたので、山行を再開することとし、3月中旬に47期尾崎氏と大佐飛山地を縦走することにした。しかし、元の強度に戻ったとは言え、完全に元通りに動くようになったわけでもなく、手首の可動域は骨折前の7割程度で、6月まではリハビリを続ける必要がある、という状態でもあるので、いきなり大佐飛山の縦走に行くというのも少々不安である。そういうことで、リハビリを兼ねて、日帰りで行ける手頃な山でもある西吾妻山に1人準備山行を行った。西吾妻山をチョイスしたのは、とりあえずピッケルを使わずに登れる山、という点と、この時期のスノーモンスターを見たかったという2点から。

朝一の新幹線で郡山駅に向かい、磐越西線に乗り換えて猪苗代まで。そこからグランデコ行きでスキー場まで。スキー場着が既に10時半を過ぎており、リフトを使って先を急ぐ。天候はほぼ快晴。余談だが、磐越西線、郡山発7:31の普通列車が磐梯熱海止まりなのが痛い。始発のやまびこに乗れば郡山に7:23に着けるのだが、結局8:29発会津若松行きの快速まで待つことになる。



**西大顛から西吾妻山方向  
なだらかな尾根に見事な樹氷が広がる**

ともあれ、コースタイム的にはグランデコ側リフト終点から天元台高原駅までは約5時間であり、リフト終点着が11:30。ノンビリもしてられないので、ワカンを装着してさっさと歩き出す。適当に歩き始めたが、雪が十分に締まっており、ラッセルはくるぶし程度。程なくしてトレースを発見したが、風の影響でそれほど明瞭ではない。西大顛まで上がるとスキーのトレースも確認できた。西吾妻山の直下からは見事な樹氷となる。14:20ピーク着。ピークで天元台方面から上がってきた単独行の登山者に会う。

ピークからは梵天岩を経て中大顛までなだらかな尾根に行く。あまりにもガラガラした尾根なので視界がないと天元台スキー場への降り口がわからないかもしれない。中大顛からスキー場までは夏道沿いに赤布が打ってある。スキー場には16:00時着。そこからはスキー場の縁を下り、ロープウェイの天元台高原駅まで。天元台駅16:20着。

天元台高原駅からはロープウェイで白布温泉へ。白布森の館という公営の日帰り温泉で風呂に入ってからバスで米沢駅へ。米沢からは夜行バスまで時間があつたので、何となくかみのやま温泉に向かう。23:00の夜行バスの時間まで居酒屋で時間を潰したが、居酒屋も22:00で追い出されたので、その後寒くて難儀した。なお、かみのやま温泉の高速バスのバス停は2023年12月で廃止されてしまったようだ。高速バスのバス停なのに道沿い標識がぼつんと立っているだけのバス停で、深夜にこんなところから乗る人もいないだろうとは思った。



## 男鹿山塊：日留賀岳～大佐飛山

【期日】2022. 3. 18～22【参加者】佐々木（46期）、尾崎（47期）

西吾妻山の翌週、47期尾崎と男鹿山塊の日留賀岳～大佐飛山の2人春山合宿を行った。3/18は男鹿高原駅で前泊し、19日から22日までの行動4日の行程。男鹿高原は無人駅で21時の最終の後には自動で消灯されるため、ホームの待合室で駅寝ができる。

### 19日 曇り 男鹿高原駅(7:00)～横川～1618(14:30 幕営)

横川の集落からウダが沢と紅藤沢の間の尾根を上がる。稜線に上がるまでは気温が高く、木の枝から水滴が滴り落ちていた。途中、横川で地元の方にとどこまで行くのかと話しかけられる。日留賀岳と大佐飛山を越えて塩原に抜けるという、キミたち面白いことやるね～と褒め感心された。終日ワカン。主稜線の1618mで幕営。



### 20日 雪～曇り時々晴れ 1618(7:00)～日留賀岳分岐(9:00)～日留賀岳(9:20)～日留賀岳分岐(9:35)～鹿又岳(12:00)～瓢箪峠(14:00)～大佐飛山西側 1622 付近(15:30 幕営)

朝から吹雪。稜線上は所々吹きだまりが5mほど塔のように盛り上がり、南側には5～6m雪庇が張り出している。ワカンで出発したが途中でアイゼンに履き替え、気を遣いながら歩く。日留賀岳から鹿又岳の間は吹雪で視界が悪く、風も強く、前日までの春山ムードが嘘のような厳冬期の様相。その後天候は回復し、14時頃に瓢箪峠に着く頃には晴れ間も見えた。鹿又岳を越えて尾根が太くなったあたりでワカンに履き替える。15:30に1622m付近に到着。幕営。

### 21日 晴れ 1622(6:00)～大佐飛山(9:30-9:50)～黒滝山～1100m 付近(16:00)

朝から快晴。可能なら今日中に下山したいということで早めに出発する。大佐飛山への登り返しが思ったよりしんどい。1時間半かけて登りついた1870mピークからは東に大佐飛山への雄大な景色が広がる。大佐飛山は樹林の中の静かなピーク。展望はないが、この時期にしか踏めないピークでもあり、達成感はある。大佐飛山周辺は天空の回廊と称される快適な尾根歩き。まるでスキー場のように尾根上の樹林が薄く、非常に歩きやすい。展望も良く、那須の山脈がよく見えるが、山頂付近は残念ながら雲に

隠れている。黒滝山を経て先を急ぐが、最終のバスにギリギリ間に合いそうにないということで、積雪がなくなる直前の標高 1100m 付近で幕営する。この日、夕食で「鳥中華」という山形の棒ラーメンを食べたが、非常に美味しくて驚いた。「鳥中華」は日本そばのつゆにラーメンを入れた山形の名物料理だが、嫌う人は非常に嫌うマルタイの棒ラーメンに比べると、おそらくこれを嫌う人はいないのではないかというままであった。



大佐飛山へと続く天空の回廊を行く

## 22日 曇り 1100m 付近(4:30)～穴山バス停(7:00)

穴沢のバス停 7:07 発の朝一のバスに間に合うよう、朝食をスキップして 4:30 に出発。うっすらと雪が積もる夏道を下山。昨年末の聖岳の林道での骨折の件があったので、今回はチェーンアイゼンを持参したので、試しに使ってみたが、雪と落ち葉がアイゼンにまとわりついてすぐに高下駄になってしまう。春の雪には不向きなのかもしれない。穴山のバス停には 6:30 過ぎに到着。黒磯駅までバスで行き、尾崎は仕事の関係でそのまま東京へ。佐々木は黒磯駅東側 2km ほどの場所にある皆幸の湯という日帰り温泉でひとつ風呂浴びてから帰宅した。(佐々木)

## 越後・魚沼：浦佐拠点の雪山低山、山崎鼻登山口～長森山～堂平山～猿倉山～ 592 ピーク～山口集落北部、浦佐普光寺～高山、無黒山、坊谷山 【期日】 2022. 3. 23～26 【参加者】 岡田 (30 期)

バリエーションハイキング等の著書で知られる打田さんがよく紹介している魚沼地方の雪山低山を、浦佐駅前のビジネスホテルを拠点に日帰りで幾つか登った。このところ体調も良く今年は積雪が多いのでチャンスかと思われたのだ。そう言っても3月も下旬では標高が低いと雪が落ちている個所も多かった。でも短時間で人がいない静かな雪山を楽しむのは良かった。

まずは以前、六万騎山から縦走を目指したものの雪が少なくて登山道のある長森山までで断念した、堂平山～猿倉山を目指す。「八海山」酒蔵そばの登山口に駐車、前回下山した道を長森山へ登る。トレースは無かったが、雪は割と締まっていたので坪足で進む。長森山から先、雪は安定していて多少痩せてはいるがそれほど問題はない。堂平山を越えて猿倉山直下の急斜面が難所。左へ巻いてもあまりよくなさそうなので直登を選び、部分的には垂直に近い所を木をつかんで強引に登り 688m の頂上へ出た。この先は緩やかな雪面の斜面が広がり楽に下れそうに見える。八海山を眺めながらのんびり休んで、念願の山頂に到達できた喜びにしばし浸る。

下りは出発地に近い方へと南側の尾根を下る。雪が多いといっても尾根の雪は落ちていて左側をトラバースする。592m ピークから東方向へ尾根を進むつもりが、違う尾根に乗ってしまい急斜面の藪漕ぎになってしまう。眼下には集落も近くに見えるので強引に下り苦労して川岸に降り立った。雪山はそう甘くないことを思い知る。山頂から東の広い尾根を大回りして林道に出た方が楽だったかも。除雪されてい

ない農道から車道に出て駐車地までも結構遠く疲れた。

2日目の朝は小雨が止むのを待ってゆっくり出発。浦佐駅裏の普光寺からスノーシューで夏道のルート高山483mへ登った。頂上手前の急斜面はちょっと苦労しピッケルを使った。尾根を周回して浦佐スキー場へ下るルートも紹介されているが、山頂から観察すると尾根の急斜面に雪が無い所があり、昨日苦労したこともあり無難に往路を戻った。早く下山したので桂山と坊谷山の登山口を確認しに行った。



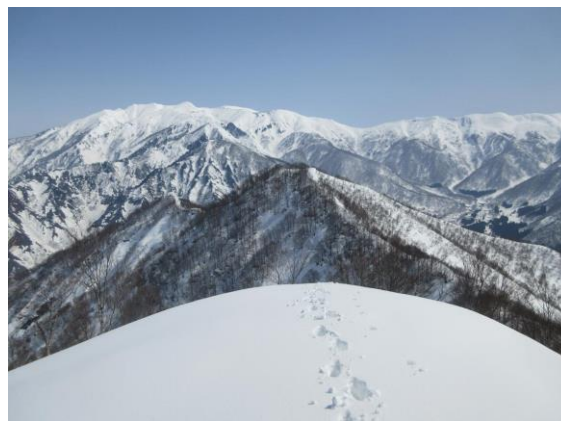
堂平山から猿倉山と八海山を望む

3日目は晴れたので、少し離れた清水までドライブして積雪期限定の無黒山1050mを目指す。巻機山を目指す登山者がいる様だが、無黒山へ向かう人はいない。スノーシューを履き、牧場跡の平原から登り口を見定めて尾根に取りつき1050mピークへ。同じ高さの無黒山へ鞍部まで下り、登り返しには急なところがあり、途中でスノーシューをデポして坪足で山頂へ。谷川連峰の手前に大源太山から延びる尾根がちょっと邪魔であるが、巻機～朝日の真っ白な稜線が印象深い。下山は1つ東側の尾根を下った。何か所か急な段差を滑り降りたが概ね歩きやすかった。

最終日は天気が下り坂で、半日コースの坊谷山へ。標高300mほどながら雪山の雰囲気は充分ある。3つのピークを歩いて、龍谷寺など見物しながら登山口へ戻った。なお浦佐駅付近は何も期待してなかったわりに、地元で人気の郷土料理レストランや素朴な温泉があつて連泊するのに悪くない所だった。



1050mピークから無黒山へ続く尾根



無黒山では巻機～朝日方面の真っ白な稜線が印象的

## 2022年早春、丹沢・道志の山々

【参加者】 橋本（12期）

コロナオミクロン株の感染力の様子を見極めるべく、いくぶん山行を控えた。体が動くうちは尾根歩きを続ける。

### ■ 1月4日(火) 蛭ヶ岳(1673m)

大倉尾根や戸沢山荘から日帰りの蛭ヶ岳往復は体力的にもう不可、北側から登るコースとして釜立林道がある。上青根地区のまちはずれから釜立林道に入るが、林道にゲートがあり、その200m位手前に車をP、出発する。昨年と同様、八丁坂ノ頭直登コースをとる。登山口 8:17 出発、快晴、微風、1℃。途中古いベンチ 8:58、モノレール交差点 9:17 があるが、コースは地形的特徴や沢の徒渉など全くなく、淡々と標高差約 700m の急坂を登る。コース右側に小屋戸沢、谷越しに袖平山北尾根があるがコースは西側が開け、強い西風にさらされる。標高 800m 位から上で、強い西風が吹き付ける。八丁坂ノ頭尾根は北西に延びており、午前中は殆ど陽が射さない。八丁坂ノ頭分岐(縦走丁字路) 9:52、姫次 10:11、小休・軽食。八丁坂ノ頭登りのコースはアカマツが多いが、縦走路はブナが多くなる。姫次から少し下り、原小屋平 10:30、地藏平 10:38、周辺は美しい広葉樹林帯。引き続き強風。蛭ヶ岳手前の長い登りの木道では強風で歩行困難もありバテ気味。蛭ヶ岳 11:38、東京、横浜、筑波山、宮ヶ瀬湖、大島、利島、富士山、丹沢の山々、強風のためすぐに下山開始。地藏平 12:34、原小屋平 12:43、姫次 13:01、八丁坂ノ頭分岐 13:16、5分ほど尾根を進んだところで昼食。モノレール交差点 13:44、古いベンチ 13:55、登山口 14:23。所要 6 時間 06 分。

### ■ 2月7日(月) 檜洞丸(1601m)

このところ寒さが厳しい。西丹沢Vセンター 8:42 出発。快晴、微風-2℃、殆ど雪はない。ゴウラ沢出会 9:22、ミツマタの蕾はまだ固い。ミヤマシキミの緑が目立つ。展望台 10:06、石棚尾根から射す日光が暖かい。野鳥の声が多い。石棚山尾根丁字路 11:09、檜洞丸 11:24、軽食休憩、南アと富士山。すぐに下山開始。石棚山丁字路 11:42、展望台 12:18、ゴウラ沢出会 12:49、西丹沢Vセンター 13:24。所要 4 時間 42 分。

### ■ 3月4日(金) 今倉山(1470m)

登山口の道坂トンネル西側のPに車を止め、9:04 出発、天気曇り、時々小雪、0℃、微風。山は北斜面は雪が残っているが南東に面した斜面には雪はない。縦走丁字路 9:17、ここから北に張り出した尾根を登る。途中いくつかの小ピークを越え、今倉山 10:03、小休後すぐに下山開始。縦走丁字路 10:30、聞くとところによると、今倉山東面斜面一帯は深刻なナラ枯れが発生しているとのこと。登山口 10:39。所要 1 時間 35 分。

### ■ 3月25日(金) 加入道山(1418m)

道志の湯の少し先にPがあり、近くが登山口。10:41 出発、快晴、微風 14℃。ミズナラ、コナラ、アカマツの緩やかな登り道。11:09 東屋、近くの湯花ノ沢で水補給できる。ここから徐々に急坂が始まる。ブナが多くなる。標高 1100m 付近から上でコースに雪が残っている。縦走丁字路手前の急坂で一部崩落箇所があるが問題ない。丁字路 12:26、加入道山 12:34、小休、軽食。丁字路 12:47、東屋 13:25、登山口 13:45。このコースは登山口から縦走丁字路まで標高差約 750m でかなりタフであるが、途中富士山も見え、静かな山旅が楽しめる。所要 3 時間 04 分。

# 2022 年度

会長	青谷 知己
チーフリーダー	尾崎 宏和
サブリーダー	佐々木 新
会計	上野 利之
都岳連関係	上野 午良
記録・会報	尾崎 宏和
	中村 正俊
装備	灘吉 聡
西高係	山野 裕
	博多 誠
ホームページ係	灘吉 聡
シニア山行係	松田 稔
	黒澤 隆
例会(リモート)係	山野 裕
	尾崎 宏和

## 御坂、身延、大菩薩

【期日】2022.4月～5月【参加者】橋本（12期）

### ■ 4月2日(土) 鬼ヶ岳(1738m)

3月に降った雪は富士山や道志、御岳山地に多く残っている。富士吉田市周辺の山は雪に覆われている。登山口の根場の朝、3℃、快晴、微風。9:04 出発。キブシの雄花が咲き、早春である。しばらくは針葉樹林帯を歩くので雪はない。堰堤を越えると長いダラダラ坂が続き、急坂が始まると同時に広葉樹林帯となる。ブナ、ミズナラ、アカマツ林である。アセビの樹林帯を過ぎると傾斜がさらにきつくなる。標高 1500m 付近から徐々に雪が多くなるが新雪でトレールもありアイゼン不要。11:04 雪頭ヶ岳、その北側は金山方面への三叉路を左に入り、急降下で着雪にも注意。ハシゴを越え、そのすぐ先が鬼ヶ岳である 11:27。八ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、南ア全山、富士山と素晴らしい光景。軽食を取りすぐに下山開始。雪頭ヶ岳 11:46、根場登山口 13:02。所要 3 時間 58 分。

### ■ 4月8日(金) 御坂山(1596m)

登山口の天下茶屋の朝、9℃、快晴、微風。9:18 出発。高度差約 140m の坂を登り縦走路へ。9:37 御坂峠、雪はない。いくつかの小Pを越えて御坂山の登りに入るところから積雪 5～10cm、御坂山 10:07、この先は馬の背状の尾根で雪が多くなる。トレールはあるが所によりラッセルが必要。御坂山を下るとすぐにブナとクヌギの巨樹あり。ラッセルが多くなり疲労感が出たので、旧御坂峠 10:41 到着後にここで引き返すことにする。御坂山 11:20、御坂峠 11:45、天下茶屋 11:45。

### ■ 4月20日(水) 十二ヶ岳(1683m)

富士五湖の西湖付近は晴れている。登山口の桑留尾の朝、9℃、晴れ、微風。9:05 出発、やや急な坂が始まる。文化洞トンネル方面の標識丁字路 9:25、周辺はアカマツ林にミズナラ、ブナなどの落葉樹林帯で、その間にクロモジ、キブシなどの低木類が新芽を出し手美しい。マメザクラ開花。勾配がやや緩くなると針葉樹林帯に入り、これを抜けると急坂になる。標識に地藏と書かれた地点 10:13、再び傾斜は緩くなるがすぐに崩落気味の急坂が始まり、多くはロープが張ってある。ニリンソウやタチツボスミレ多い。天気は好転し、暖かくなる。十一ヶ岳からのルートを右に見て合するとすぐ先が十二ヶ岳である 10:51。展望は得られず、軽食を取ってすぐに下山開始。地藏 11:23、文化洞方面丁字路 11:51、桑留尾 12:04。所要 2 時間 59 分。

### ■ 5月6日(金) 黒岳(1988m)

大峠の朝、15℃、晴れ、微風、富士山が素晴らしい。8:17 出発。峠からまず右手に入り、雁ヶ腹摺山を目指す。水場の手前右手にタチツボスミレと不明スミレ。山頂手前ではエイザンスミレとヒメスミレサイン？あり。雁ヶ腹摺山(1874m)9:00、周辺の落葉樹林は一斉に新芽を出し美しい。大峠 9:43、引き続き峠の左手、黒岳に向かう。山頂から東に延びる馬の背状の尾根を登る。標高 1850m 付近からアセビの低木と倒木帯となるが、満開のミツバオウレンとバイカオウレンがコース両側に延々と続く。黒岳 10:53、小休後下山開始。往復とも途中の赤岩の丸は割愛。大峠 11:38。所要 3 時間 21 分。

### ■ 5月11日(水) 毛無山(1946m)

登山口の朝霧高原、麓地区の朝、14℃、晴れ、微風。8:07 出発。全山新緑で心地よい。1～2

合目にカンアオイ、2合目の少し上、不動の滝見晴台 8:36、林床斜面で陽が当たるところにタチツボスマレ、その他不明のスマレ2種、5合目 9:26、エイザンスミレ、キランソウが咲いている。急坂が続く。富士山展望台 10:32、縦走丁字路 10:41、毛無山 10:51、マメザクラ満開。軽食を取り下山開始、縦走丁字路 11:07、5合目 11:47、滝見晴台 12:20、麓 12:45。所要 4 時間 38 分。

#### ■ 5月20日(金) 七面山(1989m)

七面山にはこれまで3~4月の早春に登っており、今回初めて5月に入山した。木々の新緑が素晴らしく、多くの高山植物に出会えた。登山口の羽衣の朝、15℃、晴れ、無風。7:33 出発。7~10丁目で昨年確認したミヤマウズラは、今年はやや個体数が少ないが、小群落で確認できた。13丁目肝心坊 8:10、23丁目中適坊 8:36、30丁目付近からネコノメソウ、キッコウハグマ、クワガタソウ。36丁目青雲坊 9:27、シャクナゲ満開、未開花だが花梗を伸ばしているクリンソウ数十株、40丁目くらいから多数のタチツボスマレ開花。山門 10:10、敬慎院 10:15、春霞で富士山見えず。この先は新緑が素晴らしいカラマツ林。林縁には白いコミヤマカタバミ多数。マイヅルソウ、オサバグサなど。七面山 10:58。山頂はカラマツの幼木。軽食し下山開始。ナナイタガレをのぞく。敬慎院 11:33、山門 11:36、青雲坊 11:56、中適坊 12:24、肝心坊 12:40、登山口付近で見事なクジャクシダ数株。羽衣登山口 13:05。所要 5 時間 30 分。

#### ■ 5月26日(木) 小金沢山(2014m)

国道 20 号線笹子トンネル付近はニセアカシアが満開で見事。甲斐大和から県道 215 号に入り上日川ダムの先で日川林道に入る。登山口は標高約 1600m。13℃、晴れ、微風、8:46 出発。ホトギスの声。階段付きの急坂を登る。タチツボスマレ多数咲いている。ミズナラ、アカマツ林が続く。枯木帯を過ぎると牛奥ノ雁ヶ腹摺山(1990m)である 9:40。山頂の北側に広がる笹原で小休。小金沢山 10:13、展望なくすぐに下山開始。牛奥ノ雁ヶ腹摺山 10:44、登山口 11:24。所要 2 時間 38 分。

### 飯豊/VR : 鳥坂峰~鉾立峰西尾根~杵差岳~西俣峰 【期日】2022.5.3~6【参加者】佐々木(46期)、尾崎(47期)

5月の残雪期に飯豊連峰の西から東への全山縦走を目指して、鳥坂峰~飯豊本山の山行を計画した。この山行の核心は鳥坂峰~鉾立峰の鉾立西尾根である。飯豊の尾根という尾根をほとんど登り尽くした尾崎のたつての希望でこのルートが選定された。結果的に家庭の事情等で地神山までで山行を打ち切り、西俣ノ峰経由で梅花皮荘に下山することにしたのだが、この年は雪解けが早く、鉾立西尾根で大変なヤブ漕ぎを強いられたこともあり、極めて充実感のある山行となった。

#### 5/3 曇り 中条駅~ロイヤル胎内パークホテル~胎内第一発電所~鳥坂峰北西 750m 付近(幕)

朝一の新幹線で新潟へ行き、いなほに 1 号に乗り換えて中条駅まで行き、ロイヤル胎内パークホテル行きの「くるっと胎内」という無料バスで終点まで。そこから 2 時間程度車道を歩き、胎内第一発電所から尾根に上がる。発電所 11:30 着。発電所に下ってくる導水管沿いに歩道があるのだが、導水管に上がる登り口がややわかりにくい。導水管を上がりきると、踏み跡があり、ほぼヤブ漕ぎのない尾根歩きとなる。695m 小ピークを下った鞍部は流れがあつて幕営の誘惑あり。偵察に徙

い一段上がると、標高 700m 付近から雪が出てくる。新緑が始まった 765m 台地で幕営する。16:30 着。



4月3日、偵察時の鳥坂峰より。真ん中左が杵差岳、右のスカイラインが鉾立峰西尾根。  
この時点で5月の杵差へは深いヤブを予想した。そしてそれは的中した。

#### 5/4 晴 鳥坂峰～大樽山～1146m標高点

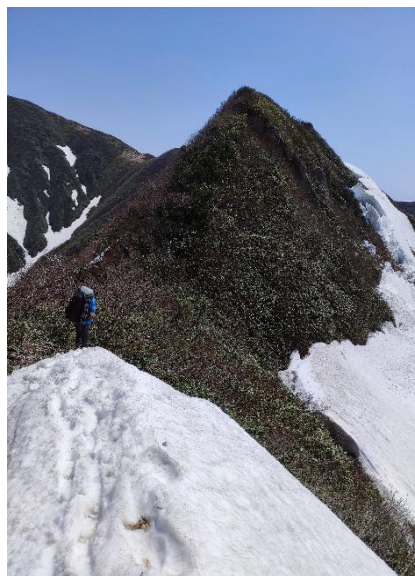
鳥坂峰を越えて大樽山へ向かう。尾根上は東側に雪が残っているが、西向きの斜面に雪が少



ない。全体に雪は少ない。975m ピーク手前は偵察時のほうが残雪状態は悪かった。今回も右へトラバースして突破する。所々にマタギがつけた杣が残る。南北方向の尾根では東側の雪庇上を快調に歩けるが、先に見える東西方向に延びる鉾立西尾根が黒々としているのが非常に気になる。大樽山には数日前のものと思われる 10 人くらいの幕営跡があった。大樽山からは尾根が東西方向に変わり、猛烈なヤブ漕ぎを強いられる。佐々木はバテテ尾崎について行けず。16 時過ぎに 1146m 付近で幕営。大展望が何よりの救いだ。

#### 5/5 快晴 1146m 標高点～鉾立峰～杵差岳～1725m 峰

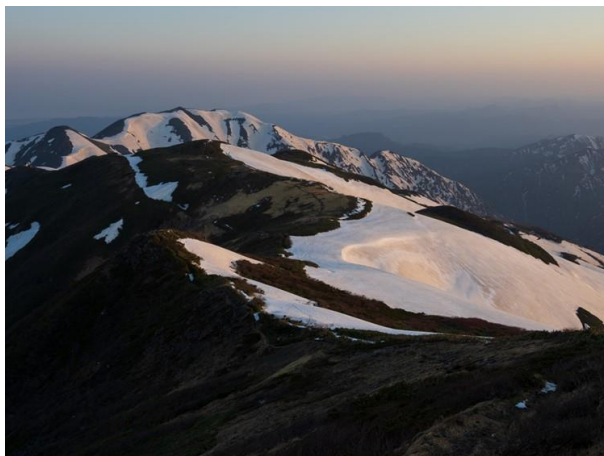
5:30 出発。朝から快晴。しばらく細い稜線を行く。所々ヤブ漕ぎ。1339 の周辺はだだっ広い尾根が広がり、積雪も多い。小さな池があるはずだが確認できない。非常に気持ちの良い尾根歩き。1339 を越えるとアゴク峰のあたりは稜線が細く、ほぼ雪が落ちている。特に西向きの斜面は全く雪がなく、猛烈なヤブ漕ぎとなる。できるだけ雪の上を歩きたいが、尾根が細く、尾根上の藪の中を行かざるを得ない。1ヶ所、ヤブを回避したら稜線復帰のためアイゼンで雪壁登高となった。ポコに上がるたびにその先の雪のない尾根を見て絶望する。ヤブを漕いでいる間にザックの雨ブタに挟んでいたストックが一本なくなっていた。猛烈なヤブを何とか進み、鉾立峰の直下はやや急峻な岩場が迫ってきた。尾崎は過去に偵察して問題無いというのだが……。岩場は左から問題なく登り 11:30 に鉾立峰に到着した。とりあえずザックをデポして杵



凶悪なヤブが行く手を阻む  
鉾立峰西尾根

差岳をアタックする。鉾立峰～杵差岳の間で数名の登山者にすれ違う。帰宅してから Yamap を見たところ、「鉾立峰で大きなザックを担いで鳥坂峰からヤブを漕いできた二人組の凄い山屋を見た」というような記事がアップされていた。褒められているのだから呆れられているのだから。主稜線上はほぼ完全に夏道が出ており、残雪期登山というよりはほぼ夏道歩きである。鉾立峰でザックを回収し、幕営予定の頼母木小屋に向かうが、暑い。大石山の東側の鞍部には雪解け水が流れており、久しぶりに新鮮な水をがぶ飲みする。15:30

過ぎに小屋に到着する。小屋ではご主人と会い、しばし歓談する。聞くところによると、たった今小屋を開くために到着したところだという。尾崎とは旧知だそうで、今回鉾立西尾根をチョイスしたのは、頼母木小屋のご主人に尾根の様子を聞いてのことだったそうだ。16:30 に頼母木小屋の南東の小ピークの東側斜面で幕営する。夕方、入院中の尾崎の妹の容態が芳しくないという電話連絡が入り、翌日の下山を決意する。



地神山付近からの頼母木山～杵差岳

## 5/6 快晴 地神山往復～西俣ノ峰～飯豊梅花皮荘

4:00 に出発し、地神山をアタックしてから下山する。地神山からは飯豊本山、杵差岳、二王子岳がよく見えた。朝陽に染まる稜線の雪とヤブのコントラストが美しい。西俣ノ峰を経由する夏道を飯豊梅花皮荘に向かい下山する。この稜線は北東～南西に延びているからか積雪が多く歩きやすい。アイゼンは不要だが、所々傾斜がキツく、雪も締まっているため、ピッケルがないと怖い。汗だくになりながら 12:00 に飯豊梅花皮荘に到着。風呂に入ってから 12:50 のバスで小国駅まで向かい、解散。尾崎はそのまま東京へ、佐々木は新潟に向かい、翌日、翌々日に磐越西線の SL を撮影してから帰宅した。翌年 8 月の豪雨災害で米坂線は不通になってしまい、廃止も取り沙汰される状況になってしまった。できれば復旧してほしい。(佐々木)

~~~~~

### 飯豊:筆塚山、烏帽子山、大日岳

飯豊の筆塚尾根は、日出谷から実川に沿って入り、水晶尾根の取り付け手前で裏川の堰提を渡って取り付くのが 1 つの方法だと思われます。これをたどると、マイナー12 名山の烏帽子岳へ南から突き上げます。尾根はどう見ても一筋縄ではありません。登るのはかなり難しそうです。もし登るならやはり残雪期だと思います。越後駒ヶ岳郡界尾根とともに、一生のうちに一度はトレースしたい。でもこちらは多分無理ですね。まず筆塚尾根を眺められる山を下見する→ 次にその山に登り筆塚尾根を眺める→ 筆塚尾根末端の山に登る→ 筆塚尾根試登数回→ 烏帽子岳まで行ける!?→ 北側のオーサンカイ尾根は、末端で残雪期の飯豊川渡渉は無理だろうから、蒜場尾根を大日岳へ、などと妄想はしますが……。三春在住の 2019 年の 3 月初め、裏川の堰提から少し偵察したことがあります。(尾崎)

~~~~~

### 北アルプス:針ノ木峠

5 月末に針の木峠に登りました。東京は猛暑とのことでしたが、よく晴れた雪渓登りは快適でした。アカヤシオが見事に咲いていました。

高校 1 年の夏山は黒四ダムから内蔵助平経由で剣沢に入り、剣岳を登ってから五色が原へ。平の渡しから針の木峠へ。途中から剣岳で合宿をしていた先輩たちが針の木雪渓の下りをサポートしてくれましたリーダーは、福田さん。雪渓を半分ほど下ったところで、福田さんたちは、峠に戻って行きました。高校生の合宿には、山野さんと橋本さんが付き添ってくれました。あれから 57 年ぶりの針の木峠でした。針の木岳へは、途中雪壁になっていて、頂上までは行きつけませんでした。峠から槍や穂高などがよく見え雪渓そのものは 1 時間 30 分ほどで大沢小屋にもどりました。小屋近くの岸壁に、早稲田の籠川谷の雪崩遭難の大きな慰霊碑が在りました。梵字を彫り込んでいます。(渡辺喜仁 21 期)

同時期に登っていたのは偶然でした。針ノ木岳から針ノ木峠への下りは、雪壁や、針ノ木雪渓を左手に急斜面のトラバースが続きますね。私は足場が崩れてズズーと 10m くらい滑落しました。使用していたストックで止まりました。滑りやすいことは予想していたので、初めからピッケルを使うべきでした。針ノ木雪渓の下部は、トレースに従っていたら大沢小屋を通らず右岸の林道に出て、扇沢に近道しました。下山後の松本は本当に暑かったですね。(尾崎宏和 47 期)

**北九州：企救（きく）山地縦走**  
**【期日】2022.6.4【参加者】山田（34期）**

**三萩野 520-610 小文字山 615-700 足立山 705-835 戸ノ上山 840-1038 風頭 1050-1135 門司港**

九州に単身赴任し小倉の市内に住んで2年余りとなる。ここは周りを山に囲まれた良い街だ。東の小文字山から足立山、砲台山は正に山の字のそのもの。西には北九州市民の心の山である皿倉山が、南に眼を向けるとカルスト台地で有名な平尾台の背後に貫山が、そして遠くにはこの辺りでは一番高い福智山を望むことができる。

自宅から歩いて行ける足立山でも600mと高尾山と同程度の高さがあり、こちらで購入したガイドブックによると、足立山を越えていくと門司に下りることができ、気軽に山歩きができる。7月に小倉を離れるので、門司港まで歩き、名物の焼きカレーを食べてこようと早朝に自宅を出る。小文字山からは小倉の街を見下ろすことができ、いつ来ても楽しい。メディアドームの近くにある自宅も視認でき、街の向こうには皿倉山が望まれる。夏にはここで小文字焼きが行われるが、コロナ禍の影響で結局観ることはできなかった。

小文字山からは妙見寺上宮のある妙見岳を経て足立山に登る。ここからも小倉の街を見下ろすことができる。ちょっとした縦走気分を味わいながら尾根筋を進むと、大台ヶ原に出る。見晴らしの良い笹原で関門海峡やこれから登る戸ノ上山が望まれる。ひと登りして戸ノ上山にたどり着くと今度は関門大橋がみえてくる。麓の戸ノ上神社の上宮にお参りして、一旦おりて道路に出る。通常はここから門司駅に向かうが、焼きカレーを目指して頑張る風師山に登る。風頭は見晴らしのよいところで、小倉から関門大橋まで緩くカーブを描く関門海峡を一望することができる。しばし景色を楽しんでから門司港へと向かい、ビールと焼きカレーをいただき、電車で小倉に戻る。門司港には焼きカレーの店がたくさんあるが、こがねむしという店の焼きカレーがシンプルでおすすめである。

**【その他九州の山】**

**犬ヶ岳・求菩提山(くぼてさん)：** ツクシシャクナゲが群生しており、5月初旬にはシャクナゲのトンネルとなる。山頂直下の笈吊岩(おいづるいわ)は難易度の異なる3コースがあり、特に最も難しい岩場の左側のコースは結構厳しそう。鎖はあるので登れないことはないと思うが...

**英彦山(ひこさん)：** こちらは英彦山神社で有名。九州にいる間に何度か訪れたが、桜と紅葉の季節が素晴らしかった。登山口にある奉幣殿も立派だが、山頂にもさらに立派な上宮があつて驚かされる。静かな雰囲気の高住神社からすぐのところにある望雲台は岩壁上の狭いリッジで、手摺がないと立つのは難しそう。上宮は台風等によってかなり損壊しており、現在修復中。オオヤマレンゲの花と初めて出会ったのもこの山だった。

**2022 夏：富士、御坂、南ア、奥秩父**  
**【期日】2022.6月～9月【参加者】橋本（12期）**

■ 6月3日(金) 富士山吉田口6合目

登山口の馬返しの朝、16℃、快晴、無風。8:20 出発。1合目 8:30、2合目 8:56、タチツボスマレが多数咲いている。3合目 9:19、井上小屋 9:54、4～5合目で赤紫色の強いミヤマスマレが散見される。5合目佐藤小屋 10:33、マメザクラ満開、六角堂付近の陽当たりの良いところにフジハタザオが小群落で咲いている。6合目安全センター11:04、やや強い風が吹き出したが好天、しかしここで下山する。佐藤小屋 11:39、井上小屋 12:00、3合目 12:18、2合目 12:31、1合目 12:47、馬返し 12:55。早めに下山決定したが、正解であった。急速に天気悪化し、帰途の籠坂峠付近から豪雨となった。下山途中、旧大石茶屋付近で見事なレンゲツツジ。

#### ■ 6月10日(金) 奥千丈岳(2601m)、金峰山

川上牧岡林道はまた旅の葉が白く変色し、ニセアカシアが開花中。空模様が怪しい。大弛峠の朝、7℃、章雨、微風。7:33 出発。前国師 8:02、北奥千丈岳 8:13、山頂手前に残雪。雪の消えたところでバイカオウレン開花。国師岳 8:26、コケモモ蕾。大弛峠 9:03、マメザクラ開花。朝日峠 9:35、薄日さす。朝日岳 10:07、シラビソ林の林床に多種の美しいコケ類。ヒメイチゲとコミヤマカタバミ開花、ミヤマツボスマレ?。金峰山 11:02、山頂付近でハエマツ帯の中でキバナシヤクナゲ開花。昼食休憩。朝日岳 12:09、ガスがかかり急速に気温低下、朝日峠 12:35、大弛峠 12:59。所要 5 時間 26 分。

#### ■ 6月29日(水) 雲取山(2017m)

鴨沢上部の小袖林道登山口から入る。一昨日関東地方は梅雨明け。奥多摩湖の水量は多い。登山口の朝、22℃、快晴、微風。7:33 出発。コースは樹林におおわれ意外に涼しい。フタリシズカ蕾。急な梅雨明けで体調不十分、体が重い。堂所 8:36、七ツ石入口(下)9:22、同(上)9:51、ブナ坂 10:01、この先は尾根歩きでカンカン照りである。ハムシ類が多数、不快。奥多摩小屋 10:34、雲取山 11:22。南ア、富士山、丹沢、大菩薩。すぐに下山開始。途中で昼食休憩。奥多摩小屋 12:07、ブナ坂 12:29、七ツ石入口(上)12:45、同(下)13:00、かなり消耗。堂所 13:24。登りの時は気が付かなかったが、途中の水場はコースの少し上にあり、分量の水を摂取した。登山口 14:20。所要 6 時間 47 分。コロナ第7波と甲信地方の天気不安定で、7月は山行ができなかった。

#### ■ 8月2日(火) 甲武信ヶ岳(2475m)

菰崎から信州峠をこえて川上村に入る。信州峠には横尾山への登山口とPがある。川上村は高原レタスの収穫真っ盛り。毛木平の朝、19℃、快晴、微風、7:30 出発、南に延びる千曲川(西沢)源流遊歩道は終始樹林帯の中を歩き、快適である。カラマツ林の中にマルバダケブキの黄色の花、ナメ滝 9:06、ここから徐々に傾斜を増すが、急坂はない。崩落があったのか前回(2009年)にはなかった西沢の右岸を歩く。源流近くの水量はかなり少ない。水源地 10:19、ここから急坂を登り稜線丁字路 10:46、甲武信ヶ岳 11:08、すぐに下山開始、稜線丁字路 11:27、水源地 11:39、昼食休憩、水量の少なくなった近くの沢で手ですくって水を飲もうとしたとき、手の中にたまたま 1cm くらいのはげ様の魚が泳いでいた。ナメ滝 12:40、毛木平 13:58。所要 6 時間 28 分。

#### ■ 8月20日(土) 辻山(2585m)

夜叉神峠登山口の朝19℃、曇り、無風。5:10 出発。しばらく登るとマルバダケブキ開花中。夜叉神峠 6:01、前面に白峰3山。しばらく快適なカラマツ林を過ぎるとやや急坂が始まる。この急坂で体調不良に気付く。明らかなペースダウンと断続的な休憩。杖立峠道標 7:22、杖立峠 7:47、当初

の予定薬師岳までを断念。葎平 8:44、小休後、辻山 9:02、葎平 9:13、杖立峠 9:37、杖立峠道標 10:04、夜叉神峠 10:45、夜叉神峠登山口 11:19。時間的には薬師岳まで行けたが、天気予報は午後は下り坂、案の定登山口帰着頃より雨が降り出す。所要 6 時間 09 分。

前日に七面山に立ち寄り、ミヤマウズラの観察に出かけた。羽衣登山口から、これまでは 7 丁目から上に生息しているものと思ったが、それより少し下から小群落があることが分かった。未だ開花株は少なかったが、5%位の株で蕾もしくは開花が見られ、ミヤマウズラと確認した。10 丁目まで生息。

#### ■ 8月30日(火) 檜洞丸(1601m)

なかなか天気が安定しない。曇り予報だが丹沢に出かける。朝の西丹沢 V センター、20℃、小雨、無風、8:12 出発。急坂を少し登りやや平坦なコースに入ると、見事な淡緑色のミツマタの大群落。ゴウラ沢出会 8:56、東沢の水量は通常だが、ゴウラ沢の水量が多い。空が明るくなったが、雨やまず。このところの急激な気温の低下と降雨のため、タマゴタケ他、多種のキノコが観察される。展望台 9:57、雨がやや強くなる。石棚山稜丁字路 11:16、この間、降雨もありペースダウン。山頂までの木道脇にはシロヨメナの大群落開花。ヤマトリカブトの紫とマルバダケブキの黄色。檜洞丸 11:33、山頂は水たまりができる。雨が強くなってきた、すぐに下山開始。石棚山稜丁字路 11:51、雨が降り、急坂や階段の木道が滑りやすい。展望台 12:27、ゴウラ沢出会 13:03、西丹沢 V センター 13:47。所要 5 時間 35 分。

#### ■ 9月6日(火) 富士山吉田口6合目

秋の高山植物目当てに登る。中の茶屋より馬返しまでのアカマツ林が美しい。登山口の馬返しの朝、18℃、曇り、無風。付近一帯はテンニンソウが大群落で咲いている。8:49 出発。シロヨメナも多数。1合目 9:01、2合目 9:28、ガスが発生し小雨となったがすぐに止む。3合目 9:55、コウシンヤマハッカか紫の花、タイアザミ。井上小屋 10:31、ヤマトリカブト、佐藤小屋 11:07、6合目安全センター 11:40、オンタデ開花中。ここで登山者の体温検査あり、すぐに下山開始、六角堂で軽食。淡黄色のイカリソウ、佐藤小屋 12:04、トモエシオガマとクロウヒレンが星観荘付近に多い。井上小屋 12:23、3合目 12:44、2合目 12:55、1合目 13:13、馬返し 13:20。

#### ■ 9月27日(火) 黒岳(1988m)

国道など道脇にはヒガンバナ。甲斐大和から日川林道に入る。カラマツが幾分黄葉している。登山口の湯ノ沢峠 16℃、曇り、微風。9:58 出発。すぐにガスが晴れ、好天になる。歩きにくい深くえぐれたコースをたどり白谷丸(1920m) 10:33、白谷丸の南斜面にはハクサンフウロとタイアザミ、北斜面では多数のオオカニコウモリ(終花)とヤマトリカブト。黒岳の南斜面と山頂付近には早くも実が赤く色づいたナナカマド。黒岳 10:52、小休、すぐに引き返す。白谷丸 11:13、湯ノ沢峠 11:39。所要 1 時間 41 分。

### 中央線エリア/VR：滝子山東尾根～浜立尾根

【期日】2022. 6. 25～26【参加者】尾崎(47期)

出発が遅れ初狩駅は9時になってしまった。まだ幸いハイキングの人は多い。その最後尾をえつ

ちら歩いた。本来なら日帰りの山を、わざわざ幕営装備に水も持っている。滝子山東尾根は、一般ルートよりもかなり東を迂回するので距離は長い。そちらに入れば全然静かだ。

平らな所と急登の所が明瞭に分かれていて、しかも急登は後半に多い。左はるか高くに滝子山本峰方面が見えた。1250m(沼の沢の峰というらしい)から御正人のタルへ下るとすぐ右下に沢が見えた。水を得られるかもしれない。ただ、その下りはザレてちょっといやらしそうだ。その後の登りは岩っぽい所もあり、急だがおもしろい。滝子山一般道への合流までは長かった。頂上は好展望で近郊の山も本当に良い。西へと浜立尾根に入り、1482m を過ぎて南面に分かると仏岩の頭。正面に富士山が好展望だ。懸垂下降のロープ操作練習のため、わざわざ30mとハーネスも持参している。練習終了後、仏岩の頭で一夜を過ごそうとしたが風が強い。元の尾根筋に戻って一泊した。翌朝は浜立尾根をそのまま下り、すみ沢から笹子駅に出た。

### 頸城：小谷温泉～雨飾山

【期日】2022.7.3【参加者】渡辺(21期)、松本(28期)、他4

このところ、毎年のように登って、7月3日が8回目。2日午後、阿佐ヶ谷駅を6人で出発。安曇野の関山荘宿泊。穂高商業高校のそばにツルヤ穂高店が6月23日に開店しておりそこで食材を購入して、山荘でBBQ。

3日3時45分に関山荘発。5時30分に雨飾山登山口着。45分発。ミズバショウの花は終わり、葉が巨大化。荒菅沢の雪渓は、今年の6月中旬より多く残っていた。10時5分山頂着。雨がぼつぼつ。10人ほど、糸魚川から来た人たちが山頂で、日本酒を振舞っていた。ここに残る石仏を江戸時代にかつぎあげた人たちの子孫で、毎年7月の第一日曜日に、山開きを祝うとのこと。雨粒が大きくなったので、20分より下山開始。雲の間から日本海や、笹平の女神(登山道が女性の横顔に見える)を見る事ができた。14時20分に登山口着。露天風呂に入り、シラネアオイは咲いていたが、6月上旬だともっと花と雪を楽しめる。久しぶりに松本君とも登山ができ、帰りに、車の運転もお願いできた。渋滞がなかったのが何より。

### 奥多摩/WC：南秋川矢沢くらかけの滝～熊倉沢左股東沢

【期日】2022.7.17【参加者】青谷(28期)、佐々木(46期)、尾崎(47期)、他1

秋川支流の気になっていた滝と小溪を合わせたお手軽な沢登り山行。楽しい1日だった。武蔵五日市駅に集合し、車で南秋川をたどり、矢沢林道の車止めまで入る。ここで矢沢が大きくカーブし「くらかけの滝」をかけている。前後が未知のゴルジュ帯なので一度突破してみたいと考えていた。登攀具だけ身に付けて、踏み跡に入る。しばらく遡ると大きな滝つぼの先に4mほどの豪快な滝がかけ、左岸側に大きな岩壁がせり出していて迫力がある。ここでザイルを出し、尾崎君がトップで右岸側を小さくへつっていく。予想に反して容易に落ち口に出ることができた。続く屈曲したゴルジュを腰までつかったりへつったりしていくと、悪場は終わって林道に出る。このゴルジュを作る砂岩

泥岩互層の縞々模様はなかなか見ごたえがあった。

ウォーミングアップを終え、ザックを整えて矢沢林道をたどる。以前であれば熊倉沢出合まで車で入ったが、寸断されており、復旧も難しそうだ。小一時間で出合に着く。熊倉沢左股をしばらくたどると二股、西沢は狭く暗い感じで合流する。まもなく出てくるナメ滝や小滝を楽しく越えていく。岩場にイワタバコのピンクの花がかわいい。2段 15m滝はザイルを出して中央から突破。次の 5m 滝も念のためザイルを出す。ほどなく源流の様相になり、忠実に沢筋をつめていくと、左上に見覚えのある巨木があり、まもなく稜線に飛び出した。小休後、佐々木・尾崎組は歩け歩け山行に切り替えて生藤山を経て陣馬山まで、青谷・村田組は熊倉山山頂を踏んだのち、中間尾根を出合まで下る。下部は道もはっきりしない急降下になるが何とかたどって出合に戻ることができた。



## 帝釈山脈：片品川北岐沢～実川硫黄沢～赤倉沢～鬼怒川トウガン沢

【期日】2022. 8. 11～14【参加者】佐々木（46期）、尾崎（47期）

癒やし系の沢登りをしようということで、片品川北岐沢への山行を企画。せつかくなので黒岩山周辺の沢を周遊し、3泊4日で女夫淵に下りる計画とした。北岐沢は噂通りの癒やし系の沢だったが、残りの3つはそれなりに厳しい沢であった。特にトウガン沢は結構な高度感のあるゴルジュのなども出てくるハードな沢であった。

### 8/11 快晴 大清水～北岐沢 1660m 二股

沼田駅で待ち合わせし、8:40 発尾瀬大清水行きのバスで終点まで。10:10 大清水着。林道を進み、再奥部のヘアピンカーブのあたりから入渓。噂通りに非常に美しい沢で癒される。1570mの滝は左岸側の巻き道で容易に越えられる。16:00、1660mの二股の右岸側平坦地で幕営。

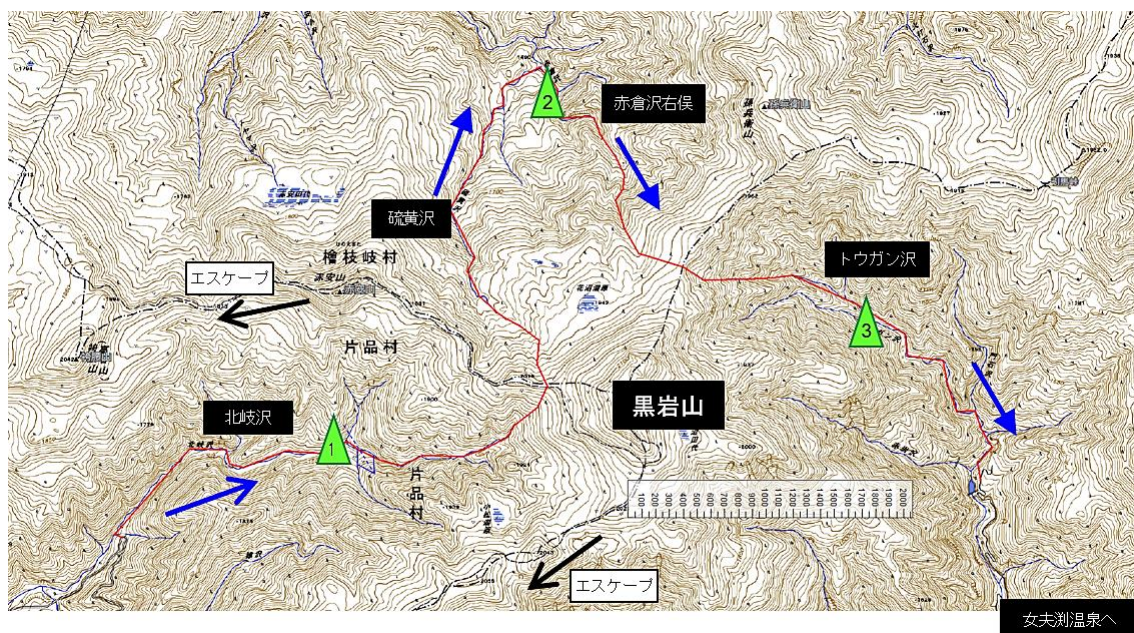
### 8/12 曇り

6:00 出発。小滝を越えながら稜線へ。9:30 稜線着。稜線からは夏道を黒岩山へアタック。10:00

黒岩山着。残念ながら曇っており展望は良くない。黒岩山の夏道で女性3人組の沢ガールズとすれ違う。稜線へ戻り、実川の硫黄沢を下る。1600m付近の10m滝は左岸側の尾根に上がり、20m懸垂して河床に下りる。右岸側は崩壊地となっており、崩壊地の縁に立木があることはあるが、樹木ごとすっぽ抜けるのではないかと不安が拭えなかったため、左岸側の尾根を上がってから下った。そのまま赤倉沢出合いまで下り、出合いから赤倉沢を遡行する。赤倉沢は兩岸の崩壊が多く、流木も多い。2箇所の小滝で佐々木は突破できず、尾崎にお助けヒモを出してもらって何とか突破する。1520mの二股は右股を行く。15:30、1570m付近の屈曲部の幕営適地で幕営。



癒やし系北岐沢の河原歩き



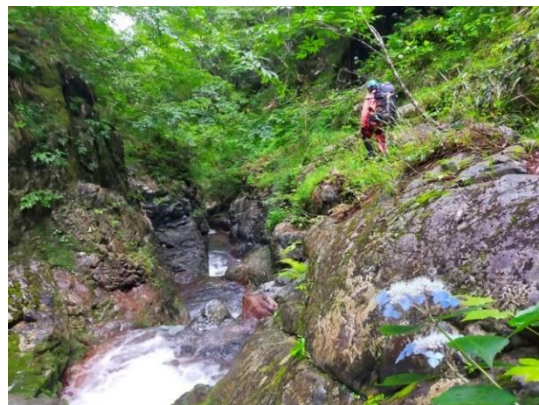
### 8/13 曇り

6:00 出発。赤倉沢のハイライトである10m滝に8:00着。左岸側を容易に登れる。源頭部はガラガラとした地形となっており、現在地を把握しにくい。立木の生々しい熊の爪とぎ跡を見る。花沼湿原に立ち寄ってからからトウガン沢方面に抜けることにしていたが、湿原を見つけるまでに若干手こずった。花沼湿原は食虫植物のモウセンゴケがたくさん生えており、踏み荒らさないよう気をつけて鑑賞した。黒岩山～帝釈山の稜線は、栃木側のヤブが非常に濃い。黒岩山北東の1980mポコの南西1950mの鞍部からトウガン沢に向けて下るが、遷急線から猛烈な笹ヤブとなり、1時間ほどのヤブ漕ぎを強いられる。1500～1450m付近の10m滝は流木に支点を取り沢の中を懸垂下降。15:30、1460m付近の屈曲点の左岸側平坦地の幕営適地で幕営。焚き火中に若干の降雨があったが、薪が多く、盛大な焚き火ができたので影響なし。

### 8/14 曇り



6:00 出発。1400m 付近から門石沢出合いまでがゴルジュ状となる。一部、右岸側の河床からの比高差 10m 付近をへつるが、滑落したらタダでは済みそうにないので慎重に行く。その後も小滝が続き、最後まで気が抜けないが、溪岸にはあじさいが咲いており、癒やされる。7:00 門内沢出合い到着。ここから先は安全圏となり、単調な河原歩きとなる。7:30 赤岩沢合流部直下の砂防ダム到着。砂防ダムからは林道を女夫淵まで下るが、通行止になっているだけあって荒れており、一部で上部側斜面が崩壊し、巨石が道を塞いでいる。残念ながら女夫淵の温泉は廃業しており、入浴できないが、加仁湯温泉方面へと向かう奥鬼怒スーパー林道の入口でもあるので、バスは運行している。9:50 の鬼怒川温泉行きのバスに乗ったが、尾崎はこの後湯西川方面に向かい、明神ヶ岳に登るということで、川治温泉で下車して解散。佐々木は鬼怒川温泉まで行き、風呂に入って帰宅した。(佐々木)



トウガン沢のゴルジュ

## 帝釈山脈：八海山五龍岳～中ノ岳～只見荒沢岳

【期日】2022.10.1～3【参加者】尾崎（47期）

阿寺山からは中の岳に食い込むスラブが大迫力。初日は五龍岳の頂上で泊まる。2 日目、オカメノヅキのルートは急な下降と登りが続く。足場の良くない所はあるものの、注意して歩けば大丈夫である。八海山と中の岳の間の稜川では、鞍部から少し下って水を得た。その時、水無川真沢を登ってきた若い 3 人に会い驚く。中の岳の稜線は賑やかで、頂上小屋は今夜は混みそうだ。兎岳から荒沢山へ入る。巻倉山と源蔵山の良いテン場がある。荒沢岳までも、鞍部ごとに幕営できそうだった。そうできるよう刈り払ってあると思ってしまうが、違うだろうか。荒沢岳前嶺は、23 年前 1999 年 5 月に逆コースで縦走した。右下写真の真ん中右側、第二ピナクルが一番厳しかった。第一ピナクルの手前まで、思い出ながら行ってみた。当時ビレイに使ったであろうハーケンが、錆びてまだ残っていた。今はもう、こんな所は登れないと本当に思う。



稜川の水場



荒沢岳前嶺 中央右が第 2 岩峰

## 北信：妙高山、塩の道

【期日】2022.10.19【参加者】小川（12期）渡辺（21期）、中村（21期）

10月19日、晴天に恵まれ、妙高山に登りました。参加者は、小川、中村、渡辺の3名。紅葉が真っ盛り、6時に燕温泉を出発し、ゆっくり登り頂上には12時15分着。13時より下山をはじめ、18時に駐車場に戻りました。東京着は、23時30分。

## 道志2山 2022 秋

【期日】2022.10.24、31【参加者】橋本（12期）

### ■ 10月24日（月） 今倉山（1470m）

道志の天気予報は午前中は晴れであったが、神奈川と山梨の県境付近から小雨、登山口の道坂トンネル周辺は薄暗く降雨中。7:57 出発。8℃、小雨、濃霧、微風。縦走丁字路 8:10、斜面にはミズナラ、ウツギ類、カエデ、ブナ、アカマツなどが見られるがミズナラの根元に多量の木くずが落ちている。標高 1100～1200m 付近のミズナラが集中的にナラ枯れになっている。冷雨がやや強くなる。8:56 今倉山、軽食を取りすぐに下山開始。木々は黄葉盛り、ヤマトリカブトの咲き残り。9:30 縦走丁字路。9:30 道坂トンネル。所要 1 時間 42 分。

### ■ 10月31日（月） 御正体山（1682m）

御正体山のブナの黄葉を見に行く。登山入口の山伏トンネル西側に車をPし、再度トンネルを歩いて山伏峠に向かう。登山口の朝6℃、快晴、微風。山伏峠 8:13 出発。8:45 石割山分岐、奥ノ岳（1371m）8:54、送電鉄塔 9:00、冠雪の富士山、奥の南アは見えにくい。中ノ岳（1411m）9:29、ミズナラ、ブナ、モミジ類の黄紅葉が美しい。ゆるやかな馬の背状の尾根を進み、前ノ岳（1471m）9:54、ここから少し下って約 200m の急登が始まる。落葉の林床にヤマトリカブトの咲き残り。御正体山 10:33、マユミの実が色づき始めた。小休後下山開始。前ノ岳 11:05、中ノ岳 11:23、送電鉄塔 11:49、石割山分岐 12:02、山伏峠 12:25。所要 4 時間 12 分。

## 北信・頸城：塩の道

【期日】2022.10.26～27【参加者】渡辺（21期）

4年前から歩いて来た塩の道。26日に平岩から根知まで大網峠を越えた。27日には根知から糸魚川まで。中山峠を超えると、日本海の水平線が高く横たわっていた。頭上には雨飾山などの頸城の山々。紅葉と晴天に恵まれた。29日には、美ヶ原高原から王ヶ鼻に登る。北アルプスの山々にはうっすらと雪。長野道からは、先週に登った妙高山が高くそびえていた。これで10月の登山などは完了。

~~~~~

## 日の出山・東雲山荘

11月25日、日向和田から日の出山に登り、山頂の東雲山荘(しのめ)に泊まりました。普段なら日帰りだけの山ですが山頂からの夜景や星空などを楽しめました。昭和12年に建てられた山荘は、がっちり木材を使い、中央ではふんだんに薪ストーブが燃えていました。今は日の出町のシルバーセンターが管理をして、4月23日から12月24日まで。毎日、一つの団体の貸し切りのみ。6名から10名まで。4月1日から予約を取るが、土曜日、祝日はすぐにうまってしまうとのこと。一人3000円。ほかに薪代がグループで3000円。(渡辺喜仁)

## 大菩薩 地名考証

【期日】2022.11.25【参加者】橋本(12期)

小菅村役場の前の旧青梅街道を西に進み日向沢登山口に向かうが、白糸の滝手前で土砂崩落があり通行不可、少し手前のトイレのある広場に車をPする。ここから崩落現場を横断し、15分先の赤沢橋の大菩薩登山口に着く。8:34 出発、快晴、5℃、微風。厚く積もった落葉の急坂を登り、やや平坦なコースを行き、日向沢登山口分岐に着く 9:06、周囲は針葉樹林とアセビだけが緑でミズナラ、ブナ、クヌギの美しい広葉樹林帯が続く。左手は牛ノ寝道通りの尾根が延々と連なりその上から射す太陽光が暖かい。コースにはブナやミズナラの実が多数落ちている。10:34 フルコンバ、小休。ここにある標識と少し上にあるニワタシバ 11:01 にある標識はいずれも古く、地面に放置されている状態である。11:26 大菩薩峠、好天である、南アは甲斐駒ヶ岳から聖まで白く輝いている。賽の河原 11:43、雷岩 12:09、大菩薩嶺 12:16。登山者多数、すぐに下山開始。賽の河原 12:41、大菩薩峠 12:52、フルコンバ 13:18、昼食休憩。日向沢分岐 14:16、下山はここから下る。疲労が来ており、注意力が散漫になっていて歩行が危険である。日向沢登山口 14:26、赤沢橋登山口 14:51。所要6時間17分。

### 付言1.

たまたま巡回中の「東京水道」の職員の話によると、土砂崩落は2日前の降雨の際に発生、復旧工事は数日後に終わる見込みとのこと。

### 付言2.

フルコンバとニワタシバに古い標識が放置されていることを報告したが、この標識にはいずれもフルコンバではなく、フルコンバと記されている。この言葉は杣人のものであろうが、どのような意味であろうか。また、ニワタシバはおそらく荷渡し場であろうが、標識で「牛ノ寝まで 2.8Km、1時間」とある。確かに牛ノ寝通り(尾根)には見過ごしてしまいそうなところに「牛ノ寝」という場所があり、そこから小菅沢に下って(大菩薩小菅道へ通ずる?)ゆく道がある。しかし、その距離は2.8Kmではなく、直線距離でも5Kmはある。1時間ではとても到達できない。ただし、松姫峠から平坦な牛ノ寝通りを行き(馬でも歩行できる)、きつい登りの小菅道のニワタシバに荷物をはこぶのはありうることと思える。かつては甲武の重要な交通路の一つであった大菩薩峠越えに、なにか物語がありそうであり興味深い。

## 中信：不動滝～虫倉山

【期日】2022.12.9【参加者】渡辺（21期） 中村（21期）

晴天の虫倉山に不動滝ルートから登りました。わずかに、頂上近くの北側にまだ雪が残っていました。頂上からの展望は、雪をいただいた鹿島槍など、後立山の連峰、高妻山や戸隠はわずかに積雪。ここは、頂上が地震で崩れて、10人が憩うのがやっとの狭さ。登山者が1人いて前日にサルズベリルートで遭難があったとのこと。ごんぐり岩ルートを下りましたが、かなり歩きにくい道でした。

## 南ア：北又渡～易老渡～聖岳～上河内岳～茶臼小屋～畑薙第一ダム～赤石温泉

【期日】2022.12.28～2023.1.1【参加者】佐々木（46期）、尾崎（47期）

2022年の年末に、前年に林道を歩き始めて5分で佐々木が凍結した路面で転倒骨折して敗退した聖岳のリベンジ山行を行った。近年の気候変動の影響か、全体に雪が少なく、稜線上もほとんど積雪がないような状態であったが、非常に天候に恵まれた素晴らしい山行となった。

### 12/28 晴れ 北又渡～仏島手前(幕営)

飯田駅で集合し、飯田駅前13:30発の遠山郷線和田行きバスで本谷口まで行く。前年はこのバス停横の旧かぐらの湯跡地で幕営したが、今年はそのままタクシーで芝沢ゲートまで向かい、林道上の適当なところで幕営することにした。本谷口14:39着。あらかじめ呼んであったタクシーにそのまま乗り換え、芝沢ゲートには15:40着。さっさと準備して歩き出す。今年も路面にはうっすらと雪が被っている。去年のこともあり、チェーンスパイクを装着して慎重に行く。日も暮れた17:00頃、仏島手前で林道南側上部に手頃な平地があったのでそこで幕営する。焚き火で炊飯。

### 12/29 晴れ 仏島手前幕営地～西沢渡～薊平分岐下部(幕営)

焚き火の始末をして6:30出発。便ガ島8:00を経て西沢渡9:00着。ゴンドラは使わずに上流側の小橋を渡る。西沢渡からの尾根は1800m付近から本格的な積雪。ただしトレースもあり、ラッセルに苦しみことはない。14時半頃薊畑に到着。稜線上に幕営跡があり、低い防風ブロックも積んである。ここを使わせてもらおうかとも考えたが、天気予報では風が強まるという予報だったこともあり、セオリー通りに聖平方面に数十mほど下がった平坦地で幕営する。結果的にこの判断は正解で、夜半にテントが強く揺さぶられるほどの突風が吹いた。稜線上に泊まっていたら危険だったと思う。

### 12/30 快晴 薊平分岐下部幕営地～聖岳アタック→2561北西鞍部(幕営)

絶好のアタック日和だが風が強い。6:30に出発するが、寒いので佐々木は羽毛服を着たまま出発。積雪が少なく、アイゼンもワカンも不要であるが、ピーク下100mあたりに一部固いところがあったのでアイゼンを履く。ただしピークもほぼ積雪がなく、直下で外した。ピークは爆風でまともに立ってられない。360度の大展望で北ははるか遠くに仙丈岳、南は光岳、東には富士山が非常に良く見えており、名残惜しいが早々に立ち去る。2年越しの計画達成だが、雪が少なく、天候も非常に良く、核心らしい核心がないままに終わってしまった感じで若干拍子抜けであった。薊畑の幕営地で装備を回収し、そのまま上河内岳方面へ進む。予定通り、2383～2561間の二重稜線になっ

ている鞍部で 15 時頃に幕営。

### 12/31 快晴 2561 北西鞍部(幕営)～上河内岳 ～ウソッコ沢小屋

上河内岳を目指して 6:30 出発。できれば今日中にウソッコ沢小屋まで下りたいところだ。朝陽に映える聖岳を背後に見ながら淡々と歩く。雪が固くアイゼンを履くが、雪が少なく歩きにくい。上河内岳では単独行の登山者に会う。弘前大山岳部 OB で、二人で来たのだが、一人は靴擦れで



上河内岳からの聖岳

引き返したそうな。茶臼を越えて易老岳経由で芝沢ゲートまで戻るそうだ。相方は芝沢で待っているとか。(笑)この日も風が強く、寒いので途中で外側にダウンを着込みながら歩く。上河内岳を越えると北上する登山者とすれ違うことが多くなる。積雪はやや多く、ワカンを履く。茶臼小屋分岐から夏道通りに下山する。主稜線を離れると雪は非常に少ない。ワングル 1 年生の春山では茶臼小屋がほぼ屋根まで埋まっており、2 階の窓から侵入したと記憶しているが、今回はほぼ積雪がない。ウソッコ沢小屋 16:30 到着。ギリギリ日暮れ前に着くことができた。茶臼小屋も横窪沢小屋も新しくなっていたが、ウソッコ沢小屋は記憶通りに当時のままの姿であった。

### 1/1 快晴 ウソッコ沢小屋～沼平ゲート～赤石温泉白樺荘

6:00 出発。うっすらと雪の着いた夏道を下る。ウソッコ沢下方の夏道は、溪岸の高いところをちょこっと削っただけの部分が多く、中途半端に積雪があるとおっかない。一部、アイゼンが欲しくなるような場所もあった。補助ロープが設置されており、それを頼ることができたのでアイゼンは履かなかったが、思ったより苦労しながら下山する。畑薙大吊橋 8:30 着。9:30 頃に沼平のゲートに到着したが、管理棟の所員の方から白樺荘がボイラー故障で休業したとの衝撃的な情報を得る。これまで高校時代を含めてここへ下山したのは 4 度目なのだが、どういうわけか休業日にばかり当たってしまい、白樺荘の風呂に入れたことが一度もない。11:00 白樺荘着。聞いていたとおりに休業している。どうしようもないので 1 時間ほどボーッと過ごし、12 時のデマンドバスで井川駅まで。井川駅からはバスを乗り継いで静岡に向かった方が早いのだが、到着した列車を見ていたらどうしてもアプト式の鉄道に乗りたくなったので、尾崎はバスで、佐々木は鉄道で、とここで解散した。佐々木は接岨峡温泉で駅に併設されている森林露天風呂という日帰り温泉に立ち寄ってから帰宅した。大井川鉄道は 2022 年 9 月の台風 15 号で家山～千頭間が不通になり、代行バスによる運行となっていた。元日でほとんどの店が閉店しており、結局静岡駅に着くまで食料を調達できなかった。(佐々木)

## 御坂と丹沢の冬

【期日】2022 年 12 月～2023 年 2 月【参加者】橋本 (12 期)

ほそぼそと山行を続けている。同じ場所でも、季節によっていつも新しい発見がある。

### ■ 12月7日(水) 鬼ヶ岳(1735m)

西湖の根場に P し、約10分先の登山口に向かう。天気は快晴、1℃、微風。9:10 出発。堰堤広場 9:19、堰堤右手の階段を上がり、堰堤上部に出る。少し上から左手に東入川(涸沢)と右手のコースに分かれる。今回は左手に入る。所々に赤リボンの標識があるが、涸沢は多量の落葉に覆われ、コースはわかりにくい。高度差200m位登ったところで、標識がなくなったことと、急坂が立ちふさがったので、引き返すことにした。約20分の下りで、コースに戻った(約1時間20分のロス)。緩斜面と急斜面の針葉樹林帯をぬけ明るい広葉樹林に入り「標識」11:42。付近はアセビの緑とブナの巨木が目につく。雪頭ヶ岳(1710m) 12:25、西湖、河口湖、山中湖、富士山が素晴らしい。鬼ヶ岳 12:41、西寄りの風が強く、すぐに下山開始。雪頭ヶ岳 12:55、昼食休憩。下山途中、針葉樹林帯の緩斜面で、ごく近くでカモシカに遭遇。堰堤広場 14:09、登山口 14:20。

#### ■ 12月28日(水) 檜洞丸(1601m)

登山口の西丹沢Vセンター前、朝2℃、曇り、微風。7:30 出発。初冬である、緑はミヤマシキミ、アセビ、ミツマタくらいしかない。ゴウラ沢出合 8:12、葉を落とした木々の間から落石の音が絶えない凄惨な石棚山北斜面が見える。展望台 8:59、アセビに小さな蕾。石棚山稜尾根丁字路 10:07、木々に霧氷が着雪し見事な造形。檜洞丸 10:25、すぐに下山開始。丁字路 10:38、太陽が出て暖かくなる。陽だまりを見つけ軽食休憩。展望台 11:19、初冬の柔らかい光を受けながら、落葉の上を歩く、至福の時である。ゴウラ沢出合 11:52、西丹沢Vセンター12:31。所要 5 時間 01 分。

#### ■ 1月6日(金) 蛭ヶ岳(1673m)

昨年から蛭ヶ岳へは青根から入山している。上青根の釜立林道ゲート前に P し、林道を歩く。朝、-2℃、快晴無風。八丁坂ノ頭登山口 7:46 出発、古いベンチ 8:31、モノレール 8:55、急坂が続く。付近はアカマツ、ブナ、ミズナラ、アセビ。八丁坂ノ頭手前の北斜面は昨年より凍結部分少ない。八丁坂ノ頭 9:33、姫次 9:54、軽食休憩。少し下って小規模の針葉樹林帯をぬけると、ブナ、ミズナラの美しい樹林帯とともになだらかなアプダウンが続き、原小屋平 10:12、地蔵平 10:22、蛭ヶ岳の北斜面は長い木道が続き、一部凍結。蛭ヶ岳 11:29。相模湾、富士山、南アが美しい。東京、横浜方面はやや見えにくい。軽食休憩後に下山開始。地蔵平 12:28、原小屋平 12:38、すぐ先にシカ2頭、さらに姫次の登りで4頭。姫次 12:56、昼食休憩。八丁坂ノ頭 13:23、モノレール 13:49、古いベンチ 14:01、八丁坂ノ頭登山口 14:28。所要 6 時間 42 分(ゲートからでは 7 時間 05 分)。

#### ■ 1月20日(金) 菰釣山(1348m)

昨日降雪があったのか、山伏トンネル付近は一面白い。朝、-1℃、快晴、無風。山伏峠 8:27 出発、甲相国境尾根丁字路の山伏峠分岐 8:40、石保土山 9:05、この季節、甲相国境尾根は太陽光で終日明るい。付近はブナが多く、ブナの巨樹も多い。コースにはブナの実が多数落ちており、所によっては数メートルにわたって実がびっしりと道を埋め尽くしている。西沢ノ頭 9:26、樹間より双耳峰の菰釣山が見える。縦ノ木沢の頭 9:47、油沢ノ頭 10:03、比較的大きな山のブナノ丸 10:27。例年、菰釣山の北斜面は凍結しているが、今年は凍結が少ない。菰釣山 10:46、山頂からは富士山、南アの白い峰々。すこし風が強くなる。すぐに下山開始。ブナノ丸 11:09、油沢ノ頭 11:31、アップダウン連続のコースであるが標識が多数設置されていて心強い。縦ノ木沢の頭 11:44、西沢ノ頭 12:04、石保土山 12:24、山伏峠分岐 12:49、山伏峠 13:00。所要 4 時間 33 分。

#### ■ 2月1日(水) 檜洞丸(1601m)

西丹沢Vセンター、朝、-2℃、快晴、無風。8:01 出発。林道は 1cm くらいの雪。ゴウラ沢出合

8:44、東沢、ゴーラ沢とも水量は少ない。展望台 9:33、少し風が出てくる。石棚山山稜丁字路 10:36、南寄りの風が強くなる。檜洞丸 10:53、半昼食。石棚山丁字路 11:10、雪は 2cm くらい。展望台 11:51、太陽の光が暖かい。ゴーラ沢出会 12:26、下山路は雪は殆ど消失。シカ3頭。ミツマタの蕾はまだ固い。西丹沢Vセンター13:03。所要 5 時間 02 分。

#### ■ 2月17日(金) 塔ノ岳(1491m)

戸沢山荘より登る。朝、1℃、快晴、微風。水無川本谷の沢を渡り左手は天神尾根、本谷沿いに現在は廃道の書策新道、右手に政次郎尾根道で、この尾根道はこれまでも何回か登っているが、今回は落葉と雪でとりつきが不明で、本谷に迷い込みいくぶん時間をロスした。引き返し、天神尾根に取り付くことにする。7:57 出発、針葉樹林帯のガラガラの急坂が続く。上部のヒノキ樹林帯はコースが不明なところもある。大倉尾根の戸沢山荘分岐点 9:26、花立山荘 9:55、金冷し 10:11、塔ノ岳 10:33、南西寄りの風が強く、すぐに下山開始。金冷し 10:47、花立山荘 10:59、戸沢分岐手前で昼食休憩、戸沢分岐 11:22、戸沢山荘 12:16。所要 4 時間 19 分。

### 帝釈山脈/VR：番屋～西稜線～荒海山～北尾根 【期日】2022. 3. 19～20【参加者】尾崎（47 期）

南会津や栃木北部の県境エリアは、積雪はおそろく程々で、有名過ぎず、だが登りごたえのある山がそろっている。荒海山もそのひとつだ。先週登った枯木山から、春霞の空に尖った山容が気にかかった山である。地図を見ると、会津高原から檜枝岐へのバスが通る国道 352 号線の番屋集落から、尾根を伝って登れそう。とはいえ一発で登るのは甘いと思い、偵察のつもりで入山した。番屋バス停から南へ番屋林道を行き、標高 900m の二俣で林道が左に大きく曲がる所から正面の尾根に取り付く。林道は軽いラッセルだったが、尾根の斜面は北面ながら最初はあまり雪が無かった。地面が出ている所は予想の通り、過去に人が辿ったような踏み跡がみられた。傾斜は緩い登りで困難なく 1350m で県境稜線の枝尾根に到着した。この辺りの雪はワカンさえ履けば程よい軽いラッセルだった。傾斜がきつくなかったが、快晴、ブナの疎林、白銀の気持ちよい斜面が続いた。1480m を越えるピークで県境稜線に乗る。ここからは時間と地形を見ながら東進した。ネマガリタケのヤブが出ているところもあり、地図で見る距離の割には時間を要した記憶がある。1475m ピークで幕営。明日はどこまで進むか、もしくは荒海山頂上まで行ってしまうか……。

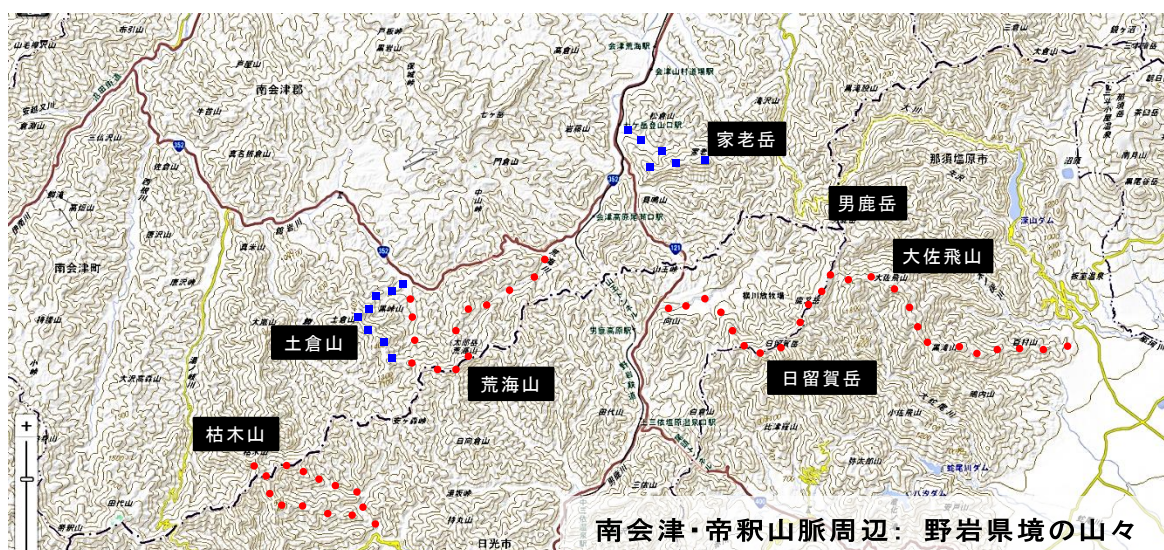


右上 1560m 次郎岳へ続く稜線の雪庇。  
神経を使う稜線だ。左奥が荒海山頂上。

翌朝も快晴。登頂できてしまうのではないかと思いながら進む。1560m(次郎岳)までには小ピークの登下降や雪庇渡りが続き緊張したが進める。1560m に至れば、その下りはやや傾斜があったが問題ない。その後も普通の雪尾根のように見える。仮に敗退となっても大丈夫という直感あり。もう行くしかない。8時半に荒海山 1581m(太郎岳)に到着した。一方で、ここから戻って土倉山方面に足を延ばすのは躊躇する。夏道通りの下山を決めた。一部はかなり急下降だった。1220m 地点から北へ戸坪沢を經由し檜枝岐からのバスに乗るのが最短だが、東へ夏道の荒海川へ下りた。途中、突如広い雪原と小さい堰止湖があり、山崩れがあった所だと思われた。荒海川は渡渉も要したが、問題なく13時半過ぎに林道に出て、そのまま歩いて会津高原駅に15時頃到着した。

## 帝釈山脈/VR：番屋～土倉山～東山稜～番屋 【期日】2022.3.31～4.1【参加者】尾崎（47期）

前回の荒海山の登り残し山行である。土倉山は荒海山から西北西に続く尾根の中で高い1560m のピークである。地形図を見ると、番屋から南東へ延びる尾根を行くのが素直そうで、実際に登られているようだ(<https://akanekopn.web.fc2.com/taishaku/tsuchikura.html>、2024.2.14 閲覧)。西側の鱒沢川の林道からも登られているようで、そこも候補ルートとなる。しかし荒海山と確実につなぐことを優先し、前者のルートを選定した。荒海山と同じパターンで番屋に至ると、10日間かなり雪は減っていた。登り初めの雪は消え、踏み跡がしっかり出ておりヤブは薄かった。1200m を過ぎると細い急登となり、シャクナゲのヤブがきつくなる。1350m 付近で尾根右側が緩やかになり、たっぷりの雪が見渡せた。尾根真正面は相変わらず濃いヤブで、右を巻き気味に行くと右下からの沢筋に入る。やや急になったが、広い窪状を詰めていく。無事1479m のピーク到着14時頃。正面に土倉山頂上が見えるが、そこからまたヤブの起伏が待っていた。頂上手前は急だったが、15時過ぎに登頂し、山頂で幕営した。西に大嵐山が大きく、その南稜線が枯木山へと連なっている。この尾根筋はトレースしたい。夕飯はウナギを食った。翌朝は1479m まで戻り、荒海山の時登った尾根の合流点まで進む。ここもかなり雪は減っていた。その尾根を番屋集落へ下山した。





## 西高ワンダーフォーゲル部の記録(2012 年度～2023 年度)

## 2012 年度

|       | 男        | 女 | 計           | 期    | 顧問、部長                            |
|-------|----------|---|-------------|------|----------------------------------|
| 1 年   | 7        | 3 | 10          | 67 期 | 顧問: 田原晃夫・山崎松吾                    |
| 2 年   | 1        | 0 | 1           | 66 期 | 部長: 上野拓哉                         |
| 3 年   | 3        | 8 | 11          | 65 期 |                                  |
| 計     | 0        | 0 | 21          |      |                                  |
| 山行名   | 期日       |   | 行先          |      | 備考参加者等                           |
| 新入生歓迎 | 5/10     |   | 奥多摩: 浅間嶺    |      | 日帰り、参加者 20 名 + 顧問 2 名            |
| 6 月山行 | 6/2～3    |   | 大菩薩嶺        |      | テント泊、20 名 + 顧問 2 名               |
| 7 月山行 | 6/30～7/1 |   | 八ヶ岳: 権現岳    |      | テント泊、16 名 + 顧問 2 名               |
| 夏山合宿  | 8/2～6    |   | 北ア: 涸沢定着 北穂 |      | 3 年 4 名、2 年 1 名、1 年 9 名 + 顧問 2 名 |
| 3 月山行 | 3 月      |   | 神奈川: 幕山     |      | 日帰り                              |

## 2013 年度

|       | 男       | 女 | 計              | 期    | 顧問、部長、副部長                        |
|-------|---------|---|----------------|------|----------------------------------|
| 1 年   | 1       | 4 | 5              | 68 期 | 顧問: 田原晃夫・浜田庫司・犬塚夏紀               |
| 2 年   | 7       | 3 | 10             | 67 期 | 部長: 武隅源太郎                        |
| 3 年   | 1       | 0 | 1              | 66 期 | 副部長: 伊藤謙介                        |
| 計     | 9       | 7 | 16             |      |                                  |
| 山行名   | 期日      |   | 行先             |      | 備考参加者等                           |
| 新入生歓迎 | 5 月     |   | 奥多摩: 三頭山       |      | 日帰り                              |
| 6 月山行 | 6 月     |   | 大菩薩嶺           |      |                                  |
| 7 月山行 | 7 月     |   | 武川岳            |      |                                  |
| 夏山合宿  | 8/1～8/5 |   | 北ア: 涸沢定着 北穂・奥穂 |      | 3 年 1 名、2 年 8 名、1 年 4 名 + 顧問 2 名 |
| 3 月山行 | 3 月     |   | 神奈川: 幕山        |      |                                  |

## 2014 年度

|     | 男 | 女 | 計  | 期    | 顧問、部長         |
|-----|---|---|----|------|---------------|
| 1 年 | 6 | 5 | 11 | 69 期 | 顧問: 田原晃夫・浜田庫司 |
| 2 年 | 1 | 3 | 4  | 68 期 | 部長: 五十嵐知慧     |

| 3年    | 6       | 4        | 10                  | 67期 |  |
|-------|---------|----------|---------------------|-----|--|
| 計     | 13      | 12       | 25                  |     |  |
| 山行名   | 期日      | 行先       | 備考、参加者等             |     |  |
| 新入生歓迎 | 5月      | 奥多摩:日の出山 | 日帰り                 |     |  |
| 6月山行  | 6月      | 奥武蔵:伊豆ヶ岳 | 日帰り                 |     |  |
| 7月山行  | 7月      | 八ヶ岳:権現岳  | テント泊                |     |  |
| 夏山合宿  | 8/1~8/5 | 北ア:白馬岳   | 3年1名、2年8名、1年4名+顧問2名 |     |  |
| 3月山行  | 3月      | 神奈川:幕山   |                     |     |  |

## 2015年度

|       | 男       | 女        | 計                   | 期   | 顧問、部長        |
|-------|---------|----------|---------------------|-----|--------------|
| 1年    | 3       | 3        | 6                   | 70期 | 顧問:田原晃夫・浜田庫司 |
| 2年    | 7       | 7        | 14                  | 69期 | 部長:加藤美紗      |
| 3年    | 2       | 3        | 5                   | 68期 |              |
| 計     | 12      | 13       | 25                  |     |              |
| 山行名   | 期日      | 行先       | 備考、参加者等             |     |              |
| 新入生歓迎 | 5月      | 中央沿線:高川山 |                     |     |              |
| 6月山行  | 6月      | 奥武蔵:武川岳  |                     |     |              |
| 7月山行  | 7月      | 八ヶ岳:権現岳  | テント泊                |     |              |
| 夏山合宿  | 8/1~8/5 | 北ア:白馬岳   | 3年1名、2年8名、1年4名+顧問2名 |     |              |
| 耐寒山行  | 12月     | 富士山麓・龍ヶ岳 | テント泊                |     |              |

## 2016年度

|       | 男       | 女        | 計       | 期   | 顧問、部長       |
|-------|---------|----------|---------|-----|-------------|
| 1年    | 5       | 2        | 7       | 71期 | 顧問:田原晃夫・井出誠 |
| 2年    | 3       | 3        | 6       | 70期 | 部長:桂川陽佳     |
| 3年    | 8       | 7        | 14      | 69期 |             |
| 計     | 16      | 12       | 28      |     |             |
| 山行名   | 期日      | 行先       | 備考、参加者等 |     |             |
| 新入生歓迎 | 5月      | 奥多摩:日の出山 |         |     |             |
| 6月山行  | 6/11~12 | 八ヶ岳:権現岳  | テント泊    |     |             |
| 7月山行  | 7月      | 中央沿線・扇山  | 日帰り     |     |             |

|       |         |              |       |
|-------|---------|--------------|-------|
| 夏山合宿  | 8/1~8/5 | 北ア: 涸沢定着 穂高岳 | OB 田代 |
| 耐寒山行  | 12 月    | 富士山麓・三方分山    | テント泊  |
| 3 月山行 | 3 月     | 奥武蔵: 不動尊周辺   |       |

## 2017 年度

|       | 男        | 女         | 計  | 期       | 顧問           |
|-------|----------|-----------|----|---------|--------------|
| 1 年   | 9        | 1         | 10 | 72 期    | 顧問: 田原晃夫・井出誠 |
| 2 年   | 6        | 3         | 9  | 71 期    |              |
| 3 年   | 3        | 3         | 6  | 70 期    |              |
| 計     | 18       | 7         | 25 |         |              |
| 山行名   | 期日       | 行先        |    | 備考、参加者等 |              |
| 新入生歓迎 | 5 月 10 日 | 中央沿線: 高川山 |    |         |              |
| 6 月山行 | 6 月      | 中央沿線・大菩薩嶺 |    | テント泊    |              |
| 7 月山行 | 7 月      | 奥多摩・日の出山  |    | 日帰り     |              |
| 夏山合宿  | 8/4~8/8  | 北ア: 白馬岳   |    |         |              |
| 耐寒山行  | 12 月     | 富士山麓・龍ヶ岳  |    | テント泊    |              |
| 3 月山行 | 3 月      | 箱根・浅間山    |    |         |              |

## 2018 年度

|       | 男   | 女         | 計  | 期       | 顧問           |
|-------|-----|-----------|----|---------|--------------|
| 1 年   | 4   | 6         | 10 | 73 期    | 顧問: 田原晃夫・井出誠 |
| 2 年   | 9   | 1         | 10 | 72 期    |              |
| 3 年   | 6   | 3         | 9  | 71 期    |              |
| 計     | 19  | 10        | 29 |         |              |
| 山行名   | 期日  | 行先        |    | 備考、参加者等 |              |
| 新入生歓迎 | 5 月 | 丹沢・大山     |    |         |              |
| 6 月山行 | 6 月 | 中央沿線・大菩薩嶺 |    |         |              |
| 7 月山行 | 7 月 | 奥多摩・御岳山   |    | テント泊    |              |
| 夏山合宿  | 8 月 | 北ア: 穂高岳   |    |         |              |
| 耐寒山行  |     | 中止        |    |         |              |
| 3 月山行 | 3 月 | 神奈川: 幕山   |    | 日帰り     |              |

## 2019 年度

|       | 男       | 女  | 計          | 期    | 顧問                    |
|-------|---------|----|------------|------|-----------------------|
| 1 年   | 6       | 4  | 10         | 74 期 | 顧問: 田原晃夫・井出誠          |
| 2 年   | 5       | 6  | 11         | 73 期 |                       |
| 3 年   | 9       | 1  | 10         | 72 期 |                       |
| 計     | 20      | 11 | 31         |      |                       |
| 山行名   | 期日      |    | 行先         |      | 備考、参加者等               |
| 新入生歓迎 | 5 月     |    | 奥多摩・棒ノ折山   |      |                       |
| 6 月山行 | 6 月     |    | 中央沿線・大菩薩嶺  |      |                       |
| 7 月山行 | 7 月     |    | 奥多摩・六ツ石山   |      | テント泊                  |
| 夏山合宿  | 8/1~8/5 |    | 北ア: 白馬岳    |      | 13 名 + 顧問 + OB, OG2 名 |
| 耐寒山行  | 12 月    |    | 富士山麓・龍ヶ岳   |      | テント泊                  |
| 3 月山行 | 3 月     |    | 新型コロナのため中止 |      |                       |

## 2020 年度

|     | 男  | 女  | 計  | 期    | 顧問           |
|-----|----|----|----|------|--------------|
| 1 年 | 15 | 6  | 21 | 75 期 | 顧問: 井出誠・横山義治 |
| 2 年 | 8  | 4  | 12 | 74 期 |              |
| 3 年 | 5  | 6  | 11 | 73 期 |              |
| 計   | 28 | 16 | 44 |      |              |

新型コロナのため山行なし

## 2021 年度

|        | 男    | 女  | 計             | 期    | 顧問           |
|--------|------|----|---------------|------|--------------|
| 1 年    | 4    | 6  | 10            | 76 期 | 顧問: 井出誠・横山義治 |
| 2 年    | 10   | 5  | 15            | 75 期 |              |
| 3 年    | 8    | 3  | 11            | 74 期 |              |
| 計      | 22   | 14 | 36            |      |              |
| 山行名    | 期日   |    | 行先            |      | 備考、参加者等      |
| 7 月山行  | 7 月  |    | 奥多摩・高水三山      |      |              |
| 10 月山行 | 10 月 |    | 奥多摩・御岳山から日ノ出山 |      |              |
| 11 月山行 | 11 月 |    | 丹沢・大山         |      |              |

|      |    |        |  |
|------|----|--------|--|
| 3月山行 | 3月 | 奥多摩・鋸山 |  |
|------|----|--------|--|

新型コロナのため宿泊山行なし

### 2022 年度

|       | 男   | 女  | 計         | 期   | 顧問          |
|-------|-----|----|-----------|-----|-------------|
| 1年    | 4   | 6  | 10        | 77期 | 顧問:井出誠・横山義治 |
| 2年    | 10  | 5  | 15        | 76期 |             |
| 3年    | 8   | 3  | 11        | 75期 |             |
| 計     | 22  | 14 | 36        |     |             |
| 山行名   | 期日  |    | 行先        |     | 備考、参加者等     |
| 新入生歓迎 | 5月  |    | 奥多摩・日ノ出山  |     |             |
| 7月山行  | 7月  |    | 奥武蔵・伊豆ヶ岳  |     |             |
| 8月山行  | 8月  |    | 中央沿線・三つ峠山 |     |             |
| 11月山行 | 11月 |    | 奥多摩・川苔山   |     |             |
| 3月山行  | 3月  |    | 中央沿線・扇山   |     |             |

新型コロナのため宿泊山行なし

### 2023 年度

|       | 男  | 女  | 計         | 期   | 顧問、部長       |
|-------|----|----|-----------|-----|-------------|
| 1年    | 5  | 7  | 12        | 78期 | 顧問:井出誠・横山義治 |
| 2年    | 4  | 8  | 12        | 77期 | 部長:木村あみ     |
| 3年    | 9  | 6  | 15        | 76期 |             |
| 計     | 18 | 21 | 39        |     |             |
| 山行名   | 期日 |    | 行先        |     | 備考、参加者等     |
| 新入生歓迎 | 7月 |    | 奥多摩・六ツ石山  |     |             |
| 8月山行  | 8月 |    | 中央沿線・大菩薩嶺 |     | テント泊        |

第1章 名称・目的

第1条 本会は「西朋登高会」と称する。

第2条 本会はスポーツ精神を遵守し、会員相互の登山活動を協力して実践すると共に、西高ワンダーフォーゲル部の指導にあたる。

第3条 本会の事務局は、毎年、総会において定める。

第2章 組織・会員

第4条 本会の会員は、西高ワンダーフォーゲル部に在籍したもの、または有志で、総会で承認を受けたものにより構成する。

第5条 本会は次の役員をおく。

1. 会長……………会を代表し、事務局をおく。
2. チーフリーダー……………山行全体を掌握する。
3. 学生リーダー……………学生を中心とした山行を掌握する。
4. 会計……………財政を管理する。
5. 装備……………共同装備を管理する。
6. 記録……………山行記録をまとめ、会報および西朋通信を発行する。
7. 西高係……………西高ワンダーフォーゲル部を指導する。
8. ホームページ係……………西朋登高会ホームページを管理する。
9. 超OB係……………現役を引退したベテラン会員対象の山行を企画実施する。

第6条 前条の役員のうち、会長は総会にて選出し、他の役員は会長が指名する。

第7条 本会は4月に、会長が召集して総会を開く。

第8条 総会では、次のことを議事とする。

1. 前年度活動報告
2. 前年度会計報告
3. 新年度役員選出
4. 新年度活動計画
5. 新年度予算案
6. 新会員承認
7. 会の運営に必要な事項

第9条 本会は原則として毎月1会、チーフリーダーが召集して例会を開く。

第10条 例会では、次のことを議事とする。

1. 山行報告
2. 山行計画
3. 会の運営に必要な事項

第11条 本会は年1回、会員相互の親睦を図るため、西朋祭を行う。

第12条 本会には次の会員を置く。

1. 特別会員…西高ワンダーフォーゲル部の顧問を務め、本会に大いに言献した先生。
2. 一般会員（現役会員）…会の活動に関心を持ち、合宿山行や総会、例会及び西朋祭などに参加する会員。  
(会報、西朋通信などを事務局より送付する)
3. OB会員…現在は会の活動から遠ざかっているが、総会や西朋祭に参加でき得る会員。  
(総会などの連絡・会報・西朋通信のみ事務局より送付する)
4. 超OB会員…現在は会の活動から遠ざかっているが、総会や西朋祭に参加できる会員。  
(総会などの連絡・会報・西朋通信等、連絡不要の会員)

第13条 前条のOB会員及び超OB会員について、次の場合一般会員（現役会員）より移行する。

1. 本人の希望による。
2. 5年以上連絡がない人は、総会での協議により、OB会員とする。後に本人の希望により、一般会員に戻ることができる。

### 第3章 会費・会計

第14条 本会の運営のため、次のとおり会費を徴収する。

1. 一般会員・OB会員 : 年額 2000 円
2. 特別会員・超OB会員 : 会費なし

第15条 一般会員のうち、合宿山行などに積極的に参加する会員からは、装備費を別途徴収する。

第16条 会計年度は、4月から翌年3月までとする。

第17条 会計は、普通会計と特別会計に分ける。

第18条 普通会計は、会費収入をあて、装備・会報発行・通信事務などに使う。

第19条 特別会計は、西高ワンダーフォーゲル部指導謝礼金および会費収入よりの積立金および寄付金をあて、遭難対策基金とする。

## 第4章 山行

第20条 本会は、次の合宿山行を持つ。

1. 新人合宿
2. 夏山合宿
3. 冬山合宿

第21条 会員は合宿山行の他に、各人の目的に応じて、個人山行を行う。

第22条 山行に前もって、計画をチーフリーダーに知らせる。

第23条 山行計画には、次のことを明記する。

1. 行程
2. 同行者
3. 最終下山予定日
4. 緊急連絡先
5. その他

第24条 山行後、山行報告を記録係に提出する。

## 第5章 西高ワンダーフォーゲル部の指導

第25条 本会は、西高ワンダーフォーゲル部が安全かつ意欲的な活動を実践できるよう、部の顧問教諭と協力して指導にあたる。

第26条 西高係は、顧問教諭およびワンダーフォーゲル部員と密接な連絡をとる。

## 第6章 装備

第27条 本会は共同装備を持ち、会員はこれを利用できる。

第28条 装備係は共同装備を管理する。

第29条 個人装備は各個人が負担する。

## 第7章 遭難対策

第30条 会員が遭難したときには、一致協力して救助に努力する。



第 31 条 積極的に山行している会員は、山岳保険に加入する。

第 32 条 山岳保険金の使途に関する権限は、本会が有する。

第 33 条 遭難が起きたときには、会に遭難対策本部を設置し、会長は必要な係を任命する。

第 34 条 遭難救助に要した経費は、山岳保険金をあて、不足分は当事者が負担する。

第 35 条 会の遭難救助基金は、当座必要な費用の立替に使う。

## 第 8 章 会則の修正・改正

第 36 条 この会則の修正や改正は、総会で議決する。

## 第 9 章 施行

第 37 条 この会則は、1986 年 9 月 1 日より施行する。

### 【附則】

1. この会則は、2001 年度の総会により一部改正した。
2. この会則は、2002 年度の総会により一部改正した。
3. この会則は、2014 年度の総会により一部改正した（会員区分及び会費額）。

## 西朋登高会ホームページ 紹介

URL: <https://seihou-nwvc.com/> (2023 年に URL を変更し、リニューアルしました)



- ・ 西朋 70 周年特集 \*(一部)  
(記念集会の様様、70 周年記念登山 三宅島雄山の様子 等)
- ・ 「西朋」、「彷徨」の PDF データ(バックナンバーを含む)
- ・ 会員専用の画像や PDF データ \*
- ・ 活動紹介(アルバム画像)
- ・ 掲示板、備品リスト、web 名簿 \*
- ・ メーリングリスト、LINE グループの紹介 \*

\*が付いている項目については会員専用です。会員の方は登録をお願いします！！

## 西朋 32 編集後記

前号から 12 年、70 周年を機に記録集作成を声掛けくださった青谷会長、お忙しい中、新たな原稿の執筆、山行毎の報告、その報告先としての HP 管理など、皆様にお礼を申し上げます。登山は、自然と向き合い、今の自分はどこまで出来るか、その逡巡からは逃れられないものです。そのようにしていくつかの山に足跡を残すことができましたが、収録する 2012 年より少し前から現在までに、夏の気候の不安定化と冬の異常なまでの温暖化・寡雪化が進んだことを痛感します。本記録集はそうした中での登山記録でもあります。(47 期 尾崎宏和)

### 西朋 32

2024 年 4 月発行

発行者: 西朋登高会

発行所: 東京都あきる野市入野 254-1

青谷知己 付 西朋登高会

編集者: 尾崎宏和

印刷所: 株式会社共立